レーシングオンは隔週金曜日発売
平成7年8月18日発行　第10巻第19号
昭和61年8月2日第3種郵便物認可

Racing On

BIWEEKLY MAGAZINE

198
1995. 8. 18
定価420円
次号は8月19日発売!

速報全日本F3000菅生

高木虎之介、初優勝!

山本勝巳2位、中野信治3位、表彰台を若手が独占

速報F1ドイツGP

鈴木亜久里、F1復帰レースを6位入賞で飾る

F1がつまらないなんて誰が言った!?

シューマッハーの死角を探せ!/全13チーム前半戦チェック
空転する片山右京の5ヵ月/川井一仁が語る「ここだけの話」

100組200名にチケットプレゼント付!

2号連続特別企画第2弾
話題満載の鈴鹿1000kmに行こう!

DUNLOP
DRIVING TO THE FUTURE

KREMER

PIAA

DUNLOP MOT

—NEW—



鍛え抜かれたウデだけが操ることのできる、
コンペティターのためのグリップ。

FORMULA RSV

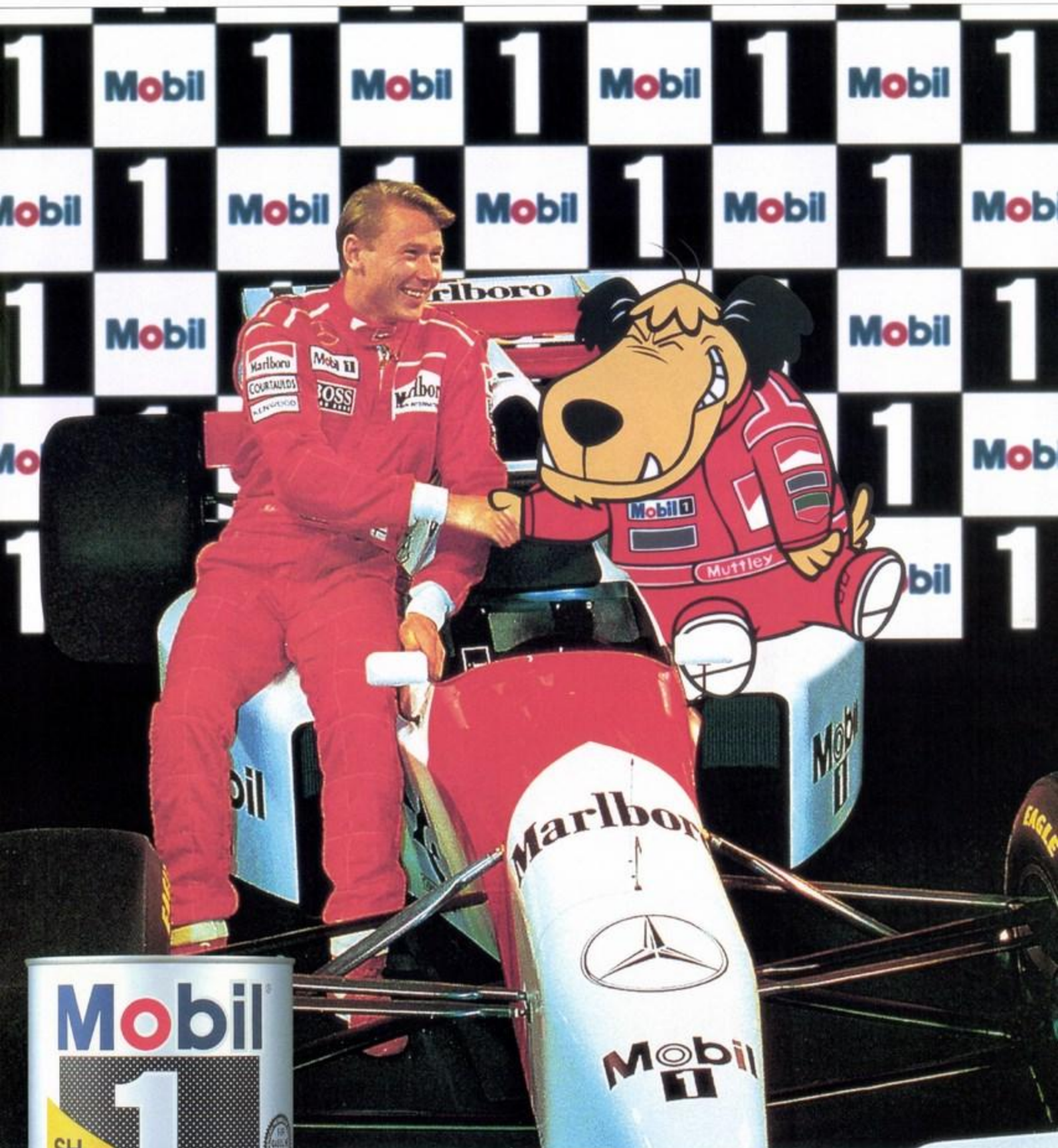


苛酷なサーキットで培われた、
進化するレーシングテクノロジーの結晶。

FORMULA W-1 SPEC R


GUTS!
ダンロップは元気
FORMULA
FOR REAL COMPETITORS.
興奮と歓声が、24時間サーキットを埋めつくす。
高速性能、そして耐久性、あらゆる性能の真価が問われる熱い戦い。
苛酷なレースが育てた高性能ストリートラジアル、"FORMULA"。

マクラーレンが選んだオイル、モービル1。



SH規格合格／100%化学合成

Wacky Races™ ©1995 H-B,Inc.

F-1ワールドでもっとも成功を収めてきたマクラーレンチーム。今年彼らが選んだエンジンオイルはモービル1。優れた潤滑性能がメルセデスベンツV10パワーユニットの信頼性・耐久性を高め、サーキットで素晴しい走りを発揮しています。もしあなたがマクラーレンチームのパフォーマンスを自分のクルマに求めるなら、オイルを同じモービル1にスイッチしませんか。お近くのモービルのサービスステーションで、どうぞ。

HEADLINE NEWS ●7月17日から7月30日までのおもなできごと

7/18(火) 解散したシムテックのオークション開催

20(木) 片山右京とGPライダー阿部典史がシルバーストンでチャリティー対決(P14)

23(日) 嵐の中のJTCC、サニー+飯田章が初優勝(P34)
車両重量変更でDTMの流れが変わった。アルファロメオが2連勝(P12)

29(土) 久しぶりのF3000。トム・クリステンセンが暫定ポール獲得
また、同じ菅生でのF3ではまたしてもペドロ・デ・ラ・ローサがポール獲得(P120)
ドイツGPでは地元シューマッハーを破り、ヒルがポールポジション(P6)

30(日) 高木虎之介がポール奪取。そして決勝でもトップを守りきり、うれしい初優勝(P122)
F3ではペドロが得意のポールtoウインで圧勝。同時に全日本チャンピオンも決める
シューマッハーが地元ドイツで完勝。鈴木亜久里はF1復帰戦で6位入賞

CONTENTS

Racing On

18 AUGUST 1995 No.198
COVER PHOTO by KUNIO MOTOIKE
TORANOSUKE TAKAGI at SUGO



久しぶりの開催となった全日本F3000第5戦。たくさんの観客をこれだけ"沸かせた"レースを目前にできたファンは本当にラッキーだった。高木虎之介の優勝はもちろん、若手ドライバーの急成長により俄然面白くなってきたレース、そしてシーズンの行方からますます目が離せそうもない

速報 EXPRESS

シューマッハー母国初優勝。鈴木亜久里、復帰レースを6位入賞
F1第9戦ドイツGP 8
WRC第5戦ニュージーランド・ラリー 10
DTM第7/8戦ディープホルツ 12
全日本F3第7戦 菅生 120
全日本F3000第5戦 菅生 122

SPECIAL

鈴鹿1000kmへ行こう! 32
読者100組200名に観戦券プレゼント
F1が面白くないなんて誰が言った!? 57
見えてきた! 1995 F1GP前半戦総括
シューマッハーに死角はあるのか?/全13チーム前半戦チェック/空転する右京の5カ月/川井ちゃんの「ここだけの話」
チーム国光 十勝24時間密着ドキュメント
笑って、泣いた24時間 90
Tシャツプレゼント 110

TOPICS

F1 14
●右京、ノリックと対決! シューマッハー、フェラーリへ? ほか
JTCC 17
●マツダスピード、ファミリアをテストほか
GT/N1 20
●鈴鹿1000km参戦のブガッティEB110解説
STREET CAR 32
●アロウズF1エスコート・コスワース発表

RACE REPORT

JTCC第9/10戦 MINE 34
インディカー第10戦 エルクハート・レイク 94
BTCC第15戦 シルバーストン 96
全日本ラリー選手権第5戦 ノースアタックラリー 98

OTHERS

ニュースネットワーク 22
カストロールレーシング全日本ツーリングカー選手権レポート 38
中谷明彦のJTCCインサイドレポート 39
ちょっとコースアウト/林信次 41
西方見聞録/松本浩明 42
5thコラムbyナイジェル・ルーバック 44
GPSグランプリ・ステーション 46
インフォメーション 48
イベント&リザルト 54
イベントカレンダー/バックナンバー 56
R'onチャレンジ1995/ミラージュカップ競争珍日記 68
GO/ GO/ チャレンジクラブ 70
レースダイアリー 80
レーシングカートクラブ 84
ピットイン・プレス 101
ウラネタリング 105
アスキングオン 106
プレゼント 109
チーム国光体験レポート 112
レース・で・プロモーション 113
WHAT'S UP? 116
レーシングオン・カートGP①レポート 118

速報 EXPRESS

日本人ドライバー

逆境を跳ね返し、亜久里6位入賞 右京は久々の7位完走

●F1世界選手権第9戦　ドイツGP●ホッケンハイム●7月28～30日



予選のクラッシュ、タイヤバースト、そしてエンジントラブル。数々のトラブルを乗り越え、今季日本人初ポイントをもぎ取った亜久里。冷遇するウォーキンショウに存在感をアピール

こんな状況の中で、ここまで這い上がれて嬉しいよ
——鈴木亜久里

4カ月ぶりに鈴木亜久里が登場
日本人ドライバー3人が顔をそろえた
真夏のホッケンハイムリング
体制、マシン、そして複雑な契約……
それぞれの問題を抱えながら戦った3人
そして予選でのクラッシュを乗り越え
亜久里が6位入賞でポイントを獲得
見事に"壁"を突き崩して見せた！

文／辻岡亮

Photos/Takayuki Numaguchi, Kenji Sawada

「これまで経験した中で最悪の予選」4カ月ぶりの復帰となる鈴木亜久里はドイツGPの予選2日間をこう表現した。確かにそれは最悪としか形容しようがないものだった。

初日のフリー走行では開始早々にスピン。周回数はわずか9周だ。そして予選でも4周目にスピン、クラッシュ。そのままマンハイム病院に向かい、6時間の精密検査。ホテルに帰ったのは午後8時だった。

2日目のフリー走行では1周もできず。亜久里が病院から持ち帰ったドイツ語の診断書には「出走不可」との1行があった。これに気付いたトム・ウォーキンショウ監督は、亜久里にマンハイム病院での再検査を命じた。朝からの霧でヘリコプターの出発が遅れ、亜久里がサーキットに戻ったのは予選開始わずか10分前のこと。「タイムを出すのが精いっぱい。攻めることなんかできなかった」と亜久里がこう言うのも無理からぬことだった。

予選順位は18位。セッティングの時間も決勝朝のウォームアップランの30分だけ。こんな状況から、亜久里はしかし、見事に入賞を果たして見せた。サバイバルレース。亜久里は37周目、ミッショントラブルを抱えた右京

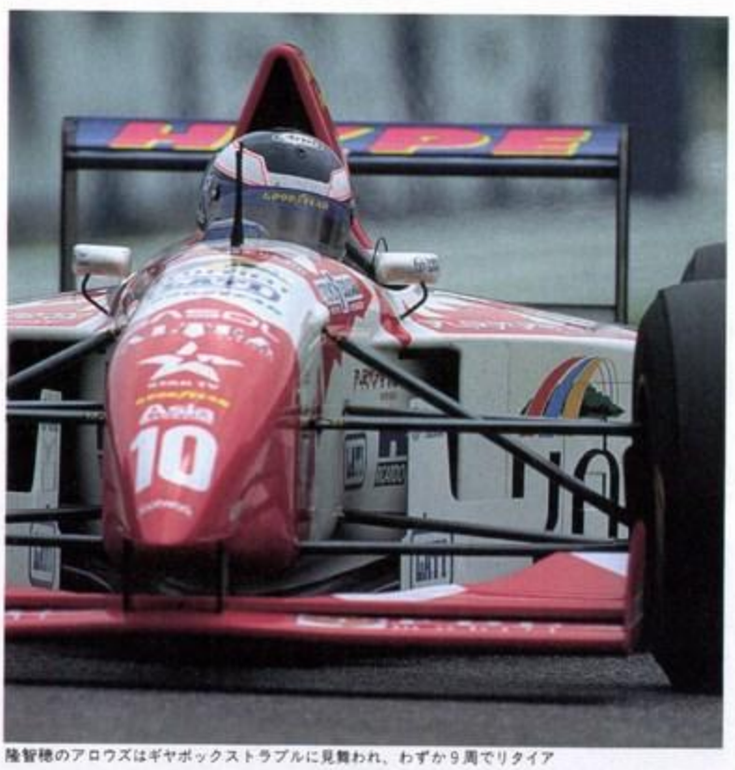
それぞれのホッケンハイム



このドイツからハイドロリンク、サスをあきらめたティレル。右京はシフトダウンのトラブルに苦しみ、亜久里の追撃を振り切ることはできなった。久しぶりの完走も悔しい7位

クルマが普通なら抜き返せたのに……タナボタでもいいからポイントが欲しかった

片山右京



隆智穂のアロウズはギヤボックストラブルに見舞われ、わずか9周でリタイア

1ラップ遅れの完走が目標だったけど今日はそんなクルマじゃなかったな

井上隆智穂

を抜いて7位へ。その翌周にはアーバインのエンジンブローで6位。そのままチェッカーを受け、92年アメリカGP以来のポイントを得る。決して楽なレースではなかった。25周目にはタイヤがバンクしてコースアウト。辛うじてコースに戻ると早めのタイヤ交換。終盤にはエンジンに問題を抱え、フィニッシュと同時に無限エンジンが火を吹いた。

「僕は走っただけ。メカニックのおかげ」と亜久里は謙遜するが、短時間でクルマを仕上げたメカニック、サバイバルレースを勝ち抜いた無限V10、テスト不足の中できっちり走りきった亜久里。三位一体の入賞だった。

「こんな状況の中でここまではい上がれてうれしい」これは亜久里の本音だろう。

ウォーキンショウは予選初日、「亜久里の出場はあと1戦か2戦。チームのためにはドライバーを安定させることが必要」とプレスに公言している。まだ交渉の余地は残っているようだが、そんな冷遇に、亜久里は結果でお返しをしてみせた。

一方、その亜久里に抜かれて7位に終わった右京は「タナボタでもポイントが欲しかった」とほぞをかんだ。鳴り物入りで登場したティレルの新兵器、ハイドロリンクサスペンションが不調でついにお蔵入り。この1戦からノーマルサスペンションに戻ったが、クルマは最初から作り直し。先行きは楽観できないが、この久しぶりの完走が後半戦への弾みとなることを期待したい。

そして井上隆智穂はマシントラブルでわずか9周でリタイア。新チームメイトのバビスを予選で倒すことが当面の課題となるはずだ。

参戦レースすら保証されない中、そのわずかなチャンスをポイントに結びつけた亜久里。泥沼からはい上がろうと苦闘する右京。そしてマイペースの挑戦を続ける隆智穂。それぞれの戦いが真夏のホッケンハイムに刻まれた。

速報 EXPRESS

ヒル、またしても自滅！ シューマッハー念願の母国初勝利

Text/Nigel Roebuck, Photos/Takayuki Numaguchi, Kenji Sawada

RACE REPORT

たった2分間のバトル

グリーンライトが点灯するまでの時間がいつもより長いな、と感じた瞬間、ミハエル・シューマッハーがほんのわずかたたらを踏み、その横でデイモン・ヒルが見事なスタートを見せた。最初の長いストレートに向け、ミハエルの手が届かないその先をまっしぐらに突き進むヒル。少し遅れて後続が1コーナーへとなだれ込んでいくが、ただの1件も接触がなかったのは、ここホッケンハイムでは珍しい出来事と言わねばなるまい。

ヒルのすばらしい仕事ぶりはオープニングラップの折り返しを見れば明らかだ。すでに2番手シューマッハーに2秒の差をつけている。しかし、彼が〝敵地〟ドイツで見せた勇姿は、これが最後であった。シューマッハーとのギャップを拡げようと攻めすぎたのか、ヒルが2周目の第1コーナーでコントロールを失う。あっけないほど簡単にスピンに陥ったウイリアムズは、グラベルを横切り、かなりの勢いでタイヤバリアにヒットした。ドイツ・グランプリはまだ始まってたったの2分しか経っていない。それなのに、期待されたバトルはもう終わりを告げてしまったのだ！

レース後、その原因を説明する必要に追られたヒルは言葉に窮した。あるいは、自分でも何が起きたのか分からなかったのか？「快調だったのに。スタジアムセクションを抜けてコーナーに向けてターンインした途端、いきなりリヤがロックした。ハードに攻めてはいたが、限界はしっかり把握していたつもりなのに……情けないよ」

目の前で繰り広げられたこの光景に、詰めかけた大観衆がやんやの喝采を浴びせる。彼らにとっては〝シューミ〟がトップに立ったことこそがすべてだ。彼が勝つところを見に来たのであって、その可能性を脅かすバトルなどお呼びではない。

「スタート時はどのクルマからもすごい量のオイルが出る」と、これはシューマッハーの解説だ。

「それに、コースいっぱいに拡がったマシンがホコリをかき回して、スタート直後の第1コーナーはいつもより滑りやすくなるんだ。だから僕は早めのブレーキングを心掛けていた。そしたらデイモンのスピンが見えて〝ラッキー！〟と思ったね。ただ、これで楽になるかと思ったら大間違いで、もう1台のウイリアムズがプッシュしてきた」

デイビッド・クルサードにとっては、男を上げる願ってもないチャンス到来である。チームリーダーはすでになく、その最大のライバルが10ポイント目指してすぐ前を行く。これを阻止すれば大手柄だ。しかし、ヒルが前にいる間はベネトンに肉薄できたクルサードも、前方の視界が開けたミハエルの敵ではなかった。1周また1周とラップを重ねるごとに、2台の間隔が拡がり始めていく。

トップを脅かすことはできないクルサードだが、その2番手ポジションはすでに安泰と見えた。彼をを追うフェラーリのゲルハルト・ベルガーがフライングで10秒のストップ&ゴー・ペナルティーを言い渡されたのだ。

「話には聞いていたが、自分がその身になって初めて分かったね」とベルガー。「1速に入れた時、クルマが7センチくらい動いたんだ。だけど、グリーンが点く時には完全な静止状態だった。ラジオでペナルティーだと知らされた時は、自分の耳を疑ったよ。腹立ちまぎれに、鬼のようにハードプッシュしてやった」。その言葉どおり一時は14位にポジションを下げながらも、鬼神の走りで挽回するベルガー。しかし、クルサードの2位を奪うチャンスは二度と訪れなかった。

これで3番手に浮上したルーベンス・バリチェッロ。ストレートでの伸びが目立っていい。それもそのはず、彼のジョーダンに限って最新型プジョーV10が搭載されていたのだ。その違いはエディー・アーバインのマシンと比べるまでもなく、見るからに軽快そのものである。この点ではマクラーレン勢も同じ。こちらも最新型メルセデスV10を手に入れたミカ・ハッキネンとマーク・ブランデルが、久しぶりに力強い走りを披露。この時点で4、5位を占めている。

ジャン・アレジにとってホッケンハイムはなかったも同然だった。予選10位と出遅れただけならまだしも、レースでもブランデルの6位を奪うのがやっと。そうこうするうちにV12が突然黒煙を噴き出し、緊急ピットイン。給油、タイヤ交換ののちコースに復帰したものの、1周しただけで再びピットに戻りリタイアとなってしまう。

1回目のピットストップの時期がやってくる。ウイリアムズとフェラーリは2台とも1ストップ作戦を選んだ。ジョーダンは、バリチェッロは2回、アーバインはこれに反して1回で挑む。ベネ

「観衆の声援はすごかった。地元ドイツで優勝した初めてのドライバーになれた喜びをどう表現していいのか分からない。最高の気分だ。世界チャンピオンになれたときよりうれしいね」とシューマッハー





ザウバーのブイヨンはGP参戦5戦目で待望の5位入賞


新型プジョーV10で快走したパリチェッロだが、無念のリタイア

トンのジョニー・ハーバートが1回のストップとなったのは、自ら好んでそうしたというよりは、2回ストップを取るシューマッハーのピットタイミングに柔軟性を持たせる必要があったからだ。

大声援の下、完璧な勝利

そして、19周目、クルサードを大きく引き離したシューマッハーが初めてピットレーンに姿を見せる。あと3周すれば残り半分という、2ストップ作戦にしては遅いピットインだ。わずか8・9秒という短い作業でこれも彼の作戦なのだと合点がいく。その後、ハッキネン(14・7秒)、クルサード(15・5秒)、ベルガー(17・9秒)、ハーバート(13・8秒)と続いたピットインの長さが、彼等の積んだ燃料の量を物語っている。

この時点で、シューマッハーのクルサードに対するリードは20秒あまり。ベネトンがもう一度ピットインして先頭のまま復帰するには心許ない貯金であって、その意味でまだ彼にはグランプリ初優勝の望みが十分に残っていた。事実、しばらくは彼も持ちこたえる。しかし、タイヤはシューマッハーと比べていくらか新しいものの燃料の重さがまるで違う。30周目を迎えたところで2台の差は24秒。ギャップはその後も開く一方で、34周目に2度目のピットインを果たしたシューマッハーがコースに戻ってみれば、その差7秒でまだおつりがくるほどの快走である。

そのラップ34は、ハッキネンとハインツ-ハラルド・フレンツェンが姿を消した周回でもあった。共にエンジントラブル。しかも、ポイント圏内を走りながらのリタイアだ。例年サバイバルゲームとなるホッケンハイムだが、今回も最後まで走り切ったのはわずか8台。シューマッハー、クルサード、ベルガーの上位3台に続くのは、ハーバート、ジャン-クリストフ・ブイヨン、そして久しぶりに登場の鈴木亜久里が同胞の片山右京を押さえて6位でチェッカーを受けた。

ミハエルのチェッカーを見届けた観衆の怒濤の歓声。もうひとつの快走、もうひとつの快勝、これがあといくつ続くのだろうか？ ヒルがこのところ立て続けにポールを獲得しているという事実は、ウイリアムズがスピードでベネトンをしのいでいることの何よりの証しだが、金曜、土曜にいくら速くてもポイントの足しにはならない。



「ショックだよ。リヤブレーキが突然ロックした」と語るヒルだが、チーム側はトラブルを否定している。2戦連続の自滅で信用失墜？





RESULT／Round 9

●6.823km ×45周＝307.022km　予選出走24台・決勝出走24台・完走9台

					予選順位／1回目・2回目
1	①M.シューマッハー	ベネトンB195・ルノー	45周	1'22'56"043	2／1'45"505 ▷ 1'44"465
2	⑥D.クルサード	ウイリアムズFW17・ルノー	45周	1'23'02"031	3／1'45"306 ▷ 1'44"540
3	⑨G.ベルガー	フェラーリ412T2	45周	1'24'04"140	4／1'46"482 ▷ 1'45"553
4	②J.ハーバート	ベネトンB195・ルノー	45周	1'24'19"479	9／1'46"381 ▷ 1'46"315
5	⑭J.ブイヨン	ザウバーC14・フォード	44周	1'23'18"627	14／1'48"526 ▷ 1'47"636
6	⑱鈴木亜久里	リジェJS41・無限	44周	1'24'15"457	18／2'04"193 ▷ 1'49"716
7	③片山 右京	ティレル023・ヤマハ	44周	1'24'33"773	17／1'56"518 ▷ 1'49"402
8	⑫A.モンテルミーニ	パシフィックPR02・フォード	42周	1'24'38"112	23／1'53"492 ▷ ——
9	⑧E.アーバイン	ジョーダン195・プジョー	41周	エンジン	6／1'46"916 ▷ 1'45"846
	⑧M.ハッキネン	マクラーレンMP4/10・メルセデス	33周	エンジン	7／1'46"291 ▷ 1'45"849
	⑲H-H.フレンツェン	ザウバーC14・フォード	32周	エンジン	11／1'47"769 ▷ 1'46"801
	⑭L.バドエル	ミナルディM195・フォード	28周	ギヤボックス	16／1'50"409 ▷ 1'49"302
	⑯G.ラバッジ	パシフィックPR02・フォード	27周	ギヤボックス	24／1'54"625 ▷ 1'56"335
	⑪R.モレノ	フォルティFG01・フォード	27周	ドライブシャフト	22／1'53"456 ▷ 1'53"405
	⑭R.パリチェッロ	ジョーダン195・プジョー	20周	エンジン	5／1'48"203 ▷ 1'45"765
	⑦M.ブランデル	マクラーレンMP4/10・メルセデス	17周	エンジン	8／1'47"854 ▷ 1'46"221
	⑱O.パニス	リジェJS41・無限	13周	エンジン	12／1'47"372 ▷ 1'47"528
	⑫J.アレジ	フェラーリ412T2	12周	エンジン	10／1'46"356 ▷ 1'46"475
	⑬P.マルティーニ	ミナルディM195・フォード	11周	エンジン	20／1'51"368 ▷ 1'49"990
	⑪井上隆智穂	フットワークFA16・ハート	9周	ギヤボックス	19／1'50"451 ▷ 1'49"892
	⑫P.ディニス	フォルティFG01・フォード	8周	ブレーキ	21／1'54"303 ▷ 1'52"961
	⑤D.ヒル	ウイリアムズFW17・ルノー	1周	スピン	1／1'44"932 ▷ 1'44"385
	④M.サロ	ティレル023・ヤマハ	0周	クラッチ	13／1'49"505 ▷ 1'47"507
	⑮M.パピス	フットワークFA16・ハート	0周	ギヤボックス	15／1'49"621 ▷ 1'48"093

・優勝スピード：222.120km/h
・最速ラップ：M.シューマッハー(ベネトン・ルノー) 1'48"824　225.711km/h　22周目
・ラップリーダー：1＝D.ヒル、2～19＝M.シューマッハー、20～23＝D.クルサード、24～45＝M.シューマッハー

NEXT ROUND：第10戦　ハンガリーGP(ハンガロリンク)　8月11～13日

POINT STANDING／DRIVERS

1	M.シューマッハー	56
2	D.ヒル	35
3	J.アレジ	32
4	J.ハーバート	25
5	D.クルサード	23
6	G.ベルガー	21
7	R.パリチェッロ	7
7	O.パニス	7
9	E.アーバイン	6
10	M.ハッキネン	5
10	M.ブランデル	5
10	H-H.フレンツェン	5
13	M.ブランドル	3
14	J.ブイヨン	2
15	G.モルビデッリ	1
15	鈴木亜久里	1

POINT STANDING／CONSTRUCTORS

1	ベネトン・ルノー	71
2	フェラーリ	53
3	ウイリアムズ・ルノー	52
4	ジョーダン・プジョー	13
5	リジェ・無限	11
6	マクラーレン・メルセデス	10
7	ザウバー・フォード	7
8	フットワーク・ハート	1

速報 EXPRESS

Photos&Report/Shoji Mita

●WRC第5戦●W2L第8戦●APRC第2戦●第25回ラリー・ニュージーランド●7月27～30日●ニュージーランド

WRC今季初優勝、そしてニュージーランド・ラリー3連覇

"スーパー"マクレー ハットトリック達成!

93年のWRC初優勝、そして去年はここでの勝利でスランプを脱出するなど、ニュージーランドはマクレーにとって「ゲン」のいい場所。それだけに、その走りにも力強さと余裕が感じられる





ここを得意とする藤本だったが、今回はすべてが噛み合わなかった

**コルシカ以来、約3カ月ぶりの開催となるWRCは
ポイントリーダー、サインツがけがで欠場という
波乱含みの展開で幕を開けた
しかし、エース不在のスバルを救ったのは
このラリーを2年連続で制しているマクレーだった！**



ラリー序盤、最速だったマキネン。せめてコースアウトした場所に誰かいれば……

全8戦で争われる今シーズンの世界ラリー選手権も、第5戦ラリー・ニュージーランドでシリーズも後半戦に折り返す。これまでにドライバーズポイントでは、スバルのカルロス・サインツがトップに立っているものの、靱帯を負傷して今回は欠席。メイクスでトップに立つミツビシもツール・ド・コルスで勝ったトヨタに追い上げられており、ふたつのタイトルの行方は混とんとしてきた。

4日間、4つのレグで戦われるラリーはウエットコンディションの中、グループNの有力ドライバー、スバルの神岡政夫や、ミツビシのイゾルデ・ホルデリードがSS1でリタイアするなど波乱の幕開けとなった。この悪条件の中、まずラリーをリードしたのはトヨタのアルミン・シュバルツ。しかし、このリードも長くは続かず、SS4でミツビシのトミー・マキネンが逆転しトップに浮上。シュバルツに8秒差をつけて第1レグを制した。

第2レグに入り、マキネンは2番手のシュバルツに一時28秒差をつけるがSS10でコースアウト、無念のリタイアとなってしまった。

一方、マキネンがリタイアする中スバルのコリン・マクレーが大躍進、6番手からトップに浮上する。さらに、第2レグからは彼の得意とするツイスティーなコースが増えたため、まるで水を得た魚のように次々とベストタイムを連発する。しかし、トヨタのディディエ・オリオールも負けじとタイムアタック。マクレーと12秒差の2番手に食い下がる。

だが、この差が第3レグの山場「モツ」で決定的に広がる。44・8kmというこのラリー最長のSS19「モツI」は、ツイスティーでマクレー好みのコース。彼はここでオリオールに35秒差をつけ、総合ではその差を一挙に12秒から47秒に広げた。さらに、同じコースを逆走するSS23「モツIII」でその差は57秒に拡大。既に3番手のユハ・カンクネンとは1分37秒差がつき、勝敗の行方はマクレーとオリオールのふたりに絞られてきた。

そして、難関の第3レグを終了した時点で両者の差は1分3秒。マクレーは、無理せず相手の走りを見るという余裕の作戦を展開する。オリオール、ケネス・エリクソン、シュバルツ、そしてフランソワ・ドルクールらもベストタイムで応酬するがトップの座はゆるがない。結局2位オリオールに44秒差をつけ、マクレーはトップでフィニッシュ。今季WRC初優勝を獲得すると同時に、ニュージーランド・ラリー3連覇を実現した。



オリオールは1点差ながらドライバーズポイントでサインツを逆転、トップに立った

3位にはカンクネン、4位にシュバルツと、トヨタ勢が2-3-4フィニッシュ。日本期待の藤本吉郎は最終日にコースアウト、12位から27位に後退した。グループNでは井上潔が総合13位、クラス4位に終わっている。

ドライバーズポイントは、オリオールがサインツを抜いてトップに浮上。メイクスではトヨタがミツビシを抜きトップの座を手中にするが、両タイトルともその差は僅か。残り3戦、ますます目が離せなくなった。

RESULT/WRC Rd.5 APRC Rd.2 W2L Rd.8

1	④C.マクレー/D.リンガー	スバル・インプレッサ555	A優勝	5	33'06"
2	①D.オリオール/D.ジローデ	トヨタ・セリカGT-FOUR	A	5	33'50"
3	②J.カンクネン/N.グリスト	トヨタ・セリカGT-FOUR	A	5	34'15"
4	③A.シュバルツ/K.ウイチャ	トヨタ・セリカGT-FOUR	A	5	34'51"
5	⑩K.エリクソン/S.パルマンダー	ミツビシ・ランサーRSエボリューションIII	A	5	35'38"
6	⑦F.ドルクール/C.フランソワ	フォード・エスコートRSコスワース	A	5	37'30"
7	⑥P.ボーン/T.サーコム	スバル・インプレッサ555	A	5	42'01"
8	⑨N.オールポート/C.ビンセント	フォード・エスコートRSコスワース	A	5	54'47"
9	⑭J.リカルデ/M.クリストファー	ミツビシ・ランサーRSエボリューションII	N優勝	5	57'45"
10	⑫R.マデイラ/N.シルバ	ミツビシ・ランサーRSエボリューションII	N	5	58'16"
27	⑪藤本吉郎/A.ハーツ	トヨタ・セリカGT-FOUR	A	6	23'43"
29	⑯D.ブラック/J.ブラック	トヨタ・カローラGT	A(F2優勝)	6	26'33"
●主なリタイア					
	⑪T.マキネン/S.ハルヤンヌ	ミツビシ・ランサーRSエボリューションIII	A	SS10コースアウト	
	⑧B.ティリー/S.プレボ	フォード・エスコートRSコスワース	A	SS17メカニカルトラブル	
	⑭R.バーンズ/R.リード	スバル・インプレッサ555	A	SS19メカニカルトラブル	

速報 EXPRESS

●ドイツツーリングカー選手権第7／8戦　ディープホルツ●7月22～23日●2.720km×37周●天候：くもり●路面：ドライ●観客86,000人

Text/Willien J.Staat Photos/Masakatsu Sato

アルファ2連勝でDTMの勢力図に異変あり!

連勝に次ぐ連勝で、圧倒的な強さをみせつけるメルセデス勢に
ライバルはもはやなす術はないと思われていた今年のDTM
シーズン途中の重量規定変更もあってか、ついに変化が訪れた

常勝メルセデス破れる! アルファ&バルテルズが圧勝





ポールを獲得しただけではなく、見事2連勝を飾ったバルテルズ。最低車重の低減も効いただろうが、バルテルズの速さはシーズン当初から光っていた



ついに勝利を手にしたバルテルズ

この6年間というもの、ミハエル・バルテルズは常に勝利の2文字を追い求めてきた。今回のバルテルズの優勝は何と89年ドイツF3時代以来のことだ。当時はシューマッハー、フレンツェン、ベンドリンガーらを向こうにまわし、互角以上の戦いを繰り広げていたのだ。91年はロータスに加わり、F1デビュー。だが、不遇のF3000時代と同様、いいところなしに終わってしまう。

昨年、アイルトン・セナの死亡事故をきっかけに『2度とシングルシーターの世界には戻らない』と誓い、自分のキャリアはツーリングカーと共にあると語ったバルテルズ。昨年はニッサンをドライブし、その後シューベルに移籍。さらにホッケンハイムの最終戦ではアルファコルセのワークス155を得て、3位でフィニッシュしてみせた。

95年シーズンを前にシューベルを離れ、新生ユーロモータースポーツに移籍。だが、6年も優勝から遠ざかっているバルテルズが再び表彰台の頂点に立てるのか、その将来を疑問視する声は少なくはなかった。事実、ITCヘルシンキやDTMノリスリングなど、しばしばトップに立ちながらもつまらない理由で優勝を逸し続けていたのだ。

しかし、ディープホルツでついに久しぶりの栄光に浴したバルテルズ。予選でも決勝でも、バルテルズとユーロモータースポーツのアルファロメオは向かうところ敵なしのパーフェクト・ウインだった。

*

●第1ヒート

ヘルシンキ、ノリスリングではレースをリードしながらどうしても優勝に手の届かなかったミハエル・バルテルズ。今回もこの2レースで見せたパフォーマンスに偽りはない、とばかりポールポジションを獲得する。彼の隣にはバルテルズに逆転されるまで長らくトップにいたクラウス・ルドビク。「ひとつのミスも犯さずに予選を終了できたのは今シーズン初めて」とルドビクは2番グリッドに満足げな表情を見せる。2列目はファン・オメンとアレッサンドロ・ナニーニ。36kgの重量ハンデを負ったベルント・シュナイダーは、チームメイトのダリオ・フランキッティを率いて3列目からスタートする。

決勝はバルテルズが見事なスタートダッシュ。以下、ナニーニ、フランキッティ、ルドビクと続く。そのルドビク、フロントロウにって、ホッケンハイムでテストを行っているが、この際に使われたのが'97年スペックのマシン。見た目にはテールエンドに改良を受けているようだった。カムバック戦では即の影響はほとんどなかったらしく、第2ヒートでは最速タイムをマークする活躍を見せた。

●AMG、ニューマチック・バルブを採用

ベルント・シュナイダー、イェルグ・ファン・オメンの乗るAMGマシンには、ニューマチック・バルブ・システムが採用されていた。これはF1マシンと同じように、バルブスプリングの代わりに空気圧でバルブを駆動させるもの。「エンジンは非常に静かだった。まるで市販車のようだったよ」とファン・オメン。

DTM PADDOCK TOPICS

●重量制限の変更

競技をイコールコンディションで行う目的から、4WDのオペル・カリブラとアルファロメオ155 V6 TIの重量が変更された。この2車の重量は以前の1060kgから1040kgに引き下げられる一方、圧倒的優位を保つメルセデスCクラスは1020kgから1040kgに重量が増加された。メルセデスはこの変更を何も言わずに受け入れた。「バラストを外せばいいだけだ」とレインホルト・ヨーストが言えば、チームマネージャーのアルノ・ツェンセンは「14～16kg」の差は非常に大きいと指摘する。「クラウスのマシンは、既に限界ぎりぎりまで重量を削ぎ落としてある。また、ケケのマシンは必要のないパーツを外して重量を落とそうと思っている」と語る。

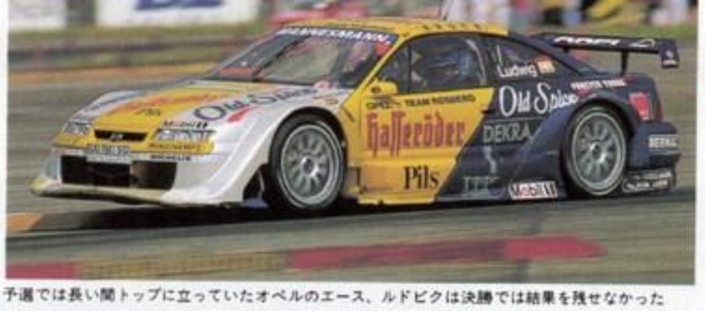
ディープホルツではマルティニカラーの155がボトムとギヤのセットアップにマイナートラブルを抱えたようだが、重量低減の影響は見られなかった。とすると、オペルは冬の間にしっかりとしたシェイプアップ・プログラムをこなしてないなかった、と見ることもできるだろう。

●マグヌッセン、驚異的スピードでカムバック

ディープホルツ最大の話題は、ノリスリングで脚を骨折したヤン・マグヌッセンのカムバックだ。手術後、メルセデスのサイコセラピスト、トニ・マティスがリハビリを担当。マグヌッセンは14日間にわたってトレーニングと睡眠の毎日を過ごした。また、ディープホルツに先立



6年ぶりの優勝を果たしたバルテルズ



予選では長い間トップに立っていたオペルのエース、ルドビクは決勝では結果を残せなかった



アグレッシブな走りで2戦とも表彰台に立ったラリーニ

いながら4位までポジションを落とし、しかも第1シケインで縁石に乗り上げてバランスを失い、自らを〝地上最低の愚か者〟と罵る。

「突っ込みすぎだ。縁石に乗っかってしまい、マシンコントロールを失った。結局グリーンを突っ切ってバリアにヒットする羽目になった」とルドビクは反省しきり。

上位陣に目を移すと、バルテルズがいよいよナニーニを引き離しにかかっている。以下、フランキッティ、ラリーニと続く。ラリーニは終盤、フランキッティに強烈なプレッシャーをかけたが、フランキッティは何とかこれを防御、ラリーニを従えて2位でチェッカーを受けた。4位にはこのふたりにパスされたナニーニが入り、5位は終始手堅いレースを見せたジャンカルロ・フィジケラ。ファン・オメンとベルント・シュナイダーはチャンピオンシップ獲得を最優先にした走り。ふたりとも無難にまとめ、ポイントを重ねる。

ウイナーのバルテルズはアルファロメオのフラッグを振りながらのウイニングラン。アルファにとってまずまずのPRとなったはずだ。しかし、バルテルズにとってお楽しみはまだこれからである。

●第2ヒート

バルテルズがまたしても完璧なダッシュを決め、第1コーナーへと進入するが、フランキッティはアルファコルセの1台にヒットされる。どうにかコースにはとどまったどころか、その5周後、第2コーナーでバルテルズに挑み、これをパス。しかし、フランキッティのリードはわずか半周しかもたなかった。突然、クラッチから煙が上がり、ベースダウンを余儀なくされたが、ダリオはマシンが爆発するのではないかとの恐怖に駆られたという。ともあれ、フランキッティはこのトラブルでポジションを4つ落とすことになった。第1ヒートはいいところなしのマグヌッセン。第2ヒートではすかさずトップ集団に加わったばかりか、最速タイムをマーク、彼のDTM参戦を時期尚早とする批判に応えた。

オペルにとって、ディープホルツは散々の週末。10周目にルドビクのマシンが火を吐き、22周目にはブレーキングミスを犯したロズベルグがリタイアしたのだ。しかしながら、オペル・モータースポーツのボス、ヴァルター・トレザーは「速いラップタイムを記録できて満足している」と語った。

8周目以降、バルテルズは同じアルファを駆るラリーニのプレッシャーにさらされたが、ジョルジョ・ピアンタはラリーニにチームオーダーを発し、自らの優勝よりアルファ1-2確保を優先させた。「93年ゾルダーでプロジェクトをスタートさせた時も感激だったが今回の1-2はその感激をはるかに上回っている」と興奮気味に語るのは、御年60歳になるアルファのボス、ピアンタ。

バルテルズはフィニッシュラインを通過するや、すぐさまアルファ・サポーターでぎっしり埋まるグランドスタンドへと向かい、ラリードライバーよろしく何度もスピンターンを連続させ、悦びと感謝の気持ちを表現する。アルファフラッグをはためかせてのウイニングランもいいが、こうしたパフォーマンスもPR手段として非常に効果的だ。

ディープホルツには8万6000人のファンが詰めかけた。これはサッカーをも上回る数字。DTMはついにブンデスリーガーを超えたと言うには気が早いだろうか……。

RESULT/Round 7

●2.72km×37周＝100.64km　予選出走25台・決勝出走25台・完走16台

				ベストラップ/周回数		予選順位/タイム
1	⑨M.バルテルズ	アルファロメオ155 V6TI	37周	37'54"11	1'00"50/2周目	1/59"40
2	⑩D.フランキッティ	AMG メルセデスC クラス	37周	37'55"17	1'00"60/12周目	6/60"07
3	⑧N.ラリーニ	アルファロメオ155 V6TI	37周	37'55"41	1'00"44/5周目	10/60"29
4	⑦A.ナニーニ	アルファロメオ155 V6TI	37周	38'02"13	1'00"74/6周目	4/59"83
5	③J.ファン・オメン	AMG メルセデスC クラス	37周	38'03"27	1'00"89/5周目	3/59"65
6	⑯G.フィジケラ	アルファロメオ155 V6TI	37周	38'10"20	1'00"74/6周目	7/60"11
7	⑭B.シュナイダー	AMG メルセデスC クラス	37周	38'19"51	1'00"96/5周目	5/60"00
8	⑪C.ダナー	アルファロメオ155 V6TI	37周	38'40"80	1'00"63/8周目	15/60"76
9	⑬B.メイランダー	AMG メルセデスC クラス	37周	38'55"82	1'01"35/5周目	14/61"05
10	⑫E.ロール	AMG メルセデスC クラス	37周	38'56"15	1'01"31/6周目	20/61"48
11	⑪M.アルボレート	アルファロメオ155 V6TI	36周	38'09"51	1'01"95/6周目	19/61"39
12	⑱S.モデーナ	アルファロメオ155 V6TI	36周	38'47"54	1'00"64/8周目	18/61"10
13	⑰G.ジウディーチ	アルファロメオ155 V6TI	36周	38'55"18	1'01"88/6周目	23/63"45
14	④J.マグヌッセン	AMG メルセデスC クラス	35周	38'34"69	1'00"45/5周目	8/60"17
15	⑲J.J.レート	オペル・カリブラV6	35周	38'43"53	1'01"55/8周目	17/61"10
16	⑤M.ロイター	オペル・カリブラV6	34周	35'22"39	1'00"89/12周目	11/60"55
	⑳N.アモリム	オペル・カリブラV6	31周	32'54"11	1'01"71/7周目	22/61"87
	②K.ロズベルグ	オペル・カリブラV6	30周	31'24"49	1'01"08/20周目	9/60"28
	⑮A.グラウ	AMG メルセデスC クラス	29周	29'53"88	1'00"55/4周目	12/60"93
	⑥K.ティーム	AMG メルセデスC クラス	28周	29'35"00	1'00"71/8周目	13/60"98
	⑭G.シモーニ	アルファロメオ155 V6TI	21周	23'03"27	1'01"79/18周目	21/61"60
	⑭G.ルーフ	AMG メルセデスC クラス	18周	19'26"72	1'02"74/6周目	23/62"03
	⑫U.アルツェン	AMG メルセデスC クラス	14周	14'43"69	1'01"22/5周目	16/61"22
	⑯L.クラーゲス	AMG メルセデスC クラス	10周	11'12"13	1'02"78/5周目	25/63"59
	①K.ルドビク	オペル・カリブラV6	3周	3'12"82	1'01"28/3周目	2/59"59

・優勝スピード：159.316km/h
・最速ラップ：N.ラリーニ（アルファロメオ）1'00"44　162.011km/h　12周目

RESULT/Round 8

●2.72km×37周＝100.64km　決勝出走21台・完走13台

					ベストラップ/周回数
1	⑨M.バルテルズ	アルファロメオ155 V6TI	37周	37'40"72	1'00"23/9周目
2	⑧N.ラリーニ	アルファロメオ155 V6TI	37周	37'41"03	1'00"14/17周目
3	③J.ファン・オメン	AMG メルセデスC クラス	37周	37'50"07	1'00"36/5周目
4	⑩D.フランキッティ	AMG メルセデスC クラス	37周	37'51"82	1'00"49/3周目
5	④J.マグヌッセン	AMG メルセデスC クラス	37周	38'08"19	59"90/5周目
6	⑭B.シュナイダー	AMG メルセデスC クラス	37周	38'13"46	1'00"41/4周目
7	⑤M.ロイター	オペル・カリブラV6	37周	38'18"92	1'00"61/3周目
8	⑲J.J.レート	オペル・カリブラV6	37周	38'35"00	1'01"53/8周目
9	⑫E.ロール	AMG メルセデスC クラス	37周	38'38"98	1'01"22/8周目
10	⑬B.メイランダー	AMG メルセデスC クラス	37周	38'39"08	1'01"37/6周目
11	⑪M.アルボレート	アルファロメオ155 V6TI	36周	37'45"62	1'01"37/4周目
12	⑳N.アモリム	オペル・カリブラV6	36周	38'14"39	1'01"73/7周目
13	⑯L.クラーゲス	AMG メルセデスC クラス	35周	38'03"99	1'02"95/8周目
	⑪C.ダナー	アルファロメオ155 V6TI	32周	33'00"93	1'00"09/5周目
	⑰G.ジウディーチ	アルファロメオ155 V6TI	31周	36'38"59	1'02"23/23周目
	②K.ロズベルグ	オペル・カリブラV6	21周	22'38"61	1'01"10/9周目
	⑦A.ナニーニ	アルファロメオ155 V6TI	18周	18'52"33	1'00"25/4周目
	①K.ルドビク	オペル・カリブラV6	9周	9'23"91	1'00"72/6周目
	⑱S.モデーナ	アルファロメオ155 V6TI	9周	9'40"51	1'00"17/3周目
	⑫U.アルツェン	AMG メルセデスC クラス	7周	8'02"93	1'01"92/4周目
	⑯G.フィジケラ	アルファロメオ155 V6TI	4周	4'43"57	1'01"05/3周目

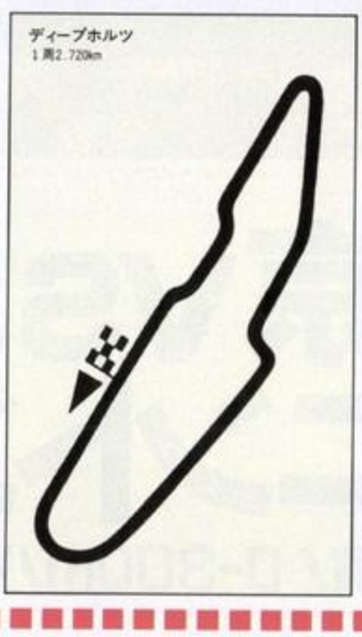
・優勝スピード：160.260km/h
・最速ラップ：J.マグヌッセン（メルセデス・ベンツ）59"90　163.472km/h　5周目



速さを見せたフランキッティ



第1レースではスピンを喫したマグヌッセン



POINT STANDING DRIVERS

1	B.シュナイダー	80点
2	J.ファン・オメン	66点
3	D.フランキッティ	58点
4	M.バルテルズ	46点
5	A.ナニーニ	35点
6	K.ルドビク	35点
7	C.ダナー	34点
8	N.ラリーニ	32点
9	A.グラウ	29点
10	K.ティーム	28点
11	S.モデーナ	26点
12	G.フィジケラ	22点
13	J.J.レート	21点
14	J.マグヌッセン	18点
15	B.メイランダー	7点
16	K.ロズベルグ	6点
17	N.アモリム	5点
18	M.ロイター	4点
	M.アルボレート	4点
20	L.クラーゲス	3点
	E.ロール	3点
22	Y.ダルマス	2点
23	S.アムトー	1点

POINT STANDING MANUFACTURERS

1	メルセデス・ベンツ	117点
2	アルファロメオ	92点
3	オペル	41点

Photos/Hiroshi Kaneko, Kenji Sawada



スタンディングスタートの1本目はノリックのＹＺＲがリード、ゴール直前に右京が逆転する。「悔しい、もう一回やれば勝てる気がする」とノリック

右京vsノリック ドニントンで対決！

夢の競演！ 0-300mバトルは右京が3連勝

F1と2輪のWGP500マシンが対決！　7月20日、2輪イギリスGPに先立ってドニントン・パークサーキットで開催されたチャリティーイベント「セーブ・ザ・チルドレン」で前代未聞の対決が実現した。

マシンはF1がティレル・ヤマハ、2輪はWGPヤマハYZR500と、共に世界の頂点を舞台に戦うヤマハのワークスマシン。そしてそれをドライブするのがおなじみ我らが片山右京と、WGP500クラスにチーム・ヤマハから参戦中の期待の新星、〝ノリック〟こと阿部典史とくればこれはまさに夢の対決。ドニントンに集まった多くの観衆もF1とGPマシンの対決にかたずを飲んだ。

「1年がかりの企画だった」とヤマハの関係者が語るこのイベント、なかなか両者のスケジュールが合わず、紆余曲折もあったようだが、2輪イギリスGPの前に行われたアン王女主催のチャリティーイベントの一環としてようやく実現したもの。

F1の約700馬力に対して2輪GP500マシンは180馬力前後、パワーでは圧倒的にF1だが、距離が短い加速では軽量な2輪のほうが有利と下馬評が分かれた。

競技はホームストレッチを使った0〜300mの加速3本勝負で行われ、スタンディングスタートとなった1本目はホイールスピンを起こした右京をノリックが軽量なGPマシンで引き離す。しかし、そこはF1。フィニッシュライン直前で何とか逆転勝利。ローリングスタートで行われた2本目と3本目では右京のF1が余裕で勝ち、結局右京の3連勝となった。

「後ろから見てても2輪は大変そう。ノリックは本当にスゴイよ」と右京。ヤマハをパートナーに世界の頂点で戦うふたりだが、ノリックは今年のスペインGPでティレルのピットを訪問しており、ふたりはすでに旧知の仲。「一度ぐらいは勝ちたかった。負けてばかりではつまらないからウィリーで目立ってやった」とノリックが悔しがれば、「思っていたより楽だった」と右京。和気あいあいとした雰囲気でこのイベントを楽しんでいたようだ。



すっかり打ち解けた雰囲気の右京とノリック。2輪と4輪、世界の頂点を舞台に戦うふたりだ


「ヨーイドン」で2台がスタート。右京はホイールスピンを起こす

Photos/Jiro Ishida

シューマッハー フェラーリと交渉

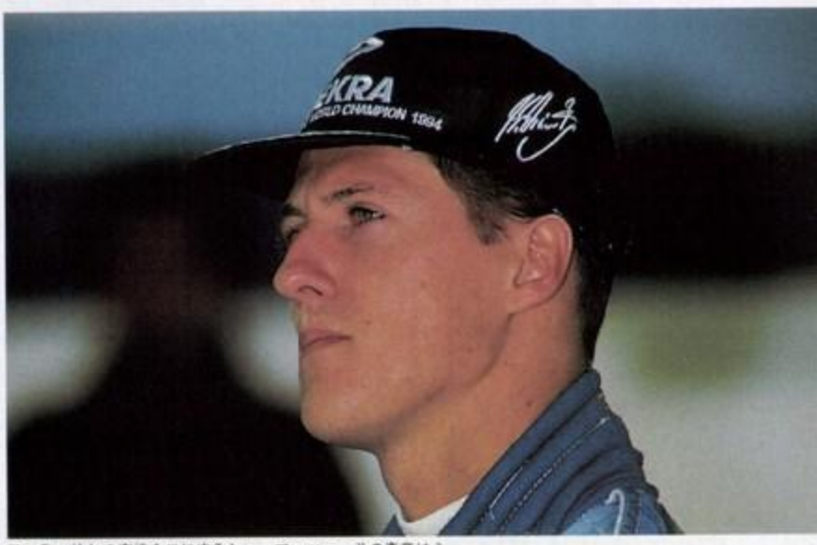
残留か移籍か、キーパーソンの動向

ベネトン残留か、それともフェラーリ移籍か？　ここ数週間、96年のシートを巡りミハエル・シューマッハーの周辺がにわかに騒がしくなってきた。

話題の中心となっているのは、シューマッハーのフェラーリ移籍の可能性。イギリスGP後に地元ドイツの新聞などが〝すでにフェラーリとの契約にサイン〟と報道したため、その真偽が注目されていた。

7月25日、ドイツGPを前に、故郷ケルンで記者会見を行ったシューマッハーは、「フェラーリとの契約にサインしたということはない」と、こうしたうわさをハッキリと否定。ただし、フェラーリを含め、ウイリアムズ、マクラーレン、そしてベネトンの4チームと交渉を持っていることを明らかにしている。

ベネトンとの契約が今年いっぱいで切れるシューマッハーについては〝結局はベネトンに残留するだろう〟というのが関係者の一致した見方。シューマッハー自身も「チャンピオンになれるクルマがあることがまず第一」としており、25億円ともいわれる高額な契約金のみがネックとなっている状態。ここにきてシューマッハーが他チームとの交渉を盛んに口にしはじめたのも、ベネトンに対する条件闘争との見方が有力だ。



フェラーリとの交渉を口にするシューマッハー。その真意は？

盗まれたセナの墓碑、サンパウロ市内で発見

盗難から1週間で軍警察が発見。犯人グループは逃走中



サンパウロ市内で無事発見されたセナの墓標

7月18日夜、ブラジル、サンパウロ郊外にあるモルンビ墓地でアイルトン・セナの墓碑プレートが何者かによって持ち去られたが、盗難から1週間たった25日、サンパウロ市内の廃屋ビルから盗まれたプレートが無事発見された。

事件が発覚したのは7月19日の朝。セナの墓参りに訪れたファンが、セナの墓にあるはずの墓碑プレートがなくなっているのを発見。プレートは20cm×30cmの銅製で、アイルトン・セナ・ダ・シルバというフルネームと生年月日、命日に加え「神の愛は永遠に我が身に降り注ぐ」という言葉が刻まれている。

セナの眠るモルンビの墓地には、今でも毎日多くの人が墓参りに訪れるため、日中は警備員が配置されており、墓碑プレートは墓地が閉鎖される夜の間に、忍び込んだ何者かに盗まれたものと思われる。

25日、市内を巡回中の警察が不審なグループを発見。彼らが逃走したため、周囲のビルを捜索中に廃屋の中からプレートが発見され、鑑定の結果、実物であることが確認された。犯人グループは依然逃走中で、今のところ、その動機や目的は明らかになっていない。

フォード、来シーズンから新型V10エンジンを供給へ

来年以降もF1継続を決定。ウイリアムズに独占供給？

フォードが長年のV8路線を断念、ついにV10エンジンの開発に乗り出した。

「これはコスワースにとって初めてのV10エンジンとなる。低速コーナーとストレートが組み合わされたレイアウトで、ストップ&ゴーの多い最近のサーキットを考えると、V10のほうが有利であると判断した」と語るのはフォードのマーティン・ウィトカー。「今シーズンのザウバーとの関係は良好」と強調しているものの、96年へ向けて、抜本的なエンジン供給体制の変更に出たことは明らかだ。

「一時はF1からの撤退も検討したが、96年も継続するという結論を出した。続ける以上は再び勝利を勝ち取ることが目標」とするフォード。96年の供給先については明らかにしていないが、無償1チームと有償1チームの計2チームに供給する可能性が高いという。また、このV10がウイリアムズに独占供給されるというわさも気になるところだ。

ウイリアムズの96年については、ルノーV10の他、フォード、無限ホンダ、さらにはBMWといったパートナーの名前が上がっているが、復活を狙うフォードにとって最高のパートナーとなるはず。これから繰り広げられる96年のエンジン交渉の行方が大いに注目される。



V8にこだわってきたフォードもついにV10に移行

F1 PADDOCK NEWS

●ミシュラン、96年F1復帰か

グッドイヤーの独占供給が続いていたF1に、ミシュランがカムバックするのではとの見方が強まっている。ミシュランのレース部門責任者、ピエール・デバスキエは今シーズン、F1のパドックに頻繁に顔を見せており、96年からの参入を検討しはじめているようだ。かつて、ルノーとともにF1に進出したミシュランだけに、供給先としてベネトンとウイリアムズの名前が挙がっているが、96年に関しては両チームともすでにグッドイヤーと契約を結んでいる。

●モズレー予選1回案を発表

マックス・モズレーはイギリスGPでF1の予選を土曜日の1回のみにするという案を発表した。「金曜日の予選はテレビ中継もないため、一部の人たちしか見ることができない。実際には各チームの〝テストデイ〟になってしまっているのが現状で、ムダとしか思えない」というのがその理由。今後議論を呼ぶことになりそうだ。

●プロストCクラスをテスト

フランスGPの直後、マニークールでアラン・プロストがDTM仕様のメルセデスCクラスをテストしたことが明らかになった。雑誌の企画という形を取っているものの、実際にはプロストの希望で実現したと言われるこのテスト、ワークスドライバーのフランキッティからコンマ5秒落ちというタイムで周回し、その健在ぶりをアピールした。F1チームの計画断念を発表したばかりのプロストだが、ITCに参戦を計画か？

●ホッケンハイム契約を延長

ドイツGPの舞台となっているホッケンハイムリンクはFOCAとの間で、F1GPの開催契約を2000年まで5年間延長することで合意した。

Photos／Hirohide Yambe

TI投入に向け、ファミリアシェイクダウンテスト

V6に代わり直列4気筒を採用。ギルバート-スコットがドライブ



ギルバート-スコットの手によりシェイクダウンされたファミリア。ショックの設定なども含めてコンセプト通りの仕上がりが確認できた

スーパーツーリング仕様のマツダ・ファミリアが7月26～27日、菅生でマツダスピードの手によりシェイクダウンされた。

このマシンは現在JTCCを走っている2台のランティスとは別に、これまでチーム支援という立場でJTCCに関係してきたマツダスピードが独自に走らせることになる。ドライバーはこれまでお伝えしてきたように、94年はBMWをドライブしたアンドリュー・ギルバート-スコットだ。

このマツダスピードが設計、製作したファミリアの大きな特徴は、これまでランティスに使用してきたV6に代わり、マツダスピードが新開発した直列4気筒BP-ZEが搭載されている点だ。

マシン全体としてみると、これまで登場してきた95モデル、エクシヴやプリメーラなどと同様のコンセプトで造られている。とにかくマシンの重心を下げるためにタイヤハウスやサスペンションの設計がなされ、車高も低く設定。ドライバーズシートは重量物を車両中心に集めるために後退した。ピラーを強化する形で剛性を狙っているロールケージや、リンクを用いたスタビライザーなどの構造は、エクシヴと似ている。

7月26～27日の両日、菅生で行われたシェイクダウンテストでは、エンジントラブルに見舞われるなどして2日間で50ラップ程度の走行にとどまったが、ギルバート-スコットは「ステアリングにダイレクトなレスポンスがあり、セッティングに対してもフォーミュラのように敏感に反応してくれる」とかなりマシンに満足していた。タイムは路面温度53度という悪コンディションもあり1分30秒9（95年JTCCポールタイムは1分27秒52）。エンジンの開発はまだまだこれからと言うが、マシン全体の仕上がりとしてはかなり満足できるものだったようだ。



ドライバー位置はこのように低く後退している



タイヤはオペルが使用して定評のあるミシュランの19インチ



ロールケージはエクシヴやBMWと同じタイプ



フロントキャリパーにはブレンボ製8ポッドを使用している



新開発の4気筒直列エンジンBP-ZE。ミッションはXトラック製6速シーケンシャル



跳ねもなくスムーズなコーナリングを見せた



A・G-Sの左は設計の菅野氏



重量や作動抵抗の点で有利なリンク式スタビを採用



カーボン製のフロントスポイラーは美しい仕上がりをみせる

Photos/Hiroharu Sato, Graffiti, Racing on

フェリオvsサニーの死闘 もうエクシヴだけじゃない

台風に見舞われた美祢で飯田 章が初優勝 各車の実力は急接近している!



天候の急変によってこれまでにないフェリオ対サニーというトップ争いが展開された



コースイン直前、エンジニアの決定によってフロントにカットスリック、リヤにレインタイヤを装着。これが見事にコンディションにはまった



第1レース。ストレートスピードに勝る飯田を1コーナーのブレーキングを遅らせることでしのぐ服部。この攻防は10周以上にわたり続いた。そして最終ラップの1コーナーで決着をみたのだ



台風で大荒れ。止んでいた雨がコースイン直前に降りだした

ストレートスピードに勝る飯田章のサニーに、服部尚貴は1コーナーのブレーキング開始をギリギリまで遅らせて対抗した。コントロールライン上では飯田が半車身前に出るが、服部は1コーナーのブレーキングで再び1位に戻り、インフィールドに消えていく。1周のおよそ3分の2の区間ではトップを走りながらも、この状況ではチェッカーフラッグを先にくぐるのは飯田となってしまうことを服部は悟った。

最終ラップを予選アタックのつもりで全開でいくことを決意した服部は、これまでよりさらに車速を増して1コーナーに進入。しかしレース後半にかけて乾き始めていた路面にレインタイヤが音を上げた。アンダーを出してわずかに服部がアウトにふくらんだスキをついて飯田がインに滑り込む。この1周をミスなく完璧にまとめ上げた飯田がそのままチェッカーを受けた。

ゆっくりとウイニングランをする飯田に服部がマシンを並べて祝福。表彰台ではもちろんJTCC初優勝となる飯田の喜びようはかなりのものだったが、敗れた服部も全力を尽くして戦った満足感からか笑顔に包まれていた。

JTCC第9戦、台風に見舞われた美祢の第1レースは、このように歴史に残るようなバトルの末にウイナーが決まった。朝からの暴風雨に耐えてこれを見守った観客に、これは何よりのプレゼントだっただろう。また、ポールポジションを得ながら、タイヤの選択というギャンブルに負けて一時は28位まで順位を落としたアンソニー・レイドが優勝した第2レースにしても十分見応えがあるものだった。

チームやドライバーにとってみれば、楽に勝ちたいと思うのが当然だが、あるひとりの、ある1車種の独走を我々は見たいのではない。実力が均衡している、誰が勝ってもおかしくないという状況の中、苦しい中を戦い抜いて勝ち取った優勝にこそ感動できる。これはJTCCだけに限ったことではないだろう。そのような意味からもこの美祢のレースは十分に満足できるものだった。

車種バラエティーという意味では、確かに今回のサニーとフェリオのトップ争いは判断の難しい路面状況によって作り出されたという事実はあるにせよ（詳しくはP34からのレースレポート）、前半戦のような上位の〝エクシヴ・クラス〟とそれ以外という状況が確実に崩れたことは、予選の結果にも表れている。

1位レイドのオペル・ベクトラ、2位星野一義のニッサン・プリメーラ、3位光貞秀俊のトヨタ・コロナエクシヴ、4位がスティーブ・ソーパーのBMWと、わずかコンマ2秒のタイム差の中に4車種がきれいに並んだ。それもフロントロウからエクシヴの姿が消えたのは、今季初めてのことだ。

事前に美祢で行われたタイヤテストでは、エクシヴ優勢という結果が出ていたが、それから1〜2カ月のうちに、各チームが急テンポでマシン開発を進めた努力の賜物と、この予選結果はいえるだろう。

端的にこれを見ることができるのは、ホームストレートでの最高速データで、これまでのエンジンパワーとともに、そのボディの空力特性の良さから常にストレート最速を誇っていたエクシヴに対して、ニッサン勢は互角のデータをこの美祢で残している。一方、それらに対して10km/h近く最高速が遅いにもかかわらず、トップタイムをマークするベクトラやBMWのコーナリングスピードには、目を見張るものがある。ベクトラはとにかくコーナーの中でのスロットルが開いている時間が長く、BMWのターンインの鋭さはFF車には太刀打ちできないところだ。

今後T1、仙台、そして富士と残り3ラウンドでの争いがますます緊迫したものとなることは必至だろう。チャンピオン争いも、関谷、トム・クリステンセン、ソーパー、レイドのポイントが接近してきており、昨年と似た状況になりつつある。昨年の最終戦インターTECで繰り広げられた劇的なチャンピオン決定戦を、再び今年も見ることができるかもしれない。

BMWの車重を1025kgから1000kgへ

FIAの決定を受けてBTCCより先に規定の変更を実施


少しでも軽量化しようと不要部品を取り外す

BMW勢の不振をみてFIAが決議したスーパーツーリング規定の見直し案を受けて、今回のレースからFR車の車両最低重量が1025kgから1000kgへ引き下げられた。

昨年はシーズン途中での1050kgから1025kgへのFR車車重変更案に、反対意見が多く出され、その実施が最終戦まで持ち越されたのに対して、今年はBTCCよりも先に変更を実施することになった。

この件に関してのエントラントへの通達はレースの前週に行われ、BMWを使う各チームは急きょ軽量化の作業に追われることになった。このためにファクトリーを日本に持たないチームシュニッツァーは月曜からサーキット入りして作業を進めた。

これまで搭載していたバラストウエイトや、モールやドアのインナーパーツなどレースに不要な部品を取り外したことで、各チームとも車重を1014〜1018kgくらいまで軽量化した。しかし、この効果については、あまり感じないと多くのドライバーがコメントしていた。その他に軽量化パーツの用意もBMW Mgmbhにはあり、あと数キロは軽量化が見込めるようで、今後BMWの戦闘力が高まりそうだ。

ウエイトハンデは据え置き

第2レースで1位20kg、2位10kgのまま



鈴鹿では20kgが効いたという話だが

今年から第1レースの1位、2位に対して、課せられているウエイトハンデが、あまり有効ではないため、1位20kg、2位10kgから1位50kg、2位30kg、3位10kgと、さらに重くしようという変更案が出されていると前号でお伝えしたが、当分の間据え置かれることとなりそうだ。

これはJTCC振興委員会とマニュファクチャラーズ部会との話し合いの場で討議されたもので、第8戦鈴鹿では現在1位に対して課せられる20kgでも、ある程度ウエイトがハンデとして効力を持ったということ、シリーズとして考えて、ここまでの前半戦で連勝しているチームが有利になってしまうという指摘があったためだ。

第9戦を制した飯田章に聞いたところ、「20kgのウエイトが積まれても、あまり不利は感じなかった」ということだが……。


この接触に関してはおとがめなし

今回はなんと6人にペナルティー

訓戒+5〜30万円の罰金 今後はさらにポイント制度も導入か

今回の第10戦では6人ものドライバーに対して、ペナルティーが課せられた。すべてバトル中のラフプレイに対してで、訓戒処分と5万円から30万円の罰金が課せられた。また、この罰金処分には前回のように執行猶予はついていない。

小雨の降る中、全車スリックで臨んだ第10戦は、そのスリッピーな路面も手伝ってか確かに接触が多かったのは事実。だが、これまでになく多く、また厳しいペナルティーが課せられたのは、特にこれまでとジャッジの考え方や方法が、変わったということではなく、これまでやってきたことをさらに推し進めたということのようだ。

タワーからの監視、ポストのオフィシャルからの報告、コース監視用カメラと放送用カメラの映像から、接触があったドライバーは事情聴取され、それを総合してペナルティーは審査された。

今後はさらに周回数減算などリザルトに影響を及ぼすペナルティーの実施や、故意または重大な過失に対して、通常は1点、悪質な場合には2点のポイントをカウント、ポイント合計が3ポイントで出場停止となるシステムの導入もJTCC振興会では検討している。

4車種が僅差で上位に並んだ予選グリッドに見る勢力分布

1st アンソニー・レイド

予選タイム1分32秒018　最高速217km／h



「とにかくミシュランタイヤとベクトラのマッチングがいい」と語るレイド。ストレートが遅い反面、コーナーで最速を誇るのはウイングやフロントスポイラー、そして特にアンダーパネルが強力なダウンフォースを発生し、それとともにドラッグを生んでいるということが理由のひとつ。結果、前に出れば速いが、抜けないということになる。空力についてBTCCでそのような問題がないのはエクシヴがいないから!?



2nd 星野一義

予選タイム1分32秒089　最高速226km／h



鈴鹿で今季初表彰台を仕留め好調の星野。鈴鹿からこの美祢に向けて、マシンは特にモディファイされてはいないという。しかしコーナーもさることながら、ストレートスピードが目立つ。昨年はドライバーの不満の声も多かったSR20エンジンは、この東名エンジン・チューンも日産工機が手がけたものも300psをオーバーしていると言われ、現在ではトヨタの3S-Gをしのぎ（300馬力弱だという）最も強力だ



3rd 光貞秀俊

予選タイム1分32秒190　最高速222km／h



エクシヴ勢でトップを取ったのは光貞だった。連続入賞で波に乗る光貞だが、いつも成績を残すのは第2レース。今回は予選が課題だった。「（決勝を考えれば消耗という点で）リスキーだけどあえてソフトを選んだ（エンジニアの宮坂宏氏）」というタイヤの選択にもそれは見てとれる。決勝ではレインタイヤを選択したのが正解となり、トップに立ったが、2位に上がった服部と接触して順位を落とした



4th スティーブ・ソーパー

予選タイム1分32秒232　最高速219km／h



最高速データを見ても分かるとおり、ストレートではタイムを稼げないBMW。その武器であるコーナリングスピードを高めるための新機構が油圧コントロールによるスタビライザーだ。前後のスタビをステアリングに付いたボタンで調整し、通常のワイヤー調整式に比べ、コーナーごとに適切なロール剛性を瞬時に得られるのが特徴だ。これはシュニッツァーチーム独自のものでまだ極秘。当然写真撮影はできなかった



注：最高速データは7月21日金曜日、午前中のベスト値。ホームストレートでスピードガンにより計測。データ提供／TRD

Photos/Geoffrey Hewitt, Shoichi Sudoh, Racing on

IMSA GTS-1仕様のブガッティEB110スポルト・コンペティツィオーネ（SC）は6月24日のワトキンズ・グレンでIMSAデビュー。予選15位決勝12位で無事完走を果たした

パトリック・タンベイもドライブ

IMSA仕様のブガッティ鈴鹿にも登場

ミッドには3499ccのV12エンジンが搭載される

AE111レビンは N耐で暴れまくるか!?

剛性、パワーがアップしてシビックに対抗

昨年のル・マン24時間に登場して以来、レース界から姿を消したかに思われていたプガッティが、アメリカで蘇った。シルバーにペイントされたEB110SC（スポルト・コンペティツィオーネ）は、6月24日のIMSA GT第6戦ワトキンズ・グレン3時間でIMSAデビューを果たした。IMSAでは、パイプフレームのシャシーに、ボディカウルを被せたマシンが多いが、こちらは市販車を改造したタイプ。V12の3499ccエンジンを搭載している。クラスはニッサン300ZXやオールズモビル・カトラスなどと同じGTS-1。

プガッティを登場させたのは、モナコに本拠を置くモナコ・レーシングチーム。同チーム代表であるジルド・バランカーバストールと共にステアリングを握ったのは、元フェラーリF-ドライバーのパトリック・タンベイだ！　IMSAデビュー戦では予選総合26台中15位（クラス13台中10位）、決勝では3時間を見事走り抜き総合12位（クラス5位）と健闘。また第7戦シアーズ・ポイントでも完走した。

そしてこのマシンが、8月27日の鈴鹿1000kmに登場することになった。鈴鹿では一番上のクラスである〝鈴鹿スーパーGTクラス〟に含まれるため、マクラーレン相手に不利な状況ではあるが、ランボルギーニ・ディアブロなどと共にエキゾチックな旋風を巻き起こしてくれるだろう。



十勝24時間でデビューしたAE111カローラ・レビン。完成間もなかったためトラブルは発生したが、無事完走を果たした

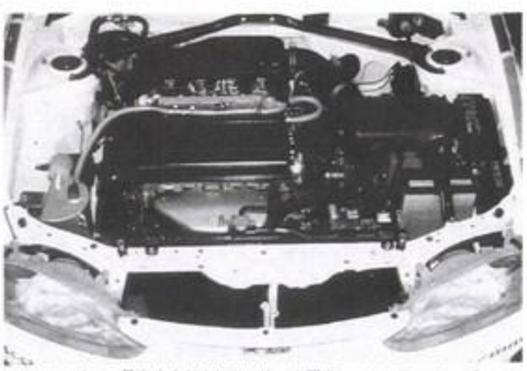

サスは前後共ストラット


フロントにはVディスクを採用

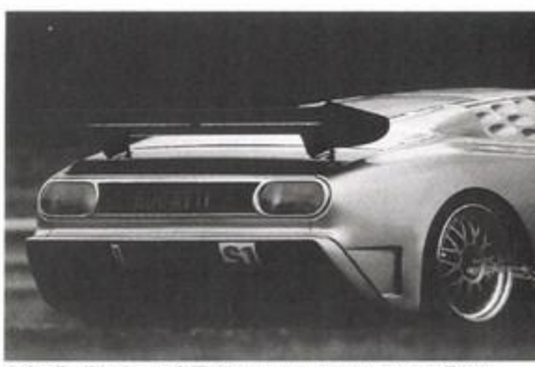
前号速報でもお伝えしたとおり、新型トヨタ・カローラ・レビン（AE111）が早くもレースデビューを果たした。このマシンはTRDで製作されたもので、今後もN1耐久に参戦する。そして得られたデータは96年C/SNC（カローラ/スプリンター・ノーマルカップ）用車両にフィードバックされる予定だ。

ニューカーは、「ぶっつけ本番の状態なのにとても乗りやすい。新車なので無理をしなかったこともあるけれど、動きも非常にスムーズ」（松永雅博）、「カタログデータでは5psアップですが、それ以上にいい感じのエンジン。ボディ剛性がいいのでAE101より数段いい」（柴田優作）とドライバーのインプレションも好評だ。N1耐久クラス4でのライバル、シビックにも「対抗できるポテンシャルはありそう」（松永）だが、「シビックも秋にはモデルチェンジでもっと速くなるはずだから……」（関係者）という意見も。

予選は、参加34台中26位（クラス15台中9位）。決勝では、未明にエンジントラブルのための2時間近くにわたるエンジン交換もあり、総合26位（クラス13位）となった。シビックに一矢報いることができるか、今後に期待したい。

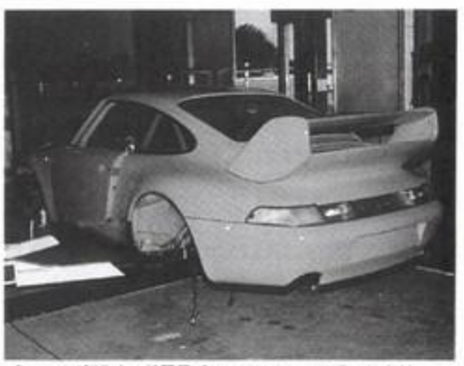

4A-Gエンジンの最高出力はAE101に比べ市販車レベルで5psアップ


AE101に比べボディ剛性がアップしたという。ちなみに製作はTRD


ウイング、リヤビューの処理が94ル・マンに参戦したマシンと異なる

GT2クラスのスタンダードになるか? JGTC GT2に新型ポルシェ NAのクラブスポーツ登場

8月13日に富士で行われるJGTC第4戦のGT2クラスに、ポルシェ911クラブスポーツが初登場することになった。これは993のボディにNA3・6ℓのエンジンを搭載したもので、ヨーロッパで行われているポルシェ・スーパーカップで使用されているもの。クラブスポーツを投入するのは、これまでR31スカイラインで参戦していた外国屋と911RSで参戦していたコブラ・レーシングチーム。外国屋は製作をブローバに委託し、市販車をベースにピロ足化、6連スロットル化、ザイテックのコンピュータシステムを搭載して武装。コブラはスーパーカップカーをベースにピロ足化しての参戦となる。


ブローバで製作中の外国屋ポルシェ。ベースカラーは赤だ

Photos/Masahiko Amano,Hiroaki Matsumoto,Racing on

プジョーはF1優先 ITCには参戦せず

プジョーは、FIAツーリングカークラス1で争われる国際ツーリングカー選手権（ITC）の参戦を否定、F1の続投をアピールした。現在DTM同様、3メーカーだけで争われているITCには、新たな参戦メーカーの名前がいくつかうわさされていたが、プジョー・スポール代表のジャン・ピエール・ジャブイーユは、きっぱりとプジョーの参戦がないことを発表した。

ジャブイーユは、「F1は世界的なイベントだが、ITCやDTMはヨーロッパだけのイベント。それにスポーツカーレースじゃあるまいし、参戦にはF1以上に莫大な予算が必要だ。現段階では、F1とITCの両カテゴリーに参戦することは不可能ではないが、プジョーはF1を選択する。我々は来年新型の406でスーパーツーリングに参戦する予定だ」と語っている。メルセデス・ベンツ、オペル、アルファロメオに続くメーカーは登場するのだろうか？



FIAクラス1マシンの投入がうわさされたプジョーだったが、この405の後継車種である406はクラス2のみに投入となる

インディカー第11戦はマイケルが今季初優勝、第12戦はビルヌーブが！

激戦が続くインディカーシリーズもいよいよ後半戦に突入、チャンピオン争いもさらにヒートアップしてきた。

カナダ、トロントで開催された第11戦。3戦連続でポールポジションを獲得したのは、ここが地元のジャック・ビルヌーブ。しかしレースは、2度のフルコースコーションでのピットインのタイミングが明暗を分け、マイケル・アンドレッティが11戦目にして今季初優勝を遂げた（詳細は次号）。

その1週間後の7月23日に開催された第12戦クリーブランドのポールシッターは、ジル・ド・フェラン。初のポール獲得に優勝への期待も高まったが、結局ビルヌーブがトップでゴール。今季4勝目を挙げ、ドライバーズポイントでも138ポイントで依然としてトップをキープ。2位はポビー・レイホールで106ポイント、3位には99ポイントでロビー・ゴードン、アンドレッティは96ポイントで4位につけている。

RESULT/Round 11

●2.848km×98周＝279.104km 予選出走27台・決勝出走27台・完走15台

順位	No.	ドライバー	マシン		予選順位／タイム
1	⑥	マイケル・アンドレッティ	ローラT95・フォード	98周	6／58'289
2	⑨	ポビー・レイホール	ローラT95・・メルセデス	98周	5／58'272
3	⑰	ジャック・ビルヌーブ	レイナード95i・フォード	98周	1／58'046
4	⑲	テオ・ファビ	レイナード95i・フォード	98周	3／58'239
5	⑤	ロビー・ゴードン	レイナード95i・フォード	98周	7／58'441
6	⑪	ラウル・ボエセル	ローラT95・メルセデス	98周	16／58'921
7	⑯	エイドリアン・フェルナンデス	ローラT95・メルセデス	98周	15／58'851
8	③	ポール・トレーシー	ローラT95・フォード	98周	10／58'541
9	⑱	クリスチャン・フィッティパルディ	レイナード95i・フォード	98周	12／58'667
10	②	エマーソン・フィッティパルディ	ペンスキー95・メルセデス	98周	17／58'958

・優勝スピード：151.659km／h

・ラップリーダー：1～23＝J.ビルヌーブ、24～62＝M.アンドレッティ、63＝J.ビルヌーブ、64～98＝M.アンドレッティ

RESULT/Round 12

●3.7904km×90周＝341.136km 予選出走27台・決勝出走27台・完走11台

順位	No.	ドライバー	マシン		予選順位／タイム
1	⑰	ジャック・ビルヌーブ	レイナード95i・フォード	90周	2／57'826
2	④	ブライアン・ハータ	レイナード95i・フォード	90周	3／57'854
3	⑬	ジミー・バッサー	レイナード95i・フォード	90周	15／58'624
4	⑨	ポビー・レイホール	ローラT95・メルセデス	90周	11／58'315
5	⑫	ダニー・サリバン	レイナード95i・フォード	90周	14／58'553
6	⑤	ロビー・ゴードン	レイナード95i・フォード	90周	8／58'088
7	⑥	マイケル・アンドレッティ	ローラT95・フォード	90周	10／58'229
8	⑭	ステファン・ヨハンソン	ペンスキー94・メルセデス	89周	20／59'165
9	⑭	アレッサンドロ・ザンペドリ	ローラT94・フォード	89周	24／59'720
10	⑦	エリオ・サラザール	ローラT95・フォード	88周	27／60'810

・優勝スピード：208.181km／h・ラップリーダー：1～28＝G.ド・フェラン、29～31＝J.ビルヌーブ、32＝T.ファビ、33～60＝G.ド・フェラン、61～66＝T.ファビ、67～77＝G.ド・フェラン、78～88＝M.アンドレッティ、89～90＝J.ビルヌーブ



「もう勝てないかと思った…」マイケルは長いトンネルを脱出した

パシフィック、ベルトラン・ガショーに代えドイツGPからジョバンニ・ラバッジを起用

今シーズン2年目のGPを戦っているパシフィックは、ドイツGPからベルトラン・ガショーに代えてイタリア人ドライバーのジョバンニ・ラバッジを起用することを明らかにした。

シシリア出身のラバッジは37歳。これまで国際F3000や耐久レースなどに出場しているが、今年のデイトナ24時間で優勝したのが唯一の目立った成績。トップチームのひとつであるクリプトンレーシングから参戦した91年のF3000では10戦中8戦で予選落ちするなど、その能力を疑問視する声は多い。

パシフィックの共同経営者でもあるガショーはかねてから「チームの経済状態によっては自分がシートを降りることもあり得る」と話していたが、資金確保のためにこうした無名のドライバーにシートを譲らなければならなかったことは、チームの財政が厳しい状態にあることをうかがわせる。

今後、スーパーライセンスの資格をめぐって議論を呼びそうなラバッジだが、取りあえず4戦の契約にサイン。それ以降については未定で、先日、パシフィックのテストを訪れた野田英樹が日本ラウンドに起用される可能性もまだ残されているようだ。



デイトナ24時間で優勝したラバッジ（写真中央）だが

マツダDG3、ブガッティEB110らも参戦 鈴鹿1000kmはますます混戦模様に!?

8月27日に鈴鹿で開催されるポッカ インターナショナルI000km耐久レースは、7月下旬の段階で60台をオーバーするエントリーを集めている。エントリーの追加で目立ったところでは、6台目のマクラーレン、ブガッティ、マツダスピードといった名前だ。追加されたマクラーレンは、オリビエ・グルイヤールを擁するジャカディで、さらには他チーム（ハロッズ?）ではJレートを起用しようとする動きも。ブガッティは本誌P20で紹介しているEB-IOSCがエントリー。マツダスピードはル・マン7位のWSCマシン、マツダDG3を国内初登場させることになった。

なおこの大会は、クラス/カテゴリー別の按分比例による選抜はなく、総合タイム順での決勝進出となる。このためGTマシンに比べ絶対パワーで劣るNーマシンでの決勝進出は、困難になると予想されている。



マツダスピードの参戦も追加された

鈴鹿1000km　エントリーリスト

●鈴鹿スーパーGTクラス（LM-GT1、N-GT1リプレ）					28台
①	ガルフ・レーシング/GTC	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	R.ベルムン/M.サンドローサーラ	MI
⑤	BBA コンペティション	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	ｸﾚﾓｰﾗ/ﾋﾞｴｰﾙ/ﾚｸｲｴ/P.ファブル	DL
⑦	GRD ジャカディ	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	F.ジロワ/O.グルイヤール	MI
⑧	ウエスト・コンペティション	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	J.ニールセン/T.ブシャー	GY
⑨	マッハワン・レーシング	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	D.ベル/J.ベル/A.ウォレス	GY
⑪	ブローバモータースポーツ	ポルシェ911ターボ	N-GT1リプレ	古谷直広/T.B.N	BS
⑯	ガルフ・レーシング/GTC	マクラーレンF1 GTR	LM-GT1	L.オーウェン-ジョーンズ/P-H.ラファネル	MI
⑰	PCオートモーティブ	ジャガーXJ220	LM-GT1	R.バイパー/T.ニーデル	DL
㉓	ニスモ	ニッサン・スカイラインGT-R(R33)	N-GT1リプレ	鈴木利男/影山正彦	BS
㉖	クルザル・コンペティション	ベンチュリ600LM	LM-GT1	T.B.N/T.B.N	MI
	チーム・サード	サードMC8R	LM-GT1	J.クロスノフ/M.マルティーニ/T.B.N	DL
	トヨタ・チーム・サード	トヨタ・スープラGT LM(JZA80)	N-GT1リプレ	T.B.N/T.B.N	DL
㊽	パイロット・アルディクス	フェラーリF40LM	LM-GT1	M.フェルテ/O.テペナン	MI
㊾	コンラッド・モータースポーツ	ポルシェ911 GT2	LM-GT1	F.コンラッド/T.B.N	PI
㊹	プロモ・レーシング・カー	ベンチュリ600LM	LM-GT1	E.グラヘム/M.ファロー/F.ビルボー	DL
㊼	ラルブル・コンペティション	ポルシェ911 GT2エボリューション	LM-GT1	D.デュプイ/J.バルト/S.オルテッリ	MI
㊿	フライジンガー・モータースポーツ	ポルシェ911 ツインターボ	LM-GT1	W.カウフマン/羽根幸浩	GY
㊿	フライジンガー・モータースポーツ	ポルシェ911 ツインターボ	LM-GT1	M.リゴネット/エメリック	GY
㊿	ベルント・レーシング	ポルシェ911 ターボ	LM-GT1	G.リード/P.ブローム/C.ベリュー	PI
㊿	フェラーリ・クラブ・イタリア	フェラーリF40	LM-GT1	L.デッラ・ノーチェ/A.オロフソン	PI
㊿	フェラーリ・クラブ・イタリア	フェラーリF40	LM-GT1	F.マンチーニ/M.モンティ/G.エイルス	PI
㊼	ジョリークラブ	フェラーリF40	LM-GT1	T.B.N/T.B.N	PI
㊽	チャンバレン・エンジニアリング	ジャガーXJ220	LM-GT1	T.B.N/T.B.N	GY
㊽	ラルブル・コンペティション	ポルシェGT2 エボリューション	LM-GT1	B.ウォレク/J-Pシャリエ	MI
㊽	寺井輝昭	ランボルギーニ・ディアブロ・イオタ	N-GT1リプレ	T.B.N/T.B.N	YO
	ソシエテ・ベンチュリSA	ベンチュリ600SLM	LM-GT1	T.B.N/T.B.N	MI
	モナコ・レーシングチーム	ブガッティEB110SC	IMSA-GTS1	G.バランカ-バストール/P.タンペイ	MI
	リスター・カーズ	リスター・ストーム	LM-GT1	T.B.N/R.B.N	MI
●鈴鹿GTクラス（LM-GT2、N-GT2リプレ）					15台
②	アグスタ・レーシング	キャラウェイ・コルベット	LM-GT2	T.B.N/T.B.N	DL
⑭	パール・レーシング	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	W-R.ファーマー/T.B.N	PI
㉑	コンラッド・モータースポーツ	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	B.ブローグ/T.B.N	PI
㉒	エルフ・ハバーサル・レーシング	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	F.デ・レセップ/C.マルゲロン/R.バランドラス	PI
㉗	クルザル・コンペティション	ベンチュリ400GTR	LM-GT2	T.B.N/T.B.N	MI
㉘	TEAM NICOS	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	山田洋二/田嶋栄一/T.B.N	BS
㉜	ザイケル・モータースポーツ	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	T.B.N/T.B.N	PI
㊵	シンプソン・エンジニアリング	フェラーリ348LM	LM-GT2	R.スミス/T.B.N	GY
㊺	スタドラー・モータースポーツ	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	L.ブライナー/E.カルデラッリ	PI
㊼	スポーツタイム	ベンチュリ400GTR	LM-GT2	T.B.N/T.B.N	MI
㊾	中嶋ホンダ	ホンダNSX GT2	LM-GT2	黒澤琢弥/佐藤浩二/田中哲也/T.B.N	BS
㊿	チーム国光ホンダ	ホンダNSX GT2	LM-GT2	高橋国光/土屋圭市/飯田 章	YO
㊿	NSX クラブオブジャパン	ホンダNSX	LM-GT2	T.B.N/T.B.N	YO
	チーム・コムテック・レーシングクラブ	ポルシェ911 GT2	LM-GT2	山田英二/ 川越賢二/ 金森敏一	YO
	AIWAレーシングプロジェクト	ニッサン・シルビア(S13)	N-GT2リプレ	伊達邦夫/石川 朗/T.B.N	YO
●鈴鹿GT-Lクラス（N-GT2、JAF-N1）					7台
⑥	シュロスモータースポーツ	ポルシェ・カレラRS/964A	N-GT2	佐藤久実/日置恒文/八代俊二	DL
	クリーク・モータースポーツ	ミツビシ・ランサーエボリューションIII	JAF-N1	柳生治男/富林順広/石井雄策	
	月東正美	ニッサン・シルビア/E-S13	N-GT2	高浅 毅/月東正美/森本守孝	YO
	コブラレーシングチーム	ポルシェ964	N-GT2	池谷勝則/野池広行/石原将光	YO
	ちーむ時間創企画	ホンダ・シビック/EG6	JAF-N1	福留洋一/松本 博	OT
	石橋義三	ポルシェ993クラブスポーツ	N-GT2	石橋義三/星野 薫	YO
	日の丸マレーシア	BMW M3/E30	N-GT2	橋本元次/C.カーン/山本満雄	YO
●プロトタイプ　1クラス					1台
	YTRwithマツダスピード	マツダDG3	LM-WSC	寺田陽次郎/T.B.N/T.B.N	DL
●プロトタイプ　2クラス（RSリプレ）					14台
⑪	コスモスレーシング	オプカーSK90	RSリプレ	山本克典/山崎祥史/T.B.N	DL
⑬	佐藤理之	オスカーSK90	RSリプレ	水野幸孝/近田直人/佐藤理之	DL
⑫	コスモスレーシング	コスモスSK90	RSルプレ	鈴木陽一郎/富田昭雄/大橋昌樹	DL
	プロキダイレーシング	オスカーSK90	RSリプレ	長谷川尚司/小倉良幸/T.B.N	DL
	SAF RACING AG	オスカーSK93改トヨタ	RSリプレ	安達貴信/佐伯重和/吉谷昌義	YO
	科芸専レーシングチーム	オスカーSK85-88 改	RSリプレ	野上敏彦/関水敬明/T.B.N	DL
	松山政孝	オスカーSK5.2	RSリプレ	松山政孝/大城 一/T.B.N	YO
	吉河宏	オスカーSK5.2	RSリプレ	恵田 敦/高橋幸三郎/T.B.N	YO
	チーム時間創企画	オスカーSK90改	RSリプレ	石本武也/金森敏一	DL
	チーム時間創企画	オスカーSK90	RSリプレ	田中壮一郎/橋本通彦	DL
	木村博	T.B.N	RSリプレ	木村 博/永谷敬一/高橋一穂	
	レジャードーム	オスカーSK90	RSルプレ	新田浩雅/池田みつる/大橋篤士	DL
	TARGA SPORTS CLUB	オスカーSK90スバル	RSリプレ	大城 一/吉谷昌義/佐伯重和	YO
	オスカーレーシング	オスカーSK5.2	RSリプレ	鎌田勇三/藤川光造	YO

ル・マン制覇の関谷正徳を讃え トムス主催の祝賀パーティー開催される

7月18日、東京・池袋のアムラックスで、トムス主催による関谷正徳のル・マン24時間祝勝会が開催された。会場に詰めかけた数百名の関係者に囲まれ、関谷は終始和やかな表情で応対。関谷となじみの深い白鳥哲治、萩原任、福山英朗、ミハエル・クルム、松田秀士、松永雅博、三原じゅん子、影山正美らも駆けつけ、日本人初の快挙を祝福した。

ル・マン中継のVTRが流された会場には、関谷の義弟が撮影したル・マンの写真パネルも展示。また抽選でそのパネル、グッズなどがプレゼントされた。

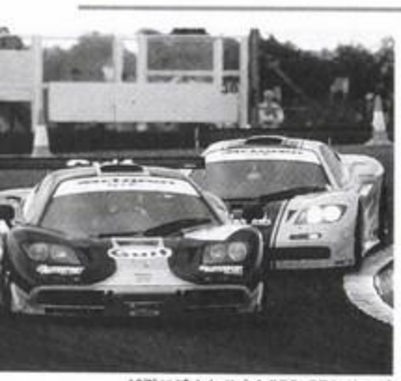
関谷は今年のル・マンを振り返りながら「ル・マンには小河（等）がいるような気がした。今度はトヨタのマシンで総合優勝できれば」と近い将来の"2勝目"を誓っていた。なおパーティーの模様はP-17にも掲載。


関谷にはトヨタからクリスタルガラスのカップが贈られた

96年BPR GTはアメリカでも開催? 全世界的シリーズに

来年のBPRオーガニゼーションによるGT耐久レースシリーズの暫定カレンダーが発表された。これによると、シリーズは全10戦で行われ、1月のインテルラゴス1000マイルレースで開幕する。そして6月15～16日に開催されるル・マン24時間の前にはヨーロッパで4戦が予定され、それぞれがテストを兼ねた前哨戦となる。ル・マンの後にもヨーロッパラウンドが2戦行われ、アジア地区では鈴鹿1000kmとチューハイの2戦が予定されている。また注目すべきはアメリカ（ラグナ・セカ）での開催が予定されていること。

同シリーズに参戦中のアグスタチームのアルモ・コッペリは「この予定は今年よりいいが完璧ではない。2月のデイトナ24時間に参戦しようとするなら、インテルラゴス1000マイルへのエントリーは難しいのでは」と評している。


10戦に減少しそうなBPR GTシリーズ

96BPR GTカレンダー

①	1月	インテルラゴス	ブラジル
②	3月3日	ポール・リカール	フランス
③	3月23日	モンツァ	イタリア
④	4月7日	ハラマ	スペイン
⑤	5月12日	シルバーストン	イギリス
⑥	6月30日	ニュルブルクリング	ドイツ
⑦	7月14日	ブルノ	チェコ
		orアンデルストープ	スウェーデン
⑧	8月25日	鈴鹿	日本
⑨	10月	ラグナ・セカ	アメリカ
⑩	11月	チューハイ	中国

全日本ラリー第6戦 2クラスで王者決定

全日本ラリー選手権第5戦「ひえつき95夏」を序盤からリードしたのは、SS1を同タイムで分け合うなど好調な綾部美津雄と新井敏弘らのインプレッサ勢。そして第2ステージを終わってみると綾部がトップ、新井は7点差の2番手に浮上していた。綾部はトップを走るものの、最近好調な新井を執拗にマークするなど気を抜かない。SSが終わるとオフィシャルに、前を走る新井のタイムを常に確認するほどだった。

しかし、第3ステージも佳境に入り綾部が新井に気を取られている間に、綾部の9台前を走る山口修ランサーが、SS8で一気に差を詰めて逆転。綾部は第3ステージ序盤のSS6で、ホイールトラブルが発生したこともあって、同じ林道を使うSS8で「ちょっと抑え過ぎた」のだった。

結局山口はそのまま逃げきり、久しぶりの優勝を味わいつつ、ランサー・エボリューションIIIの初優勝を実現した。

Bクラスは田口幸宏、鎌田豊が相次いでリタイアする中で原口真が善戦し、今季2勝目を獲得。同時に、初のチャンピオンを確定した。Aクラスも白熱したチャンピオン争いが展開していたが、栗津原豊アルトが土壇場で島田雅道のミラを振り切って今季4勝目を獲得、さらにチャンピオンも手中にした。

（三田正二）


エボIIIの初優勝を飾るとともに、久々の勝利を手中にした山口修

4WD+ターボ、新しいキットカーの草案をFIAが認可!

WRCの4WD+ターボによる新しいキットカーのレギュレーション草案がFIAワールドカウンシルで認可された。

この草案によると、従来のキットカーの弱点であったリヤサスペンションの問題に関して、妥協案が成立した模様だ。

4WDキットカーのベースとなるであろう多くのFFカーのリヤサスペンションは、簡単に後輪を駆動できるようには設計されていない。さらに、今までのレギュレーションではサスペンション形状の変更は許可されていなかったために、この部分が大きなネックになっていた。

しかし、信頼できる筋によると新しいレギュレーションにより、ジオメトリーこそ大きく変更できないものの、ダンパーを垂直にセットすることが許可されたようだ。これにより、ルノー・クリオや、プジョー・306は大幅なパフォーマンスアップが期待できそうだ。

今後、新たなるメーカーの参入予定は無いが、クロスカントリーラリー・ワールドカップを制した後、シトロエンが真剣に参入を検討しているというわさもある。

レイホールとホーガンが訣別! レイホール・ホーガンレーシングは解散?

インディカーシリーズで現在ドライバーズポイント2位のボビー・レイホールは、自身のチームであるレイホール・ホーガンレーシングの共同オーナー、カール・ホーガンとの訣別を決めたようだ。

ホーガンの激しい個性と対照的に、レイホールの性格はコンサバティブ、しかもホーガンがレーシングチームをいわば趣味として考えているのに対し、レイホールはあくまで真摯なものとして考えているなどふたりの間には大きな隔たりがあったもよう。

正式な発表はまだだが、レイホールは目指す方向性が違うことから、パートナーシップを終結した方が、お互いにとって得策であると判断したようだ。


ホーガンとの蜜月が終わったレイホール

ポルトガルでのジュニアカート世界選手権 日本から5選手が参加するも好成績は残せず

7月13~16日、ポルトガル北部のブラガ・インターナショナル・カートドローモで、カートのジュニア世界選手権が開催された。ジュニアの「五大陸カップ」とジュニアカデットの「レインボウトロフィー」を争うこの選手権に、日本からは、ジュニアに一名、ジュニアカデットに4名が参加し、TTのポールタイムを上回るタイムを練習中にマークするなど、世界にひけを取らないレベルにあることをアピールした。

ジュニアでは、桑山レーシングの若林剛史が予選B×C組で5位に入り期待されたが、続くプレファイナルでスタート直後のコーナーでのアクシデントに巻き込まれ、KCナガハラの安田春鏞とともに5名がその場でリタイア。決勝でのポジションアップを狙ったが、ともにエンジントラブルで戦列を去った。レースは、ジュニアはオーストラリアのジェイムズ・コートニーが「五大陸カップ」、ジュニアカデットはドイツのアンドレ・ロッターが「レインボウトロフィー」を獲得した。

（瑞穂次郎）



日本から挑戦した5人のジュニアカーター


遠心クラッチ付きのジュニアクラスはスタンディングスタートだ

イタリアF2000に参戦中の高橋毅がカート世界選手権に!?

本誌でもおなじみの高橋毅が、9月14~17日にフランスのバレンスで開催されるカートの世界選手権に再び参戦するのではないかと言われている。

高橋は現在、型落ちF3を使用して行われるイタリアのF2000に参戦中。今季は表彰台の常連となり、第5戦のビネットでは念願の初優勝を挙げ、シリーズランキングでも2位につけている。まだシリーズチャンピオン獲得の可能性もあり、目下2勝目を狙っている状態だ。

高橋は93年までカートで活躍していたが「これまで何度か世界選手権にチャレンジしたんですが、結果としてあまりいいところがなかった。そこで、もし可能ならばなんとかして出たい」と言う。以前はビレルのワークスとしての参戦だったが、今回については「ビレルとは限らない」という。「もし出られれば、絶対に勝ちにいく」という高橋選手。実現すれば、久しぶりのカートレースへの復帰となりそうだ。


今季はF2000で絶好調のツヨシ。実現すれば久しぶりのカートレースとなる



R33GT-Rの初優勝なるか？　40台以上が集まるGT富士に注目

新GT-R初Vなるか GT第4戦富士は40台を超える参加が

8月13日に富士で開催されるJGTC第4戦には、40台を超えるエントリーが集まっている。今回はZEXELが新車を投入するため、GT仕様のR33GT-Rが5台そろう。R33はデビュー以来まだ勝ちがないだけに、今回はかなり戦闘力をアップしてのレースとなりそうだ。なおRS中春が走らせる④R32GT-Rは、94年のZEXEL。さらに第2戦同様Nマシン（エンドレス）もエントリーしている。またチームタイサンは、ポルシェ911 GT2を3台、F40を1台、BMW-M3を2台の計6台を投入、後半3連勝とチャンピオン獲得を狙う。GT初のFF車となるミツビシ・ミラージュ（C53M）は、先代ミラージュカップのスタイルで登場。GT2クラスにはNAのポルシェ911クラブスポーツが初登場（別項参照）、今後GT2クラスの主流マシンになる可能性も高そうだ。また静岡マツダのユーノス・コスモの登場は残念ながら見送られた。

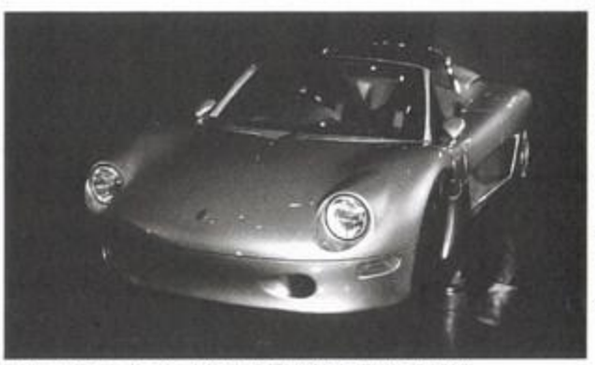
JGTC第4戦予想エントリーリスト

No.	エントラント	ドライバー	マシン
●GT1			
①	ホシノレーシング	星野　一義／影山　正彦	GT-R(R33)
②	TEAM ZEXEL	都平　健二／河合　博之	GT-R(R33)
③	ハセミ・モータースポーツ	長谷見昌弘	GT-R(R33)
④	RS中春	福山　英朗／永野　文則	GT-R(R32)
⑤	RANK UP TOMEI SPORTS	柏原　浩一／T.B.N	911 GT2
⑥	FET RACING TEAM	長坂　尚樹	スープラ(JZA80)
⑩	NISMO	飯田　章	GT-R(R33)
⑪	プローバ　モータースポーツ	古谷　直広／T.B.N	911 ターボ(964T)
⑱	TEAM-JUN	小林　且雄	GT-R(R32)
⑳	ESR with東京工科専門学校	藤川　元造／D.フジサワ	MR2(SW20)
㉕	TEAM Le Man's	影山　正美	フェアレディZ(Z32)
㉙	TEAM TAKE ONE	山田　洋二／田嶋　栄一	911 GT2
㉛	TEAM TAISAN	鈴木　恵一／飯田　薫	911 GT2
㉞	TEAM TAISAN	松田　秀士／土屋　武士	911 GT2
㉟	TEAM TAISAN	A.レイド／近藤　真彦	911 GT2
㊱	CASTROL TOYOTA TEAM TOMS	関谷　正徳／M.クルム	スープラ(JZA80)
㊳	TOYOTA TEAM CERMO	E.コマス	スープラ(JZA80)
㊴	トヨタチームサード	J.クロスノフ	スープラ(JZA80)
㊵	TEAM TAISAN	O.ラッラウリ／大田　哲也	F40
㊶	アイワレーシングプロジェクト	伊達　邦夫／石川　朗	シルビア(S13)
㊷	ニスモ	鈴木　利男	GT-R(R33)
㊸	エンドレススポーツ	木下みつひろ／菊地　靖	GT-R(R33/N1)
㊹	TEAM COMTECH RACING CLUB	山田　英二／川越　賢二	911 GT2
㊽	KEN WOLF with TERAI ENG	和田　孝夫／池沢さとし	ディアブロ
㊾	チーム国光	高橋　国光／土屋　圭市	RSR ターボ(964T)
●GT2			
⑦	RE雨宮レーシング	竹内　浩典／松本　晴彦	RX-7(FD3S)
⑪	エムファクトリーレーシングクラブ	石森　浩光	スカイライン(R31)
⑫	EIMEI AUTO	永井　明	ミラージュ(CS3S)
⑬	アムゼレーシング	早川　篤／T.B.N	RX-7(FC3S)
⑰	KAGEISEN RACING TEAM	野上　敏彦／高木　敏明	RX-7(FC3S)
⑱	Elite Racing Corporation	福嵩　稔大／川崎　哲哉	RX-7(FC3S)
㉓	ダンデライオンレーシングチーム	水沼　克夫／秋元　光男	GT-R(R32)
㉔	B.H.Studio Racing	鈴木　隆司／杉田　直人	911RS(964)
㉖	TEAM TAISAN	山梨　順一／長島　正興	BMW-M3(E30)
㉗	NAC WEST	鈴木　守／林　道明	スカイライン(R30)
㉘	TEAM TAISAN	関根　基司／武藤　文雄	BMW-M3(E30)
㉛	コブラレーシングチーム	池谷　勝則／石原　将光	911CS(993)
㊲	OHYAMA-RACING	大山　茂／T.B.N	GT-R(R32)
㊺	S2BRAIN	袖山　誠一／T.B.N	911(993)
㊻	石橋義三	石橋　義三／星野　薫	911CS(993)
㊶	牧口エンジニアリング	山岸　豪／黒須　保文	BMW-M3(E30)
㊷	牧口エンジニアリング	牧口　則雄／木下　隆之	BMW-M3(E36)

夢はル・マン24時間参戦!?　ライトウエイトスポーツカー、トミーカイラZZ発表

トミタ夢工場（前社名：トミタオート）は、かねてより開発中だったオリジナルスポーツカー「トミーカイラZZ（ジー・ジー）」の発表会を7月24日、都内で行った。全長3630㎜／全幅1740㎜／全高1100㎜とコンパクトなサイズのZZは、アルミ合金製のフレームにニッサン・プリメーラにも搭載されているSR20DEエンジンを搭載した重量650kgのライトウェイトスポーツカー。4連スロットル化されたエンジンは200馬力の最高出力を発生する。価格は498万円で、発売は96年春を予定している。なお生産台数は月5台を予定しているが、予約状況によっては月20台生産体制も可能だという。

ZZの開発を手掛けたのは解良氏（元コジマF1）で、デザインには由良拓也氏も参加。エンジンルーム上のパネルはコクピットのルーフとしての使用も可能になっている。富田社長は「これでル・マンに出場するのが夢」と語っているようだが、Nゼロ規定でのワンメイクレースが早期に実現するかもしれない。問い合わせはトミタ夢工場／☎075-464-3311へ。



レーシングカーにナンバーを付けた雰囲気のZZは来春から販売開始

SPOTNEWS

●国際F3000第4戦は7月23日にイタリアのエンナーペルグーサで開催され、リカルド・ロセットが予選2番手からスタートして開幕戦以来の2勝目を挙げた。また予選8位スタートと出遅れたピンチェンツォ・ソスピーリは2位でゴールして、スーパーノヴァが3回目の1-2フィニッシュを達成した。シリーズランキングもソスピーリが30ポイントでトップを守り、ロセットも24ポイントと2位に付けている（レースレポートは次号に）。

●インディカーのニューマン・ハースレーシングをスポンサードしているアメリカの大手スーパーマーケット・チェーン、Kmartは、そのサポートをさらに2年間延長することに同意したもよう。これにより、マイケル・アンドレッティの残留はほぼ確実と思われるが、もうひとりのドライバー、ポール・トレーシーは古巣のペンスキーへ戻る可能性もあるようだ。

●インディ・レーシング・リーグ（IRL）に参戦するチームを優先するという96年インディ500の予選方法案が発表されたが（前号参照）、これについては不満の声も多く、中には「インディ500をボイコットしよう」という意見もあるようだ。

●NASCARウインストン・カップ・シリーズの結果を。7月16日の第17戦ポコノはデイル・ジャレット（フォード・サンダーバード）が、7月23日の第18戦タラデガはスターリング・マーリン（同）がそれぞれ優勝。18戦を終了してシリーズポイントは、1位ジェフ・ゴードン（シボレー・モンテカルロ）2705点、2位マーリン2627点、3位デイル・アーンハート（シボレー）2559点、4位マーク・マーティン（フォード）2531点、5位テッド・マスグレイブ（同）2527点の順。

●8月4～6日に鈴鹿サーキットで、FIAエレクトロソーラーカップ第4戦「コスモ石油カップソーラーカーレース鈴鹿95」が開催される。今年はソーラーカー以外にも電気自動車（EV）のレースが行われる。スケジュールは、4日に車検、5日に予選、ソーラーカー決勝第1ヒート、6日にソーラーカー決勝第2／3ヒート、EV決勝の予定。

●ナンバー付き車両によるレース"Nゼロ"は、7月18日に開催されたJAFマニュファクチャラーズ部会で審議され、若干の修正を加え通過した。20日に行われた運営委員会を通過すれば、ほぼGOサインという状態だったが、各種選手権議題の審議が多く、現状報告という形で次回（9月21日）運営委員会に持ち越しとなった。初レースは早ければ10月末～11月頭には開催されそうだ。

●イタリアF2000第8戦は7月23日にムジェッロで開催され、高橋統は5位に終わった。フォーメイションでエンジンをストールさせ最後尾スタートとなったツヨシだったが、1周で9台を抜き去り5位に浮上。しかしミッションにトラブルを抱え順位キープのままチェッカーを受けることになった。

●フォーミュラ・ルノー・キャンパス（FRC）のウィンフィールドオーディションは18名が参加して行われた。日本人ドライバーとしては中沢浩也、澁田優、緒方瑠香の3選手（いずれも17歳！）が参加し、中沢2位、澁田6位、緒方9位という結果で、中沢と澁田は来年の参戦が決定した。

●8月6日のJTCC第11／12戦TIサーキット・英田のレースの模様は、岡山放送、秋田テレビ、新潟総合テレビ、関西テレビ（以上8月6日深夜）、テレビ山口（8月9日）、テレビ新広島（8月10日）、山陰中央テレビ（8月19日）、北海道文化放送（8月20日）、テレビ愛知（8月24日）で放映の予定。

●8月12～13日に開催される95筑波ナイター9時間耐久レースには、20台以上のN1マシンが参戦。シビックを中心にプレリュード、インプレッサなどが参戦予定だが、最も注目されるのはカスミグループが投入するフォード・エスコートRS（2Lターボ）。メンテナンスはメッカが担当し、ザウルスJrで活躍した児玉晋哉がメインドライバーを務める。

●ウエストレーシングカーズでは、新設計のFJマシン、95Jを販売開始した。特長は、アルミ製のハブを採用するなどバネ下重量を軽減、安全性を向上させ操作性も高めたフレームを採用したことなど。9月の鈴鹿フレッシュマンでレースデビューとなりそうだ。車両本体価格は250万円（エンジン、ミッション、タイヤ、ホイールレス）。詳細はウエストレーシングカーズ／☎0593-79-0939へ。

●また、マナティレーシングも新型FJ1600マシンMK11の販売を開始した。エアインテークをマシン下方に配置するなど空力を煮詰めたMK11は、足まわりも専用パーツで製作されるなど全くの新設計。こちらも9月の鈴鹿フレッシュマンでデビューの予定になっている。車両本体価格は249万円。詳細はマナティレーシング／☎0587-54-7005へ。

●7月9日の鈴鹿フレッシュマンの事故で危篤状態だった松尾孝二選手が、7月20日亡くなった。享年25歳。合掌



訃報

7月17日、モータースポーツ史上に残された最後の巨人
ファン-マヌエル・ファンジオが故郷、アルゼンチンでその84年の生涯を終えた
5回のタイトルとともに、数多くの伝説を築き
すべてのドライバーにとって、常に永遠の目標でありつづけた男
サーキットの神に愛され続けた天才が今、天に還る……

Photos/Kenji Sawada, MERZEDES BENZ　文／林 信次

5回のタイトルに輝く伝説のチャンピオン
ファン-マヌエル・ファンジオを偲んで

史上最高のドライバー

往年のF1GP世界チャンピオン、ファン-マヌエル・ファンジオが、7月17日早朝、母国アルゼンチンで肺炎のため亡くなった。享年84歳。

計5度（1951年と54～57年）も世界チャンピオンの座に就いた者は長いレースの歴史の中でも他に例がなく、それだけでも「史上最高のドライバー」と呼ぶに値する。世界選手権F1GPが始まった50年から引退戦となった58年フランスGPまでの間に、出走51回・優勝24回を挙げ、その勝率は実に47%に達する。もちろん当時としては24勝は圧倒的大記録であり、10年後にジム・クラークが25勝目を挙げて記録更新するまで保持し続けた。

さらにGPキャリアの記録を並べれば、表彰台35回／入賞40回／ポールポジション28回（PP率57%も最高記録）／1列目スタート48回／最速ラップ23回／生涯得点277・64点／一戦平均5・44点／トップ走行38戦、といったハイアベレージが続く。57年に5度目の王座を奪った時、ファンジオは46歳という年齢に達していたが、これは最年長チャンピオン記録ということにもなる。

ヨーロッパへ……

残した記録もさることながら、彼自身の生い立ちを知ると、いっそうその偉大さが見えてくる。1911年6月24日、アルゼンチンはバルカルセという田舎で、6人兄弟の4番目として生まれた。両親ともイタリアからの移民の家系だった。

父親は石工で、特に裕福な家庭だったわけではない。少年のころはサッカーに興じ、機械さらには車に興味を持ち始めると、修理工として働くようになり、南米特有の長距離山岳レースにも出るようになった。39年にはアルゼンチン最大のレースで総合優勝を達げるまでになる。

第二次世界大戦後、車とレースの理解者でもあったアルゼンチンのペロン大統領は、ヨーロッパのスター選手を大勢招いてレースを開催した。48年のことだ。ファンジオは地元代表選手のひとりとしてこれに参戦、予想以上の好走で注目を浴びる。

ヨーロッパでの緒戦は48年フランスGP、そして49年にはマセラーティやフェラーリを駆ってヨーロッパの一流レースで次々に優勝、一躍名を挙げた。そして50年、世界選手権の開幕に伴って、名門アルファロメオの一員として迎え入れられる。記念すべき初代チャンピオンは僅差でチームの先輩ジュゼッペ・ファリーナに持っていかれたが、翌51年には追いすがるフェラーリ軍団の追撃を振り切って、初タイトルを奪取した。

好敵手モス

52年、レースキャリア中最大の危機が訪れた。モンツァで大クラッシュを演じ、ひん死の重傷を負ってしまうのだ。53年、マセラーティに乗ってようやく復帰したが、フェラーリに乗るアルベルト・アスカーリが時まさに絶頂期にあり、イタリアGPで1勝を挙げたのみ。54年になると、ドイツのメルセデス・ベンツがカムバック、ファンジオはそのエースとして2年連続王座に輝く。好敵手アスカーリの不幸な事故死があった55年、チームメイトとして加わったイギリスの若手スターリング・モスと絶妙のコンビネーションを発揮した。その後、メルセデス・ベンツの活動停止によって、56年以降ファンジオとモスはライバル関係となるが、それによって50年代のGP&スポーツカーレースは一黄金時代を迎える。56年、ファンジオはフェラーリで王座に。57年にはマセラーティに戻り、4年連続5度目の王座に就く。

熱い走りで観衆を魅了するモスに対して、ファンジオは沈着冷静・正確無比という印象が強かった。余計な労力を使わず、いかに楽に勝つか。ただし、57年ドイツGPでのファンジオの鬼気迫る走りも知っておく必要がある。レース中盤のピットインでフェラーリ勢から1分もの遅れを取ったファンジオは、以後毎周、難コースのニュルブルクリングのラップ記録を更新し続ける激しい追走を展開、そして最後の最後で見事な大逆転優勝をものにしたのだった。ファンジオというドライバーは、必要とあらばいつでも胸のすくようなアグレッシブな走りで最速ランナーたりえたのだ。

ファンジオはまさにアルゼンチンの国民的英雄だった。58年初頭、スポーツカーによるキューバGPの際、ファンジオがある集団に誘拐される事件が発生したのも、キューバ国内の政争に巻き込まれたためだ。レース終了と同時に無事解放されたが、母国でのペロン政権崩壊に伴う圧力等もあって、もはや純粋にレースを楽しめるような状況ではなくなってしまっていたし、マシンもライバル車に比べて旧態化が目立っていた。

58年フランスGP（ヨーロッパ初遠征からちょうど10年）、美しいランスの平原を高速で走りながら、ファンジオは突如、引退してしまうと決意する。最後の一戦は4位だった。

生ける伝説として

現役引退後37年もの長き年月、彼はしばしばサーキットに姿を現わし、そのたびごとに人々から最高の歓待を受け、サイン攻めにあい、それに気さくに応えた。時には年齢を感じさせぬ猛スピードで往年のレーシングカーを走らせた。スチュワートもラウダもピケもプロストもセナも皆、ファンジオを尊敬し、ファンジオのような存在となれることを目指し

1955年ミッレミリア、メルセデス300 SLRでブレシアをスタートするファンジオ。コクピットの彼とそれを見つめる人々の間の緊張が、ファンジオの存在感の大きさを物語る



すべてのドライバーにとって、永遠の目標でありつづけた巨人。心から冥福を祈る

Juan-Manuel Fangio
1911～1995

GRAND PRIX CONTESTED :51
NUMBER OF POLE POSITION :28
NUMBER OF WIN :24
WORLD CHAMPION :1951,1954,1955,1956,1957



引退後のファンジオは、しばしばグランプリを訪れた。写真は91年のスペインGP

た。それはまさにファンジオ自身が「生ける伝説」だったことを意味する。

70年以降何度か大きな心臓発作や大病を患ったが、生まれ故郷でガレージ業を営み、博物館を作り、最後まで実に紳士的な「レース大使」であり続けた。

ファンジオにまつわる興味深いエピソードは数多い。書籍・映像も複数存在するが、ピレリ協賛／スターリング・モス制作の写真集（大判168ページ、パヴィリオン・ブックス）とビデオ（75分、デューク・マーケティング。91年発行）、洋書『FANGIO／MY RACING LIFE』（ファンジオとロベルト・カロッツォ共著。パトリック・ステファンズLtd／90年刊）、翻訳書『ファンジオ自伝』（ラアンジオ&マルチェロ・ジャンベルトーネ著・高齋正訳／二玄社／74年刊）等を薦めたい。

偉大なるチャンピオンの冥福を祈る。（GIRO）

COMING SOON!

BIWEEKLY EVENTS PREVIEW 8/4~20

F1 8/13

F1世界選手権第10戦

ハンガロリンク



ハンガリーGP

●いやぁ、シブトイ、ヒジョーにシブトイ。何がってハンガリーGPのことね。毎年なくなるって言われててさ、今年なんかリザーブ日程だったのに、結局カレンダーに入っちゃってるもんねぇ。これはハンガリー人が偉いのか？　バーニーが偉いのか？　マールボロのネエチャンがカワイイからなのか?? 隣国オーストリアから押しかける大応援団の声援を背に、戦えゲルハルト・ベルガー！　ただフェラーリのトラクションが不足気味なのがチョット心配。

INDYCAR 8/13

PPGインディカーワールドシリーズ第13戦

ミド-オハイオ・スポーツカーコース



ミラー ジェニュイン ドラフト200

●オハイオ州レキシントンのミド-オハイオ・スポーツカーコースは、緑に囲まれた美しいサーキット。コースは低速～高速コーナー、アップ&ダウン、ロングストレートなどバラエティに富んでいて良くできている。このヨーロッパ型のコースを制するのは現在絶好調のジャック・ビルヌーブか、それとも復活したマイケル・アンドレッティか、はたまたロビー・ゴードンを筆頭に台頭しつつある若手か？　インディカー・シリーズはさらにヒートアップ確実！

JGTC 8/13

全日本GT選手権第4戦

富士スピードウェイ



JAPAN SPECIAL GT-CUP

●開催レース：GT（250km、スタート予定14：00）、スーパーシルビア、フォーミュラ・トヨタ、フェラーリ348チャレンジ、F100 ●入場料金：前売り／大人5000円・ペアチケット9000円・グループチケット1万6000円、予選当日／大人3000円、決勝当日／大人6000円、パドックパス／前売り1万5000円 ●駐車料金：決勝／4輪1000円・2輪500円●問い合わせ先：VICICインフォメーションダイヤル ☎022(264)0713

N1 8/12~13

95筑波ナイター 9時間耐久レース

筑波サーキット



95筑波ナイター9時間耐久レース

●開催レース
P-PEON、P-1600（ナイター9時間耐久、3時間耐久）
●入場料金
前売り／大人3200円
当日／大人4000円・子供1000円
パドックパス／3000円
●問い合わせ先：ACC・S
☎03(3901)0158

TV & RADIO

8/4～20のモータースポーツ番組

●全日本F3000（フジテレビ系）
8／6　24：55～26：10　全日本F3000選手権第5戦　菅生
●F1GP（フジテレビ系）
8／12　25：25～26：25　F1第10戦　ハンガリーGP予選
8／13　25：40～27：40　F1第10戦　ハンガリーGP決勝
●カーグラフィックTV
毎週土曜日　24：30～25：00／テレビ朝日系
8／5　イタリア取材　F50緊急試乗
BTCC第11・12戦　ブランズハッチ
8／12　フランス&イタリア取材 ルノー試乗会/イタルデザイン
8／19　BMW328i、メルセデス・ベンツC280
BTCC第13・14戦　ドニントン・パーク
第15戦　シルバーストン
●モーターランド2
毎週日曜日　23：30～24：00／テレビ愛知系
8／6　全日本ツーリングカー選手権第9・10戦　美祢
8／13　鈴鹿8時間耐久ロードレース
8／20　マツダ・フレンディー、シボレー・ブレーザー
●NHK（BS-1）
8／5　24：10～26：10　NASCAR第18戦　タラデガ
8／6　15：00～17：00　インディカー第12戦　クリーブランド
8／13　13：00～15：00　インディカー第13戦　ブルックリン
8／20　13：00～15：00　インディカー第14戦　レキシントン
●スポーツアイ（CS-BAAN）
8／5　22：00～　インディカー第11戦　トロント
8／6　17：30～　スピード・ウイーク23
8／12　22：00～　インディカー第12戦　クリーブランド
8／13　17：30～　スピード・ウイーク24
8／19　22：00～　インディカー第13戦　ブルックリン
8／20　17：30～　スピード・ウイーク25　＊各番組再放送あり
●WOWOW
8／6　10：00～12：00　F1第9戦　ドイツGP決勝
8／12　18：00～19：30　ITC第3・4戦　フィンランド
DTM第5・6戦　ノリスリング
ITC第5・6戦　イギリス
8／13　15：00～16：00　F1第10戦　ハンガリーGP予選
8／20　16：30～18：30　F1第10戦　ハンガリーGP決勝
●圭市倶楽部
毎週土曜日　23：30～23：58／TVKテレビ
■モーターレーシング サタデー！「F1エクスプレス」
毎週土曜日　12：00～13：00／FM埼玉・NACK5（79.5MHz）
■FALKEN DR EAM ON THE ROAD
毎週月曜日　19：00～19：30／ハマラジ（84.7MHz）
■アドバン・サウンド・コックピット
～土屋圭市のレーシングダイアリー～
毎週土曜日　18：00～18：30／Tokyo FM（80.0MHz）系
■ICHIKOH ROAD NAVIGATOR
毎週土曜日　16：30～16：55／Tokyo FM（80.0MHz）系
■サンデー・モータースポーツ
鈴鹿サーキットでレースが開催された日曜日のみの放送
19：00～20：30／FM三重（津78.6／名張85.5／鳥羽、大宮83.2／志摩78.1／尾鷲80.4／熊野85.7MHz）
＊放送日程および内容は予定。
詳細は新聞等でその都度ご確認ください。

OTHERS

8／4～6　FIA ELECTRO-SOLAR CUP コスモ石油カップ　ソーラーカーレース鈴鹿95
会　　場：鈴鹿サーキット
開催レース：ソーラーカー（3ヒート）
入場料金：大人1500円・子供800円
駐車料金：4輪1000円
問い合わせ先：㈱鈴鹿サーキットランド ☎0593(78)1111

8／5～6　IDEX CUP95　九州耐久レース第2戦　レーシングパーク耐久フェスティバル
会　　場：オートポリス
開催レース：耐久レース（16周×2ヒート、21周×2ヒート）、ヒストリックカー（7周）、FJ1600（10周）
入場料金：前売り（2日間）／大人2000円・中学生1000円
前売り（決勝）／大人1500円・子供800円
2日間通し券／大人2500円・中学生1500円
決勝当日／大人2000円・中学生1000円
駐車料金：4輪1000円・2輪500円
問い合わせ先：MCO ☎0973(26)1111

8／6　北海道レースチャレンジシリーズ　アークロングディスタンスレース
会　　場：北海道スピードパーク
開催レース：ザウルスJr(30周)、マーチ、EP71、AE86(各25周)
入場料金：決勝／大人2000円、パドックパス／1000円
駐車料金：4輪500円
問い合わせ先：TEAM ARK ☎011(852)6601

8／6　ローバーミニ、ジャンボリーイン　筑波
会　　場：筑波サーキット
開催レース：ミニ1000ノーマル、チューニング、ミニ1300ノーマル、チューニング、モトスポーツ（各12周）、ミニ耐久（3時間耐久）
入場料金：決勝／大人3000円
駐車料金：4輪1000円・2輪500円
問い合わせ先：CLUB R MINI ☎03(3424)7841

8／19～20　95ハイランドゴールデンカップレース第2戦
会　　場：仙台ハイランドレースウェイ
開催レース：FJ1600、シビック（各12周）、AE86、マーチ、EP71（各10周）
入場料金：予選／大人1000円・中高生1000円・小学生700円、決勝／大人2000円・中高生1000円・小学生700円、パドックパス／1000円
駐車料金：無料
問い合わせ先：奥州VICIC ☎022(225)1301

8／19～20　95レース・ド・ニッポン
会　　場：筑波サーキット
開催レース：GT-R TWIN（20周×2ヒート）、マーチ（90分耐久、10周）、P-FR、P-OPEN（各15周）、FJ1600ミドル（12周）入場料金：予選／大人2000円・小中学生1000円
入場料金：決勝／大人3000円・小中学生1500円
パドックパス／予選1000円・決勝2000円
駐車料金：4輪1000円・2輪500円
問い合わせ先：SCCN ☎03(3763)8010

8／20　95北海道クラブマンカップレースシリーズ第2戦
会　　場：十勝インターナショナルスピードウェイ
開催レース：FJ1600、ザウルスJr.（各12周）、N1-1600、AE86、EP71、EP82（各10周）
入場料金：決勝／大人2000円・高校生1000円
パドックパス／2000円
駐車料金：4輪500円・2輪300円
問い合わせ先：十勝モーターパーク㈱ ☎0155(52)3910

CIBIÉ

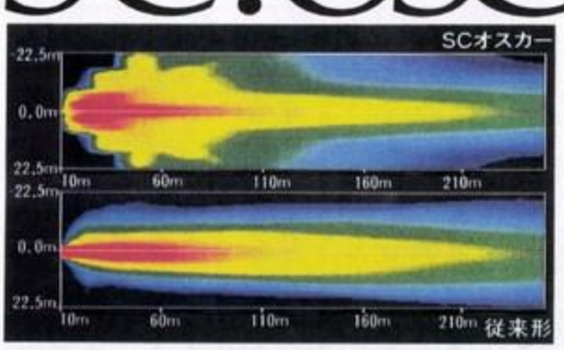
LE MANS 1975~1995

ル・マン20年間連続優勝!!



今年もル・マン24時間レースが開催された。
この過酷な世界最大の耐久レースで、栄光を掴めるのは、夜10時から朝4時までの闇との戦いに勝てる者だけだ。
1975年以来20年に亘り、その優勝車に装着されたランプ、それは全てCIBIÉ。
優勝車マクラーレンF1GTRを始めクラージュC34・C41、ジャガーXJ220、など
約80%の車がCIBIÉを選び、装着した。
ル・マンで勝てるランプ、それはCIBIÉだけ。

SC.OSCAR







CIBIÉ NORMA LÉON

日本総代理店
株式会社 SSリミテッド

第1営業所 〒146 東京都大田区下丸子1-11-1 TEL03(3759)7777 FAX03(3759)7779
第2営業所 〒146 東京都大田区矢口2-2-13 TEL03(3759)7171 FAX03(3759)4859

商品のお問合せは第2営業所へ、詳しい資料をご希望の方は、ハガキに「資料請求」と書いて郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・お乗りの車種・雑誌名・掲載月を明記の上、第1営業所宛にご郵送ください。

Photos/Hiroaki Matsumoto



FA18と並べられたアロウズF1エスコート・コスワース。F1と同じカラーのチューニングカーという市販車の新ジャンルを築くか？



まんまF1のカラーリング。これは賛否両論集まるところか



ホイールはエンケイの特製品、タイヤはGYイーグルF1とこだわる



チューンのメインはエンジン。コンピュータのモディファイとギャレット・ターボチャージャー、インタークーラーで武装された2ℓ直列4気筒エンジンは260馬力を発生する。前後にアルミ製ストラットタワーバーも装着する



内装はオリジナルのまま。運転席にはエアバッグを装備と、流行の安全装備を備えている。サスペンションはオリジナルをキープ。縦置きされた4気筒エンジンがもたらすハンドリングバランスが、このクルマのいちばんのウリだ

ストリートに進出するF1ビジネス

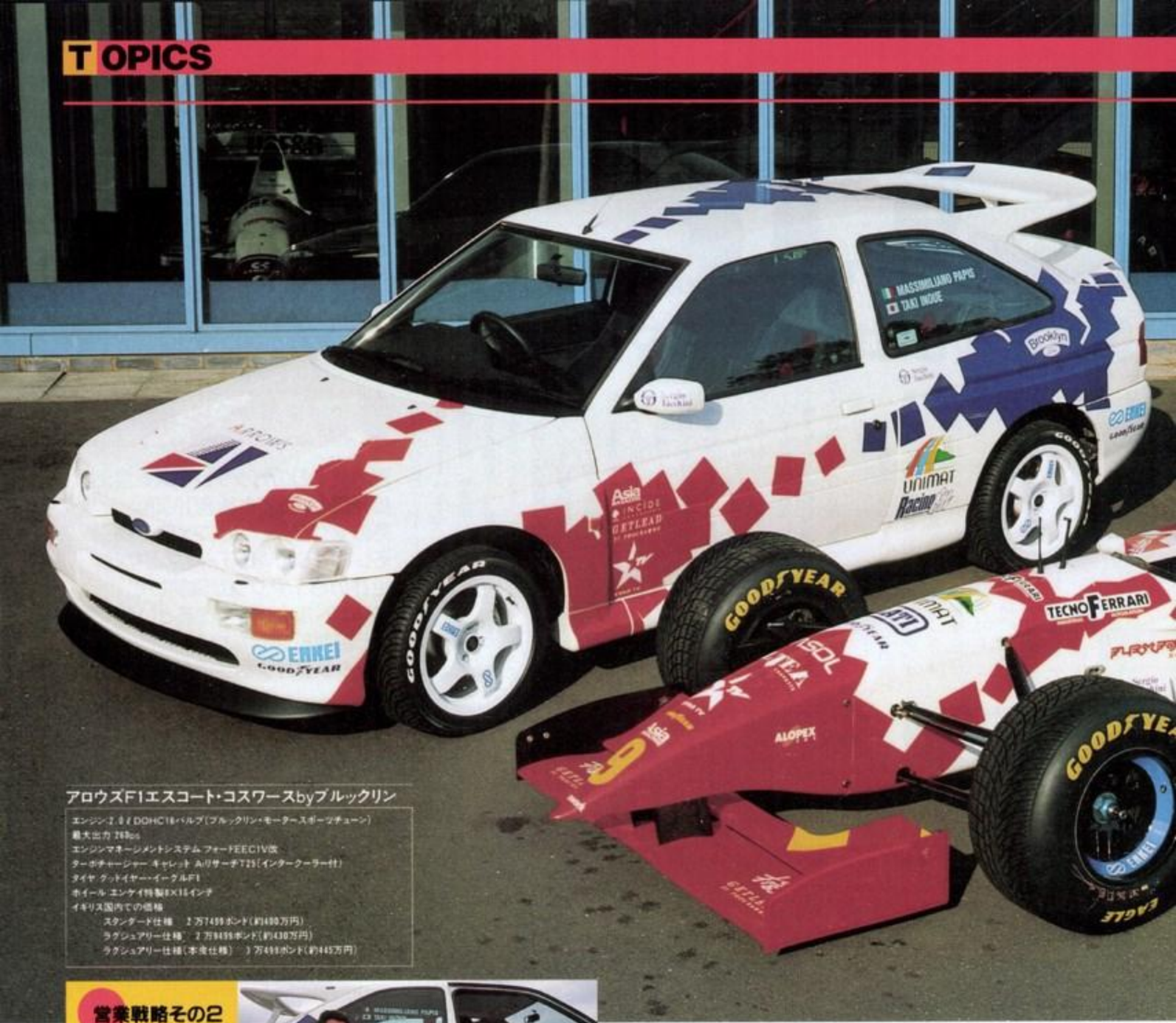
アロウズ・チューンのエスコート・コスワース イギリスでいよいよ発売開始、日本でも手に入ります！

同じカラーリングに塗られたF1マシンとフォード・エスコート。上の写真を見て、あなたはどこに目を止めただろうか？ アロウズFA16のサイドポンツーンにあるユニマットのロゴマークか、それともエスコートのフロントボンネットに誇らしげに施されたアロウズのマークか。はたまた、そのボディサイドに貼られた、レーシングオンのロゴマークだろうか？ あるいは通な読者なら、後ろのショールームの中にチラッと見える、89年型のA11に気づいたかもしれない。

ともあれ、話題の中心はド派手なカラーを身にまとったフォード・エスコートRSコスワース。7月12日、イギリスにあるフォードのファクトリーで発表されたこのクルマ、アロウズがフォードチューンで有名なブルックリンと共にベースのエスコートに手を入れて、ストリート用に売り出したものだ。その名も、「アロウズF1エスコート・コスワース」。チューンの内容はエンジンとタイヤ&ホイールといったオーソドックスなものだが、そこはF1コンストラクター、ノーマルの227馬力から、一挙に260馬力に引き上げられ、大幅なボテンシャルアップが図られている。

これをサイドビジネスと呼ぶべきかどうかはともかくとして、まあ、F1の名を冠した市販車ということで、話題性は高い。だいいちカラーリングからして、F1マシンと同じ仕様でデリバリーされるんだから、街中で注目を集めるのは間違いないだろう。レーシングオンのロゴにしても、「日本のマーケットを意識して、レース雑誌のロゴを入れましょう」とアロウズから編集部に売り込んでくれたぐらいだから、このニュービジネス（？）に賭けるチームの意気込みが伝わってくるってものだ。

発表会には井上隆智穂とマッシミリアーノ・バビスのふたりのF1ドライバーも登場。プレスを助手席に乗せての同乗走行も披露と、ここでも徹底したサービスぶり。もっとも、F1のシートが決まったばかりのバビスは、何を聞かれても「グランプリ



アロウズF1エスコート・コスワースbyブルックリン

エンジン：2.0ℓ DOHC16バルブ（ブルックリン・モータースポーツチューン）
最大出力 260ps
エンジンマネージメントシステム フォードEEC IV改
ターボチャージャー キャレット Aリサーチ T25（インタークーラー付）
タイヤ グッドイヤー・イーグルF1
ホイール エンケイ特製8×15インチ
イギリス国内での価格
スタンダード仕様　2万7499ポンド（約480万円）
ラグジュアリー仕様　2万8499ポンド（約430万円）
ラクシュアリー仕様（本皮仕様）　3万499ポンド（約445万円）

営業戦略その2

レーシングオンのロゴもサービス！

で、突然レーシングオンのロゴマークがマシンの横に。別にレーシングオンがアロウズのスポンサーになったわけじゃありません。アロウズが「レース雑誌にサービスしますよ」と、自ら貼ってくれたわけ。感謝！



営業戦略その1

F1ドライバーが同乗走行サービス

発表会でイチバン話題を集めたのがこれ！ F1ドライバーの助乗走行なんてめったにない。それにしてもバビスはよっぽど嬉しかったのか、自慢上げてのスピンターン連続の大はしゃぎ。そんな運転でも足まわりはへこたれません！ クルマはしっかり！ でした



に出られてうれしい！」の一点張り。それでもサイドブレーキを引いてスピンターンするわ、パイロンは踏むわの大サービスだった。もちろん井上も、こちらは性格もあってか手堅くタイム重視のドライブ。「クルマの仕上がりはとってもいいですね。でも、こんなクルマをロンドンで乗ってたら、一晩で盗まれちゃうかも」と、クルマをベタ褒め状態だった。

F1の名前を冠した市販車としては、ルノー・クリオ・ウイリアムズなどがポピュラーだけど、こっちは純然たるルノーのラインナップのひとつ。このアロウズは、どちらかというと、ノーマルのエスコートをアロウズがチューンして売り出したというのがウリだ。

このアロウズF1エスコート・コスワース、近々日本にも輸入される予定（取り扱いはストリートライフとオートスポーツイワセ）。果たして、F1コンストラクターにとって、ストリートチューンはオイシイ"商売"となるだろうか？



営業戦略その3

うれしいオマケ!? スケールモデル付

別に欲したことないって言えばそれまでなんだけど、やっぱりオーナーになったらうれしいスケールカー付。シリアルナンバーも付く限定生産車だけに、これもれっきとしたコレクターズアイテム。将来価値が出るかも？

日本での問い合わせ先

㈱ストリートライフ
〒213 神奈川県川崎市高津区末長1361-1 TEL:044-812-7770/FAX:044-812-7755
オートスポーツイワセ
〒123 東京都足立区鹿浜3-7-3 TEL:03-3857-1826/FAX:03-3856-7624
※オートスポーツイワセでの価格は布貼りシートのラグジュアリー仕様で498万円

に行こう!

レーシングオン読者
100組200名
観戦券プレゼント
このほか専用ブース開設など
特別企画もぞくぞく

絶対見逃せない、話題のマシンが勢ぞろい!

PART 2

夏の終わりのビッグレースと言えば
誰が何といっても鈴鹿1000km
あのマクラーレンやフェラーリ
そしてNSXやGT-Rなどなど
世界のGTマシンが集結して
熱いバトルを繰り広げるというのだから
もう絶対見逃せない!
レーシングオンも全面的に応援するぞ

というわけで、レーシングオンはこの夏の鈴鹿1000kmを大プッシュする。その理由は単純明解。今回のレースはマシンバラエティと言う部分で超必見のレースになること間違いなしだからだ。その中心は今年のル・マン24時間で大活躍したGTマシン。そして、もちろんその筆頭はマクラーレンF1 GTRだ。セミ耐久のBPR GTシリーズで圧倒的な強さを見せただけではなく、デビューしたてのル・マン24時間でさえあっけないくらいの速さで優勝を奪い取ったポテンシャルが鈴鹿でどう生かされるのかが何といっても興味深い。また、これ以外にも速さに注目のフェラーリF40や信頼性のポルシェ、それにジャガーやベンチュリなど、日本ではこのレースでしか見られないマシンが大挙してやって来るというのだから、それらが走る姿を見るだけでも十分に楽しめてしまうというわけなのだよ。

また、前号でもお伝えしたとおり、この鈴鹿1000kmの開催にあたって、レーシングオンではさまざまな特別企画を用意。サーキット観戦券プレゼントをはじめ、開催日にはレーシングオン・ブースを開設したりと、このレースを盛り上げようってことで、いろいろと準備中なのだ。詳しくは左ページを参照して欲しいのだけれど、とにかく鈴鹿サーキットへ来れば、楽しいことがいっぱい。ぜひ、今度の鈴鹿1000kmはサーキットで観戦しよう!

観戦チケットはここで手に入れよう!

まだチケットを手に入れていない人はそろそろ急いだ方がいい。というのも、このレースを観戦するなら、絶対に前売り券がお得だからだ。さらに指定席券を入手するなら、早い方がいい席を確保できるというのは常識だし、いずれにしても早めに手を打っておくに越したことはないのだ。右の表をじっくり読んで、作戦を練ってみてほしい。もちろん、レーシングオンの観戦券プレゼントにも応募してね。

チケットの販売場所一覧

●ミリオンカード会員の方はミリオンチケットセンターにてお求めください。
名古屋052-243-6507・大阪06-231-2370・東京03-3265-7194

●チケットセゾン……名古屋052-290-0200・大阪06-232-9999・東京03-5990-9999
●チケットぴあ……名古屋052-320-9999・大阪06-363-9999・東京03-5237-9999
●丸井チケットぴあ……03-5385-9999 ●CNプレイガイド……03-5802-9999
●関西プレイガイド協会…… 06-456-2555 ●ファミリーマート(指定店) ●mio.ストップ
●am/pm(指定店) ●スーパーダイエー(OMC指定店)
●一部4輪販売店 ●全国主要プレイガイド
●ヤマト宅急便チケットセンター(電話またはFAXでお申込までチケットが届きます)
TEL 052-303-1813 FAX 052-303-6203 ※チケット代金の他、送料が必要です。
●旅行代理店(JTB、近畿日本ツーリスト、東急観光、日本旅行、名鉄観光)
●三重県東京事務所(鉄道会館9F)
●鈴鹿サーキット各営業所 ●鈴鹿サーキットチケットセンター

レースチケットについてのお問い合わせは
鈴鹿サーキットチケットセンター
☎0593-78-1111代

観戦料金

券種	大人	女性	中高生	3歳～小学生
前売り(2日間通し券)観戦券	5,000円	3,200円	1,600円	前売料金設定なし 遊園地料金
決勝日当日売り観戦券	6,000円	4,000円	2,000円	遊園地料金
予選日当日売り観戦券	3,000円	2,000円	遊園地料金	遊園地料金

＊遊園地料金は子供(3歳～小学生)800円、大人(中学生以上)1500円
＊予選日(土)の中・高校生は遊園地料金で観戦可能

指定席料金

券種	大人・子供(3歳以上)同一料金
S1席(グランドスタンド中央)	4,000円
S2席(グランドスタンド第1コーナー寄り)	2,000円
Aエリア(グランドスタンド最終コーナー寄り)	1,500円
Eエリア(第2コーナースタンド)	2,000円

＊指定席券には別途観戦券が必要
＊指定席券A・E席はエリア指定となり、座席指定はなし

有力マシン10車種をここで紹介しよう
このマシンを見逃すな!

長い歴史を持つ鈴鹿1000kmは日本で開催される数少ない国際格式のレースということもあって、毎年数多くのエントリーを集めるというのが特徴だ。今回のレースのポイントは、やはり有力GTマシンがヨーロッパから大挙してやって来ることだろう。注目のマクラーレンF1 GTRはなんと6台、フェラーリもF40をはじめとする精鋭マシンが顔をそろえているし、ポルシェに至ってはGT1とGT2を合わせると20台近くのエントリーを集めている。これにジャガーやベンチュリ、さらに日本初登場のブガッティまでが加わるというのだから、顔ぶれという点では申し分なしだ。もちろん、それを迎え撃つNSXやGT-R、そしてMC8Rといった日本車勢の存在も見逃せない。ル・マンの再現か、ひょっとしたらそれ以上の豊富なマシンバラエティがこの鈴鹿1000kmの大きな見どころなのだ。

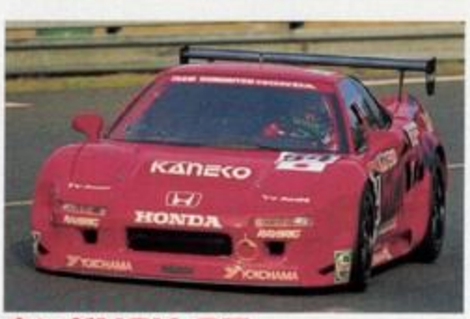
＊最新のエントリーリストはP23に掲載。



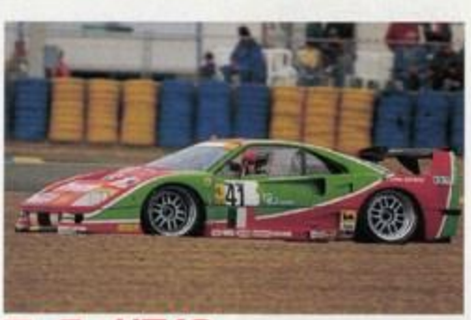
ポルシェRSR GT1
ポルシェ911GT2をベースに発展させたマシンで、現段階での最強のポルシェ。ル・マンではアクシデントなどで早々に姿を消してしまったが、今回は本来の実力を発揮する可能性は高い



マクラーレンF1 GTR
95ル・マン24時間で初参戦初優勝を遂げたマシン。BPR GTシリーズでも8戦6勝と圧倒的強さを誇るF1 GTRがついに日本初登場。太く、そしてカン高いエキゾーストノートは必聴



ホンダNSX GT
ル・マン24時間GT2クラス優勝、十勝24時間1-2フィニッシュと信頼性もアップ。チーム国光、中嶋企画、鈴鹿フレッシュマンGTに参戦する計3台の他、ターボのGT1車登場の可能性も



フェラーリF40
ル・マン24時間GT1クラスのポールポジションを獲得し、一発の速さは折り紙付き。昨年の鈴鹿500kmでは総合優勝、1000kmでもクラスポール。BPR第8戦では優勝もしており要チェック

2号連続大プッシュ企画

鈴鹿1000km

ポッカインターナショナル1000kmレース 8/26〜27

レーシングオン特別企画その1

レーシングオン読者100組200名をご招待!

愛読感謝の大プレゼント! 注目のこのレースにレーシングオン読者を特別招待します

注目のレースだから、たくさんの人に見てほしい。ということで、レーシングオンはチケット大プレゼントを企画。希望者はページ下の応募券（希望する券の種類ごとに分かれているので注意! ハガキ1枚につき1種類のみ有効です）を官製ハガキに貼り、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、一番見たいマシン1台を明記の上、以下のあて先までお送りください。ただし、パドックパス割引券については往復ハガキによる応募のみ受け付けますので注意してください（返信面に自分の郵便番号、住所、氏名を明記、裏は白紙のまま）。この企画は2号連続で行いますが、応募はひとり1号1回（3枚を別々に送るのは可）までとします。

●あて先＝〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7㈱ニューズ出版 レーシングオン編集部「鈴鹿1000kmプレゼント」係

●締め切り＝8月10日必着

1 100組200名に 観戦券（2日間通し券）プレゼント

当選者には観戦券（2日間通し券）を2枚お送りします。ペアでレースを楽しんでください。ただし指定券は自分で買ってね

2 10組20名に パドックパス（2日間有効・入場券付き）プレゼント

当選者には2日間有効のパドックパスを2枚お送りします。このパスでレーシングオン・ブースへ自由に入場できます

3 30組60名に パドックパス割引券（入場券込み・定価2万1000円→特別価格1万2000円）プレゼント

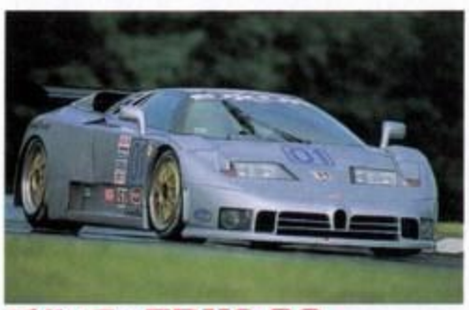
指定チケット売り場でパドックパスを2枚まで購入できる、編集部発行の割引券（往復ハガキを使用）を送付します

レーシングオン特別企画その2

レーシングオン・ブース開設!

決勝日、ピット上のホスピタリティ・ブースのひとつを専用ブースとして読者に開放します

現在急ピッチで準備中なのが、ピット上のホスピタリティブースのひとつを使って開設するレーシングオン・ブース。読者のみんなにこのレースを十分楽しんでもらっちゃおうということで、ドリンクのサービス、リザルトや途中経過の掲示などといった各種サービスを行うとともに、ドライバーの即席インタビューや編集長のトークショー（?）など、さまざまな企画を現在検討中。パドックパスを持っている人なら誰でも自由に入れるスペースにするつもりなので、お気軽にどうぞ。



ブガッティEB110 SC

94年のル・マンを走行したものではなく、今年6月にIMSA GTSにデビューしたマシン。独特のスタイリングとV12サウンドは要チェック。IMSAではパトリック・タンベイがドライブ



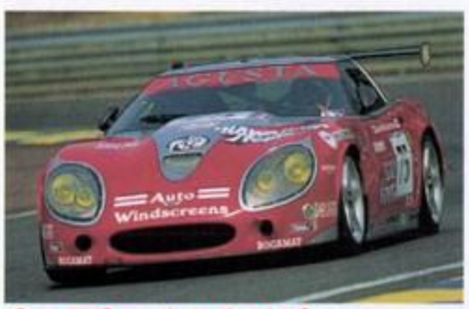
ニスモGT-R LM

JGTCで最も人気のあるマシンのひとつ。ル・マンでは一時5位を走行してみせた23号車をベースに22号車のカラーで臨む。ナイトランでは青白く光るヘッドライトで判別しやすいだろう



サードMC8R

MR2をベースにセルシオ用V8エンジンを搭載したサードオリジナルのマシンで、今年のル・マンでデビューした。ウイークポイントのクラッチも対策済み。独特のエキゾーストノートは必聴



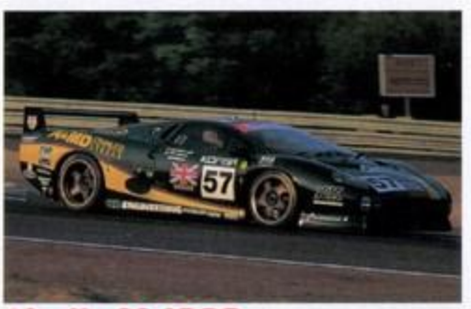
キャラウェイ・コルベット

ワークスからの参加ではないが、イギリスのアグスタからのエントリー。大排気量（6243cc）で速さではNSXを上まわる。昨年の1000kmでも総合4位という成績を収めており、ダークホースか



マツダDG3

クッズ製のシャシーに3ローターエンジンを搭載したWSCマシン。甲高いロータリーサウンドが1年ぶりに鈴鹿にこだまする。ドライコンディションであれば、マクラーレンにも対抗できそう



ジャガーXJ220

PCオートモーティブ、チェンバーレンとふたつのチームから独自にモディファイを受けた2台が出場する。独特なエクステリア、微妙なスタイリングの違いをチェックするのも楽しいだろう

R'on 198 1観戦券 | R'on 198 2パドックパス | R'on 198 3パドックパス割引券（応募は往復ハガキで） ◀プレゼント応募券

JTCC

美祢スーパーツーリングカーレース

●全日本ツーリングカー選手権第9戦&第10戦●7月23日(予選22日)
●主催:MINEサーキット、VICIC、あつモータースポーツクラブ●曇り時々雨●観客:2万8600人

鈴鹿で見えた勢力分布異変の流れは、この美祢でも止まることがなかった
オペル、ニッサン、トヨタ、BMWがセカンドロウまでを分けたのだ
さらに台風による変わりやすい天候が波乱を呼び
フェリオとサニーのトップ争いというこれまでにない状況を生んだ
それも若手ふたりのまれにみる好バトルは最終ラップまでもつれ込んだのである

Photos/Hiroharu Sato,Graffiti

RACE REPORT

MINEサーキット
全長:3.2397km



1. 第1コーナー
2. 第2コーナー
3. 第3コーナー
4. 第1ヘアピン
5. 第2ヘアピン
6. シケイン
7. 最終コーナー

服部との死闘の末に勝ち取った栄冠
サニー+飯田が初優勝

レイド、星野が1列目に、2列目は光貞、ソーパーと、今季これまでのグリッドとは大きく顔ぶれが変わった。しかしスタート直前に降り出した雨を見てのタイヤ選択が、明暗を分けた

1列目はオペルとニッサン！

今シーズン序盤のエクシヴの勢いが、前回の鈴鹿でストップ。エクシヴ勢はひとりも表彰台に上がれなかった。だが美祢からは、再びエクシヴが力を発揮するだろうとパドックではささやかれていた。しかし事はそう単純ではなかった。

予選が終わってみれば、ポールポジションはオペル・ベクトラのアンソニー・レイドが獲得。予選2位にはニッサン・プリメーラの星野一義がつける。予選3位にエクシヴの光貞秀俊が入り、4位にはBMW318iのスティーブ・ソーパーという順位だ。エクシヴのライバルたちは着実にその力をつけ、その差が急速に縮まってきた。

そして、シリーズポイント争いが接近し、「去年の状況に似た展開になった」と関谷正徳が言うように、エクシヴの関谷、トム・クリステンセンに、BMWのソーパー、ベクトラのレイドらがポイントを伸ばし、タイトル争いの行方を分からなくしている。

中型で強い勢力を持つ台風3号の九州接近により、山口県はその影響を受けた。朝方に降った雨は止み、上空には晴れ間さえ見えた1回目の予選が土曜日の勝負所となった。午後には再び雨が降ることが予想されたからだ。予選が開始となって間もなく、タイムアタックに入ったのはレイドのオペル・ベクトラだった。タイトなカーブの連続する美祢のコースで、コーナリング中にアクセルを開けている時間がもっとも長いのがベクトラだったのである。ベクトラの足回りの良さが光った。コーナーでいち早くアクセルが踏める。だからコーナー出口の脱出速度も速い。それが目で見て分かるほどなのだから、かなり速いということになる。

レイドは、「金曜日の練習走行からトップタイムが出せるほどクルマは調子が良い。ただ、星野も良いタイムを出しており、エキサイティングな予選だったよ」と語る。また、ミシュランタイヤはコースにタイヤカスなどがなく条件がいい時に良い成果を残すとも話し、予選開始間もなくにタイムアタックを済ませた作戦も成功したといえるだろう。

レイドに迫るコーナリング速度をみせたのが星野のプリメーラだった。明らかに他のマシンよりコーナー脱出速度が速い。これも目で見て分かった。ただ、ベクトラに比べるといまひとつ迫力に欠けた。それが、予選での0・07秒の差であったのだろう。

「ホシノレーシングと東名エンジンが一丸となり皆で頑張った成果」と星野は言う。足回りの良さはコーナリング姿勢でも分かるが、鈴鹿でベクトラをストレートで簡単にかわして行ったあのエンジンパワーの威力も相当なものだ。東名エンジンの今井社長は、「SR型エンジンはなかなか素性がいい。それで、試したことが着実に成果となって積み上がってきている」と言うのだ。

星野に0・01秒差で予選3位となった光貞秀俊は、「ポールポジションを狙っていた」と言う。予選開始前の光貞は、いつになく引き締まって見えた。だから私は声を掛けるのを控えた。「今年は、ポーッとリラックスした中で集中力を高めていくことに努めている。それから、クルマもタイヤも、ちょうどおいしい所というのが見えてきた。金曜日の練習では3回もコースを飛び出したけど、限界が分かったことで今日の予選は思い切り走ることができた」と光貞は、納得の行く走りができたという落ち着いた表情で話した。

BMWは、今回からFIAの車両重量変更を受け、FR車の最低重量が25kg軽減されることになったため、シュニッツァーチームはマシンの改善やドライバーの開眼などによって、予選上位の顔ぶれに変化が起きている。そして2回目の予選は、予想どおりの雨となり、しかも途中から豪雨となって時間終了前に中止となった。

決勝の日曜日は、台風の影響でますます不安定な天候となった。雨が降ったかと思うと、晴れ間さえのぞくという変わりようだ。朝の雨が上がり、決勝レース前に路面はドライコ月曜日からサーキット入りしてその作業を行った。しかし、日本でできる作業には限界があり、8割程度の軽量化に止まっている。ただ、このレースウイークにセッティングはずいぶん仕上がったようだ。ソーパーは、「自分のちょっとしたミスで予選4位という結果に終わってしまった。もう少し良いタイムを出せただろう。決勝は、ドライなら表彰台に上がれるはずだ」と話す。



飯田はフロント／カットスリック、リヤ／レインの選択を見事に当てた





小雨が降る難しいコンディションの下、第2レースを制したのはレイド

ンディションとなっていた。雨は峠を越したかに思われたその矢先、第1レースのスタート間際になって雨が降り出す。コースインの時間となってからの雨に各チームとも慌ただしくタイヤ選択に翻弄させられた。わずかな時間での判断が、そのまま勝敗の行方を左右する。というのも、規定によってコースインし、グリッドに着いたマシンはタイヤ交換をすることができないからだ。だから濡れたコースを走り、レインタイヤが適当かスリックのままで行けるのかが分かったとしても、装着したタイヤそのままでレースに臨まなければならないのである。

予選上位のマシンはほとんどがスリックを選択していた。一方、後方のグリッドに位置するドライバーはレインを選択した。たとえばホンダ勢の中で最速タイムをマークした予選10位の服部尚貴は「ドライではどのみち勝負権はないので、雨が降るほうに期待して最初からレインセットに賭けた」と言う。

タイヤ選択ミスに泣く予選上位

フォーメイションラップから、BMWのヨアヒム・ビンケルホックがピットに飛び込む。スリックでは無理と判断、ピットスタートになってもレインタイヤで戦う決断をしたのだ。

シグナルが青に変わり一斉にスタートが切られる。予選2位の星野が良いスタートを見せた。だがスリックタイヤではもはや苦しいコースコンディションとなっており、上位で唯一レインタイヤを選択した光貞がトップに立つ。そしてレインタイヤに賭けた服部が2番手。さらに、予選はエンジン不調で12位に甘んじていたトム・クリステンセンのエクシヴが光貞と同じくレインを装着しており、3番手に上がる。予選で上位を確保したスリックタイヤ勢は完全に勝負権を失った。それでもソーパーは、「雨が止む可能性もあると考えた」ということで、当分はスリックタイヤで頑張ることを決意していた。

序盤は光貞と服部の攻防に焦点が集まる。クリステンセンはこのふたりからやや離れた位置にいる。コーナーでは服部のシビックフェリオが間合いを詰めるが、ストレートではエクシヴの光貞が速い。ぎりぎりのブレーキングに勝負を賭けた服部が、第2ヘアピンで光貞のインへ飛び込んだ。ここで2台は接触する。服部は半車身入り込んだが、ここでクリッピングポイントを目指す光貞と接触することになった。服部にしてみれば、ここぐらいしか勝負できるところがなかったのだろう。一方、光貞はやはりコーナリングが苦しそうだった。ターンインでのインの抑えが甘かった上に、服部の生き残るスペースは足りなかった。それが私の見方だ。

結局、光貞はスピンをしてストップ。レースに復帰した時には6番手となっていた。この2台の接触によってトップを得たのがクリステンセンだった。2番手が服部だが、ここに、フロント/カットスリック、リヤ/レインというタイヤ選択がピタリと路面に合って追い上げてきたのがサニーの飯田章だった。飯田は服部の背後に迫るとストレートでは前に出るのだが、まだ濡れた路面にブレーキングではレインタイヤの服部が勝っており、1コーナーで服部が2番手をキープする。その攻防を続けながら、服部はクリステンセンの意表を突いて最終コーナーの入り口で仕掛け、前へ出た。続いて飯田もクリステンセンをかわす。「強いアンダーステアに悩まされた」と言うクリステンセンのスキを服部は見事に突いたのだ。

トップに立った服部と2番手飯田の攻防はなおも続いた。ストレートで速い飯田は、コントロールラインでは服部の前に出ている。たとえコースのほとんどでトップを走るとしても、このままでは服部に優勝の目はない。最終ラップ、服部は「予選のタイムアタックのつもりで1コーナーでブレーキングした」という勝負に出て、オーバースピードとなったところを飯田が抜いていった。この1周をしっかり走り切り、飯田が優勝する。飯田もサニーもJTCC初優勝だ。

ジャッジの難しい接触

全車スリックタイヤでコースインした第2レースは、第1レースの勝者飯田が先頭に立って始まる。続いてクリステンセンだ。ややおいて第1レース9位のソーパーが好スタートで3番手につけていた。そして、順位の入れ替えが早速やってくる。第1ヘアピンのブレーキングで仕掛けたクリステンセンと飯田が接触するのだ。これでソーパーがトップに立ち、クリステンセンは2位でレースを続行するが、飯田のサニーはコーナーで横を向いてストップした。飯田は「レース序盤のここではまだ勝負をしてこないと思った」と言



接触もあったものの、美祢では各所で好バトルが演じられた



1～2コーナーで続いたこのふたりの攻防だったが接触で決着を見たのは残念だ

ポールの意地。27番手からはい上がったレイド

第1レース、スリック選択が間違いだと悟ったレイドは3周目にピットイン。タイヤ交換を終えた時には27番手まで順位を落としていた。しかしここから8位でフィニッシュ





ストレートスピードに勝る飯田を、1コーナーのブレーキングを限界まで遅らせてしのぐ服部。ふたりは最終ラップが勝負と覚悟した

い、クリステンセンは「飯田がインへ走行ラインを取って接触した」と言う。そしてお互いのミスは50対50だと言うのである。

こういう接触のジャッジは常に難しい。だが、第1レースで4位を争う黒澤琢弥と中谷明彦が見せたバトルは素晴らしかった。インへ仕掛ける中谷、これに黒澤は相手の生きるスペースを確実に確保する走行ラインを走った。結局中谷が前に出るのだが、こういう競り合いにはもっと賞賛が集まっていいはずだ。後で相手に謝りに行けば表彰台へ上った方が勝ちという今の状況では、本物のバトルを見せるドライバーの立つ瀬がない。

いずれにしても、第2レースの行方はソーパー、クリステンセン、そして第1レース8位から追い上げてきたレイドの上位争いへと展開して行く。レース中盤に入って、クリステンセンは1コーナーでソーパーをパス。続いてレイドもソーパーの前に出る。小雨が降り出してからソーパーのスピードは鈍っていた。クリステンセンとレイドの攻防は、第1ヘアピンでの2台の接触によってまたも順位を入れ替えた。コーナーの立ち上がりでクリステンセンの背後にぴたりと着いたレイドが接触し、クリステンセンがスピンをするのだが、レイドが説明するところによれば、接触のないように走行ラインを守ったがクリステンセンが走行ラインを寄せたことで接触することになったようだ。それほど不可解なスピンの仕方をクリステンセンはした。

第2レースの勝者はレイドということになり、スピンで遅れたクリステンセンは4位。2位はソーパーで3位に22番手から追い上げた関谷が入った。

レース後は、6人ものドライバーに訓戒や罰金が課せられた。随所に語り継がれてもいいプロならではの勝負があったにもかかわらず、相変わらず後味の悪さを残したレースでもあった。

（御堀直嗣）

RESULT/JTCC Round9

●3.23898km×31周＝100.40838km　予選出走31台・決勝出走31台・完走26台

								ベストラップ	予選順位／1回目・2回目
1	⑪飯田　章	ザナヴィ・サニー	ニッサン・サニー	MI	31周	54'36"568		1'44"049	11／1'32"924 ◁ 1'47"077
2	⑭服部　尚貴	ジャックス　シビック	ホンダ・シビックフェリオ	BS	31周	54'38"628		1'43"706	10／1'32"913 ◁ ———
3	㉚T.クリステンセン	デンソーEXIV	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	31周	54'42"397		1'43"828	12／1'32"978 ◁ 1'50"196
4	㉖中谷　明彦	オートテックBMW318i	BMW318i	BS	31周	55'11"158		1'44"599	18／1'33"977 ◁ 1'49"999
5	⑱黒澤　琢弥	PIAA CIVIC VTEC	ホンダ・シビックフェリオ	BS	31周	55'15"436		1'44"913	17／1'33"696 ◁ 7'55"923
6	㉙光貞　秀俊	デンソーEXIV	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	31周	55'16"457		1'44"739	3／1'32"190 ◁ 1'53"906
7	⑯中子　修	Castrol 無限 CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	BS	31周	55'21"651		1'44"582	14／1'33"292 ◁ 1'46"721
8	㉕A.レイド	HKS オペル　ベクトラ	オペル・ベクトラ	MI	31周	55'31"963		1'43"623	1／1'32"018 ◁ 1'48"647
9	㉘S.ソーパー	BMW318i	BMW318i	YO	31周	55'53"121		1'46"032	4／1'32"232 ◁ 3'24"920
10	⑧見崎　清志	FET SPORTS COROLLA	トヨタ・カローラ	MI	31周	55'55"512		1'45"796	21／1'34"365 ◁ 1'50"562
11	㉗J.ビンケルホック	BMW318i	BMW318i	YO	31周	55'56"289		1'46"019	8／1'32"770 ◁ 1'51"328
12	⑥寺田陽次朗	カストロール・ランティス	マツダ・ランティス	MI	31周	56'01"437		1'46"516	26／1'35"387 ◁ 1'49"788
13	③長谷見昌弘	ユニシアジェックスプリメーラ	ニッサン・プリメーラ	BS	31周	56'08"154		1'46"580	19／1'34"022 ◁ ———
14	⑱星野　一義	カルソニック　プリメーラ	ニッサン・プリメーラ	BS	31周	56'08"447		1'44"141	2／1'32"089 ◁ 1'48"512
15	㉙金石　勝智	ウエッズスポーツエクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	YO	31周	56'11"148		1'45"708	23／1'34"516 ◁ ———
16	⑮浅野　武夫	FINEBOYSウェッズスポーツ	BMW318i	BS	31周	56'22"232		1'46"990	30／1'37"764 ◁ 1'52"749
17	㉒M.クルム	エッソトーネン　トヨタエクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	30周	54'50"480		1'44"824	5／1'32"393 ◁ 1'49"181
18	㉔J.ベル	HKS オペルベクトラ	オペル・ベクトラ	MI	30周	55'18"632		1'45"094	13／1'33"236 ◁ 2'04"324
19	⑱木下みつひろ	エンドレス　アドバン BMW	BMW318i	MI	30周	55'31"845		1'46"708	9／1'32"840 ◁ ———
20	㊲小林　正吾	上野アメ横センターランティス	マツダ・ランティス	YO	30周	55'40"908		1'48"230	27／1'35"496 ◁ 1'58"070
21	㊴本山　哲	BPオイル・トランピオ・エクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	TY	30周	56'18"430		1'50"162	15／1'33"348 ◁ ———
22	①関谷　正徳	ゼント　トヨタ　エクシヴ・	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	30周	56'18"436		1'44"945	6／1'32"518 ◁ ———
23	㊱土屋　圭市	ADVAN 圭市 CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	YO	30周	56'20"330		1'48"040	22／1'34"482 ◁ 1'53"421
24※	㉑清水　和夫	GATHERS ・CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	MI	29周	56'20"943		1'46"213	25／1'35"330 ◁ 5'02"986
25	㊵岡田　秀樹	5ZIGEN CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	YO	29周	54'56"795		1'46"601	20／1'34"166 ◁ 2'27"068
26	㉜ニツ山幹雄	BP-アドバン318i	BMW318i	YO	27周	56'14"910		1'50"774	29／1'37"177 ◁ 1'50"877
※⑤	眞田　睦明	ジャラーナBPダンロップBMW	BMW318i	DL	22周			1'48"569	28／1'36"322 ◁ 1'50"838
	㊸影山　正美	STP ADVAN エクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	YO	17周	クラッチ		1'48"572	16／1'33"419 ◁ ———
※㉝	鈴木　利男	ニスモ・カストロールサニー	ニッサン・サニー	BS	16周	電気系		1'44"988	7／1'32"586 ◁ 6'00"035
	㉓茂木　和男	アドバンBMW	BMW318i	YO	13周	エンジン		1'50"342	24／1'35"161 ◁ ———
	㊴山本　将之	DoCoMo COROLLA	トヨタ・カローラ	DL	7周	電気系		1'49"953	31／1'38"317 ◁ ———

・優勝スピード：110.31km/h
・最速ラップ：アンソニー・レイド（オペル・ベクトラ）　1'43"623　112.53 km/h　7周目
※⑪は95年全日本ツーリングカー選手権統一規則第31条b）違反により2周減算された
※⑤は95年全日本ツーリングカー選手権統一規則第14条c）違反により、23周以降のタイムおよび周回を抹消、29番グリッドとされた
※㉝は95年全日本ツーリングカー選手権統一規則第36条b）違反により最後尾スタートとされた

RESULT/JTCC Round10

●3.23898km×31周＝100.40838km　決勝出走26台・完走15台

							ベストラップ
1	※㉕A.レイド	HKS オペル　ベクトラ	オペル・ベクトラ	MI	31周	49'41"370	1'33"677
2	㉘S.ソーパー	BMW318i	BMW318i	YO	31周	49'50"264	1'34"049
3	※①関谷　正徳	ゼント　トヨタ　エクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	31周	49'58"513	1'33"727
4	※㉚T.クリステンセン	デンソーEXIV	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	31周	50'01"426	1'33"533
5	㉗J.ビンケルホック	BMW318i	BMW318i	YO	31周	50'04"266	1'34"426
6	⑱木下みつひろ	エンドレス　アドバン BMW	BMW318i	YO	31周	50'32"797	1'35"242
7	※⑪飯田　章	ザナヴィ・サニー	ニッサン・サニー	MI	31周	50'34"043	1'33"838
8	⑱黒澤　琢弥	PIAA CIVIC VTEC	ホンダ・シビックフェリオ	BS	31周	50'46"477	1'35"776
9	㊱土屋　圭市	ADVAN 圭市 CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	YO	31周	50'56"201	1'36"020
10	㊵岡田　秀樹	5ZIGEN CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	YO	31周	51'12"701	1'35"060
11	㊲小林　正吾	上野アメ横センターランティス	マツダ・ランティス	YO	30周	49'45"085	1'36"546
12	⑥寺田陽次朗	カストロール・ランティス	マツダ・ランティス	MI	30周	50'01"303	1'36"919
13	㉒M.クルム	エッソトーネン　トヨタエクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	30周	50'57"768	1'33"141
14	⑮浅野　武夫	FINEBOYSウェッズスポーツ	BMW318i	BS	30周	51'17"695	1'36"654
15	③長谷見昌弘	ユニシアジェックスプリメーラ	ニッサン・プリメーラ	BS	28周	50'18"913	1'35"528
	㉔J.ベル	HKS オペルベクトラ	オペル・ベクトラ	MI	26周		1'34"367
	㉝鈴木　利男	ニスモ・カストロールサニー	ニッサン・サニー	BS	21周	電気系	1'34"047
	㉜ニツ山幹雄	BP-アドバン318i	BMW318i	YO	21周	燃料ポンプ	1'38"218
※⑱	星野　一義	カルソニック　プリメーラ	ニッサン・プリメーラ	BS	18周	コースオフ	1'33"808
	⑤眞田　睦明	ジャラーナBPダンロップBMW	BMW318i	DL	18周	アクシデント	1'37"653
※㉙	光貞　秀俊	デンソーEXIV	トヨタ・コロナ・エクシヴ	BS	12周	アクシデント	1'34"746
	㊴本山　哲	BPオイル・トランピオ・エクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	TY	12周	アクシデント	1'35"580
	㉖中谷　明彦	オートテックBMW318i	BMW318i	BS	4周	アクシデント	1'35"374
	⑭服部　尚貴	ジャックス　シビック	ホンダ・シビックフェリオ	BS	4周	アクシデント	1'36"171
	⑧見崎　清志	FET SPORTS COROLLA	トヨタ・カローラ	MI	3周	アクシデント	1'36"137
	⑯中子　修	Castrol 無限 CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	BS	3周	アクシデント	1'35"892
	㉙金石　勝智	ウエッズスポーツエクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	YO	出走せず		
	㉑清水　和夫	GATHERS ・CIVIC	ホンダ・シビックフェリオ	MI	出走せず		
	㊸影山　正美	STP ADVAN エクシヴ	トヨタ・コロナ・エクシヴ	YO	出走せず		
	㊴山本　将之	DoCoMo COROLLA	トヨタ・カローラ	DL	出走せず		
	㉓茂木　和男	アドバンBMW	BMW318i	YO	出走せず		

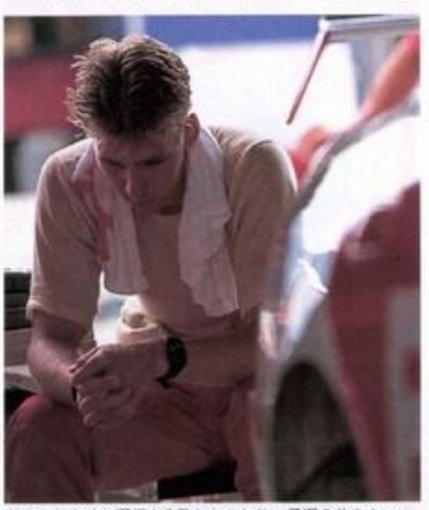
・優勝スピード：121.24km/h
・最速ラップ：ミハエル・クルム（トヨタ・コロナ・エクシヴ）　1'33"141　125.19 km/h　18周目
※国際スポーツ法典付則し項第IV章および95年全日本ツーリングカー選手権統一規則第33条違反により、
以下の罰則が課された
㉙罰金30万円および訓戒、①罰金10万円および訓戒、⑱、⑮、㉝罰金5万円および訓戒、㉜訓戒
NEXT ROUND：　第11／12戦　英国スーパーツーリングカー選手権レース　TI　8月6日

DRIVERS POINT STANDING

1 関谷　正徳	92
2 S.ソーパー	80
3 T.クリステンセン	70
4 A.レイド	66
5 光貞　秀俊	51
6 M.クルム	39
7 星野　一義	36
8 飯田　章	29
9 中子　修	27
10 中谷　明彦	26
11 木下みつひろ	24
12 服部　尚貴	19
13 J.ビンケルホック	10
14 本山　哲	9
14 影山　正美	9
14 鈴木　利男	9
14 黒澤　琢弥	9
18 L.P.フォン-パイエルン	8
19 田中　哲也	6
20 J.ベル	5
21 長谷見昌弘	4
21 見崎　清志	4
23 金石　勝智	3
24 岡田　秀樹	2
24 土屋　圭市	2
26 小林　正吾	1



飯田はトップでスタートしながら第2レースは接触で7位



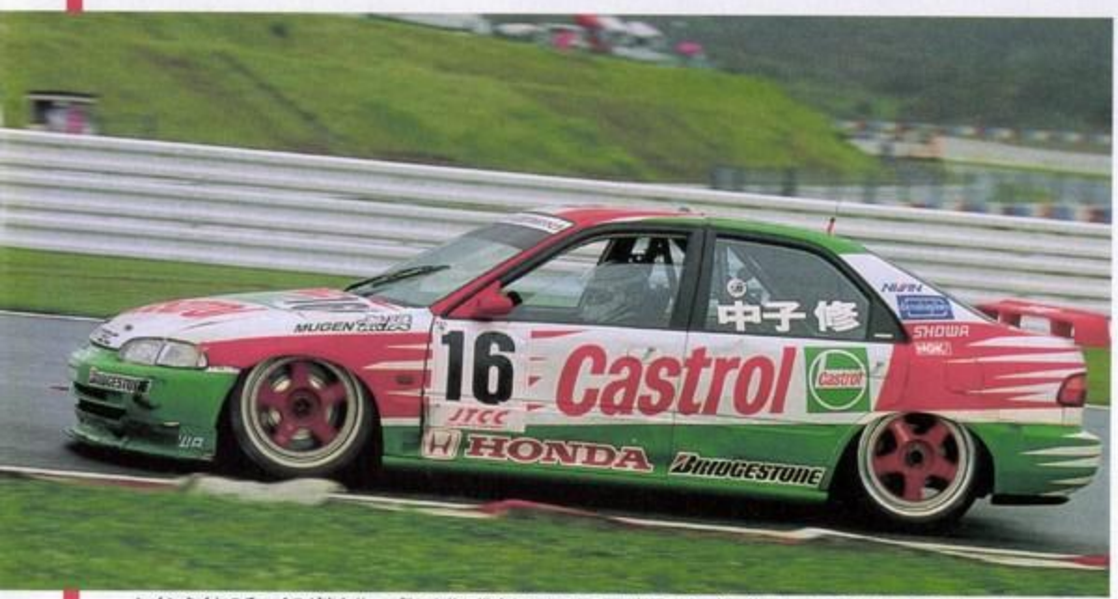
クルムもタイヤ選択を失敗したひとり。予選5位をふいに

カストロール・レーシング
全日本ツーリングカー
選手権レポート

台風の影響により朝から降り続いた雨はやみ
決勝はドライ路面でのレースとなると思われた矢先
コースイン直前に再び雨粒が落ち始めた
この天候を冷静に判断した中子と飯田はレインを選択した

"雨の中子"健在！飯田は初優勝を飾る

●全日本ツーリングカー選手権第9戦&第10戦 MINEサーキット



レインタイヤのチョイスが当たり、一気に上位に進出したカストロール無限シビック。第1レースを7位でフィニッシュした

前回の鈴鹿大会直後に行われたTIでのテストでは、雨中、トップタイムをたたき出して本来の実力を発揮したカストロール無限シビックの中子修。その余勢をかって今回はぜひ好成績を収めたいところだ。

中型で強い勢力の台風3号の接近により、今にも雨が降り出しそうな土曜日の予選1回目。中子は開始10分、1分33秒292とその時点で4番手のタイムをマークし、好調な滑り出しを見せた。しかし好事魔多し、再度のアタックを試みようとしたところ、何とスロットル・リンケージのトラブルでコース上にストップ。次々と他車にタイムを更新されて14番手に終わった。なお、予選2回目は強風を伴った雷雨のため赤旗中止となった。

台風の影響は翌日曜日も残り、午前中のフリー走行も強い雨。ここで中子は3番手のタイムを記録して決勝に望みを託した。

決勝が始まるまでに雨はやみ、ドライ路面でのレースとなると思われた矢先、ポツリポツリと雨が落ち始める。上位陣は一部を除いてほとんどがスリック、予選14番手の中子はレインを選択。ちなみに、カストロールが支援するザナヴィ・サニーの飯田章（予選11番手）は前輪にカットスリック、後輪レインという微妙なタイヤチョイスを採った。

この各車それぞれの選択が、第9戦全31周の決勝レースの明暗を分けることになる。

スタート直後、雨は徐々に強くなり、スリックを選んだ車はズルズルと後退。代わってレインを選んだ車は一気に上位に進出した。中子と飯田もそれぞれ1周目には6番手と7番手に進出し、7周目にはそれぞれ3番手と4番手に浮上。その後、雨が小降りになると中子は徐々に後退するが何とか7位に踏みとどまってチェッカーを受けた。

一方の飯田は後半、服部尚貴と抜きつ抜かれつの好バトルの末に下し、JTCC初優勝を飾った。「雨がもっと強ければ」と中子。また飯田は「予選の順位が良くなかったし、試してみるつもりのタイヤチョイスがうまくいった。エンジニアのおかげです」と頬を緩ませた。

雨がやみ、全車スリックでスタートした第10戦は、飯田がポールから逃げ切るかと思われたが途中、後続に押されてスピン。26番手まで後退したが怒とうの追走で7位に浮上してチェッカーを受けた。

一方の中子は他車のスピンに巻き込まれてリタイア。しかし、少しではあるが明るい兆しが見えてきた。次のTIでも中子と飯田の活躍が期待できそうだ。


"雨の中子"は健在だ。マシンは徐々に本来の性能を発揮しつつあり、今後に期待

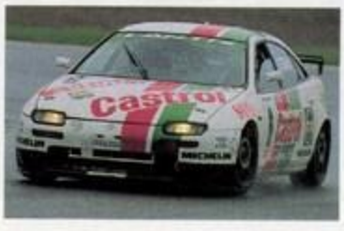


微妙なタイヤ選択が功を奏し、飯田は予選11位からトップに立った

Castrol Racing

RESULT

	予選	第9戦	第10戦
中子 修	14位	7位	リタイア
寺田陽次朗	26位	12位	12位
長谷見昌弘	19位	13位	15位
土屋 圭市	22位	23位	9位
飯田 章	11位	1位	7位



今回、寺田陽次朗の乗るカストロール・ランティスには19インチのタイヤが装着された。第9戦は微妙な天候の中でレインタイヤを選択。これが当たり、わずか1周で26番手から一気に17番手まで浮上した。さらに一時は10番手で安定した走行を見せていたが、路面が乾きだすとアンダーステアが強くなり後退。それでも12位となった。第10戦は他車との接触で直線でも直進しない苦しい状態だったが、健闘し再び12位でチェッカーを受けた



鈴鹿大会では強いアンダーステアに手を焼いて、苦戦を強いられたカストロール・サニーの鈴木利男。この美祢大会では予選7番手を獲得して復調ぶりを見せた。ところが微妙な天候の中で選んだスリックというタイヤチョイスが外れた上に、点火系トラブルがレース中に発生したためリタイア。第10戦は最後尾スタートながら、一時は6番手にまで進出する快進撃を見せたが、エンジンのバラつきが再発したため再びリタイアとなった

AUTO TECH 中谷明彦のJTCCインサイドレポート

久々の楽しいレースは4位に 勝つまではトコトンやる

今回は美祢のレース後の、福井監督とボクとのやり取りから
打倒ワークスに燃える我々の意気込みをちょっと聞いてもらおう



決勝前にセッティングを協議。これがバッチリ決まった



予選は車両重量規定変更に合わせた軽量化がかえってマシンのバランスを崩し、18位と低迷したが、第1レースは4位まで追い上げた

監督：中谷君お疲れさま。ナイスファイトだったよ。
中谷：ありがとうございました。第1レースはタイヤもバッチリ合って久しぶりに楽しいレースができたんですけど、第2レースはミツに突っ込まれちゃって……。
監督：レース中に謝りに来たよ。水に乗って滑っちゃったらしいけど。
中谷：あそこが濡れているのは分かりきっているんだから、そりゃいい訳にならないですよ。でも、あちこちで接触があって荒れたレースだったみたいですよね。
監督：中谷君が止まっちゃったんでヘアピンで見てたら、イエローフラッグを無視する選手が多くてビックリしたね。中にはイエローの区間で接触してるシーンまで見た。
中谷：あの感覚でぶつられてたらクルマがボコボコになってしまってかなわないですよね。
監督：本当だよ。やはりクルマがぶつかっても経済的にダメージのないワークス系のチームが多かったね。彼らの物量はすごいからね。
中谷：エンジンにしてもそうだし、テスト時間にしてもそうですね。
監督：そうそう。彼らはエンジンがドーンといってもすぐハイドウゾ／　と新しいのが出てくる。こっちはその都度修理代が掛かるんだから。鍛金するのだって結構高くて大変なんだよ。
中谷：レース中は当てられないように逃げまわっているような状態ですからね。
監督：物量的ハンデはどうしようもないから中谷君にも迷惑かけてるけど、勝つためのノウハウは心得ているつもりだからね。次のTIはニューエンジンを投入して徹底的に行くからね。
中谷：そりゃ楽しみですね。
監督：今まではふたつのエンジンをドイツに交互に送り返してメンテナンスしてやりくりしてきたけど、3基になればかなり楽になるし。新スペックでパワーも上がっているっていうから打倒ワークスで頑張ってよ。
中谷：やりがいありますね。TIはぜひ表彰台に上がりましょう。
監督：TIはテストも順調だったし。タイヤもどんどんよくなってきているからね。F3000もツーリングカーも勝つまでトコトンやるからね。手は抜かないゾ／

AUTO TECH
夏の大特価セール開催！
8月15日(火)まで全店夜9時まで営業
オートテックでは、皆さまの日頃のご愛顧に感謝し、
半期に一度の 大セール・夏の大創業祭を開催中。
皆様のご来店をお待ちしております。


タイヤ6割引より／



オーディオ45%OFFより／


高級オイル1,980円より／



■オートテック練馬店 ☎03-3931-0211
■オートテック世田谷店 ☎03-3483-6711
■オートテック用賀店 ☎03-3707-0211
■オートテック保谷店 ☎0424-61-9611
■オートテック亀戸店 ☎03-3638-8711
■オートテック西新井店 ☎03-5691-2011
■オートテック新横浜店 ☎045-575-5811
■オートテック川崎産業道路店 ☎044-277-3311
■オートテック港南台店 ☎045-833-3981
■オートテック平塚店 ☎0463-24-0711
■オートテック横浜山下店 ☎045-622-6611
■オートテック相模原店 ☎0427-76-5111
■オートテック川崎第一京浜店 ☎044-200-8211
■オートテック横浜本郷店 ☎045-892-5611
■オートテック上尾店 ☎048-774-6363
■オートテック大宮店 ☎048-624-3211
■オートテック川越店 ☎0492-43-8911
■オートテック新座店 ☎048-478-4211
■オートテック春日部店 ☎048-763-3101
■オートテック戸田店 ☎048-422-5011
■オートテック東大宮店 ☎048-688-1311
■オートテック幕張店 ☎043-275-3411
■オートテック市原店 ☎0436-42-3511

PIAA

L'UOMO TERZO DESIGN COLLECTION/PIAA's apparel has been produced in Japan after the L'UOMO TERZO DESIGN.

レーシングの主張

あのF1パイロット中嶋悟の率いるPIAA NAKAJIMA RACING TEAMオフィシャルウォッチ新登場。大人の男の主張を求めるPIAAの繊細で華麗なレーシングウォッチ。クロノグラフとゴールドの織りなす世界は、まさにレーシングウォッチの真髄……今、PIAAから。



PDR107
¥165,000

PDP501
¥10,000

PDR118
¥68,000

PDR109
¥98,000
発売記念価格

PIAA NAKAJIMA RACING TEAM応援



東京・白金 TEL. 03-3444-8267
東京・広尾 TEL. 03-3444-1344
東京・銀座(並木通り) TEL. 03-3575-4751
兵庫・芦屋 TEL. 0797-38-3367
大阪・長堀 TEL. 06-531-3061
名古屋・四谷通り TEL. 052-781-6181
札幌・裏参道 TEL. 011-613-6617
岩手・盛岡 TEL. 0196-51-9877
長野・軽井沢 TEL. 0267-42-1433
リーガロイヤル広島 TEL. 082-211-1277
福岡・ケヤキ TEL. 092-731-8111
福岡・天神 TEL. 092-725-5839

■東京・六本木 TEL.03-3403-5561 ■横浜プランス TEL.045-751-9696 ■幕張プランス TEL.043-296-1451 ■広島プランス TEL.082-253-3033 ■徳島プランス TEL.0886-22-2352 ■北九州プランス TEL.093-622-6762 ■鈴鹿サーキット TEL.0593-78-1111 ■ロビンソン札幌 TEL.011-531-1111 ●カタログ請求:ハガキに住所・氏名(ふりがな)・年齢・TEL・ご希望のカタログ名・この広告をご覧になった雑誌名(何月号)を明記のうえ記までお送りください。 ●送り先:〒108 東京都港区白金台3-19-6 白金台ビルPIAA株式会社 TEL.03-3448-1911 ●本広告の定価は消費税抜きのものです。
●全国有名カーショップ・時計店でもお求めになれます。

PIAA CORPORATION

ちょっとコースアウト

MOTOR SPORT ESSAY

西山平夫と林信次の

カエルの唄が、聞こえてくるよ

林 信次
by SHINJI HAYASHI

「マキF1が2位ならば、いったい1位は何でしょう」Heyさん問うて、オイラ答する。

——ヒントをひとつ教えてちょうだい。

「3位はマーチの、721Xと来たもんだ」

——アッ、わかったような気がするぞ。ATSは入ってる？　63年イタリア製。

「惜しいね、それは第6位」

——それじゃ、ライフ、コンニューか。

「残念、それは外れです。答えをお教えいたしましょう。60年のスカラブさ」

——なるほど、渋い選択だ。失敗作とはいうものの、ちょいと訳ありグルマだな。

「次はドライバー・トップテン」

——ひねくれてたり、するんでしょ。選者はあらん・ヘンリーだったっけ？

「なかなか鋭い指摘だね。イギリス人の本だもの。アルゼンチンもブラジルも、ここではトップに立てません」

——それじゃ、クラークで決まりだな。

「ところがどっこい、そうじゃない。チャンピオンすらも取ってない」

——もすもす、それはモスですか？

「いかにも左様、モスでした」

——スターリング・モスが1位なら、クラーク、ファンジオ、何位でござる。

「4位と5位で並んでる。気に入らないのは2位、3位」

——プロスト、セナが居たりして。

「ピンポン、それは当たりです。順番逆で、そのふたり」

——ちょっと無理があるだろね。優劣悩んで並べたか、選者の苦慮を感じるな。で、6位以下を、羅列せよ。

「まず6位はアスカーリ。続いてはジル・ビルヌーブ。8位ジャッキー・スチュアート。10位はマリオ・アンドレッティ」

——9位が飛んだようだけど。もしやマンちゃん？　ケケかいな？

「当てちょうだい、この人を。よくは知らない、古い人。きっとこれも、イギリス人」

——コリンズ、はたまたブルックス？

「それそれ、トニー・ブルックス。いったいそれってどんな人？」

——ヴァンウォールとかフェラーリで、チャンピオン争いしたけれど、引退した時、29歳。歯医者さんが本職で、イギリス紳士だったって。あのファンジオが『後継者は？』って問われた時に、即答した名前がブルックス。

「マニアックすぎる選択じゃあ。イギリス人を呼んできて、レース通かを測るには、格好なのがブルックス」

——いかにも、そんなところだね。日本で言うなら誰だろう。

「小河等を、きみ知るや」

——当たらずとも、遠からじ。歴代国内トップテン、それの9位に彼の名が、あるが如き感じかな。

「ページをめくれば分かるけど、他にもいろいろありまして。歴代マシンのトップテン、スタイリッシュ車トップテン、革新技術トップテン、サーキットのトップテン、スキャンダルのトップテン、名勝負トップテン、大事故・珍事・エトセトラ、etc」

＊＊＊

イギリスGP開催に合わせ、出たばっかりのオートカー誌別冊号は「100のグランプリ・グレーツ」なる副題。各トップテンを編集し、雑誌サイズで100余ページ。オールカラーで5ポンド弱。独断・偏見、大いに結構。なおかつ、的は外すまじ。フムフム、ワハハと見るうちに、いつしか知識が膨らんで、あれも知りたい、これ知りたい、だんだん欲が出てきます。文字は少なめ、写真は多め。写真点数170。F1ファンにはお薦めね。

遠き昔日、ジパングにF1ブームが到来し、出された冊子は多々あるけれど、どれもこれも似たものばかり。材料生かせぬ、付け焼き刃。写真集やら、誤訳本。エフワン馬鹿本バカボンボン。

材料同じで生かすも殺すも、要はアイディア次第なり。要は料理の仕方なり。

F1料理の、奥の深さよ。味付けひとつで、傑作駄作。自戒を込めて、修業積み、いつか作らん、かく冊子。

本作りで徹夜して、朝帰りで、翻る。

さあ、甦るがいい、アイアン・シェフ！

西山〈道場六三郎〉よ、おいしゅうござった、イギリス土産。今宵はひとつ、林〈陳建一〉とともに飲み明かそうではないかいな。

いいや待て待て、私の記憶が正しければ、何を隠そう小生は酒の飲めぬ下戸だった。

明日も今日の繰り返し。本作りで徹夜して、朝帰りで、翻る。夜は蛙がゲコゲコゲコ。

レース西方見聞録

by HIROAKI MATSUMOTO
1966年6月22日生まれ、28歳。高校時代からレースにひかれ、観戦に行くようになる。大学在学中から国内のレース取材を開始。卒業後、本誌でも活躍中の西山平夫先生に師事(?)、レーシングオン編集部でアルバイトを始める。93年単身イギリスへ。好きなドライバーはシュテファン・ベロフ。

第13回

欧州F3事情最新版

ボーダーレスF3、要するに国際的なF3イベントは
ヨーロッパではその位置付けがはっきりしている
今回はこのF3をテーマに今シーズンの動きをまとめてみよう

さて、今回は久々のF3のお話だよ。

94年はヤン・マグヌッセンvsジャンカルロ・フィジケラの戦いを中心にF3のレポートをしたけれども、今年もF3を忘れちゃいないので、読者の皆さんはご安心を。

さて、今シーズンの状況を見る前に、F3を取り巻く環境を少し考えてみたい。

F1を頂点とするフォーミュラのヒエラルキーは、F1の位置こそ変わらないけど、その形態をずいぶんと変えたように思う。10年も前ならFフォード（日本ならFJ）～F3～F3000～F1というのが王道だったけど、96年はご承知のとおりまずインターナショナルF3000が大きく変わる。ローラ・シャシーを使った完全なワンメイクになる見込み。「おっきなF3になる」と今は考えてもらえばいいかもしれない。つまり96年のF3000はもっとドライバー主体のフォーミュラになっていくだろう。

それに今はいわゆる中間フォーミュラのクラスもずいぶんと増えて、フォーミュラ・ボクゾール（オペル）、フォーミュラ・ルノーなどが各国内のナショナル選手権とヨーロッパ選手権を開催している。それにドイツではフォーミュラ・ケーニッヒ、イタリアでもF2000なんてのがあるしね。日本でもフォーミュラ・ミラージュ、フォーミュラ・トヨタ、F4とカテゴリーが増えた。その中間フォーミュラで経験を積んで、F3を飛ばしていきなりF3000に上がるドライバーもいる。今年のブラジル人、マルコ・カンポスがいい例だ。必ずしもF3へ行くのが常道ではなくなってきたようだ。来年はいきなり中間フォーミュラから、新F3000に出場するドライバーも出てくるだろう。

それでは、もうF3は必要ないのか？僕の答えはノーだ。考えてみよう。数あるフォーミュラの中でも、一番レギュレーションが安定しているのがF3だし、各国内の選手権に出場しているエントラントなら、モナコ、マールボロ・マスターズ、マカオなどのボーダーレスF3イベントに出場することもできる。また、F3卒業生のミハエル・シューマッハーやミカ・ハッキネンがいきなりF1に行って通用したことを考えても、F3で勝ち残ればF1への道も開けてくる。

それに今は幸か不幸か、ダッラーラのワンメイク状態だから、シャシーの固体差によるハンデはなくなっている。つまり、コンペティションに勝ち残るという課題を、ドライバーに大きく課しているのだ。裏を返せば、それだけモナコやマカオで勝つ意味があるということだ。

これで、ボーダーレスF3イベントの持つ意味を少しはご理解いただけただろうか。それに近い将来ユーロF3選手権が復活するのではないかというわさもあるくらいだ。

95年ユーロF3の状況は？

そのボーダーレスF3の第1ラウンド。モナコF3はイタリアのジャンアントニオ・パッキオーニが勝った。彼は一昨年にもモナコで勝っていて、いわばモナコは得意中の得意だったわけだ。2位になったのはドイツのラルフ・シューマッハー。言わずと知れたミハエルの弟だが、2年目のモナコでようやく表彰台の一角に上がった。

そう考えると、昨年モナコ1年目にして勝ったフィジケラはすごかったんだなー。

ボーダーレスF3の第2ラウンド、と言いたいところなんだけど、ドニントンで行われたユーロF3チャレンジには、イギリス以外からの出場者は少なかった。ドイツからアレキサンドル・プルツ、イタリアからトーマス・ビアッジらが参戦。イギリスGPのサポートレースまで出場したが、これといった結果が残せなかった。また日本で活躍中のペドロ・デ・ラ・ローサもトムスGBから出場していた。予選から好調だったし、無事に行けば表彰台は間違いなしという感じだったけど、残念ながら他のマシンと接触してしまい、リタイアに終わっている。

昨年はこのレース、フランスから遠征したクリストフ・タンソー（現ミトスF3000）が優勝をさらってフランス勢の意地を見せたが、95年はポール・スチュワート・レーシングを始めとするイギリス勢の圧倒的勝利だった。

ボーダーレスF3レースはこの後、マールボロ・マスターズ、マカオと続く。どんな展開になるか楽しみだ。

各国のF3はどうなってる？

それでは今年のF3の各国選手権の様子はどうだろうか。



イギリスのドニントン・パークで開催されたユーロF３チャレンジ。残念ながら、外国勢（イギリス以外ね）の出場は少なかった

まずイギリスは、F３新人組とF３復帰＆２年目組に大きく分かれている。現在F３新人組の代表格、ポール・スチュワート・レーシング（PSR）のラルフ・ファーマンがポイントリーダーとなっている。ファーマンのお父さんはバンディーメンというフォーミュラ・フォードなどのコンストラクターのエライ人で、生まれた時からレースの中で生活していた。つまり、彼はレーシングドライバーになるべくしてなったわけだ。７月９日のユーロF３チャレンジではブッチギリの優勝だったが、彼はあまりにも環境が恵まれすぎているために、実力がどれほどのものか読み切れない。彼の才能が問われるのは、マカオや、F３を卒業してからになるだろう。

F３の復帰組ではオリバー・ギャビンがファーマンを追っている。ご存じの方も多いかと思うが、ギャビンは昨年インターF３０００でローラに乗って時折その速さをアピールしていたが、今シーズンは古巣のエデンブリッジに戻って、チャンピオン獲得に賭けている。

それと95年はギャルダー・サレス、ヘイロ・カストロ・ネベス、クリスティアーノ・デ・マッタなどブラジリアンで元気がいいのが目につく。ルーベンス・バリチェッロが後押しして後輩を育てているのは有名だけど、やはりアイルトン・セナ亡き後は若くて世界に通用するドライバーの育成に懸命のようだ。それにミツビシ・HKSエンジンも健闘している。イギリスGPのサポートレースでは優勝寸前（レース後失格に）までいったほどなので、近いうちに必ず１勝目を挙げることになるだろう。

ドイツに目を向けると、昨年一度紹介したノルベルト・フォンタナが開幕から４連勝でランキング独走中。それを山本勝巳君の終生のライバル、ラルフ・シューマッハーが追いかけている。チャンピオン争いはこのふたりのいずれかになるだろう。

イタリア、フランスはそれぞれ優勝者が二転三転していて、チャンピオン決定は終盤戦になるんじゃないだろうか。

ユーロF３を見ていても、今年はスター不在という感じがなきにしもあらずだけれど、それだけレース内容が充実しているということかな。

８月になると早速マールボロ・マスターズがサンドフールトで開催される。今年は直々にご招待状もいただいちゃったので、喜んで行ってこよう。でも、日本から出場するドライバーは、やっぱりいないのかな……。


イギリスF３参戦中のラルフ・ファーマンが優勝


ブッチぎりで勝った㊽ファーマン



⑤ギャバンは昨年はインターF３０００で活躍した

イギリスF3Bクラスで奮闘する横山くんの話

ここでイギリスF３Bクラスに出場中の日本人ドライバーをひとり紹介しよう。

横山崇（たかし）くんは、日本でFJやツーリングカーを経験した後、94年にイギリスに来てマーティン・ドネリー・レーシングからFボクスホールに出場し、95年からイギリスF３Bクラスにステップアップした。皆さんにはFVJに参戦中の様子を一度紹介しましたね。今年はなんとクラス優勝も既に経験しているのだ。Bクラスは現在６～８台がAクラスに混ざって出場しており、ケルビン・バートなどもF３Bクラス出身のドライバー。

イギリスGPのサポートで初めてレースを見せてもらったけど、残念ながら６周でリタイアとなってしまいました。横山くんは「来年はAクラスをやりたい」と公言しているから、96年は久々にイギリスF３に日本人ドライバーが出場することになりそうだ。現在のBクラスのポイントランキングでもチャンピオンの可能性は残されているから、ぜひ頑張っておくれ。

それはそうと、横山くんがクラス優勝した時の記事の扱いが小さかったためか、トムスGBの鮒子田実監督から直々に「もっと大きく書いてくれよ。優勝したんだから」と、ドヤされてしまった。わかりました、今度は大きく書くので、横山くんはもう１回優勝してください。ともあれ、おかげで鮒子田監督はレーシングオンの愛読者であることが判明しました。鮒子田監督、これからもご愛読よろしく。できればAクラスでも優勝してくださいね。



来年はAクラスにステップアップするというから期待したい

5th Column

Tells you a true story.

Nigel Roebuck

5thコラム——ナイジェル・ルーバック

出て来い、次代のウイナー

[More winners wanted]

F1の頂点に君臨するスタードライバーたち

誰もが永遠に続くのではないかと思っていた
アイルトン・セナとアラン・プロストのふたりによる
F1の一時代はやはり終わりを告げ
シューマッハーを軸とする新たなエポックへと突入した今
ひとりのアメリカ人によって、変化の時が近づいてきている

訳／見田 豊（Quality Translation）
Photo/Kenji Sawada

ついせんだって、93年アデレイドの表彰台シーンを切り取った写真を目にする機会があった。ウイナーと惜しくも2位になったドライバーが、お互いの肩に腕を回し仲良くフレームに収まっている、そういう写真だ。最近のF1ではめったに見かけなくなった光景だが、とりわけこの時のシーンには感慨深いものがある。そんじょそこらのドライバーではない。壇上のふたりのドライバーというのはアイルトン・セナとアラン・プロストなのだ。

それより少し前、人目につきにくいバルクフェルメでこのふたりが、ほんのつかの間短い握手を交わした場面があるにはあった。しかし、今度ばかりはそれとはわけが違う。何百台ものカメラが砲列を敷く、文字どおり衆人環視の中での、これは明らかな意志表示であった。アイルトンがアランに手を差し伸べ、同じ表彰台の一番高いところへ上がれと促す。そして、写真にあるような例の象徴的なポーズ。この時、グランプリ史上にも例がない両者間の激しい論争、長く続いた緊張関係に、ついに終止符が打たれたのである。

傍らでこれを見守る我々にとっても、実に感動迫るシーンであった。それまで、プロストの方は何度か歩み寄りの姿勢を見せ、仲直りはさすがに無理としても、せめてお互いを傷つけ合うことだけはやめにしようと持ちかけたことがあった。しかし、その度にセナから手厳しい拒絶に遭い、もはや雪解けは永久に訪れることはないとさえ思えたのである。

ところが、アランにとって最後のレースとなったこの日、アイルトンのそれまでのかたくなな態度に突然変化が訪れる。まるで、〝オーケー、これでもう僕らは敵同士である必要はない。ひょっとして友達にだってなれるのじゃないか〟と語りかけるような、そんなセナのジェスチャーである。

以来、私はその後老境に入ったふたりが取り交わすであろうやりとりを勝手に想像してひとり悦に入る、というようなことを何度もやっている。例えばこんな具合だ。今から40年後、〝往年の名ドライバーの集い〟なるイベントがあって、そこで顔を合わせたふたりが、お互い杖にすがりながら、口角泡を飛ばして89年鈴鹿の是非を論じ合っている。お前が悪い、イヤお前の方だといまだに一歩も譲らぬ構えだが、もちろん双方に悪意はない。私にとって何よりも重要だと思えたのは、さまざまな紆余曲折があったが、最終的にセナとプロストはお互いを友人として認め合うことができたという事柄である。かつてジョー・ラミレスがこんなことを言っていた。「いろいろあるんだけれども、お互いに違うところが多すぎてうまくいかないというのではないと思うんだ。むしろ、あまりにも似すぎていることから来る、一種の近親憎悪みたいなものだね。それもこれも、お互いを恐れていたからさ。F1に賭けるふたりの情熱の激しさ純粋さなどは、ほとんど生き写しと言ってもいいくらいだ。当時はF1に神様がふたりいたようなもんさ、そんな気がしないかい？」そんな気がする、どころの話ではない。アデレイドの写真を見ていて、今さらのように胸につまされるのは、ひとつのエポックが終わったという名状し難い感慨である。もちろん、例の写真が撮影された当時も、そうした思いが胸に去来しなかったわけではない。しかし、まさかこれほどの重さを伴うとは考えもしなかった。プロストにとってはこれが最後のグランプリ。つまり、長く続いたセナとのライバル関係がここに幕を閉じる。それは誰もが知っていたことだ。我々が予想だにしなかったのは他ならぬアイルトンにとっても、これが最後の表彰台であり、最後のグランプリ・ポイントになるということであった。

プロストにとっての最後のグランプリで
セナとプロストが握手を交わした時
それはセナにとっても最後の表彰台だった

93年11月23日のあの午後から数えて、これまでに都合23回のグランプリが開催されている。ゲルハルト・ベルガー、ジャン・アレジ、そしてナイジェル・マンセルが、それぞれ一勝ずつを挙げた。では、残る20戦はどうかというと、これをすべてミハエル・シューマッハー（12勝）とデイモン・ヒル（8勝）が分け合っている。有り体に言って、これが昨今のF1における掛け値なしの勢力分布である。さらに煎じ詰めれば、たいていの場合シューマッハーが勝ち、そうでない場合はヒルが勝つ、ということになる。

ほんの1週間前のこと、「カナダでアレジが勝ったが、あれは本当にうれしかったな」と、私の友人が言っていた。「何も私が彼の大ファンだからというわけじゃない。もちろん彼のパフォーマンスを見るのは楽しいが、いつもと違うドライバーが勝った、ということがむやみやたらとうれしいんだ……」

確かに、あの時プレスルームにいた私もそれと全く同じ興奮をひしひしと感じていた。あの盛り上がりようはただごとではなかった。まるでピットレーン全体が喜びに沸き返っているようなのだ。それも無理はない。通算91戦という長い苦難の果てに、ついにアレジが念願の初優勝を成し遂げたのだから……。しかし、見逃してはならないことがある。それは、3つ並んだ記者会見席の真ん中の席に決まり切った顔ぶれに変わって、まったく新しい顔があるという事実である。配役が変わったのだ。

ともあれ、そのこと自体必ずしも一部で指摘されるような〝新たな戦国時代の幕開け〟を意味しないと私は考える。今から30年前、ブリティッシュGPの取材でシルバーストンに向かう私は、ジミー・クラークのロータスがこれを制し、スターリング・モスのBRMが続く2位を得るであろうことにいささかの疑念も抱いていなかった。その根拠は何かなどと野暮な質問はしないでいただきたい。当時はそうなることが当たり前だったのである。果たせるかな、レースはこの2台がおよそ3

秒差で1、2位を占める。では、3位以下はどこにいるのかというと、そんなものは影も形も見えやしない。

アスカーリ、ファンジオ、モス、クラーク、スチュワート、プロスト、セナ……。ここに挙げた名前はどれも、そのレーシングキャリアの一時期において、文字どおり〝負け知らず〟——もちろん、装備が著しく劣っていなければ、の話だ——という状況を一度は体現している。そして、ここに加わるべき最新の名前はお察しのとおりシューマッハーである。惜しむらくは、才能は必ずしもカリスマ性を伴わないという避け難い現実だが、もとより彼が現役の中で最高のドライバーであることは論を待たない。

「セナが取っていた金額ほどの価値は彼にはないと思うね」と、見事に言い切ってしまったのはつい最近のバーニー・エクレストン。

「それはセナがスーパースターだからさ。クルマに乗っている時も、降りた時もそうなんだ。ところが彼はどうだろう？　他のどのドライバーよりもラップタイムに換算して1秒近い価値がある、それがシューマッハーというドライバーに対する認識なんだな。私自身はプログラムどおりにきっちりパフォーマンスを出せる唯一の男、それが彼だと考えている。その意味から言えば、あとひとりふたり、これと互角に戦える者が現れてもいいはずなんだ」「もし今、セナとシューマッハーが同じチームで走るとしたら、セナの方が多く勝つと思うね。しかし、彼らふたりのスピードがどうのこうのと言うつもりは全くないよ。ただシューマッハーというのは今いる他のドライバーと比べた時に、いざレースという段になると30秒ほどの価値があると私は踏んでいる。それもこれも、彼がバックマーカーを処理する時のやり方がすべてでね。それ以外のことについては、ほとんどどうでもいいことなんだ。レースになると、オーバーテイクというただそれだけの作業で、彼は他のドライバーを軽く30秒は引き離してしまう。まあ、そのこと自体、たいしたもんだと言わざるを得んだろうな、そうだろ？　ハードウェアでそれだけ稼ぎ出そうとしたらいったい幾らかかるか、それを考えたらなおさらね……」

ところが、どうしたわけか太平洋を隔てたアメリカでは、たったひとり——あるいはふたりでもいい——が勝ち星を独占するという現象は極めてまれだ。確かに、94年はベンスキーの圧倒的なアドバンテージを利したアル・アンサーJr.がシリーズをぶっちぎったのだが、むしろこれは例外中の例外。終盤までタイトルの行方がまったく分からない、それがインディカー・シリーズのいつに変わらぬ魅力となっているのだ。その証拠に、今年はこれまで10戦を消化して、既に6人のウイナーが出ている。

その中で目下最多の3勝をマークしているのがジャック・ビルヌーブ。まだ記憶に新しいインディアナポリス500もそこに含まれており、現在彼はシリーズの首位を余裕で快走している。先週の日曜日の夜はエルクハート・レイクで行われたレースをテレビ観戦としゃれ込んだ。ちなみにエルクハートは、現存する一般道サーキットの中でおそらく最高のものといっていいだろう。ここでビルヌーブは、ポールからスタートし、全く危なげない勝利を飾っている。驚いたのは彼の実に完成されたスタイル。すべてが折り込み済み、何があっても対処できないことはないと感じさせる安定感は見事のひと言に尽きる。ほとんどミスらしいミスがないのである。

エクレストンは、ジルの息子をなんとしてもF1に乗せたいと考えているという。「チームにとっても得難い財産になってくれると思う。まだ若いし、頭もいい。それに、マシンを把握するのがめっぽう得意だというじゃないか。こっちでも十分通用するはずさ。きっといい仕事をして、シリーズを面白くしてくれるんじゃないかな。とにかく、マシン性能を実切るようなことは絶対ないと思うよ」「彼の走りを見ていて思い出すのは、やっぱりプロストだな」とバーニー。「彼の父親は、よしイケるとひらめいたら間髪を入れず隙をついていくというタイプだった。一方のジャックは、これならなんとかなりそうだと確信が持てるまではまず行かない。その時々の状況で自分にできる最善を尽くしていく、というのが彼のやり方なんだ。今日のこの調子だと2位がいいところだと判断した時は、その2位をがっちりポケットに入れて帰って来る、そういうタイプなのさ。やるべき時はとことんやり、そうでない時はどうするか、そのあたりの呼吸をわきまえているのが彼で、その点もプロストにそっくりなんだ。彼には（悪い意味での）エゴというものがないし、今後もそれが芽生える心配はない。どのチームに入ったとしても、すごい戦力になると思うよ。どうやって彼を連れてくるか、その方法を一生懸命考えているところなんだ」

以前、ミルウォーキーで会った時のジャックは何もあわてて動く必要はないと実に恬淡としたものであった。そういう彼のことだから、今後とも何事につけ慌てることはないはずだ。しかし、もし彼がF1に身を置くことになるとしたら、必ずやトップ5に位置するチームということになるだろうし、むしろそうでなければならないと私は思う。ポートランドにはルノーからコンツェン、デュドの両氏が姿を見せていた。いわく〝休暇中〟とのことだが、そのわりにはビルヌーブとずいぶん長い時間、共に過ごしたようでもある。なにしろ連中、母国語が同じフランス語だからなァ、というのはあながち的外れなヒントではないという予感がする。今年のストーブリーグはことによるとかなり大がかりな変化があるかもしれない。そう、ご期待、といったところだ。

インディで圧倒的な強さを発揮する
ジャック・ビルヌーブを核に
ストーブリーグは大きな変化があるだろう



GPS GRAND PRIX STATION

えっ……勝ったの……!? なんで……?



実力でしょう



んふふ、もうね住む世界がちがうのよ

▶ロータス崩れが大違い かたや優勝、かたや……

ジョニーがイギリスで初優勝。とりあえずメデタイねえ。で、これで複雑なのが昔、ジョニーとロータスでホモ伸だった（断定！）ミカ・ハッキネンだ。

あのロータス時代を頂点にして、ふたりとも「そーいやそーいうのもいたなー」級ドライバーに成り下がるのかと思ってた。ところがジョニーは違ったぜい。ところがミカはそのとーりだ。トホホ。かたや初優勝なのに、かたやボロボロ。同じロータス崩れなのにこの違い。あーどこでどう狂ったミカの人生。うーん、やっぱりジョニーがアゲチンだったんだな。ねっ、ミカちん。

ジョニーの初優勝で
揺れる胸がボヨーンボヨーンで
すっかりカトーレーコは
ラーメン屋のオネーサンに
なってしまいました
と、いうわけで
夏もいよいよ本番です
アツイ夏、ますますアツク
暑中お見舞い申しあげまーす



グール
グール

ウキョキョキョって
回るんですう。



真夏の納涼グルメ
ピストロ・パリチェロの巻

F1グランプリの
裏話、こぼれ話と噂

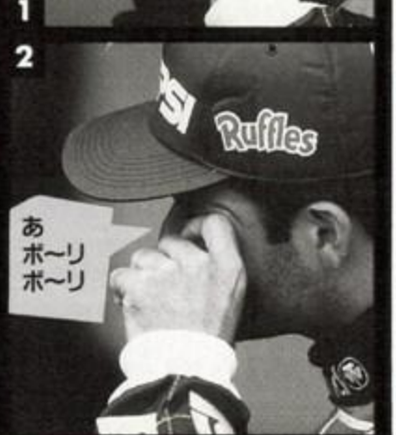
特別クイズ企画
GPSが応援するのは
野○選手です（誰だ?）





3 1
4 2





◀右京が洗濯機なら ウズマキ効果でピッカピカ

メジャーで勝つわ、オールスターだわで、すごいぜ野茂！　うーん1回くらい見に行ってみたいもんだ。日本GPのチケットもはずれたし、金ならあるぜい。しかし、同じ日本人なら、トルネード野茂より、右京に注目したい。

だいたい野茂のトルネードがすごいとは言え、あんなのは半回転。それに比べて右京は違う。あっちでグルグル、こっちでグール。1回、2回と回りっぱなしだ。うーん、竜巻ならぬウズマキ右京。こっちの方がなんだかすごそうだ。

よし決めた。今年の秋はしぶしぶロスに行って野茂でも見るか。それでも遠いロスの空から右京の応援はする。うーん、ファンって大変だぁ。





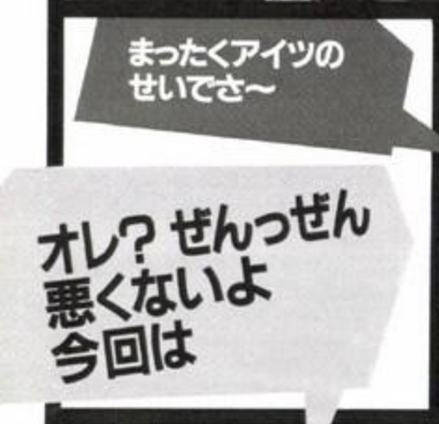
▼ぶつかっといて謝らないのはどういうこっちゃ

驚いちゃったよ、あの映像。いきなりヒルが暴れだすから、タバコの火でも落ちたのかと思ったら、シューマッハーとクラッシュだってさ。あービックリした。

それにしてもなんであんなことしたんだろ。「行けると思った」とかヒルは言ってるらしーけど、行けるわけねーっつーの。

「その昔、近所の団地で自転車レースをしてたボク。コーナーに突っ込むボク。そのインへ無理矢理突っ込んできた山田クン。ドンガラガッチャーン！　山田クンもろとも転んでヒザをすりむいたボク。山田クンもケガをした。「だって抜けると思ったんだもーん」と山田クン。無茶をした山田クンは、その後自転車レースに誘ってもらえなくなりました（イルボンヌ山本著／小学校の思い出より抜粋・朗読／岸恵子）」と、いう具合に小さい子供でも、やっていいことと悪いことの区別はついてるのに、すっかりオヤジのヒルになんでそれが分からん。

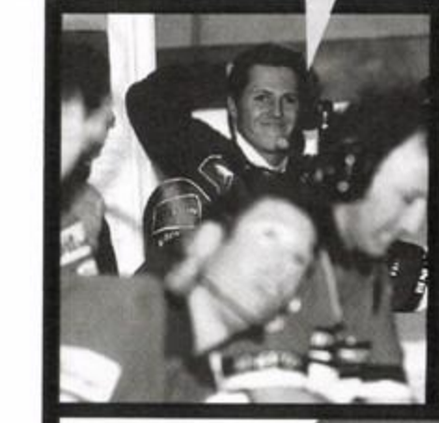
作られたチャンピオン候補なんて言われた（どこで？）去年のウップンを晴らそうと焦っているのかヒル？　頼むよ、クチだけ番長さん。

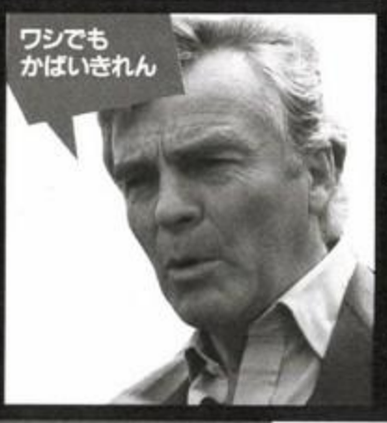






















INFORMATION

カーマーティーはナビゲーションだけじゃないぞ

マルチメディアプレーヤー「カーマーティー」「MVP-10」が発売された。ナビゲーションシステムの充実を図り、従来の10倍の距離を3倍のスピードで探索できるソフトも発売される。また「FMTOWNS MARTY」用のソフトや、音楽CDなども再生可能だ。価格は8万円。

●富士通テン㈱ ☎078(682)2056



ロードスター 1.8Q用 ツーリングキット

ロードスターのエンジン本体に仕様変更を施し、最高出力とトルクの向上を実現する「ツーリングキットB-スペック」が発売された。価格はステージIIが87万円。ライトチューニングのステージIが38万円。

●㈱マツダスピード ☎03(3533)6496



BRAND NEW

タイヤにホイールにステアリングetc…とても役に立つ今月の新製品コーナー

小さいけど大迫力? フィアットアバルトのRC

ヨーロッパツーリングカーレースで活躍していた、フィアットアバルト1000TCRベルリーナコルサのラジコンが発売された。小さいながらもレーシングモデルならではのスタイルを再現している。価格は1万1800円。●田宮模型 ☎054(286)5105



祝JTCC第7戦優勝! HKSオペルのRCカー

JTCCで活躍中のHKSオペル・ベクトラが、ラジコンカーとなって登場した。実車同様FFシャシーを採用、軽快な走りが可能だ。別売りのパーツで自分のベストセッティングを見つけよう。価格1万3800円。

●田宮模型 ☎054(286)5105



ミニカーといえばトミカ 今年でなんと25周年だ

トミカ発売25周年を記念して、トミカ25周年限定スペシャル「レーシングカーセット」が発売された。JTCCで活躍中のプリメーラ2台と、スープラ、F3000のローラの4台のセットで価格は1440円。

●㈱トミー ☎03(3693)8630



NEWアルトワークスRでダートを激走しよう

NEWアルトワークスR用パーツが発売された。フロントLSD(価格9万8000円)、強化センターピスカス(価格8万7000円)、リヤLSD(価格7万5000円)でパワーとトルクを路面へ確実に伝達できるぞ。

●㈱スズキスポーツ ☎0538(66)6040



こいつを足元に装着すればGTOが精悍に

フォートランから発売されているホイール、アッソ インビテーション。新たに三菱GTO専用サイズが登場した。サイズは17×9 JJ(価格5万1000円)、18×8.5JJ(価格6万5000円)の2種類。

●㈱フォートラン ☎045(592)3488



伝統のエイトスポークを進化させたGR8

発売以来ロングセラーを続けている伝統のエイトスポークを踏襲し、進化させたホイール「GR8」が発売された。サイズは16×7 JJ～17×9'JJ。価格は5万2000～6万2000円。●㈱レーシングサービスワタナベ ☎045(573)5629



軽カーの足元を決める専用ホイールSWC-K

現在の軽カーのスタイリング、走りなどを追求することにより、ダイナミックなデザインを採用した軽カー専用ホイール「SWC-K」が発売された。専用設計にすることにより、ベストマッチングなスペックを可能にし、価格もリーズナブルな設定となっている。サイズは13×5 JJで、カラーはシルバー。価格は1万3000円。

●有ケーアイシー ☎03(5692)7511



天然ヤシの成分で強力洗浄 ココナッツ パンチ!!

天然ヤシの実を主成分に、強力にホイールを洗浄するクリーナー「ココナッツ パンチ!!」が発売された。スプレーして水で洗い流すだけで愛車を傷めることなくホイールをきれいにする。また、天然系特有のサラッとした液で手荒れの心配もない、新機軸のクリーナーだ。価格は500㎖入りで1500円。

●㈱モータウン ☎03(3622)7624



RV、乗用車、バン それぞれに合ったスタッドレスタイヤで雪道も安心

横浜ゴムから4種類のスタッドレスタイヤが発売される。「ガーデックスRV F340」は、RV専用のタイヤ。RVの性能を考え、確かな走破性を確保している。価格は2万5900～3万9000円。「ガーデックス600」は乗用車用。ミラーパーンでのグリップ力が向上している。価格は1万600～5万8000円。「ガーデックスK2 TYPE MB」は新開発のコンパウンドを採用しており、氷上でのグリップ、雪上での発進性、制動力が向上している。価格は1万600～3万6300円。「SY109」はバン用のスタッドレス。耐摩耗性を加味しつつ、氷上性能、雪上性能ともにアップしている。価格は1万1600～3万500円。クルマに合わせて選べば、雪道も安心して走行することが可能だ。

●横浜ゴム㈱ ☎03(5400)4531



ガーデックスRV F340　ガーデックスK2 TYPE MB　ガーデックス600　SY109

氷上性能をアップしたBSのスタッドレス

氷上性能を向上させ、好評を得ている乗用車用スタッドレスタイヤ「BLIZZAK MZ-01」。今回50／55シリーズと60～80シリーズが追加発売される。これで51サイズがそろい、どんなクルマにもマッチする。価格は1万3300～6万4000円。

●㈱ブリヂストン ☎03(3563)6811



編集部のおすすめ

VIDEO／DTM

新たにスタートしたITCを舞台に常勝メルセデスに挑むアルファ&オペル



「DTM'95 PART 2」

45分　定価1980円(税込)　㈱メルダック　☎03-3423-7925

＊7月28日から全国のセブンイレブンで発売中

このビデオには5／21ムジェッロ、6／4ヘルシンキ、6／25ノリスリングという3戦のレースが収録されている。「DTM'95」というタイトルながら、このうちムジェッロとヘルシンキについてはシーズン途中からヨーロッパ転戦シリーズとしてスタートしたITC（国際ツーリングカー選手権）の2戦となっている。

この3戦のうち、必見のレースはやはり何といってもヘルシンキでのレースだ。ラリー以外のモータースポーツ・イベントが開催されるのは30年以上ぶりというフィンランドでの公道コースでのレースということで、大きな注目と大観衆が集まったイベントだったが、なにしろコースレイアウトがスゴイ。公道を封鎖して設定されたコースだから、もちろんコンクリートウォールむき出しのコースだし、路上に設けられたシケインにはタイヤがドンと積んであったりする（これに触るとペナルティ！）、とてもダイナミックなコースなのだ。

さらにレース展開もエキサイティング。メルセデスがブッチぎるという、今年の一般的な展開とは違う、白熱したバトルでトップが目まぐるしく変わっていくから、一瞬たりとも見逃せない。ひょっとすると今年のベストレースかも。　(㊎)

インビディアの大口径が軽快RVを演出するぞ

ティエムシーからRV用オールステンレスマフラー、インディビアが登場した。オデッセイ用とRVR用があり、どちらも大口径マフラーでRVボディとのマッチングはバッチリだ。価格は各9万5000円。

●㈱ティエムシー　☎06(866)1431



吹け上がりバツグンのストレートマフラー登場

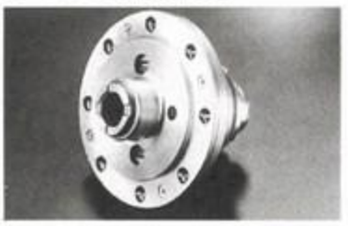
ご機嫌なサウンドと共に、高回転までスムーズに吹け上がる60φストレートマフラーが登場した。適用車種はシビックとCR-X（価格各4万8000円）。別売りのインナーサイレンサーは7万8000円となる。●フォーチュン・リミテット　☎03(3856)3462



ニスモのLSDでもっとニッサンを実感

ニスモよりニッサンFF車用LSDが登場した。このLSDは1.5WAY方式を採用していて、コーナーで扱いやすいものになっている。適用車種はサニー、アベニールをはじめ全6車種で価格は9万8000円。

●ニスモ　☎03(3767)1123



もうバンなんて言わせないアネーロで大変身だ！

ANHELOシリーズからホンダ・アコードワゴン用エアロパーツが登場した。フロントスポイラーをはじめサイドスポイラーやリヤスポイラー、マフラーカッターなどがそろい価格は8000円～12万6000円。●㈱ワーク・オートモーティブ　☎06(782)0008



早く走るための足サステックダンパー登場

タナベが開発したサステックダンパーはショートケースを採用しながらストロークはノーマルと同様のものを確保。適用車種もスカイライン、スープラ、RX－7、シビックなど各車種用が豊富にそろっている。

●㈱タナベ　☎0727(28)6700



ポテンザのダンパーでジムカーナを極めよう

このPOTENZA DAMPER FOR ジムカーナ ランサーEVOLUTIONIII用は、全日本ジムカーナでも使用されるスグレものだ。価格はフロント複筒4段調整式が2万5000円、単筒非調整式が1万1500円、リヤ複筒4段調整式が1万4500円。●ブリヂストンFVS㈱　☎03(5462)2155



究極のエアロパーツ童夢アンダーカウル登場

いよいよF1に向けて本格始動をはじめた童夢、その童夢から一般車用の究極のエアロパーツ「童夢アンダーカウル」が登場した。これはレーシングカーでよく聞くベンチュリー効果を一般車にも取り入れようとして開発されたもので、第1弾としてトヨタ・セリカ(ST202)用が新発売された。童夢アンダーカウルは高速になればなるほどダウンフォースが発生し、テストコースにおける実測データでは最高速13.8km/h向上、燃費にも好影響を与える結果が得られるなどその効果は絶大だ。取り付けは面倒ではないが、専用工具やリフトなどが必要となる。また童夢本社や東京の指定工場なら約2時間で取り付けをしてもらえる。価格はゲルコートモデルが48万8000円、カラーモデル（ダークシルバー・レッド）は53万6000円、取り付け工賃は2万5000円となる。●㈱童夢　☎075(744)3131



使いやすくてカッコイイヘルメットバッグが登場

丈夫で使いやすく、それでいてカッコイイ……そんな声をカタチにしたのがこのヘルメットバッグだ。キンチャクタイプのものと違って、このヘルメットバッグなら横開きタイプなので出し入れの煩わしさも解消、素材もヘルメットに優しいフリース内装を採用している。手持ち&ショルダータイプなので持ち運びにも便利で、しかもヘルメットのカタチに合わせた立体縫製なのでいつでも路面に安定した状態で置くことができる。またロゴプリントもOKなのでオリジナルデザインのヘルメットバッグも作れるぞ。価格は9800円、シールド袋は900円、ネーム刺しゅうは1000円となる。

●㈲スタジオ　コメ

☎048(686)6048



おっと、ストリート用の"ツー"も忘れちゃならん

一方、POWER FILTER 2はストリートユースを前提として、すべてのスペックが新設計され、適用車種もソアラ、スカイラインなどをはじめ多数取りそろっている。価格5000・5500円。●モンスターインターナショナル㈱　☎0538(66)6761



POWER FILTERで快適フィーリングを体感

中～高速域のパワーフィーリングアップを実現するPOWER FILTERに、ミツビシFTO&ホンダオデッセイ用が新登場した。価格はFTO用が9800円、オデッセイ用は1万1000円となる。●モンスターインターナショナル㈱　☎0538(66)6761



INFORMATION

特別装備のレガシィがお買い得価格で発売中

プローバ製のパーツをフル装備した「レガシィ・ツーリングワゴンGTオリジナル限定バージョン」が9月いっぱいまで限定発売されている。あの清水和夫氏が監修してまとめあげたスポーツ・パーツなど（フロント・エアログリル、スポイラー、リヤバンパー用カーボンステップ・パネル、フジツボ・レガリスRマフラー、GABショックアブソーバー、フロント・ロアアーム・スティフナー、前後ストラットタワーバー）をフル装備し、GTワゴンの希望の車型に装備しながら20万円高という買い得な設定になっている。●中央スバル自動車㈱ 恵比寿営業所 ☎03(3448)4541





OHLINSショックにランエボIII用登場

OHLINSガスショックアブソーバーに、待望のミツビシ・ランサーEvo.IIIがラインナップされた。ノーマルでもEvo Iより回頭性が向上しているEvoIIIだが、スポーツ性重視のため乗り心地が悪化。この乗り心地を大幅に改善し、さらにステアリングレスポンスと回頭性を向上させるため、多段積層円板バルブ機構、単筒高圧窒素ガス封入式、フロントに倒立式のショックを採用した。もちろん伝統の20段階減衰力調整も採用されている。価格は1台分17万8000円。また、4輪用のガスショックアブソーバーは、8月で発売5周年を迎えることとなった。これを記念して、8月31日までにショックアブソーバー1台分を購入した人に、オリジナル金属製エンブレムが、更に応募ハガキに必要事項を記入の上、投函すると抽選でさまざまな商品がプレゼントされる。詳しくは下記まで。 ●ラボ・カロッツエリア ☎048(863)1801



TERZO 95〜96 ウインターキャンペーン

TERZOでは、ドラムカンパック、キャップなどが当たるキャンペーンを企画している。期間は95年10月1日〜12月31日で、TERZO製品パッケージのJANコード（バーコード）を切り取り封書、あるいはハガキに貼って下記まで。〒108 東京都港区白金台5-18-9 サンプラザ白金台7F PIAA㈱ 95 キャンペーン係



アルミ・ダイカスト採用のベースキャリアフット

雨ドイの無い車用フットセットがTERZOから発売された。このフットは新開発機構のペンタゴン・グリップ採用によりバーとフットの取り付けが容易になり、組み立てから取り付けまで工具が不要だ。1万4500円。●PIAA㈱ ☎03(3448)1511



クラス最大の460ℓ TERZOエアロボックス

スキー板なら最大8セット、スノーボードも8枚収容可能なTERZOエアロボックス"ジャンボ・チャンピオンモデル"が発売された。セイフティーロックシステムや盗難を防ぐWロックシステム、またボックス本体の盗難を防ぐ盗難防止ロックなどフル装備となっている。価格は12万円。●PIAA㈱ ☎03(3448)1511



悩んでいたスノーボーダーもこれがあれば大丈夫

TERZOスノーボード＆フラットスキーアタッチメントに、大型ビンディング付きスノーボードなどをルーフを傷つけることなく斜め積みできるタイプが新発売される。ベースキャリアを装着したまま着脱できるツインリリースシステムや盗難防止のロックシステムも装備されている。1万8500円。●PIAA㈱ ☎03(3448)1511



FTOにピッタリフィット ラリーアートのマフラー

㈱ラリーアートがリリースする「FTOハイパフォーマンスパーツ」シリーズに、「ラリーアート・スポーツマフラーキット」が新たに追加、7月17日から発売されることとなった。今回追加されたスポーツマフラーキットはFTO-GPX用で、テールパイプとメインマフラーにステンレス素材が採用されている。これにより外観の美しさと、熱や錆に対する耐久性が向上し、さらに3分割方式としたことで取り付け作業も容易になった。JASMAの認定を受けた保安基準適合品で、車検時も特別な手続きが一切不要というのも魅力的だ。価格は8万6000円。●㈱テストアンドサービス ☎044(854)1945

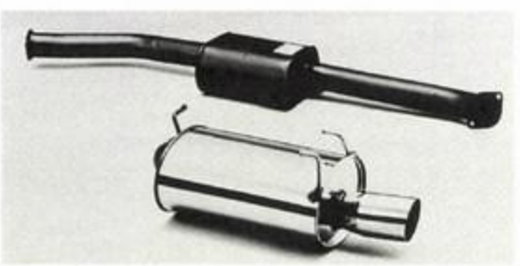
テインの新スペック車高調 さまざまな特徴を備え登場

㈱テインでは、好評の「タイプHダンパー」の新シリーズ「タイプH2ダンパー」を発売する。トラクションの向上やナチュラルなフットワークのレスポンスを主眼に開発され、車検対応品としてモディファイされた。●㈱テイン ☎045(474)5236



FUJITSUBOのレガリスRがモデルチェンジ

大口径スポーツマフラー"レガリスR"がモデルチェンジされる。サイレンサーハウジングがステンレスに変更され、また、デュアルパイプ＆トルクリングジョイントの採用により低回転の排圧確保と中・高回転の抜けのよさを両立させている。価格の引下げも実施されるゾ。●藤壺技研工業㈱ ☎045(546)0321





今年も名古屋キャンピングワールドへ行こう

9月15〜17日の3日間、ポートメッセ名古屋で「第3回名古屋キャンピングWORLD」が開催される。入場料は大人1000円（前売り800円）、小学生500円（前売り400円）で、8月4日より発売が開始される。
●テレビ愛知事業部 ☎052(203)0250



全日本GT選手権のテレビ主題曲がリリース

人気爆発中の全日本GT選手権シリーズ。その中継番組のテーマソング「Hot True」が7月19日に緊急発売された。このCDはコンピュータ・デジタルサウンドで、ポルシェ・ワークスエンジンのエキゾーストノートも収録されている。
●東芝EMI㈱ ☎03(3587)9035



トヨタで自分だけのクルマを作ろう

いまトヨタ自動車で自分だけのクルマが作れる。これは、イラストや写真を車両塗装面に転写するという「マイドリームアート」という新商品。既にトヨタビスタ店の一部で受注しており、9月には全国のトヨタビスタ店で注文ができる予定だ。



ATTEN-TION

観る！聞く！参加する！
一番ホットな情報が
ゲットできるコーナー
それが「アテンション」

WANTED!

モータースポーツフリーク募集

東京映像社は、ラリー、F1、ル・マンの取材、ニュースリリース、TV番組／VTR制作などを行っている。今回、情報処理、ファイリング等の業務をしてくれるアルバイト（将来的に社員採用の可能性もあり）を募集。資格：①英語の読み書きが多少できる。②モータースポーツが大好き。③ワープロが使える（MAC操作できる方歓迎）。④年齢、男女、学歴は問わない。希望者は履歴書を下記へ送付のこと。●㈱東京映像社　〒106 東京都港区麻布十番1-8-13 ☎03(3586)7231　担当：園田、近松

運転能力の限界を知って安全への認識を高めよう

日本自動車工業会（JAMA）および日本自動車連盟（JAF）では、5月から全国で安全運転技能講習会「JAMA&JAFセーフティトレーニング」を開催している。これからの開催予定は、9月26日幕張メッセ、9月29日名古屋市国際展示場、10月5日吹田市万博記念公園、10月19日金沢競馬場、11月16日広島市アルパークとなっている。参加資格は、運転歴1年以上の普通免許所有者で、未成年者は親権者の許可が必要。参加人数は各会場30人までで、応募多数の場合は抽選となる。また、千葉と名古屋の会場では自家用車持ち込みにより開催される。この件に関する問い合わせは、☎03(3216)5784、または☎03(3436)2811まで。

スポーツウォッチのデザイン大募集

オリエント時計では、昨年に続きデザイン募集の第2弾として「スポーツウォッチのデザイン／カラーリング」を大募集している。優秀な作品は商品化を検討する意向なので、あなたのデザインした時計が発売されるかも。応募はプロ、アマを問わず、複数の応募も可。●オリエント時計㈱　☎0425(85)2424



鈴鹿サーキット遊園地内にマクドナルドがオープン

大迫力の宙づりコースター「ブラックアウト」のオープン等で話題いっぱいの鈴鹿サーキットに、また新しい魅力が誕生した。レースや遊園地に来場する人にバラエティーあふれる飲食サービスを提供するため、7月21日に「マクドナルド鈴鹿サーキット店」がオープンしたのだ。鈴鹿サーキットでベネトン、PIAAなどモータースポーツを中心とするファンションブティック以外での独立した専門店が営業するのは、このマクドナルドが初めてとなる。営業形態は、メニュー・料金は他店と同様で、営業時間は鈴鹿サーキットの営業に合わせての展開となる。●㈱鈴鹿サーキット　☎0593(78)1111

FETスポーツオイルで卓上クロックをもらおう

7月1日～8月31日までFETでは、FETスポーツオイル全品を対象としてキャンペーンを開催中。期間中に対象商品を購入すると応募ハガキが渡され、それに必要事項を記入して投函すると卓上クロックが当たる。●㈱FET　☎03(3484)3121



華麗なるスピードヴィクトール・スパン展

9月14～17日の4日間渋谷ONE・OH・NINE 30ギャラリーでヴィクトール・スパン――華麗なるスピード――の来日展（入場無料）が開催される。彼の描きだすスピード感、躍動感は90年代という時代を反映したもので、このような技法、作風は既に10年ほど前から創作され、高次元のイメージを実現している。91年には、F1グランプリの公式ポスターのイラストにも採用され、セナやウイリアムズなどの走りが、彼独特のタッチで描かれている。来日記念レセプションが9月14日午後5時から、サイン会が9月15～17日の午後4時から行われる。●インポート・フューチャー㈱　☎03(3405)9227

イタリアの熱い心をモータースポーツで体感

イタリアーノのホットなハートをモータースポーツの夢に乗せた「フィアット　アンド　アルファロメオ　モータースポーツクラブ」が発足した。いま入会するとアルファロメオ特製グリル・アッシュトレイ、アルファロメオ・モータースポーツグッズ、機関誌「クワドリフォリオ」定期購読割引、イタリアン・レストランご優待などの特典がある。入会方法は、入会金7000円、年会費5000円で、申し込みハガキに必要事項を記入の上、事務局まで申し込む。問い合わせ、資料請求先は、〒151 東京都渋谷区上原1-30-1　上原MKビル3F　フィアット　アンド　アルファロメオ　モータースポーツクラブ事務局　☎03(5453)0155

F1グッズが欲しいならスピードボックスに急げ

スピードボックスでは、いまF1グッズでもっともグランプリシーンを感じさせるアイテムを一堂に集めた「F1レア・アイテムFAIR」を8月20日まで開催中。開催店舗は「スピードボックス板橋店　☎03(3530)5555」と、「スピードボックス広尾店　☎03(3443)6667」の2店。営業時間は両店とも午前11時から午後8時までで年中無休。内容はヘルメット、ステアリング、レーシングスーツなどのレプリカ・アイテムの展示、販売で、なかにはOFF商品もそろっている。さらにセナ財団公認ブランドをはじめとする今年話題の新商品が続々と入荷中だ。また、8月1～31日までロスマンズF1フェアも開催される。

クーペ フィアットに2.9%特別ローンを適用

フィアット　アンド　アルファロメオ　モータースジャパンでは、7月1日より9月30日まで「クーペ　フィアット2.9%特別ローンキャンペーン」を実施。通常の5.9%ローンと比較すると約15万も得になる。●フィアット　アンド　アルファロメオ　モータースジャパン　☎03(5460)1945



トヨタ、RAV4L電気自動車のモニター開始

トヨタ自動車では、RAV4Lをベースとした電気自動車「RAV4L EV」を新しく開発。東京都と東京電力に各1台提供され、本年度中に国内で合計10台、米国でも10台のモニターを開始する。●トヨタ自動車㈱　☎03(3817)9111



BMW SQブティック&ライブラリー開設

BMWでは、東京都港区北青山のBMWスクエアに「BMW SQブティック」と「BMW SQライブラリー」を開設した。ブティックにはオリジナルデザインのグッズがそろっている。開館時間は午前10時から午後8時で、定期休館日は第1、第3木曜日。問い合わせはBMWスクエア　☎03(5474)8921まで。



マツダスピード専門ショップ&ショールーム

マツダスピードは、マツダグループ系列の販売会社と共同で運営するマツダスピード商品専門ショップ「スポーツファクトリー」を千葉県船橋市に新規開設した。●スポーツファクトリー船橋　千葉県船橋市市場5-8-17　☎0474(25)1519



ノンストップ・バトル BTCCはヒートアップ

BTCC95Part3のビデオがローソン、セーブオン、有名書店、レコード店で8月25日から発売される。収録レースは第6戦ブランズ・ハッチ、第7戦ドニントン・パーク、第8戦シルバーストン。税込み価格1980円。●TDKコア㈱　☎03(3555)1133



セガ・ラリーチャンピオンシップがCDとビデオになった

セガ・エンタープライゼスのアーケードゲーム「セガ・ラリーチャンピオンシップ」を基に、東芝EMIよりミュージックCD「IGNITION」と、ビデオ「CGMVセガ・ラリーチャンピオンシップ1995」が発売される。「IGNITION」は7月19日、「CGMVセガラリー・チャンピオンシップ1995」は8月3日の予定だ。価格は税込みでCDの「IGNITION」は3000円、ビデオの「CGMVセガラリー・チャンピオンシップ1995」は4900円。●㈱セガ・エンタープライゼス　☎03(5736)7130





BOOK & VIDEO

より詳しく、楽しく
今話題の本やビデオを
一気に紹介するコーナー
ブック&ビデオ

アルミモノコック・レーシングスポーツ「トミーカイラZZ」新発売

公道を走るレーシングカー「トミーカイラZZ」がいよいよ発売される。時代が求めている軽量スポーツカー、トミーカイラZZは、①軽いから加速がスムーズ。②軽いからステアリングの応答性に優れ、慣性モーメントの悪影響が少ない。③軽いから短い距離、短い時間で安全に減速、停止できるという特徴を持っている。もちろん剛性も十分だ。トミーカイラZZの予約受け付けは8月1日より、デリバリー開始は平成8年春の予定だ。車両価格は498万円。

●㈱トミタ夢工場　☎075(464)3311





STREET TOPICS

今話題のニューカーを一挙に紹介する新車情報コーナー ストリートトピックス

BMW328i、8月下旬よりデリバリー開始



ニューBMW328i（328iクーペ　ヨーロッパ仕様）

BMWはニュー328i（4ドアセダン、2ドアクーペ、カブリオレ）を導入、全国の正規ディーラーを通じて8月下旬より販売を開始する。ニュー328iは、コンパクトスポーツモデルとして広く親しまれているBMW3シリーズの325iに代わる、新たな3シリーズのトップラインモデルだ。トップラインにふさわしく、ニューエンジンをはじめとして革新的な種々のテクノロジーを導入。動力性能も325iからさらに改善され、また、標準装備もより一層充実させながら価格は325iと同じに据え置かれている。エンジンは、新開発の直列6気筒エンジン（M52）。ステアリングはセダンとクーペには、それぞれ右と左ハンドルの両方をそろえ、カブリオレには左ハンドルを設定している。価格は現行325iの価格と同様のセダン495万円、クーペ510万円、カブリオレ620万円（東京地区車両本体価格）となっている。



ニューBMW328i 直列6気筒エンジン

充実装備のアルトワークス「ie/sリミテッド」発売

スズキは、好評の軽乗用車「スズキ　アルト　ワークス」に特別限定車「ie/sリミテッド」を発売。同モデルは「アルト　ワークスie/s」をベースに、充実したオーディオやパワードアロックを追加したほか、外観・内装の色彩の一部変更などを施した本年9月までの生産期間限定車だ。今回の限定車はパワードアロック、AM/FMラジオ付カセットステレオ、フロント&リヤの4スピーカー、リヤラゲッジシェルフ（リヤスピーカー搭載用）、専用シート表皮を採用など特別装備が満載。車体色は、サターンブラックメタリックとスペリアホワイトの2色。価格は104万5000～115万2000円。

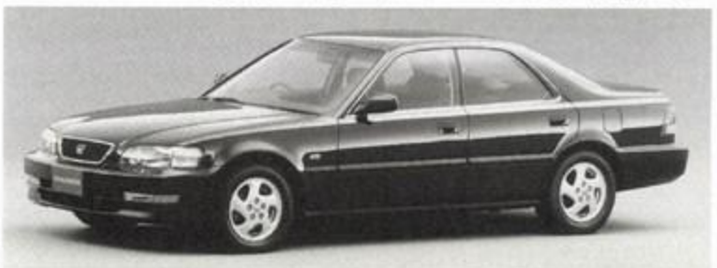
●スズキ㈱　☎053(440)2030



「インスパイア/セイバー」シリーズに3.2ℓV6エンジン搭載の最上級グレード「32V」がタイプ追加

本田技研工業は、FFミッドシップによるスポーティーな走行性能で好評の「インスパイア/セイバー」シリーズに、3.2ℓV6エンジン搭載などによる上質な走りと、運転席用&助手席用SRSエアバッグシステムの標準装備など、充実した装備の最上級グレード「32V」をタイプ追加し、7月7日より「インスパイア」はクリオ店、「セイバー32V」はベルノ店から発売している。このインスパイア/セイバー「32V」は、最高出力210馬力、最大トルク30.0kg-mのゆとりのパワー&トルクに加え、優れた静粛性を持つ3.2ℓV6エンジンを搭載し、滑らかで上質な走りを実現している。価格は298万3000～302万4000円。

●本田技研工業㈱　☎03(3423)1111



セイバー32V



インスパイア32V オプション装着車

TIサーキット・英田
スーパーツーリングカー選手権レース

JTCC JAPAN TOURING CAR CHAMPIONSHIP

全日本ツーリングカー選手権第11戦・第12戦

1995 **8/6** 決　勝 (SUN) 予選—8/5(SAT)

TIサーキット・英田 (岡山県英田郡英田町)

●主　催
ニッサンスポーツカークラブ(SCCN)
トヨタモータースポーツクラブ(TMSC)
ビクトリーサークルクラブ(VICIC)
アイダクラブ(AC)
●後　援／英田町、岡山放送株式会社、大阪日刊スポーツ新聞社
●大会協賛／横浜ゴム株式会社
●ゲートオープン／6:00予定
●決勝スタート／14:00予定(JTCC)
●開催レース／JTCC、フォーミュラトヨタ・エッソチャレンジ西日本、ザウルスJr.山陽シリーズ、F4 TIシリーズ、ヤマハフォーミュラ100(F100)、トランズサーキットスーパーカート(SK)

●前 売 り／¥5,000
●当日券 決勝日／¥7,000(大人)
●当日券 予選日／¥3,000(大人)
※小・中学生以下 入場無料

●駐車料金
決勝日 4輪 ¥2,000・2輪 ¥500
予選日 4輪 ¥1,000・2輪 ¥500

●前売券発売所
チケットぴあ、チケットセゾン、CNプレイガイド、丸井チケットぴあ、ローソン、JR四国ワーププラザ、岡山県有名プレイガイド



白熱、興奮、大熱戦!!

うれしい特典がいっぱい。集え! JTCCサポーター!!

全日本ツーリングカー選手権
JTCCファンクラブ会員募集中
●お申し込み・お問い合わせは
JTCCファンクラブ事務局 **03-3409-3058**

全国のJTCCサポーターのために、本年度から「JTCCファンクラブ」が発足しました。
JTCCをもっと知って、もっと親しんで、もっとお得に楽しめるファンクラブならではのサービスや特典をふんだんに用意しています。

今年も熱戦の締めくくりはインターテック

9月2日(土)、前売り発売開始!!



●主　催／フジテレビジョン、ビクトリーサークルクラブ(VICIC)
●後　援／ニッポン放送、サンケイスポーツ、サンケイリビング新聞社、テレビ静岡、小山町
●ゲートオープン／6:00予定
●決勝スタート／12:00予定(JTCC)
●開催レース／
JTCC、APTC、フォーミュラトヨタ・エッソチャレンジ、ヤマハフォーミュラ100(F100)

INTERTEC インターテック

FIA アジア・パシフィックツーリングカー選手権第1戦・第2戦
全日本ツーリングカー選手権第15戦・第16戦

1995 **11/5** 決　勝 (SUN) 予選—11/4(SAT)

富士スピードウェイ (静岡県小山町)

●前売指定席／¥7,000(2日間有効)
●前売自由席／¥5,000(2日間有効)
●前売パドックパス／¥25,000(2日間有効)
●当日券 決勝日／¥8,000(大人)
●当日券 予選日／¥4,000(大人)
※中学生以下は入場無料
●駐車料金(両日共)／4輪 ¥1,000・2輪 ¥500

●前売券発売所
チケットぴあ、丸井チケットぴあ、チケットセゾン、CNプレイガイド、ローソン、ファミリーマート、関東地区RTN加盟店

株式会社日本モーターレーシングセンター
〒150 東京都渋谷区広尾2-3-14

インフォメーション・ダイヤル **03-3409-2365**
営業時間 AM10:00～PM6:00(土、日を除く)

INFORMATION

フランス・スーパーツーリスム選手権（全9戦）

❶	4/16	ノガロ	L.アイエロ	プジョー405M:16
		ノガロ	Y.ミューラー	BMW318iS
❷	5/21	ディジョン	Y.ミューラー	BMW318iS
		ディジョン	Y.ミューラー	BMW318iS
❸	6/5	ポー	E.エラリー	オペル・ベクトラGT
		ポー	E.エラリー	オペル・ベクトラGT
❹	6/11	シャレード	E.エラリー	オペル・ベクトラGT
		シャレード	Y.ミューラー	BMW318iS
❺	6/25	パル・ドゥ・ヒエンヌ	Y.ミューラー	BMW318iS
		パル・ドゥ・ヒエンヌ	Y.ミューラー	BMW318iS
❻	7/9	クロノザン・テルノワ	Y.ミューラー	BMW318iS
		クロノザン・テルノワ	E.エラリー	オペル・ベクトラGT
7	7/23	ポール・リカール		フランス
8	9/3	アルビ		フランス
9	10/1	モンレリー		フランス

イタリア・スーパーテューリズモ選手権（全10戦）

❶	4/23	ミザーノ	G.タルクイーニ	アルファロメオ155TS
		ミザーノ	E.ピッロ	アウディA4
❷	5/7	ピネット	E.ピッロ	アウディA4
			E.ピッロ	アウディA4
❸	5/21	モンツァ	E.ピッロ	アウディA4
		モンツァ	R.コルチアーゴ	オペル・ベクトラGT
❹	6/4	イモーラ	E.ピッロ	アウディA4
		イモーラ	E.ピッロ	アウディA4
❺	6/18	マジオーネ	E.ピッロ	アウディA4
		マジオーネ	R.カペロ	アウディA4
❻	7/9	ムジェッロ	F.ジョバナルディ	アルファロメオ155TS
		ムジェッロ	G.タルクイーニ	アルファロメオ155TS
7	8/6	ミザーノ		イタリア
8	9/3	エンナ・ペルグーサ		イタリア
9	9/17	バラーノ		イタリア
10	10/8	パッレルンガ		イタリア

その他のツーリングカーイベント

	6/17～18	ニュルブルクリンク24時間 R.ラバーリア/M.デュエツ/ブルクステーラー	BMW320i
	7/29～30	スパ24時間	ベルギー
	10/6	バサースト1000	オーストラリア
	10/15	FIAワールドカップ（ポール・リカール）	フランス
	10/22	TOCAシューマッハ（ドニントン・パーク）	イギリス

BPR GTシリーズ

❶	2/26	ヘレス	R.ベルム/M.サンドロ・サーラ	マクラーレンF1 GTR	
❷	3/12	ポール・リカール	R.ベルム/M.サンドロ・サーラ	マクラーレンF1 GTR	
❸	3/26	モンツァ	J.ニールセン/T.フシャー	マクラーレンF1 GTR	
❹	4/9	ハラマ	R.ベルム/M.サンドロ・サーラ	マクラーレンF1 GTR	
❺	4/23	ニュルブルクリンク	R.ベルム/M.サンドロ・サーラ	マクラーレンF1 GTR	
❻	5/8	ドニントン・パーク	J.ニールセン/T.フシャー	マクラーレンF1 GTR	
❼	5/14	モンレリー	S.オベルトゥルファー/D.ヒューブナー	ポルシェ911 GT2	
❽	7/2	アンテルストープ	M.フォルテ/O.セベナン	フェラーリF40	
9	8/27	"鈴鹿1000km"鈴鹿			日本
10	9/17	シルバーストン			イギリス
11	9/24	セントゥール			インドネシア
12	10/8	ノガロ			フランス
13	11/12	チューハイ			中国

その他のGTイベント

6/17～18	ル・マン24時間	フランス
9/23～24	ル・マン・オータムミーティング	フランス

NASCARウィンストン・カップ・シリーズ（全31戦）

❶	2/19	デイトナ	S.マーリン	シボレー・モンテカルロ
❷	2/26	ロッキンガム	J.ゴードン	シボレー・モンテカルロ
❸	3/5	リッチモンド	T.ラボンテ	シボレー・モンテカルロ
❹	3/12	アトランタ	J.ゴードン	シボレー・モンテカルロ
❺	3/26	ダーリントン	S.マーリン	シボレー・モンテカルロ
❻	4/2	ブリストル	J.ゴードン	シボレー・モンテカルロ
❼	4/9	ノースウィルクスボロ	D.アーンハート	シボレー・モンテカルロ
❽	4/23	マーティンズビル	R.ウォレス	フォード・サンダーバード
❾	4/30	タラデガ	M.マーティン	フォード・サンダーバード
❿	5/7	ソノマ	D.アーンハート	シボレー・モンテカルロ
—	5/20	シャーロット		ノース・カロライナ州
⓫	5/28	シャーロット	B.ラボンテ	シボレー・モンテカルロ
⓬	6/4	ドーバー	K.ペティ	ポンティアック
⓭	6/11	ポコノ	T.ラボンテ	シボレー・モンテカルロ
⓮	6/18	ブルックリン	B.ラボンテ	シボレー・モンテカルロ
⓯	7/1	デイトナ	J.ゴードン	シボレー・モンテカルロ
⓰	7/9	ルードン	J.ゴードン	シボレー・モンテカルロ
⓱	7/16	ポコノ	D.ジャレット	フォード・サンダーバード
18	7/23	タラデガ		アラバマ州
19	8/5	インディアナポリス		インディアナ州
20	8/13	ワトキンズ・グレン		ニューヨーク州
21	8/20	ブルックリン		ミシガン州
22	8/26	ブリストル		テネシー州
23	9/3	ダーリントン		サウス・カロライナ州
24	9/9	リッチモンド		バージニア州
25	9/17	ドーバー		デラウェラ州
26	9/24	マーティンズビル		バージニア州
27	10/1	ノース・ウィルクスボロ		ノース・カロライナ州
28	10/8	シャーロット		ノース・カロライナ州
29	10/22	ロッキンガム		ノース・カロライナ州
30	10/29	フェニックス		アリゾナ州
31	11/12	アトランタ		ジョージア州

DOMESTIC RACE ●国内レース

全日本F3000選手権（全9戦）

❶	3/19	鈴鹿	服部 尚貴	レイナード93D・無限
❷	4/8	富士	悪天候のため中止	
❸	5/7	美祢	T.クリステンセン	ローラT94/50・無限
❹	5/21	鈴鹿	鈴木 利男	ローラT94/50・無限
5	7/30	SUGO INTER FORMULA		香生
6	9/3	FUJI INTER		富士
7	9/17	十勝インターナショナルF3000選手権レース		十勝
8	10/15	INTERNATIONAL F3000 FUJI FINAL		富士
9	11/19	ミリオンカードカップレース ファイナルラウンド		鈴鹿

全日本F3選手権（全10戦）

❶	3/19	鈴鹿	P.デ・ラ・ローサ	ダラーラF395・トヨタ
❷	4/8	富士	悪天候のため中止	
❸	4/23	筑波	本山 哲	ダラーラF395・無限
❹	5/7	美祢	P.デ・ラ・ローサ	ダラーラF395・トヨタ
❺	5/21	鈴鹿	P.デ・ラ・ローサ	ダラーラF395・トヨタ
❻	6/18	TI	P.デ・ラ・ローサ	ダラーラF395・トヨタ
7	7/30	SUGO INTER FORMULA		香生
8	9/3	FUJI INTER		富士
9	9/24	MILLION CARD N1-500		鈴鹿
10	10/8	ハイランド・スーパーツーリングカー選手権レース		仙台

全日本ツーリングカー選手権（全16戦）

❶	3/12	富士	T.クリステンセン	トヨタ・エクシヴ
		富士	T.クリステンセン	トヨタ・エクシヴ
❷	5/14	香生	関谷 正徳	トヨタ・エクシヴ
		香生	関谷 正徳	トヨタ・エクシヴ
❸	6/11	十勝	T.クリステンセン	トヨタ・エクシヴ
		十勝	M.クルム	トヨタ・エクシヴ
❹	7/2	鈴鹿	A.レイド	オペル・ベクトラ
		鈴鹿	S.ソーバー	BMW318i
❺	7/23	美祢	飯田 章	ニッサン・サニー
		美祢	A.レイド	オペルベクトラ
6	8/6	筑波スーパーツーリングカー選手権レース		TI
7	10/8	ハイランド・スーパーツーリングカー選手権レース		仙台
8	11/5	INTER-TEC		富士

全日本GT選手権（全6戦）

❶	4/2	鈴鹿300km	影山 正彦	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
❷	5/4	富士250km	松田 秀士/飯田 章	ポルシェ911GT2
❸	6/25	仙台250km	関谷 正徳/M.クルム	トヨタ・スープラ
4	8/13	JAPAN SPECIAL GT-CUP(250km)		富士
5	9/10	SUGO GT選手権レース(250km)		香生
6	10/1	グランドツーリングカー耐久レース(300km)		美祢

N1耐久ラウンドシリーズ95 愛車爆走・耐久シリーズ（全7戦）

❶	3/26	美祢500km	都平健二/河合博之	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
❷	4/30	仙台200マイル	原 貴彦/和田 久	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
❸	6/4	富士6時間	横島 久/竹内浩典	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
❹	8/18	TI・爆走400km	木下みつひろ/菅波 博	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
❺	7/15～16	十勝24時間	横島 久/竹内浩典/中川隆正	ニッサン・スカイラインGT-R(R32)
6	9/24	MILLION CARD N1-500km		鈴鹿
7	11/12	SUGO・爆走500km		香生

その他の耐久レース

	7/15～16	十勝24時間	高橋 国光/土屋 圭市/服部 尚	ホンダNSX
	8/12～13	95筑波ナイター9時間耐久レース		筑波
	8/27	インターナショナル鈴鹿1000kmレース		鈴鹿

全日本ラリー選手権 第1部門（全7戦）

●Cクラス

❶	2/4～5	DCCSウインターラリー	松田原文雄/小田切順之	ミツビシ・ランサー
❷	2/18～19	TRCAウインターラリーin恵那	桜井幸彦/大溝敏夫	スバル・インプレッサ
❸	4/22～23	ACK SPRING RALLY	綾部美津雄/市野 昭	スバル・インプレッサ
❹	5/27～28	モントレー'95	桜井幸彦/大溝敏夫	スバル・インプレッサ
❺	7/8～9	'95 ノースアタックラリー	桜井幸彦/大溝敏夫	ソバルインプレッサ
❻	7/22～23	ひえつき'95	山口 修/松尾博成	ミツビシ・ランサー
7	10/14～15	第23回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ		長野・岐阜

●Bクラス

❶	2/4～5	DCCSウインターラリー	田口幸宏/藤田幸一	ミツビシ・ミラージュ
❷	2/18～19	TRCAウインターラリーin恵那	鎌田 豊/脇坂 豊	ミツビシ・ミラージュ
❸	4/22～23	ACK SPRING RALLY	増村 淳/吉田和広	ミツビシ・ミラージュ
❹	5/27～28	モントレー'95	原口 真/小花敏也	ミツビシ・ミラージュ
❺	7/8～9	'95 ノースアタックラリー	鎌田 豊/脇坂 豊	ミツビシ・ミラージュ
❻	7/22～23	ひえつき'95	原口 真/石田勝弥	ミツビシ・ミラージュ
7	10/14～15	第23回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ		長野・岐阜

●Aクラス

❶	2/4～5	DCCSウインターラリー	葉津原 豊/高橋昭彦	スズキ・アルト
❷	2/18～19	TRCAウインターラリーin恵那	葉津原 豊/高橋昭彦	スズキ・アルト
❸	4/22～23	ACK SPRING RALLY	雅広/秋竹誠之	スバル・ヴィヴィオ
❹	5/27～28	モントレー'95	雅広/秋竹誠之	スバル・ヴィヴィオ
❺	7/8～9	'95 ノースアタックラリー	葉津原 豊/高橋昭彦	スズキ・アルト
❻	7/22～23	ひえつき'95	葉津原 豊/高橋昭彦	スズキ・アルト
7	10/14～15	第23回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ		長野・岐阜

全日本ラリー選手権 第2部門（全5戦）

❶	6/18	M.C.S.C.ハイランドラリー	鷲見広康/高橋浩子	トヨタ・スターレット
2	8/26～27	'95 HELOM RALLY MEETING		福井
3	9/30～10/1	'95 ザ・ラリーin北海道		北海道
4	10/28～29	MCA・BARU'95		大分
5	11/18～19	第1回DCCSオータムナイトラリーII（仮称）		長野・群馬

全日本ジムカーナ選手権（全8戦）

❶	3/19	名阪スポーツランド	古瀬 光男	M-I・トヨタ
❷	4/9	三木・三志オートスポーツランド	山本 真宏	T3・トヨタ
❸	4/30	キョウセイスポーツランド	古瀬 光男	M-I・トヨタ
❹	5/28	スポーツランドタマダ	古瀬 光男	M-I・トヨタ
❺	6/18	ラリーキッズ伊那Aパレット	山本 真広	T3・トヨタ
6	7/23	スポーツランドSUGO国際カートコース		宮城
7	8/27	三井グリーンランド		北海道
8	9/17	浅間台スポーツランド		千葉
—	11/5	JAFカップ		鈴鹿サーキット南コース

全日本ダートトライアル選手権（全8戦）

●Dクラス

❶	3/11～12	三青・三志オートスポーツランド	田嶋 伸博	スズキ・カルタス
❷	4/23	丸和オートランド那須	田嶋 伸博	スズキ・カルタス
❸	5/28	鈴鹿サーキットモトクロス場	田嶋 伸博	スズキ・カルタス
❹	6/18	オートスポーツランド砂川	田嶋 伸博	スズキ・カルタス
❺	7/16	丸和オートランド那須	田嶋 伸博	スズキ・カルタス
6	8/27	スポーツランド信州		長野
7	9/17	テクニックステージタカタ		広島
8	10/8	坂出番ノ州特設会場		香川
—	11/12	オールスター		鈴鹿サーキットモトクロス場

WORLD EVENTS & RESULTS ●世界中のイベントと結果が分かるページ

OVERSEAS RACE ●海外レース

F1世界選手権（全17戦）

1	3/26	ブラジルGP	M.シューマッハー	ベネトンB195・ルノー
2	4/9	アルゼンチンGP	D.ヒル	ウイリアムズFW17・ルノー
3	4/30	サンマリノGP	D.ヒル	ウイリアムズFW17・ルノー
4	5/14	スペインGP	M.シューマッハー	ベネトンB195・ルノー
5	5/28	モナコGP	M.シューマッハー	ベネトンB195・ルノー
6	6/11	カナダGP	J.アレジ	フェラーリ412T2
7	7/2	フランスGP	M.シューマッハー	ベネトンB195・ルノー
8	7/16	イギリスGP	J.ハーバート	ベネトンB195・ルノー
9	7/30	ドイツGP		ホッケンハイム
10	8/13	ハンガリーGP		ブダペスト
11	8/27	ベルギーGP		スパ・フランコルシャン
12	9/10	イタリアGP		モンツァ
13	9/24	ポルトガルGP		エストリル
14	10/1	ヨーロッパGP		ニュルブルクリング
15	10/22	パシフィックGP		TIサーキット・英田
16	10/29	日本GP		鈴鹿
17	11/12	オーストラリアGP		アデレイド市街地

世界ラリー選手権（全8戦）

1	1/21～27	モンテカルロ	C.サインツ/L.モヤ	スバル・インプレッサ
2	2/9～12	スウェディッシュ	K.エリクソン/S.パルマンダー	ミツビシ・ランサー
3	3/6～11	ポルトガル	C.サインツ/L.モヤ	スバル・インプレッサ
4	5/1～6	ツール・ド・コルス	D.オリオール/D.ジロードヨク	セリカGT-FOUR
5	7/27～30	ニュージーランド		ニュージーランド
6	9/15～18	オーストラリア		オーストラリア
7	10/22～25	カタロニア		スペイン
8	11/19～22	RAC		イギリス

2Q世界ラリー選手権（全10戦）

1	1/21～27	モンテカルロ	J.ラニョッティ/G.シモニエ	ルノー・クリオ
2	2/9～12	スウェディッシュ	P.サバン/J.オロソン	オペル・アストラGSi
3	3/6～11	ポルトガル	P.ベイラ/P.スカルピニ	プジョー306S16
4	4/13～17	サファリ	A.アンワー/S.シャー	ダイウー・シエロ
5	5/1～6	ツール・ド・コルス	P.プカルスキー/J-P.チアロニ	ルノー・クリオ
6	5/27～31	アクロポリス	E.ウェバー/M.マーヒー	セアト・イビーサGTi16V
7	7/3～8	アルゼンチン	P.シベラ/P.クロス	スコダ・フェリシア
8	7/27～30	ニュージーランド		ニュージーランド
9	8/25～27	1000湖		フィンランド
10	10/8～12	サンレモ		イタリア

アジア・パシフィック・ラリー選手権（全6戦）

1	7/7～9	インドネシア	C.マクレー/D.リンカー	スバル・インプレッサ
2	7/27～30	ニュージーランド		ニュージーランド
3	8/12～14	マレーシア		マレーシア
4	9/15～18	オーストラリア		オーストラリア
5	10/12～18	香港		中国
6	12/1～5	タイランド		タイ

クロスカントリーラリー・ワールドカップ（全7戦）

1	4/13～21	チュニジア	P.ラルティグ/M.ペラン	シトロエンZX
2	5/19～29	アトラス	A.パタネン	シトロエンZX
3	6/22～25	パハ・ニコラ1000		ポルトガル
4	7/21～23	パハ・エスパーニャ		スペイン
5	7/27～30	イタリアン・パハ		イタリア
6	8/18～27	オーストラリアン・サファリ		オーストラリア
7	11/6～11	UAEデザート・チャレンジ		アラブ首長国連邦

国際F3000選手権（全8戦）

1	5/7	シルバーストン	R.ロセット	レイナード95D・コスワース
2	5/13	バルセロナ	V.ソスピーリ	レイナード95D・コスワース
3	6/5	ポー	V.ソスピーリ	レイナード95D・コスワース
4	7/23	エンナ・ペルグーサ	R.ロセット	レイナード95D・コスワース
5	7/30	ホッケンハイム		ドイツ
6	8/27	スパ・フランコルシャン		ベルギー
7	9/24	エストリル		ポルトガル
8	10/15	マニ・クール		フランス

国際ツーリングカー選手権（全7戦）

1	5/21	ムジェッロ	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
			D.フランキッティ	AMGメルセデスCクラス
2	6/4	ヘルシンキ	C.ダナー	アルファロメオ155V6TI
		ヘルシンキ	N.ラリーニ	アルファロメオ155V6TI
3	7/9	ドニントン	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
		ドニントン	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
4	8/6	エストリル		ポルトガル
5	9/3	スパ・フランコルシャン		ベルギー
6	10/8	マニ・クール		フランス

インディカー・ワールド・シリーズ（全17戦）

1	3/5	マイアミ	J.ビルヌーブ	レイナード95i・フォード
2	3/19	サーファーズ・パラダイス	P.トレーシー	ローラT95/00・フォード
3	4/2	フェニックス	R.ゴードン	レイナード95i・フォード
4	4/9	ロングビーチ	A.アンサーJr	ペンスキーPC-25・メルセデス
5	4/23	ナザレス	E.フィッティパルディ	ペンスキーPC-25・メルセデス
6	5/28	インディアナポリス500	J.ビルヌーブ	レイナード95i・フォード
7	6/4	ミルウォーキー	P.トレーシー	ローラT95/00・フォード
8	6/11	デトロイト	R.ゴードン	レイナード95i・フォード
9	6/25	ポートランド	J.パッサー	レイナード95i・フォード
10	7/9	エルクハート・レイク	J.ビルヌーブ	レイナード95i・フォード
11	7/16	トロント	M.アンドレッティ	ローラLT95・フォード
12	7/23	クリーブランド	J.ビルヌーブ	レイナード95i・フォード
13	7/30	ブルックリン		ミシガン州
14	8/13	レキシントン		オハイオ州
15	8/20	ロードン		ニューハンプシャー州
16	9/3	バンクーバー		カナダ
17	9/10	ラグナ・セカ		カリフォルニア州

IMSA エクソン・ワールドスポーツカー選手権（全13戦）

1	2/4～5	デイトナ24時間	J.ラシオ/M.ベルナー/C.ファシー・G.ラッシ	ポルシェスパイダーRS
2	3/18	セブリング12時間	M.バルディ/M.アルボレート/E.バーナベー	フェラーリ333SP
3	4/30	ロード・アトランタ1時間	J.ウィーバー/B.ライツインガーR&SMK-3・フォード	
4	5/21	ハリファクス	M.バルディ/F.ベレッツ	フェラーリ333SP
5	5/29	ライムロック2時間	W.テイラー	フェラーリ333SP
6	6/24	ワトキンズ・グレン1時間	J.ウィーバー/B.ライツインガーR&SMK-3・フォード	
7	7/16	シアーズ・ポイント		カリフォルニア州
8	7/23	ポートランド		オレゴン州
9	8/6	ブレイナード4時間		ミネソタ州
10	8/13	モスポート・パーク		カナダ
11	9/16	カレッジ・ステーション		テキサス州
12	9/30	フェニックス		アリゾナ州
13	10/8	ニューオリンズ		ルイジアナ州

イギリスF3選手権（全12戦）

1	3/26	シルバーストン	R.ファーマン	ダラーラF395・無限
		シルバーストン	R.ファーマン	ダラーラF395・無限
2	4/17	スラクストン	O.キャビン	ダラーラF395・ボクスホール
		スラクストン	O.キャビン	ダラーラF395・ボクスホール
3	4/23	ドニントン・パークH.	C.ネベス	ダラーラF395・無限
4	5/29	シルバーストン	J.デュフォー	ダラーラF395・無限
5	7/16	シルバーストン	G.サレス	ダラーラF395・無限
6	7/29～30	ドニントン・パーク		イギリス
7	8/19	オールトン・パーク		イギリス
8	8/28	ブランズ・ハッチ		イギリス
9	9/10	スネッタートン		イギリス
10	9/24	ベンブレイ		イギリス
11	10/8	シルバーストン		イギリス
12	10/15	スラクストン		イギリス

ドイツF3選手権（全8戦）

1	4/9	ホッケンハイム	N.フォンタナ	ダラーラF395・オペル
		ホッケンハイム	N.フォンタナ	ダラーラF395・オペル
2	5/7	アブス	N.フォンタナ	ダラーラF395・オペル
		アブス	N.フォンタナ	ダラーラF395・オペル
3	6/25	ノリスリング	R.シューマッハー	ダラーラF395・オペル
		ノリスリング	M.アンジェレッリ	ダラーラF395・オペル
4	7/23	ディープホルツ	R.シューマッハー	ダラーラF395・オペル
5	8/20	ニュルブルクリング		ドイツ
6	9/3	ル・マン		フランス
7	9/17	ジンゲン		ドイツ
8	10/1	ホッケンハイム		ドイツ

フランスF3選手権（全10戦）

1	4/2	レドゥノン	A.ジャノレイ	ダラーラF395・オペル
2	4/16	ノガロ	D.デュソー	ダラーラF395・ルノー
		ノガロ	D.デュソー	ダラーラF395・ルノー
3	4/30	マニ・クール	N.ミナシアン	ダラーラF395・フィアット
		マニ・クール	N.ミナシアン	ダラーラF395・フィアット
4	5/21	ディジョン	L.レドン	ダラーラF395・フィアット
5	6/4	ポー	A.ジャノレイ	ダラーラF395・オペル
6	6/25	パル・ドゥ・ビエンヌ	J.プエ	ダラーラF395・フィアット
7	7/2	クロワザン・テルノワ		フランス
8	7/23	ポール・リカール		フランス
9	9/3	アルビ		フランス
10	9/17	ル・マン		フランス

イタリアF3選手権（全10戦）

1	3/26	モンツァ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
		モンツァ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
2	4/17	マジオーネ	G.バクリッチ	ダラーラF395・フィアット
		マジオーネ	G.バクリッチ	ダラーラF395・フィアット
3	5/7	エンナ・ペルグーサ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
		エンナ・ペルグーサ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
4	6/4	バッレルンガ	L.ランゴーニ	ダラーラF395・フィアット
		バッレルンガ	L.ランゴーニ	ダラーラF395・フィアット
5	6/18	パラーノ	G.バッチオーニ	ダラーラF395・フィアット
		パラーノ	G.バッチオーニ	ダラーラF395・フィアット
6	6/25	モンツァ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
		モンツァ	A.ボルドリーニ	ダラーラF395・フィアット
7	7/23	ムジェッロ	T.ヒアシ	ダラーラF395・オペル
		ムジェッロ	T.ランゴーン	ダラーラF395・フィアット
8	9/3	ビネット		イタリア
9	9/17	イモーラ		イタリア
10	10/15	ミザーノ		イタリア

その他のF3イベント

	5/27	モナコ	G.バッチオーニ	ダラーラF395・フィアット
	8/6	マールボロ・マスターズ・オブ・F3		サンドアールト
	11/19	マカオGP		マカオ市街

ドイツ・ツーリングカー選手権（全12戦）

1	4/23	ホッケンハイム	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
		ホッケンハイム	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
2	5/7	アブス	K.ティーム	AMGメルセデスCクラス
		アブス	事故のため中止	
3	6/25	ノリスリング	C.ダナー	アルファロメオ155 V6TI
		ノリスリング	B.シュナイダー	AMGメルセデスCクラス
4	7/23	ディープホルツ	M.バルテルス	アルファロメオ155 V6TI
		ディープホルツ	M.バルテルス	アルファロメオ155 V6TI
5	8/20	ニュルブルクリング		ドイツ
6	9/17	ジンゲン		ドイツ
7	10/15	ホッケンハイム		ドイツ

ドイツ・スーパーツーリングカーカップ（全16戦）

1	4/30	ゾルダー	F.ビエラ	アウディA4
2	5/14	スパ	J.ピンケルホック	BMW318iS
3	5/28	エステラライセリングF.	ビエラ	アウディA4
4	6/11	ホッケンハイム	F.ビエラ	アウディA4
5	7/2	ニュルブルクリンク	A.パクストラー	BMW318iS
6	8/27	ザルツブルクリング		オーストリア
7	9/10	アブス		ドイツ
8	9/24	ニュルブルクリング		ドイツ

イギリス・ツーリングカー選手権（全25戦）

1	4/2	ドニントン・パーク	J.クレランド	ホクスホール・カバリエ16V
		ドニントン・パーク	R.リテル	ボルボ850
2	4/17	ブランズ・ハッチ	T.ハーベイ	ボルボ850
		ブランズ・ハッチ	T.ハーベイ	ボルボ850
3	5/8	スラクストン	A.ムニュ	ルノー・ラグナ
		スラクストン	J.トンプソン	ホクスホール・カバリエ16V
4	5/14	シルバーストン	R.リテル	ボルボ850
		シルバーストン	P.ラディシク	フォード・モンデオ
5	5/29	オールトン・パーク	R.リテル	ボルボ850
		オールトン・パーク	A.ムニュ	ルノー・ラグナ
6	6/11	ブランズ・ハッチ	A.ムニュ	ルノー・ラグナ
		ブランズ・ハッチ	J.クレランド	ホクスホール・カバリエ16V
7	6/25	ドニントン・パーク	J.クレランド	ホクスホール・カバリエ16V
		ドニントン・パーク	J.クレランド	ホクスホール・カバリエ16V
8	7/16	シルバーストン	J.クレランド	ホクスホール・カバリエ16V
9	7/30	ノックヒル（2ヒート）		イギリス
10	8/13	ブランズ・ハッチ（ショートコース/ダブルヘッダー）		イギリス
11	8/28	スネッタートン（2ヒート）		イギリス
12	9/10	オールトン・パーク（ショートコース/2ヒート）		イギリス
13	9/24	シルバーストン（ショートコース/ダブルヘッダー）		イギリス

EVENT CALENDAR 8/4-8/20 ●イベントカレンダー

BIWEEKLY EVENTS/OVERSEAS

●海外レース

開催日	シリーズ	イベント	コース	開催国	参加車両
8月5日	NASCARウィンストン・カップ・シリーズ第19戦	ブリックヤード400	インディアナポリス	アメリカ	NASCAR
8月6日	国際ツーリングカー選手権第5・6戦	エストリル	エストリル	ポルトガル	FIAクラス1
8月6日	IMSAエクソン・ワールドスポーツカー選手権第9戦	ブレイナード4時間	ブレイナード	アメリカ	IMSA
8月6日	イタリア・スーパーテューリズモ選手権第7戦	ミザーノ	ミザーノ	イタリア	FIAクラス2
8月6日	マールボロ・マスターズ・オブ・F3	ザンドフールト	ザンドフールト	オランダ	F3
8月13日	F1第10戦	ハンガリーGP	ブダペスト	ハンガリー	F1
8月13日	PPGインディカー・ワールド・シリーズ第14戦	ミラー ジェニュイン ドラフト500	レキシントン	アメリカ	インディカー
8月13日	IMSAエクソン・ワールドスポーツカー選手権第10戦	モスポート・パーク	モスポート・パーク	カナダ	IMSA
8月13日	イギリス・ツーリングカー選手権第18/19戦	ブランズ・ハッチ(ショートコース)	ブランズ・ハッチ	イギリス	FIAクラス2
8月13日	NASCARウィンストン・カップ・シリーズ第20戦	ザ・バド・アト・ザ・グレン	ワトキンズ・グレン	アメリカ	NASCAR
8月19日	イギリスF3選手権第7戦	オールトン・パーク	オールトン・パーク	イギリス	F3
8月20日	ドイツF3選手権第5戦	ニュルブルグリング	ニュルブルグリング	ドイツ	F3
8月20日	NASCARウィンストン・カップ・シリーズ第21戦	グッドレンチ ディアラー400	ブルックリン	アメリカ	NASCAR

●海外ラリー

開催日	イベント	開催国	シリーズ	参加車両
8月12~14日	マレーシアラリー	マレーシア	アジア-パシフィックラリー選手権第3戦	グループA,N,F2
8月18~27日	オーストラリアン・サファリ	オーストラリア	クロスカントリーラリー・ワースドカップ第6戦	グループA,N,F2

BIWEEKLY EVENTS/DOMESTIC

●国内レース

開催日	イベント	開催地	主催者		格式	参加車両
8月4~6日	FIA ELECTRO-SOLAR CUP コスモ石油カップ ソーラーカーレース鈴鹿95	鈴鹿サーキット	株鈴鹿サーキットランド,読売新聞社 他日本自動車連盟	☎0593-78-1111	国際	ソーラーカー,電気自動車
8月5~6日	95全日本ツーリングカー選手権シリーズ第11/12戦 TIサーキット・英田スーパーツーリングカー選手権レース	TIサーキット・英田	VICIC,SCCN,TMSC,AC	☎03-3409-2391	国内	N-T,F4,NE
8月5~6日	IDEX CUP95 九州耐久シリーズ第2戦 レーシングパーク耐久フェスティバル	オートポリス	MCO	☎0973-26-1111	準国内	FJ1600,N1,N2,NE
8月6日	北海道レースチャレンジシリーズ アークロングディスタンスレース	北海道スピードパーク	TEAM ARK	☎011-852-6601	準国内	準国内 N1,NE
8月6日	ローバーミニ,ジャンボリー イン 筑波	筑波サーキット	財日本オートスポーツセンター 筑波サービス株,CLUB R MINI	☎03-3424-7841	準国内	N1(ミニ),NE(ミニ),NE
8月12~13日	95全日本GT選手権シリーズ第4戦 JAPAN SPECIAL GT-CUP	富士スピードウェイ	富士スピードウェイ株 FISCO-C,VICIC	☎03-3216-5611	国内	N-GT,N1,NE
8月12~13日	95筑波ナイター9時間耐久レース	筑波サーキット	ACC・S,筑波サービス株 財日本オートスポーツセンター SCCN	☎03-3901-0158	国内	N1
8月19~20日	95レース・ド・ニッポン	筑波サーキット			準国内	FJ1600,N1,NE
8月20日	95中山フレッシュマンカップレースNo.7	中山サーキット	株山陽スポーツランド	☎0869-93-2333	準国内	N1
8月19~20日	95ハイランドゴールデンカップレース第2戦	仙台ハイランドレースウェイ	奥州VICIC	☎022-225-1301	準国内	FJ1600,N1,N2,NE
8月20日	95北海道クラブマンカップレースシリーズ第2戦	十勝インターナショナルスピードウェイ	十勝モーターパーク 株,TOSC	☎0155-52-3910	準国内	FJ1600,N1,N2,NE

●国内ラリー

開催日	イベント	開催地	格式	主催者	
8月5~6日	第16回神大ラリー(DE地区第1・2部門)	兵庫 250km	準国内	チーム神大	☎078-321-1101
8月19~20日	グラベルマインドラリー95イン玄海(H地区第2部門)	福岡 150km	準国内	CRAVEL	☎0940-62-1018
8月20日	第15回ラナウェイ恵庭ポリスラリー(A地区第1・2部門)	北海道 180km	準国内	CCR	☎011-811-8186

BACK NUMBER ●バックナンバー/定期購読のご案内

●バックナンバーのご案内 バックナンバーは下記の要領でお買い求めいただけます。

○購入方法 お近くの書店に注文されるか、または直接㈱ニューズ出版「レーシングオン バックナンバー係」まで、希望号数および冊数を明記の上、誌代に送料を加えた代金を現金書留、もしくは定額小為替でご注文ください。

○在庫/定価 93年1/1号(No.134)以降最新号まで在庫があります。それ以前の号はすべて品切れです。定価=93年は各450円(ただし、3/15・11/15号は特別定価480円)。増刊号は93年「インディ インディ」定価650円(送料:108円)、94年「A伝説」定価1500円(送料:164円)の在庫があります。臨時増刊号のF1速報はすべて品切れとなっていますのでご注意ください。なお、現在在庫がある号でも品切れになる場合があります(94年6/15号(No.167)、94年7/22号(No.170は品切れです)。

○送料1冊108円、2冊164円、3冊の場合は1冊分+2冊分=272円、4冊の場合2冊分×2=328円、以下同様です。10冊以上の場合は宅急便による送料着払いにさせていただきます。申し込み時に誌代のみ送金ください。

●定期購読のご案内 レーシングオンを確実にお求めいただくために定期購読をお薦めします。「○年○月○日号(No.○)より○カ月間定期購読希望」と明記のうえ、㈱ニューズ出版「レーシングオン定期購読係」まで現金書留または定額小為替でお申し込みください。料金は6カ月間13冊分6860円(送料含む)、12カ月間26冊分1万3700円(送料含む)です。

申し込み先 〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 ㈱ニューズ出版「レーシングオン・バックナンバー係」/「レーシングオン定期購読係」☎03-5430-4440

＊お届けまでに3週間ほどかかる場合があります。ご了承ください。



1995 No190
28-APRIL
定価420円
F1GP第2戦アルゼンチン/95F1ニューマシン&ドライバーカタログ/JGTC開幕戦,鈴鹿/BTCC第1・2戦ドニントンパーク/インディカー第3戦フェニックス/N1耐久開幕戦,美祢/Nゼロ宣言/ル・マンに本気で挑むフェラーリ333SP



1995 No191
12-MAY
定価420円
日本人初、藤本吉郎サファリラリーで優勝/速報DTM開幕戦ホッケンハイム/GTマシンカタログ&解説/モータースポーツお遊び施設ガイド/全日本F3第3戦筑波/インディカー第4戦ロングビーチ/ステップドボトム時代のF1空力トレンド



1995 No192
26-MAY
定価420円
ル・マン24時間予備予選,ワークスNSX登場/JTCC,I2ドライバーズインタビュー/速報全日本F3000 第3戦奥林/WRC第4戦ツール・ド・コルス/全日本GT第2戦富士/F1第3戦サンマリノ/BTCC第3・4戦ブランズ・ハッチ/N1耐久第2戦仙台



1995 No193
9-JUNE
定価420円
DTM世界進出/ ITC開幕戦ムジェロ/全日本F3000第4戦鈴鹿/N1R33GT-R試乗/インタビュー、ミカ・サロ/全日本F3第5戦鈴鹿/JTCC第3・4戦菅生/DTM第3・4戦アブス/F1第4戦スペイン/国際F3000 第1戦、第2戦



1995 No194
23-JUNE
定価420円
特集:インディ500/'95インディ500マシンカタログ/ル・マン直前テスト&徹底ガイド/ITC第3・4戦ヘルシンキ/WRCフォーミュラ2キットカー解剖/F1第5戦モナコ/'95DTMマシンカタログ/N1耐久第3戦富士/全日本ラリー第4戦



1995 No195
7-JULY
定価420円
ル・マン24時間、関谷正徳マクラーレンF1 GTR優勝、チーム国光クラス優勝/N1耐久ラウンド第4戦TI/全日本F3第6戦TI/F1第6戦カナダGP/JTCC第5・6戦十勝/インディカー第7戦ミルウォーキー/全日本F3000中間展望スペシャル



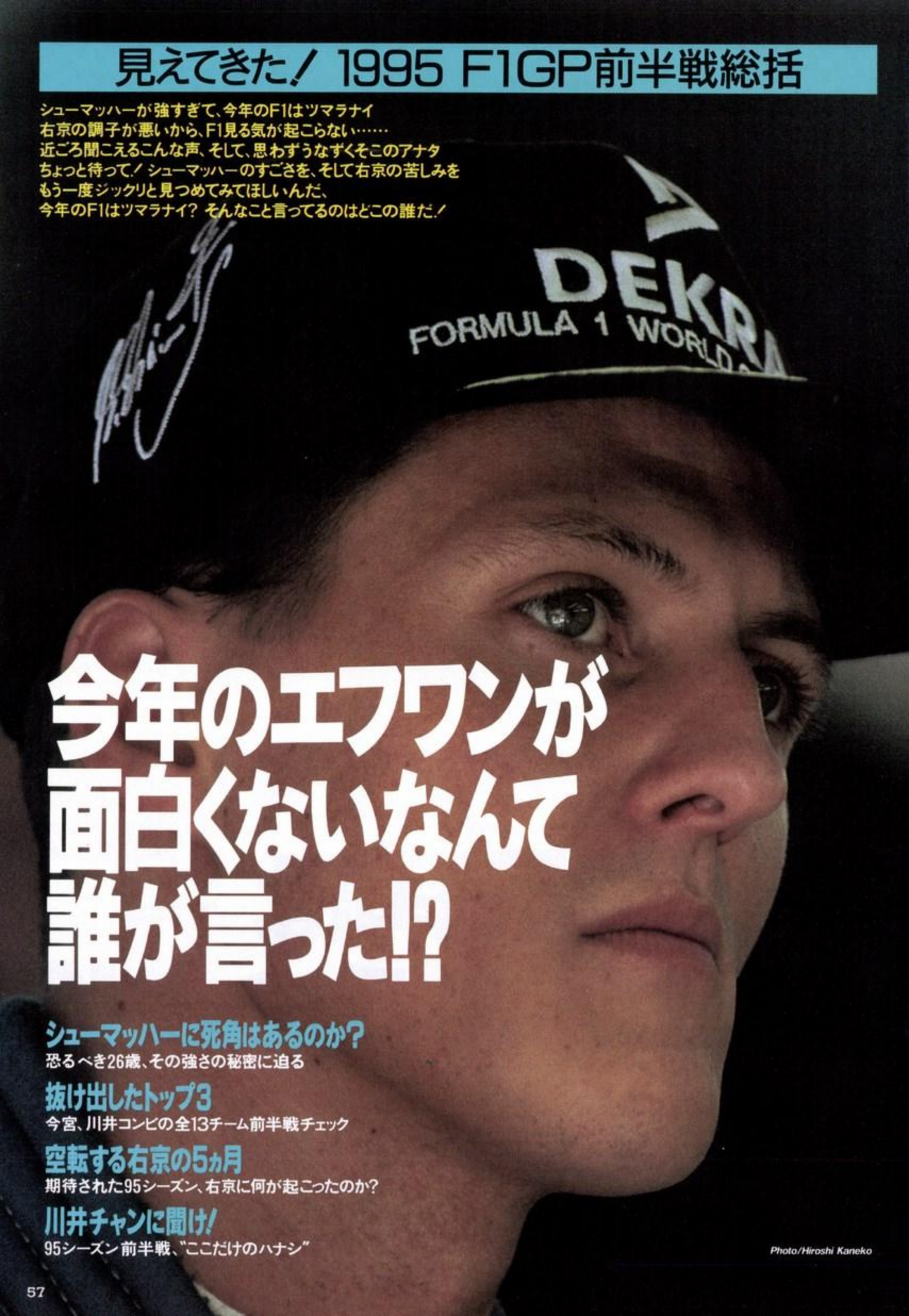
1995 No196
21-JULY
定価420円
JTCC第7・8戦鈴鹿/F1第7戦フランスGP/関谷正徳凱旋インタビュー/チーム国光対談/ジャン・アレジインタビュー/'95ル・マン,日本の挑戦/JGTC第3戦仙台/インディカー第8戦デトロイト/DTM第5・6戦ノリスリング



1995 No197
8-AUGUST
定価420円
F1第8戦イギリスGP/N1耐久第5戦十勝24時間/後半戦F1計画の全貌/井上隆智穂インタビュー/アジ・パシ・ラリー選手権/バイクスピーク・ヒルクライム/BTCC第13・14戦/インディカー第9戦/ITC第5・6戦/鈴鹿1000kmへ行こう

見えてきた！ 1995 F1GP前半戦総括

シューマッハーが強すぎて、今年のF1はツマラナイ
右京の調子が悪いから、F1見る気が起こらない……
近ごろ聞こえるこんな声、そして、思わずうなずくそこのアナタ
ちょっと待って！ シューマッハーのすごさを、そして右京の苦しみを
もう一度ジックリと見つめてみてほしいんだ、
今年のF1はツマラナイ？ そんなこと言ってるのはどこの誰だ！



今年のエフワンが面白くないなんて誰が言った!?

シューマッハーに死角はあるのか?
恐るべき26歳、その強さの秘密に迫る

抜け出したトップ3
今宮、川井コンビの全13チーム前半戦チェック

空転する右京の5ヵ月
期待された95シーズン、右京に何が起こったのか?

川井チャンに聞け!
95シーズン前半戦、"ここだけのハナシ"

Photo/Hiroshi Kaneko

イギリスGP。ヒルは、強引にベネトンの内側へとノーズを滑り込ませ、クラッシュ／　チャンピオン、シューマッハーが放つ威圧感が、スケールの大きさが、ヒルの焦りを生んだのか？



シューマッハーに死角はあるのか!?



文／今宮 純
Photos/Hiroshi Kaneko, Kenji Sawada

恐るべき26歳、その強さの秘密に迫る

今年のエフワンが面白くないなんて誰が言った!?

94年F1ワールドチャンピオン、ミハエル・シューマッハー
前年、グランプリサーカスの頂点を極めた26歳の青年は
既に『孤高の戦士』の域に達しているドライバーともいえる
今年のワールドチャンピオンシップを突っ走るサイボーグ
シューマッハーに死角はないのだろうか?
開幕前から前半戦にかけての彼を追う



彼を中心にF1は回る

今年のシューマッハーは無口でいることが多くなった。余計なおしゃべりはしない分、レースに没頭するのだと、自分自身を追い詰めているかに見える。

今年、シューマッハーは専属の〝広報官〟を連れている。内外記者団に応対するためのスポークスマンを、ベネトンチーム広報担当者とは別に用意しているのだ。かつてここまでやったチャンピオンはいない。アイルトン・セナは自分の言葉で（時には感情的に）我々に訴えかけ、アラン・プロストも聞けばけっこうペラペラと笑いを誘いつつ説明した。

彼は、今年パドックに増えたドイツ人プレスの取材攻勢に対し、毎日決まった時間にシューマッハー本人が、〝ドイツ向け記者会見〟を設けている。「さあ、なんでも聞いてくれ」と、この時ばかりはサービスするが、かえってその仰々しさが口うるさい他国のジャーナリスト連中からは疎んじられている。

「ポールを取っても、勝っても、アイツのコメントは内容が一緒で全然面白くない」

「言葉に人間味がないから記事にならない」

シューマッハー批判はあちこちで聞かれる。ともすればその批判が〝野次〟にも変わる。第6戦カナダGPで1位独走中にセミATのトラブルでピットストップした時だ。日笥がプレスルームに飛び交い、皆さん急にジャン・アレジに肩入れだ。ザマーミロと。

嫌われるほど強いやつ。

憎まれるほど速すぎる男……。

彼の姿に『孤高の戦士』を感じる。フランスTF1テレビ局の解説を務めるプロストも「今のF1で彼ひとりが別格。ひとクラス上にいる」と認めるほど、シューマッハーの存在は大きく、強くそびえ立っている。

前半8レースを終わったところで優勝は4回、ポールポジションは3回だけだが、その成績以上に強く、速いシューマッハー。誤解を恐れずに言えば、今のF1は全く彼を中心に回っていると言ってさしつかえない。

開幕ダッシュの失敗

やや話はさかのぼるが、ほぼ1年前の94年8月25日。ベルギーGPのスパ・フランコルシャンでルノー・スポールのP・ファウル社長会見が催された。その席上でルノーVIPはこう言っている。

「3年ほど前からベネトンからアプローチがあった。検討した結果、ウイリアムズとは異質のイメージを持つベネトンと、95年から3年パートナー契約を結ぶことにした」

ルノーはこの94年夏の時点で、シューマッハーのいるベネトンをウイリアムズと2チーム平等供給のかたちで選択した。F1グランプリに勝つこと、その次には勝ち続けること、これを企業のテーマとして選んだ。勝って勝って勝ち続けるために、若きリーダーたるシューマッハーのいるベネトンを抑える必要があった。この94年のルノーの動きは、87年のホンダとセナの動きと同じである。ホンダはウイリアムズと組んで勝ち、勝ち続けるために、セナのいるチームに2チーム供給を選んだ。今年からシューマッハー&ルノーは、セナ&ホンダと同じ道を歩み出したわけだ。

こうしてルノーとシューマッハーは〝結婚〟したが、新婚生活の滑り出しは決して上々ではなかった。ルノーV10専用のニューカー、B195の完成は今年に入って1月30日。シェイクダウンテストは2月6日からヘレスで始まるが、電気系、吸気コントロール系、油圧系トラブルが次々に出て、シューマッハーのイライラはつのった。原因としては、やはりベネトン初めてのハイパワーV10搭載からくる問題が次々に起きたからだ。ウイリアムズが既に6年の経験で熟知しているルノー特有のエンジン振動に悩まされ、油圧ポンプ駆動系が壊れたり、エレクトロニクス関係に誤作動が発生したりと、つまずきに遭遇した。

シェイクダウンテストの問題発生によって、ベネトンB195はすっかりその対策に追われてしまい、ニューカーの基本セッティング出しが順調に進まなくなった。たとえばレー

南米シリーズのシューマッハーに精神力の強靱さを見た



BRAZILIAN GP
ブラジルGP
予選2位／1'20"382
決勝1位

ルノーV10での初レース。インテルラゴスの荒れた路面でベネトンは苦戦。暴れるマシンをねじ伏せ続けて走ったシューマッハーはトップを走るヒルのスピンに助けられ、何とか初戦をモノにした。しかし、予選時の抜き打ち検査で燃料違反疑惑が浮上。突然の失格裁定を受ける苦いスタート。その後、4月13日に優勝が復活する



ARGENTINE GP
アルゼンチンGP
予選3位／1'54"272
決勝3位

予選で3位に沈みこんだシューマッハー。決勝でもスタートで2位に上がるものの、バンピーな路面でのB195は依然として不安定。後方から迫るヒルにあっさりとパスされてしまう。シューマッハーはその後もペースが上がらず。結局ヒル、アレジに続く3位でゴール。ウイリアムズとのパフォーマンスには大きな差が感じられた



SAN MARINO GP
サンマリノGP
予選1位／1'27"274
決勝リタイア
コースアウト

改修されたイモーラでのサンマリノGP。開幕から問題になっていたB195の神経質な操縦性が最悪の形で現れる。スタートでトップに立ち、1回目のタイヤ交換を終えた10ラップ目に、突然コントロールを失い大クラッシュ。原因は分からなかったが、2回目のフリー走行でもクラッシュを演じているだけに、ベネトン陣営の表情は暗い



SPANISH GP
スペインGP
予選1位／1'21"452
決勝1位

ウイリアムズ／ヒル陣営に押され気味だったシューマッハーが逆襲をはじめたのが、このスペインGP。ポールポジションからスタートしたシューマッハーはその後、一度たりともトップの座を明け渡さない完全勝利。チームメイトのハーバートと見事なワンツーフィニッシュを遂げる。ヒルは4位に沈み、1ポイント差でトップに

ス・シミュレーションなども1年前の分厚いテスト内容とは程遠いもので、長年のフォードから初めてのルノーへのスイッチは、想像以上の〝難産〟となった。

一方のウイリアムズFW17は約1カ月遅れた2月21日発表だったが、先行したベネトンが基本セッティングの遅れに苦しんでいたため、その完成の遅れを一気に取り戻し、逆にFW17の方が相対的には〝新車完成度〟を高め、3月26日開幕戦ブラジルGPを迎えた。南米2戦の新しい変則日程、これもベネトンに不利に働く。本拠地を遠く離れていてはテクニカルサポートもしにくくなる。

今年初めて見たシューマッハーのブラジルでのドライビングは、オフの走り込み不足を引きずったまま、思うようにならないマシンをねじ伏せてみたり、だましてみたり、非常にデリケートで、シューマッハーらしいとぎ澄まされたシャープさはない。印象に残るのはステアリング・ギヤボックス破損のため、コントロール不能のままコースアウトした瞬間だ。幸い、3速程度のコーナーだったから、シューマッハーは無事。しかしチームはジョニー・ハーバートのマシンにも異常発生の恐れありと、予選出走を止めさせた。

ベネトンの開幕戦は大ピンチだった。シューマッハー自身も珍しく弱気発言に終始した。

「レースで勝てる状態にあるとは思わない。何が起こるか分からないのがレースなので、とにかくベストは尽くすが……」

その言葉どおり、シューマッハーに勝ち目はないかに見えたレース展開だったが、ヒルのウイリアムズFW17にまさかのサスペンショントラブルが起き、1位でゴール。とにかくベストは尽くしたシューマッハーを次に待っていたのは〝elfガソリン問題〟。昨年中盤からつきまとったスキャンダルまで再び襲いかかり、さすがのシューマッハーもこの開幕のころが最も苦しい時だった。結局、ブラジルGP優勝は逆転判決によって認められるが、チームとマシンの状態は次の第2戦アルゼンチンGPも流れを引きずったまま。ヒルに抜かれ、3位でフィニッシュするのがやっとのシューマッハーに苦悩の色は隠せない。



死角はあるのか!?

――ひとつの狂いがその先行きをも狂わせる。新車完成→シェイクダウン→走り込み→基本セットアップ→開幕戦。その大きな流れをうまく進められなかったベネトン。しかし、シューマッハーは孤独のコクピットで粘り、南米2戦をヒルと1勝1敗で星を分け、アルゼンチン3位の4ポイント分だけリード。マシンハード面の開幕ダッシュ失敗を自らのベストドライビングで切り抜けたのだ。

『マシンが苦戦を強いられた時こそ、そのドライバーの真の実力がさらされる』

南米シリーズのシューマッハーに逆境をはね返す精神力の強靱さを見た――。

シューマッハーのスピン

第3戦サンマリノGPをスピンで終えたシューマッハー。非常に珍しいミスを犯した場面であった。彼がスピンやアクシデントがらみでレースを放棄したのは93年の日本GP、ヨーロッパGP、南アフリカGP。まだ若かったころの（今でも若いが）苦い記憶である。

トップドライバーのレースにおけるスピン、それは並みのドライバーのスピンとは違って格好の話題になる。日常茶飯事のスピンでも、シューマッハーがやったとなると話は別だ。

こうして今、95年序盤を振り返ってみると、初戦ブラジルからシューマッハーのスピンがたびたび起きていたのを思い起こす。彼はベネトンB195の熟成を急がねばならぬ過程で、体を張ってマシンの限界をなめつつ走っていたのではないか。

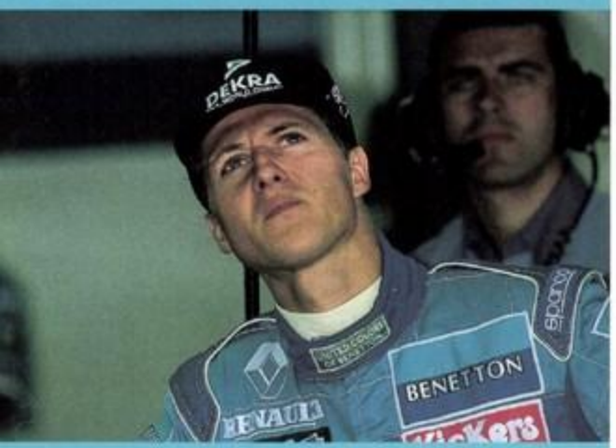
シューマッハーのスピンは速い。同じスピンでも、アプローチ速度が速くて、マシンがこらえきれずスピン、すなわちコントロールを失うポイントが通常より高いように見えるのだ。スピン状態に入ってしまったマシンの動きに注目しても、クルクルッと猛烈な回転速度で回る。限界点をノックしながらマシンに鞭打ち、スピンするまで自分自身を追い詰めるシューマッハー。

圧倒的な速さの裏に周到で緻密な裏付けが潜んでいる



MONACO GP
モナコGP
予選2位／1'22"742
決勝1位

2ストップ作戦のヒルに対し、シューマッハーは1ストップ。抜きどころの少ないモナコでのレースは一見、給油戦略の差が勝負の分かれ目になったように見える。しかし、問題は軽いマシンでスタートしたヒルがシューマッハーを十分に引き離せなかったことだろう。ここからヒルとシューマッハーの立場が完全に逆転しはじめた



CANADIAN GP
カナダGP
予選1位／1'27"661
決勝5位

ライバル、ヒルはメカニカルトラブルで早々にリタイア。スタートからトップを守り続けるシューマッハーにとってはイージーなレースになるはずだった。しかし58周目、突然、セミATにトラブルが発生。ベネトンがピットに滑り込む。ステアリングを交換し、再びコースに戻ったシューマッハーはなんとか5位でゴール



FRENCH GP
フランスGP
予選2位／1'17"512
決勝1位

ルノーの地元、フランスでのレース。予選ではヒルにポールポジションを奪われたものの、決勝では後方から激しくヒルのウイリアムズをプッシュ。完璧なピットワークも功を奏してトップを奪う。レースはルノー勢が1～3位を独占。ベネトンの強さが強く印象付けられた



BRITHISH GP
イギリスGP
予選2位／1'28"397
決勝リタイア
アクシデント

地元、デイモン・ヒルが気迫のポールポジション獲得。スタートではシューマッハーが出遅れ、アレジの後方3位に閉じ込められる。1ストップ作戦でトップに立つ作戦も、序盤でのロスがひびき、後方にヒルが迫る。しかし久しぶりのデッドヒートの予感は46周目、両者のクラッシュで、後味の悪い幕切れを迎えることに……

サンマリノGPのリタイア場面を見ていて、そこまでやるかと思い、そのひたむきさがグランプリそのもの、ワールドチャンピオンのハートなんだと、私は胸打たれた。ちょっとくさい表現かもしれないが、いいマシンを作るためにはそこまで賭けねばいけないという事実に私は気付き、シューマッハーという26歳の青年ドライバーをもう一度評価し直した。

ベネトンチームは南米シリーズを終えると第3戦サンマリノGP（4月30日）の前、4月18、19、20、21日とヘレスでテスト。その後、サンマリノGP後も5月2、3、4、5日とイモーラにそのまま残ってテストを続行。それだけ走り込んで迎えた第4戦スペインGPで、シューマッハーはようやくポールtoフィニッシュで優勝をものにした。このひとつのパーフェクトウインが達成されるまで、貪欲なまでの走り込みがその裏側にあったこと。こういう内面を本人はあまり表に出したがらない。マスコミも気付かないから、シューマッハーは生意気なアゴを突き出したスピード・ツッパリ野郎としか見られないのか。

速く走れば走るほど、俗に言う人気がどの国でも盛り上がらない、ドイツ人シューマッハー。コース上の彼をしばし見つめれば、プロスト先生ではないが、その水際立った別格のドライビングで魅せられるものがあるというのに。シューマッハーほど誤解されているチャンピオンも最近いなかったのではないか。

完全にシミュレートされた作戦

ポールポジションへのこだわり。それよりも今年のシューマッハーは日曜のチェッカーフラッグを最優先しているように見える。具体例を出すと、土曜午前中のフリー走行セッション45分×2回＝23周（規定周回制限）の使い方だ。このセッションをシューマッハーはレースシミュレーションにあてている。ガソリンタンク重量を厳密に管理し、多く積んだらどうか、少なめではマシンはどうか、それをタイヤ条件を同じにして走行する。規定により7セットしかないタイヤをレースに向けてセーブするためもあるが、このセッションに新品は使わない。同一のタイヤセットで周回を重ね、どれだけタイム変化が起きるかを確認する。もちろんそうやっておいてから、数周続けてレースペースで走り込み、燃料消費率も測定する。



シューマッハーに

ライバルのヒルがどちらかというと、その日の午後の予選ポールにこだわって、わざわざニュータイヤを使って予選セッティング仕様の確認をするのとは違う動きだ。

さらに細かく見てみると、日曜朝の30分しかないウォームアップでも、シューマッハーは時間めいっぱい走って、燃費の最終確認をする場合が多い。モナコも、カナダも、フランスも、イギリスも。そこまでやって初めて、あの見事なピット給油作戦の成功がある。ヒルが2回なら1回、1回なら2回という裏をかく作戦もとれるわけだ。レース序盤のガソリンの重いとき、ピットインやアウトラップでヒルにグンと差をつけるのもうなずける。

ちなみに今年8戦の『土曜フリー走行順位』をチェックすると、ヒルは5戦で予選並みのトップタイムを出している。シューマッハーは南米2戦とイギリスだけ。南米のトップタイムを逆に読むと、レースシミュレーションより、とにかくマシンのタイム（速さ）をこの時は追求したからだろう。つまりそれだけ余裕がなかったと解釈できる。さらに『日曜朝のウォームアップ走行順位』をみても、モナコ3位、カナダ4位、フランス4位、イギリス6位と、この順位だけを見ると不調シューマッハーと勘違いしてしまいそうなほどだ。

――表面に見えるシューマッハーの速さ、強さの裏側に感じられる、用意周到で緻密な彼自身の裏付け行動。それが95年前半8戦を見てきて私の目には強く印象に残った。

勝つためには何を我慢し、何を優先させればいいのか。今年無口になったシューマッハーが、一見生意気にも見える〝専属広報官〟を連れてパドックに現れる行動も、コース上での速さと強さの源になっているとさえ思う。そのスタイルが好きか嫌いかは別として……。

今年のエフワンが面白くないなんて誰が言った!?

ベネトン、ウイリアムズ そしてフェラーリ 抜け出したトップ3

今宮、川井コンビの全13チーム前半戦総チェック

Photos/Hiroshi Kaneko



ステップドボトムと3ℓエンジンの導入は
グランプリの世界に新たな勢力地図を産み出した
ベネトン、ウイリアムズ、そしてフェラーリ
新たな3強時代を迎えつつある95年のF1シーン
全13チームの前半戦を今宮、川井コンビがチェックする

ウイリアムズ・ルノー ●ウイリアムズFW17・ルノー



ハード的にはナンバー1 ドライバーが役不足?

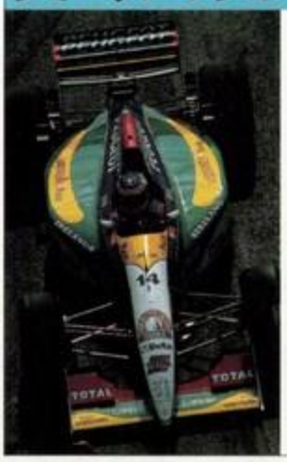
コンストラクターズポイント 46pt

⑤デイモン・ヒル
⑥ディビッド・クルサード

●シャシー、エンジンというハードウェアで見れば、シーズン序盤にもっと結果を残せていたはず。そうしたアドバンテージを生かしきれなかったドライバーとチームのオペレーションの問題が、コンストラクターズ3位に甘んじなければならない最大の理由（今宮）●ドライバーとチームが戦略的ではないからねぇ。どちらも外から見ていて分かりやす過ぎるんだよ。エンジニアリングは抜群でクルマがいいだけに残念。ドライバーのふたりが「安い、それなり、経験不足！」だったのはフランクの誤算だったかも（川井）

エンジン	シャシー
◎	◎
ドライバー	総合力
△	○

ジョーダン・プジョー ●ジョーダン195・プジョー



運にも助けられた信頼性 2年目のプジョーV10

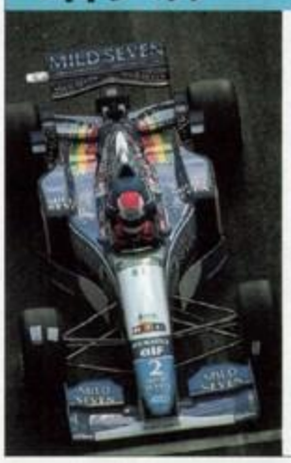
コンストラクターズポイント 13pt

⑨ルーベンス・バリチェッロ
⑩エディー・アーバイン

●運が良かったとは思う。予選で速いのは2年目のプジョーV10とシャシーの素晴らしさなんだけど、どちらも信頼性に問題があって、完走率が低い。ただし、前半戦は決勝で気温が高いレースが少なかったりして、信頼性の面では有利に働いていた。完走すれば、カナダGPみたいにいいとこまで行ける力はあるからね（今宮）●マクラーレンの3分の1のチーム規模でこの地位を確保しているというのはハッキリ言って驚異的。チームには疲れも全然見えていないので、まだまだ伸びていく可能性もありそうだな（川井）

エンジン	シャシー
△	○
ドライバー	総合力
○	○

ベネトン・ルノー ●ベネトンB195・ルノー



ルノーV10を消化した 最強のコンビネーション

コンストラクターズポイント 58pt

①ミハエル・シューマッハー
②ジョニー・ハーバート

●1年目のルノーエンジンの難しさ、それが開幕からつまずいた原因。そうした中でチームはシューマッハーに集中するしかなかった。その後、徐々に開発が進んできたことはハーバートの好結果、そしてベネトンがコンストラクターズポイントでトップに立ったことにも表れている（今宮）●シコシコと車を改造してきただけに、シューマッハーがうまく乗れるようになってきたけどジョニーにB195が合うにはもうチョイ。シューマッハーの力なくしては、あのクルマでこれだけの勝率を挙げられなかっただろうな（川井）

エンジン	シャシー
◎	○
ドライバー	総合力
◎	○

マクラーレン・メルセデス ●マクラーレンMP4/10・メルセデス



マクラーレン神話崩壊 すべてに迷いが見える

コンストラクターズポイント 10pt

⑦ナイジェル・マンセル/マーク・ブランデル
⑧ミカ・ハッキネン

●ドラッグの大きい空力とピークパワーの足りないエンジン、そしてマンセルの騒ぎでチームがいらない所にエネルギーを注がなければならなかった。その意味で一番問題点がハッキリしているチームだよね（今宮）●シャシーとエンジン、どっちが悪いのかというと、結局どっちもどっちなんだよね。まぁ、どちらも精力的にはやってるんだけど、今のところミカ・ハッキネンのヤル気だけがカラ回りしてるような感じを受ける。すべてにおいて迷いが見られる状態。あとマンちゃんに割いたお金と時間は惜しかった（川井）

エンジン	シャシー
×	△
ドライバー	総合力
○	△

フェラーリ ●フェラーリ412T2



トップ争いまであと一歩 V12の燃費はマイナス

コンストラクターズポイント 49pt

⑦ジャン・アレジ
⑧ゲルハルト・ベルガー

●シャシーもエンジンも確実に去年のレベルは超えている。だからベネトンやウイリアムズに絡めるようになってきたわけだけど、トップ争いに加わるとなると、V12の燃費が厳しいことがクルマの速さとレース戦略の両面で足を引っ張っている（今宮）●可もなく不可もなくっていうトコ？　チーム状態は非常にいいんだけど、クルマに関してはそこそこといったレベルで、シューマッハーを追撃する武器にはなっていない。チームの士気は高いし、「きっといつかは」という期待を現実的なものにしてくれたけど（川井）

エンジン	シャシー
○	○
ドライバー	総合力
○	○

ミナルディ・フォード ●ミナルディM195・フォード



開幕前のつまづきが大きかった

⑳ピエルルイジ・マルティーニ
㉑ルカ・バドエル

コンストラクターズポイント **0**pt

●無限のエンジンがダメになって、急遽EDを使うことになったり、資金的な問題や裁判とか、そうした状況の中で開幕からチームの持ち味を出せなかった。ミナルディもアロウズと同様に開幕からの数レースでポイントを稼ぐタイプのチームだからね。細かい所にマシンへの工夫やアイディアは見られるよね（今宮）●好きこそものの上手なれ？政治的には弱いチームなのに、それでもフォードED勢最速の座を確保しているというのがジャンカルロの心の支えなんだろうね。玄人好みのチームで好きなんだけどな（川井）

エンジン	シャシー
△	△
ドライバー	総合力
○	△

リジェ・無限 ●リジェJS41・無限



生かせぬ無限V10パワー見えぬチームの方向性

㉒鈴木亜久里／マーティン・ブランドル
㉓オリビエ・パニス

コンストラクターズポイント **10**pt

●無限V10のポテンシャルは高いんだけど、序盤の4戦目あたりまではシャシーの開発が追まずに、エンジンのアドバンテージを生かしきれなかったのが残念だった。カナダ、フランス、イギリスとJS41の独自の改良がようやく実ってきて、カナダからの3連続4位へと繋がっている（今宮）●外から見てもチームの転がっていく方向が見えない。今やっていることがチームの将来にどう繋がっていくのか分からないんだよ。チームはフランスGPあたりから、やっとクルマの事を理解しだしたみたいなんだけどね（川井）

エンジン	シャシー
○	△
ドライバー	総合力
○	○

パシフィック・フォード ●パシフィックPR02・フォード



速さは出てきたが失われた信頼性

⑱ベルトラン・ガショー
⑲アンドレア・モンテルミーニ

コンストラクターズポイント **0**pt

●マシンを大幅に変えて、予選でのスピードなんかも去年に比べてだいぶ良くなったんだけど、そうしたら今度は信頼性が落ちてきちゃった。特にギヤボックス、前半8戦のうち6戦がギヤボックス関係のリタイアだからね（今宮）●バブルがはじけた時期に入ってきたチームが、F1で当然味わうだろうという問題に直面している段階。スポンサーを持ってきたラバッジをドライバーにするみたいだけど、第2アロウズになってしまうのかな。野心的な代表のキース・ウィギンズにはそうなって欲しくないんだけど（川井）

エンジン	シャシー
△	×
ドライバー	総合力
△	△

ザウバー・フォード ●ザウバーC14・フォード



フォードワークスも状況好転せず……

㉕カール・ベンドリンガー／ジャンクリストフ・ブイヨン
㉖ハインツ・ハラルド・フレンツェン

コンストラクターズポイント **5**pt

●シーズン途中からハイノーズを取り入れたりしてるけど、シャシー、3ℓ版のゼテックRとも、それぞれ今ひとつの出来で、いいのはドライバーだけ。フレンツェンが確実に評価を高めたのが前半戦での唯一の収穫かな（今宮）●チームとフォードとの間に不協和音が見えだしてきたね。何をやってもうまく行かない状況の中、すでにF1では浮いたチームになりつつある、今年で3年目なのに、成績が好転するような兆しも見えてこないし、このままじゃフレンツェンも、他チームに持っていかれちゃうんだろうね（川井）

エンジン	シャシー
×	×
ドライバー	総合力
○	△

フォルティ・フォード ●フォルティFG01・フォード



遅い、けどいいのか？モレノはがんばってる

㉗ペドロ・ディニス
㉘ロベルト・モレノ

コンストラクターズポイント **0**pt

●前座でやってるF3やF3000を見ててタイム負けちゃうんじゃないかと思うほど。重いクルマの軽量化を進めたり、努力は認めるんだけど、いかんせんレベルが低い。まぁ、完走は重ねてるし、彼らの目標は我々の評価とは違うところにあるのかも知れない（今宮）●成績ドンケツなんだけど、来年のプランとか聞こえてくるし、そんな楽観的な状況じゃないはずなんだけどな。ベテランのモレノは実際に見ると「器用なドライバーだなぁ」って感心させられるのけど、テレビに写らないからみんなには分からないよね（川井）

エンジン	シャシー
△	×
ドライバー	総合力
△	△

アロウズ・ハート ●フットワークFA16・ハート



序盤に手堅くポイントジャンニの放出は痛い

㉙ジャンニ・モルビデッリ／マッシミリアーノ・バビス
㉚井上隆智穂

コンストラクターズポイント **1**pt

●平均点のシャシーとドライバーフレンドリーなハートV8の性格、これを生かして他のチームがもたついているシーズン序盤にポイントを獲得するというのは、アロウズのいつものパターンだね（今宮）●経済的にはその日暮らしって感じで、今のF1が置かれている経済状況を一番象徴しているチームだな。クルマもエンジンもそこそこだけど、お金が足りないからドライバーを金銭的な面で選ばしかない状態。ジャンニがいなくなっちゃったのはツライけど、他にチームが生き延びるチョイスはなかったのも事実（川井）

エンジン	シャシー
△	△
ドライバー	総合力
△	△

シムテック・フォード ●シムテックS951・フォード



チームは完全消滅F1経済危機の象徴か

⑪ドメニコ・スキアタレッラ
⑫ヨス・フェルスタッペン

コンストラクターズポイント **0**pt

●結局、去年の出費のツケが今年になって廻ってきてしまった。実質的には4レースしか戦ってないけど、予選7列目なんて、言い換えればトップ7チームには入っていたとも言えるし、レース中もメーカー系エンジンのマシンを食うことがあった。ただ、チームがテクニカルなサイドに寄りすぎていて、経営面が弱すぎたよね（今宮）●とうとう消えちゃった。政治力が9割、エンジニアリングが1割っていうF1の現状を考えると、こういうチームが生き残れなかったというのは、しかたないのかもしれない（川井）

エンジン	シャシー
△	△
ドライバー	総合力
○	×

ティレル・ヤマハ ●ティレル023・ヤマハ



ハイドロリンクの失敗がすべての敗因

③片山右京
④ミカ・サロ

コンストラクターズポイント **0**pt

●開幕前にさかのぼって、ハイドロリンク付きの023のコンセプトの問題点が前半戦の内容を決めてしまった。走る実験室という考え方はあるだろうけど、この技術を実戦の中で開発していこうという所に無理があったかもしれない（今宮）●ハイドロリンクサスが足を引っ張ってる。やっぱりテストチームを持たずに新しい技術にチャレンジしちゃったのが、結果を残せないでいる大きな理由だろうな。ハイドロリンクを捨てる方向で動きだしたけど、成績不振がチーム全体の士気に響いている現状では仕方がない（川井）

エンジン	シャシー
△	×
ドライバー	総合力
△	△

今年のエフワンが
面白くないなんて
誰が言った!?

空転する右京の5カ月

苦悩しつづける右京の前半戦を検証する

今季こそ、表彰台は確実
誰もがそう信じて疑わなかった片山右京の前半戦は
「なんだよ、右京」というファンのため息に彩られた
一体、右京に何が起こっているのか?
空転する右京の開幕からの5カ月間を振り返る

文／大串 信
Photos/Hiroshi Kaneko



右京への心ない贈り物

片山右京にあてて、一時期話題を呼んだ「完全自殺マニュアル」を送りつけてくるファンがいるという。「あなたにはこれがお似合いですって書き添えてある。さんざん期待させて裏切りやがって、という意味でしょうね」と右京は苦笑する。

こうした心ないやり口は論外だが、今年の右京が期待を裏切っているのは事実。昨シーズン、再三にわたって上位を走り表彰台目前まで迫り、すっかり上昇気流をつかまえたかに思われた。日本人という枠を乗り越えて本場ヨーロッパでも「速いドライバー」としての評価を得もした。それだけに今年の右京には大きな期待が集まっていたのだ。ところが開幕以来、右京は公式予選では後方に埋もれ、決勝では完走すらままならない。一体、片山右京に何が起こっているのだろうか。


入賞圏内走行中のモナコでのスピンは、闘志の空回りか

今年片山右京が陥った不振については、おおむねふたつの原因が浮かび上がる。まず、今年のニューマシン、ティレル023が装備したハイドロリンク・サスペンションと呼ばれる新しい機構がシリーズ序盤戦で右京の足を引っ張ったのは明らかだ。書き換えられた新しい車両規則により、今年のF1マシンは大幅にダウンフォースを奪われてしまった。ティレルはこのハンデをこの新しいサスペンションで補おうと考えたのだ。ところがこれが裏目にでた。信頼性が低く、正常に動いても調整がきわめて難しかったのだ。

右京は、不成績をマシンのせいにすることを嫌う。したがって、彼はこれまで表向きはハイドロリンク・サスペンションを擁護する発言を繰り返してきた。その右京の本心を問いつめると彼も「言いづらいけれど、普通のサスペンションだったらな、と考えることもある」と言ったものだった。

ティレルはモナコGPでリヤ・サスペンションもハイドロリンク化し、このシステムをさらに発展させる構えを見せたが、イギリスGPではシステムに大幅改良を加えたうえでリヤを通常のサスペンションに戻し、方針の転換を見せた。そしてその後のテストではフロントからもハイドロリンク・サスペンションを取り外す試みも見せている。新機構の開発という観点からは後退だが、ハンデに耐えてきた右京にとっては、状況はいい方向へ向かいつつあると言うべきだろう。

一方、今年書き換えられた車両規則が右京にとって思いがけないハンデとなったことも見逃してはならない。「今年のマシンは遅い。まるでF3マシンみたいなんですよ」と右京は言う。新しい空力規制により今年のF1マシンは大幅にダウンフォースを失い、それに加えてエンジンの排気量が減らされたことで動力性能も低下した。その結果、マシンの操縦性は大きく変化した。

「とにかく、ていねいに乗らないとタイムが出なくなった。これまでは度胸一発、コーナーに飛び込んでタイムを絞り出すことができた。でも今年のマシンは限界を超えないように抑えて走らなければならない」と右京は言う。本来、右京はマシンを振り回すアグレッシブなドライビング・スタイルを好むドライバーである。昨年の好調も、プッシュを重ねる闘争的な走りの結果だった。そのスタイルと今年のマシンの性格が食い違ってしまったのだ。

ではなぜ、右京は走り方を変えないのだろうか。「目先の結果はいらない」と右京は言う。「アグレッシブな走りをしても十分に速いシューマッハーみたいな人もいる。ていねいに走って、少しばかりタイムを上げて喜んでいたら、いつまでたってもシューマッハーには追いつけない」右京は結果を残して中堅に甘んじる気はないと言い切るのだ。彼の目標はあくまで表彰台でありトップグループである。そしてそのためには、今はハンデになってはいるものの、将来的にはきっと彼本来のアグレッシブなドライビングスタイルが威力を発揮する日がやってくると右京は信じているのだ。


「絶対にこれじゃ終わらない」という右京の後半戦は？



右京の後半戦には、明るい光がさすのだろうか

本当のエースは誰だ？

今年の右京は、こうしたハンデと戦い、苦戦している。しかし、右京に期待した多くのファンはこうした理由だけで納得することはなかなかできないだろう。というのも、右京は今年同僚になったF1の新人、ミカ・サロに遅れをとっているように見えることが少なくないからだ。

サンマリノGPのパドックで片山右京は怒っていた。パーツやエンジンが、サロを優先して配分されてしまう、というのだ。パーツの配分はともかく、エンジンの個体差は避けられない運命ではある。ティレルはエンジンをコインストスで配分し公平を期するシステムをとっているが、サンマリノではなぜかコインストスが行われなかった。この時点で右京はチームに対して明らかに不信感を抱いていた。

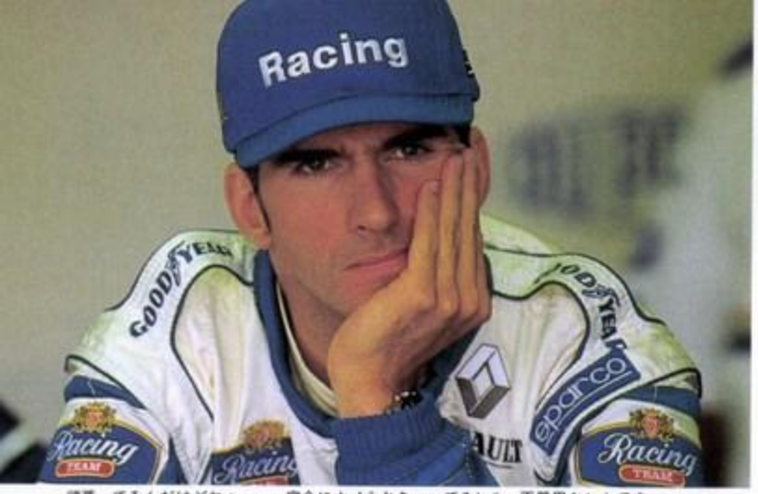
確かに当時、右京の置かれた立場は苦しかった。ミカ・サロはノキアという巨大なスポンサーをティレルにもたらしていた。ノキアは将来的にもF1に巨額の資金を投入する予定を持っており、ティレルとしてはなんとか自分のチームにつなぎとめておきたい。そのためにはチームの上層部がサロを優先してでも好成績を納めさせなければならないと考えても不思議はなかった。

しかし、右京は正攻法でこの問題を解決した。「お互いにわだかまりがあってもしかたがないから、はっきり言ったんですよ」と右京は言う。右京の指摘を受けてチームは右京に誤解を与えたことを認め、以後エースとしての右京の待遇を尊重することをあらためて確認したという。

実際にサンマリノで生じた摩擦が「誤解」であったかどうかはともかく、シーズン中盤には悪化しかけた右京とチームの関係は好転したようだ。「テストもぼくが優先して進めているし、状況は良くなりました」と右京もそれを認める。それどころか、チームは既に右京に対して来シーズン以降の契約更改を申し入れてきたという。

これまでの日本人ドライバーは、チームの2台目のマシンを借り受けるゲストとしてF1グランプリに参加してきた。しかし片山右京はもはやF1グランプリのゲストではない。彼は日本人ドライバーとして初めてF1グランプリの最前線に立って戦っている。右京はマシンの完成度やレギュレーションとドライビング・スタイルの相性などの問題に悩みながら、所属するチームの中での立場も探り、確保しなければならないのだ。

参加する段階を超えて勝ちにいけるドライバーになる。片山右京は今、日本人ドライバーにとって二つ目の壁を破ろうとしている。彼の戦いぶりを外から眺める我々は、片山右京が陥った思いがけない不調は、壁を突破するための試練なのだと解釈すべきなのだろう。「絶対にこれじゃ終わらない」イギリスGPを終えた後、右京はきっぱりと言い切った。はるかに遠くを見据えて突進する右京に期待をかけるならば、我々も目先の不振だけにとらわれず、右京と同じだけ視界を広げなければならない。そうすれば、つまらない嫌がらせをする気もなくなるはずだ。



頑張ってるんだけどねぇ……。完全にナメられちゃってるヒル、不器用なヒトです

川井ちゃんに聞け!

WHAT'S UP in F1 GP

ピットレーンの地獄耳、川井ちゃんの95前半戦"ここだけのハナシ"

あっという間に半分過ぎた95シーズン
マンちゃんが乗らないなんて騒いでたのも
ずーっと前のことに感じるから不思議だよね
開幕からはや5ヵ月、パドックでは
いろんなウワサが渦巻く季節になってきた
教えて川井ちゃん、ピットエリアのヒソヒソ話

Photos/Hiroshi Kaneko, Kenji Sawada, Shoichi Sudoh



1 イギリスGPでまたガッチャン ナメられきってるヒルの"明日はどっちだ?"

まずはイギリスで"ガッチャン"しちゃったシューマッハーとヒルの話から行きましょう。なんかまた舌戦繰り広げてるみたいですけど……。

でもまぁ、あれはヒルがハマったってみんな知ってるからね。アソコが抜ける場所じゃないのはハッキリしてるし、アレ、シューマッハーが明らかに誘ってるように見える。そこに、みすみす引っ掛かっちゃうのがヒルなんだよな。で、あの人ストレートすぎるから、たちの悪いマスコミが作ってる"対立"って構図にそのまんま乗っかっちゃう。だから険悪な関係"とか言っても、かつてのセナ対プロストみたいなのとは違う。シューマッハーのほうが明らかに上だってみんな分かってるから。

普段はヒルのことを持ち上げてるイギリスのプレスだって、パドックでの彼との懇談会の時に酒飲んで待ってたりするからねぇ。ともかくヒルってみんなから完全にナメられちゃってる。数字の上では記録を残しているんだけど、まわりを納得させるような勝ち方をしてないでしょ?

あえていえば去年の鈴鹿?

だからマルティーニとかのバックマーカーも絶対抜かせないじゃない? で、いつも「抜かせてくれない」ってヒルは怒るんだけど「道を譲らなくちゃ」って思わせるような威圧感&存在感がゼンゼンない。だから「勝手に抜いてきな!」って、下位のドライバーにまでつっぱられちゃう。もちろんチームメイトのクルサードもしかり。

そのヒル、イギリスGPで「フェラーリやベネトンとも交渉してる」とか言ってたけど、ないない。フェラーリのスタッフに聞いてみたって「ありえない」って断言しちゃってるモン。せめて「それはノーコメント」と言わせるぐらいじゃなくちゃねぇ。

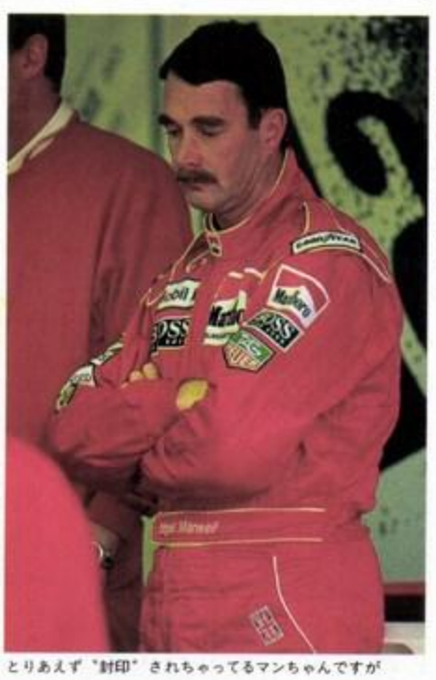
ウイリアムズもヒルの代わりに乗せるドライバー候補なんていっぱいいるし、移籍どころか残留できなかったら、マジでヒルが乗るチーム無くなっちゃうんじゃないの?

2 マンちゃんはいつでもカムバックOK!? マンセル&マクラーレン、契約の裏事情

シートがなくなっちゃったって言えばマンセル。そういえばマーク・ブランデルがいまだに2戦ずつの契約を続けている理由って知ってる?

実は"実質的に解雇"なんて言われてたマンセルとマクラーレンの契約はまだ生きてるってウワサなんだ。どういうことかっていうと、契約上はマンちゃんが「マクラーレンに乗りたい」って言ったら、次のGPからスグ乗れるという状況らしい。

もちろん、実際にはマンちゃんも今のマクラーレンには乗りたくないし、マクラーレンもテストをしてくれないマンちゃんには乗って欲しくない。だから"双方の合意の上で"というより、ロン・デニスはまずマンちゃんに「次も乗らないよねっ?」って確認しなければいけないらしい。つまりブランデルと残りのシーズンの契約をしちゃうと、いつ「契約不履行だ!」と言われるかわからない状況なんだ。それでブランデルを2戦ずつ雇うわけ。「他のドライバーを狙ってる」なんて声があるみたいだけど、本当の理由は他のドライバーとは契約できないからしいんだ。


とりあえず"封印"されちゃってるマンちゃんですが

まぁ、ブランデル自身が「今年はこのまま僕が乗ると思うよ」って言ってるし、マクラーレン当面はこの体制で行くんだろうね。マンちゃんがいつもの気まぐれで「やっぱりドライブしたい!」なんて言いださなければね。

3 しぶちんジョーダンに愛想が尽きた! 暴れん坊アーバイン、早くも離脱宣言?

エディー・アーバインがジョーダンと関係悪くなってるみたいだね。ジョーダンといえば一時はアイルランドコネクションって感じで、どっちかと言えばブラジル人のバリチェッロのご機嫌が悪かったんだけど、今は逆にアーバイン。何でもエディー・ジョーダンがあんまりシブチンで金を使わないから、頭に来ちゃってるらしい。

まぁチームスタッフが70人しかいなくて、マクラーレンの3分の1っていう規模はこれからさらに上をめざすには、心もとない気がするのは分かる。あのティレルだって、今では120人以上のスタッフを抱えてるんだから。エディー・ジョーダンがお金にシブイのは有名だし、それでこの位置にいるっていうのは驚異的なんだけどね。

シューマッハーに対抗できるタマが誰もいない今、将来的に期待できる若手と言えば、このアーバインとバリチェッロ、ハッキネン、フレンツェンってあたりでしょ? 例えば来年、アーバインがウイリアムズにでも入れば面白いんだけどね、まぁあの人、性格的にやや問題あると言われているじゃない。でもあのアグレッシブなスタイルは今のウイリアムズに一番欠けているもの。逆にロン・デニスはあのタイプダメだろうって感じがする。

ジョーダンが今のふたりをキープできるかどうか? これは96年に向けて注目のポイントだな。

次はやけに景気のいい話をひとつ。イギリスGPでハッキネンが使ったエンジンが、従来に比べて44馬力もアップ、1万6000回転まで回ってるってウワサがピットで飛び交っていたんだけど、信じられる？ 今の自然吸入のF1エンジンで一度に44馬力アップなんて、絶対にありえない。専門家が沢山いるのに、これがまことしやかに語られちゃうっていうのが、大体不思議だけどね。

しかもこの手のウワサを流してるのはエンジンメーカー自身らしいんだ。今、自動車のヨーロピアン・マーケットのシェアを争う大メーカーが多く参戦しているためと、ちょうど来年のエンジン供給契約を巡って、微妙なカケヒキのまっ最中（来期の社内予算を上乗せする効果もある）シノギを削るメーカーは、「自分のトコのエンジンはいい。悪いのはシャシー」と宣伝したい。しかもそれをプレスに流すんじゃなくて、チーム関係者からピットに流してる。それでマユツバものの話も多くなる。

エンジンも来年に向けてけっこう動きが出そうな感じだな。今のところルノーV10が最強であることは変わらないけど、ウイリアムズは抑えとしてフォードや無限と話してるみたいだし。気になるところでは、そのフォードが長年のパートナー、コスワースが離れるって噂も。来期はフォードもコスワースにV10を作らせると言うものの、なんでもコスワースはフォードのレース予算が少ないのに不満で、この際フランスと手を組んで、カスタマー仕様のルノーV10をライセンス生産するプランを考えているらしいなんて話も飛び出してきている。信じられないけどね。

あとヤマハがこれまでより20kg減の超軽量エンジンを造ってるっていう話。本当なら今128kgって言われてるから、新エンジンは110kgを切るわけでこれは凄い。シーズン後半に投入するってウワサだけどね。



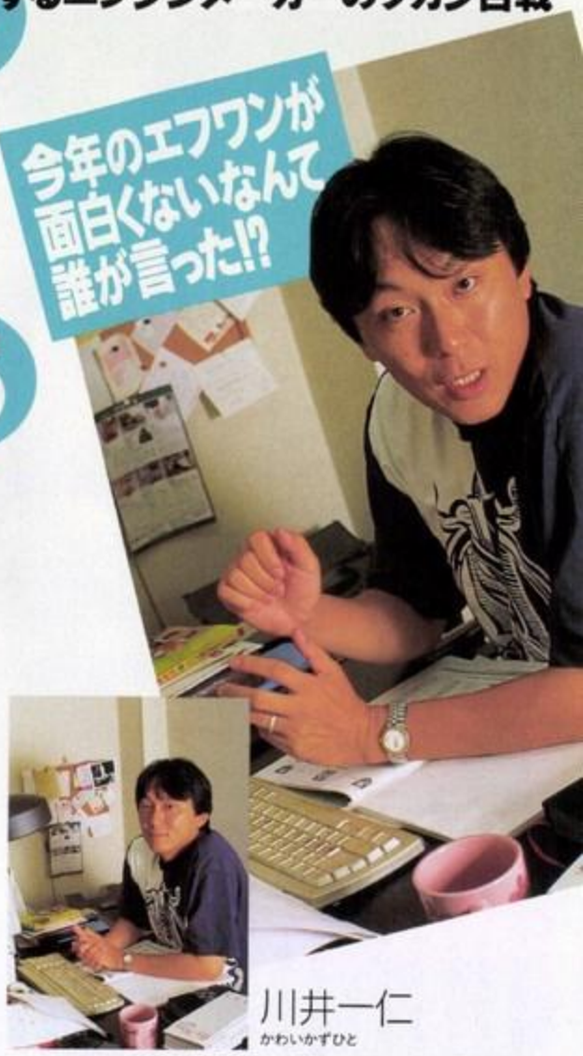
40馬力アップ！ ホントかよぉ？



ウイリアムズも興味を示す、無限ホンダV10

4 メルセデスは一挙にプラス40馬力!? 加熱するエンジンメーカーのフカシ合戦

今年のエフワンが面白くないなんて誰が言った!?



5 ビンボーはツライ、ビンボーは悲しい そしてビンボーはとても危ない！

余裕のあるトップチームはともかく、今年F1で深刻なのは厳しい経済状態。要するにビンボー。

その最たる例はついにつぶれちゃったシムテックで、カナダから参戦をストップしたときは「何とか立て直して……」なんて言ってたけど、とうとうチーム丸ごと競売にかけられちゃった。開幕前に資金不足でエントリーを断念したラルースも、ついにチームが〝解散〟したらしいよ。

こうやって消えてはいないものの、ミナルディ、フォルティ、パシフィックなんかは、いつ消えてもおかしくないぐらい厳しくて、アロウズみたいに実力のあるモルビデッリを下ろして、スポンサー持ってきたパビスを乗せなきゃいけないチームも出てくる。イギリスGPの予選ではアロウズのメカニックがモルビデッリの帽子を被って、チーム上層部に抗議してたらしい。でも実際、チームには他の選択肢がないんだよね。ザウバーなんかはスポンサースペースの安売りで、チームの経済基盤が壊れちゃってるし、各チームとも人件費カットとか考えてるからパドックは失業の影におびえる人たちでイッパイ。

あるチームのメカニックが真顔で言うんだもん。「アソコのチームの給油には危ないから絶対近づくな」ってね。何でも人は減らして、給油装置のメインテナンスもままならない状況だから、いつ事故が起きてもおかしくない状態らしい。金欠ってホントに怖い？



弱小チーム哀れ、シムテックは競売へ


フランスで差し押さえを食らったミナルディはスタンドから観戦

川井一仁
かわいかずひと

1960年、埼玉県生まれ。87年からフジTVのF1中継スタッフとなり、主にピットレポーターとして活躍。持ち前の高い英語力と幅広い交遊関係は日本のF1ジャーナリストの中でも群を抜いており、雑誌などの媒体でも活躍中。最近では女優の鈴木保奈美さんと電撃結婚。レースに関係ない人たちからも保奈美ちゃんの夫として注目を浴びるようになってしまった。本人もジャーナリストであるにもかかわらず、芸能マスコミとは一緒にされたくないと言う。今回、我々も仕事部屋での写真撮影に際して奥様も入るような写真（手だけでもいい）をお願いしたがボツ。「あの子、恥ずかしがりやだから、そういうのダメ」と汗を流しながらテレてた川井ちゃんでした。

番外 ガタガタしましたコメンタリーブース F1中継スタッフは現在関係改善中

最後にF1中継の放送ブース内の話をちょっと……

えーっと、中継用ブースの中にはモニターが6つもあってですね……。あっ、こういう話じゃなくて？ ハイハイ分かりました。

まぁ、みなさんにもいろいろ言われましたが、正直言って、僕たちも初めのころはお互いの呼吸がつかめなかったりして、ドギマギしちゃったかなぁってのは事実。やはり今まで長年一緒にやってた人とは違うから、ゴメンナサイね。

今では土屋さんも、熊倉さんも、それぞれどういう人か分かってきたし、もうご心配おかけすることもないんじゃないかと思ってます。

さあ、これからいよいよ95年のF1GPも後半戦に突入。シューマッハーがこのまま逃げるのか？ 追いすがるヒル、フェラーリの躍進は？ そして注目のストーブリーグ。

これからもフジTVのF1中継をよろしくお願いします。

期待の若手ふたりを擁するジョーダンだけど、果してキープできるかな？



まじめな予選の攻め方講座

オリドの速さが結果に結びつかない
気合いの予選アタックはまたも空回りに
速さは誰もが認めているのに、なぜなのか？
今回はちょっとまじめに分析してみる

Photos/Katsumi Aoyama

帰ってきた！

R'onチャレンジ1995

ミラージュカップ村 競争珍日記

ミラージュインターナショナル ラリーアートカップシリーズ **ROUND 3** 95筑波チャレンジカップ第3戦 筑波サーキット



「速いよなぁ〜」。グリッドではるか前方のポールポジションを眺めるの図。筑波で予選15位だとグリッド位置はほぼ最終コーナーの出口。パッシングポイントはないし、ちょっと絶望的な気分になる

今回、第3戦筑波のレポートは、三好監督、さらには編集担当まで「JTCCと日程がバッティングしてるんで……」とか言って逃げてしまったため、私、チーフメカニックの菅野が書くハメになりました。

というワケで、これまでとは趣向を変え、メカニックから見た「オリド、ミラージュインターで揉まれるの図」をレポートしてみたいと思います。

見直したぜ、オリド

「えっ？　予約なんて要るんすか？」

バッカヤロー！　筑波でスポーツ走行をするには電話予約しなきゃいけないことを、筑波を〝ドリコンGP〟ぐらいでしか走ったことのないオリドは知らなかった。準備万端、金曜日に筑波入りした我々は、他のチームが走っているのを眺めているしかなかった。聞くところによれば、気合いの入ったチームは水曜から練習を重ねているとか。ナイショで木曜日に走行して金曜は走らず、土曜日にぶっつけ予選みたいな顔をする作戦のチームもあるという。

さらにオリドは「走ったことないから、なんかあんまり自信ないんですよ、筑波は」などとこの期に及んで抜かす。レースウイーク初日から今回はダメかな、なんてムードになったが、オリドがどこからか走行券をくすねてきた時から状況は一変した。

この走行券で走れたのはわずか30分の走行ではあったが、ここで1分6秒2のベストタイムをマーク。これはライバルたちのタイムと比較しても結構上位にいけそうなタイムだった。もちろん、狸やら狐やら、妖怪やらエイリアンやら、宇宙人やらがうじゃうじゃいるミラージュインターだから、金曜日のタイムから予選でポンと1秒タイムを上げるなんていう芸当はみんな朝飯前、ということは計算しなきゃいけないにしても、期待できる。

「自信ない」とか言いながらサラッとタイムを出すあたり、今までオリドのことを〝鈴鹿スペシャル〟のドライバーだと思っていたのを見直した。さすが、三好監督、体だけじゃなくドライバーを見る目も肥えてらっしゃる！

FFの予選アタックの奥義とは

土曜日。抜けない筑波は予選結果が決勝結果に直結する。ましてや前戦の40台よりはだいぶ減ってはいるもののエントリーは30台。予選をちょっと失敗でもして下位に埋もれたら、もう這い上がることは不可能と言ってもいい。そんな状況もあって、各チームは予選を前にして、F3000ばりにピリピリと緊張感を漂わせている。

我々も負けじと〝新品のおいしいタイヤ〟をマシンにセットして予選をスタート。2ラップ計測してピットイン。タイムは伸びていない。タイヤを交換して再度アタックしたが、やっぱりタイムは伸びない。なぜだ。そうこうしているうちに予選は終了してしまった。

オリドのベストタイムは1分5秒935。久々にポールポジションを獲得した鉄人・小宮が1分4秒885。小宮とオリドの約1秒のギャップの中に、何と13人ものドライバーが挟まり、オリドは15位だった。

せいぜいスタートで抜けても1、2台、あとは、上位が絡みでもしていなくなってくれない限り、これだけタイムが接近していると順位を上げるのは困難だ。期待が膨らんだだけに、この予選結果に落胆も大きかった。

金曜のタイムからすれば、予選で〝新品の



オリドの右が今回レポートを押しつけた（？）川崎多摩三菱の菅野チーフメカ



スタートで14位に上がったものの、やっぱりダンゴ状態を抜け出すことはできなかった。抜いたり抜かれたりで結局11位

おいしいタイヤ〟を履けば、少なくともコンマ5秒のタイムアップは果たせるはずだった。そうすれば6位くらいにはなれたのに……。こんな時にブチブチ言いたくなるのがメカニックというものだ。速さはあるのに、なぜ？土曜日だけは筑波に顔を見せて、オリドの走りぶりを観察していた三好監督が、これを説明してくれた。

「オリドは、第2戦の鈴鹿の予選で遅いクルマに引っ掛かったりで、アタックを失敗したよね。それで今回は予選アタックの仕方という課題に対して、トライしようとはしたんだな。でも、あくまでそれはトライする〝素振り〟に終わっていたと思う。

アタックの周と、遅いクルマをかわしたりタイヤをクールダウンするための周とのタイム差が2秒しかない、落としてなかった。これじゃ、ただダラダラ走るだけで次のアタックへの準備にはならない。気持ちに余裕がなかったんだろうな。

それとオリドがつらかったのは、FFにおける〝新品のおいしいタイヤ〟の使い方についての経験や知識が少なかったという点だ。

〝新品のおいしいタイヤ〟を履くと舵の効きが良くなるから、タイヤのグリップがグンと上がったように感じる。そうするとドライバーが、タイムアップのために気合いを入れると何をするかというと、コーナーにより速いスピードで突っ込んで、速く抜けようとする。これが命取りで進入スピードを上げたがために、横方向にグリップ力を使ってしまい舵角が大きくなり、その結果車速を殺してしまう。

〝新品のおいしいタイヤ〟はグリップが上がったように感じるが、グリップが上がるのはほとんどの場合トラクション方向だから、進入スピードを上げても車速を落とす結果となってしまうのだ。

どのように走ればそのオイシイところを使えるのかと言えば、進入スピードをむしろ抑え気味にして、いつもより早くスロットルを開ける。そうするとやはり舵角が増してパワーアンダーステア気味になるけど、この場合には車速は落ちない。そしていつもより脱出速度が上がってタイムにつながるんだ。オリドのドライビングは、どうもはまりやすい運転なんだな。オレもずいぶんグループA時代はシビックで苦労したけどね」だそうだ。

そして決勝は「淡々と走って11位」（オリド談）。やっぱりダメだった。

スポンサー・協賛各社

伊勢丹
㈱エンドレスプロジェクト
オーツタイヤ㈱
カーツ㈱
カストロール㈱
ティーズ㈱
日本特殊陶業㈱
横浜運輸㈱
㈱ラリーアート
㈱ワーク

五十音順



今回表彰台の顔ぶれが大きく変わり、1位小宮、2位玉本、3位小幡



成績で面積の変わる小暮のコラム

やった！オリドクンの前でゴールしたもんね



途中、とおせんぼジジイと化したりしたけど結果は7位。入賞まであと一歩だ！

前回の筑波はナントもみっともない結果に終わってしまったけど、今回はホームグラウンドの筑波だし、頑張りましたよ僕は！　というといかにも入賞したかのような言い方だけど結果は入賞まであと一歩の7位。あまり偉そうなこと言えないけど、ほとんどのチームが毎年新車を造って戦っているミラージュインターの中で4年も使っているボディで、しかも年間予算300万円で戦わなければならない自分にとっては、この体制でも予算1000万円のバリバリ勝ち狙いのチームの上を行くのも夢ではなくなってきたわけだ。

今回は慣れてる筑波ってこともあるし、この辺で成績残しておかないと、このコラムのスペースもどんどんちっちゃくなっていっちゃうから、結構プレッシャーもあったんだ。金曜日のテストでなかなか良い感触をつかんで迎えた土曜日、天気予報は雨だったんだけど、予選の始まる午後からは雨も上がってきた。自分としては雨を望んでいたんだけど、まぁそれなりに全力を尽くした。そして、予選は今シーズンお初のシングルポジション。そして、決勝はというとオープニングラップは9位で通過、2周目に8位、4周目に7位とテールtoノーズでバトルを展開。しかし中盤あたりから、後続車を何とか抑えていたものの、若干タイヤのタレを感じ8位になり、そのままチェッカーとなってしまいました。レース終了後、1台が失格となってしまったためタナボタ7位になったというワケ。

貧乏体制でやっているみんなも夢と希望を捨てずに地道に努力すればきっとバリバリ勝ち狙いチームの上を行く日がくるはず。それを証明するためにも次回の第4戦（7／30・菅生）は絶対入賞するぞっと。このままだとミラージュ・カーブラザカップだけの小暮クンになっちゃうもんね。やっぱり、ミラージュのインターできちんと成績を残しておかなくっちゃね。この調子で表彰台に乗って隣の織戸クンのスペースまで侵入してやるぞ～（と元気元気）。

Photos/ Hirohide Yanbe, Hiroshige Satta

マコトの 目指せ！レースデビュー

あなたにもできる！ レース入門ガイド

企画最終回の今回も フロントロウからやってしまいました

Vol.7



2位に復活したまではよかったんだけど、5周目のSPコーナーでやっちゃったんですね

レースを始めるにはどうしたらいいんだろうというテーマにマコトちゃんのデビューまでを追ったこの企画も最終回

2戦目の報告とレース体験で感じたことを話してもらった

ガチガチに緊張して真っ白になった仙台ハイランドでのデビュー戦から約1カ月、今回は菅生。レースの結果は、またもや！ の予選2位から、これもまたもや？ の決勝12位。何したかっていうと、回っちゃったんですねー。それも一番かっこ悪い単独スピン！

スタートは前回と一緒のセカンドグリッドからだったんだけど、出遅れ。（相変わらず下手です……）5位に転落！ それからは1周1台ずつのペースで追い上げ、取りあえず最初の2位まで復活。「このままいけばお立ち台か！ デヘヘヘエ」なーんて甘い夢を見たのがいけないのか、3番手の田代さんがお尻にピッタリ付いてるのにアセったのか、ふたつ目のSPコーナーに、オーバースピードで突っ込み、出口であえなくスピン！ クルマはガードレールに向かって一直線。またやってもうたのマコトでした。

レースが終わってからしばらく、すっごく落ち込んじゃった。ささいなコトで集中力をなくしミスする自分が情けなくって……。でもいつまでもウダウダ落ち込んでたってしょうがない。誰だって最初からカンペキにできっこないんだから。それより同じ失敗を繰り返さないようにするコトが肝心。なるべく気分は前向きにしなくちゃね。本当にレースをやってると鍛えられます。

ひとつでも前へ出るにはどうしたら良いか、考えなければ速くなれないので、次から次へ否応なしに課題が見つかります。スタートの練習でしょ、ブレーキングからシフトダウンまでのぎこちなさの改善でしょ、インを絞めながらコーナーをスムーズに走る練習。あと一番大切な集中力。マコトはこの1番大切なものが足りないみたい……。でも、課題が多いってことはそれだけ楽しみがあるってコトにもつながるのよね。

なーんて今でこそ結構いっちょまえなコトを言ってますが昔は違ったの。走るのが大好きで、いやなことがあっても走ってると忘れちゃう。サーキットを走れればそれだけでゴキゲンになるって感じだった。そりゃ走行会などで走る時は、これまでより上達したいって思いはあったけれど、せっぱ詰まったものがないせいか目標が見つけにくく、ダラダラ走ってしまいがちだった。レースを始めた今ではずいぶん変わったと思います。

それで今回のレースに向けて立てた課題は、前回の反省から「スタート直後、ダンゴでコーナーに突入してもパニック状態にならないこと」だったんだけど、これはちゃんとクリアできたと思ってます。前回みたいな異常な緊張もなく、冷静に周りに状況を見て抜けることができたんだ。それだけでも十分うれしいし、上達した成果を身にしみて感じられるのもレースならではだよね。ま、調子良かったのは、そこまでだったけどさ。

レースを始めるには、どうすればいいんだろうで始まったこの企画も今回で最終回。あ、こんなんでもレースできるのなら自分もって思ってくれた人がいればうれしいな。失敗をさらしてきた甲斐があるというものです。

マコトもそうだったけどみんな、レースは莫大な費用と労力が必要でシロート（?）が手を出せるものじゃないって、勝手に思い込んでるでしょ。でもマコトの場合、草レースをやってる、またはやってた友人、知人から具体的な話を聞いてるうちにカテゴリーによってかかる予算はバラバラで、上はウン千万円から下は数十万まで、手が届きそうなものもあるって判明した。自分でもできるかもと思い出し、それがいつしか絶対やるに変わってたんだ。

まずは自分から動き出すこと。フレッシュマンレースを見に行ったり、ショップを回ったり、情報を集めるのってとっても大切。そこからはやる気で、意外と道は開けるものです。こんなマコトでもできちゃったんだから大丈夫！ これからもマコトはレースを続けていくので、応援してね。バイバイ。



チーム・エアーシップのみんなと記念写真。協力してくれる人がいてこそレースはできるんです



このレースに向けての課題「スタート直後、パニック状態にならない」はクリアできたと思います



でも、5周目のSPコーナー出口でガードレールに2度もキッス。今から修理後の請求書が怖いよ〜！

Go! Go! Challenge Club

成澤史麻の フォーミュラ 初めて日記

フォーミュラってどんな世界？

第3回 問題もあるけど調子は上向き！

フォーミュラ・ミラージュ挑戦、3戦目を迎えた史麻チャン 前2戦は不振続きだったけど、ようやくマシンにも慣れてきた 不満が出るのも上達した証拠、ここから巻き返しといこう！



タイムが良くなって、レース前の表情も引き締まってきた……カナ？

こんにちは、成澤史麻です。今回のレースで私のフォーミュラ歴も（フォーミュラ・トヨタを合わせて）4戦目。そろそろ「みんなより3秒も遅い」なんて言ってられないし、頑張らなくちゃ！　レースは7月2日、場所は筑波サーキットです。まだ梅雨だから雨がちょっと心配だけど、筑波は2回目だし、前よりかはタイムが上がるといいな。

レース前の練習はいつものとおり、レースウイークの前週の金曜日と土曜日に行ってきました。フォーミュラ・ミラージュ（FM）では練習に来ているのは私だけかな、なんて思っていたら、なんとなんと、大木康至選手も練習に来ていました。別に大木選手が練習に来るのは不思議なことではないんだけど、とっても速い選手だし、私はFMの選手が練習するのをあまり見たことがなかったから、「速い選手でも練習するのね」なんて妙に感心しちゃいました。大木選手がいてくれたおかげで、タイムの比較ができる。ラッキー！



インターバルはリラックスして。ちっちゃなファンと記念撮影

本当は大木選手も含めて、FMの選手みんなに直接いろいろ聞きたいんだけどなァ。でもなかなか聞けない私。みなさん教えてくださ～い。

2日間の練習の結果はというと、タイムはベストで57秒5。今まで58秒前半がやっとだった私にとっては、とってもうれしいタイムでした。なぜタイムが上がったかというと、ひとつはブレーキを踏むポイントが、前よりもぜんぜん奥になったこと。そしてもうひとつはコーナーの立ち上がりで、あまりアンダーを出さずにしっかりアクセルを踏んでいけるようになったこと。まだ完璧ではないけれど、なんとなく分かってきました。

だけど、ひとつ問題が出てきたんです。それは私がチビだからシート位置がすごく前で、ってことはシフトレバーが近すぎて、4速→5速にシフトアップする時に腕がつりそうになっちゃうこと。ずっと走っていると痛くなって、とってもつらいんだよ。

こんな思いをしてるのは私だけなのだろーかと思っていると、同じFMに出ている清水剛選手の事を思い出しました。「そういえば剛センシュもちっちゃいぞ!!」（ゴメンナサイ、怒んないでね）。さっそく剛センシュに聞いてみると、なんと彼も私と同じくつらいらしい。悩んでいるのは私だけじゃないのネ。でも剛センシュはいつもトップクラスにいるから、そういうのはあまり速さに関係ないみたい。私も気にしないで頑張ろう！

筑波の蒸し暑い第3戦

さてレースウイークの話です。まずは金曜日。今回はFJ1600のレースも一緒なので、スポーツ走行はものすごく混んでいて、練習するのも大変でした。タイムは他の選手の2秒落ちくらいだったけれど、明日の予選はタイヤが新しくなって、自分の感触でも1秒は縮まると思ってました。

土曜日の予選は、朝からすごい雨。これは絶対レインだァと思っていたら、間もなく雨はやんで、FMの時間には路面はしっかりドライに。わーいわーい。史麻号にはしっかり新しいタイヤがついて、昨日よりもタイムが出せそうな感じ。コースインすると、新品タイヤのせいもあってかすごく走りやすく、最終コーナーではクルマの動きが安定して、アクセルを踏んでいける。どのコーナーも昨日に比べていい感触。予選結果は57秒032でトップから約1・3秒落ち、順位は9台中7番目でした。でも今の私は順位なんかより、自分自身の成長を大事にしてるから、たとえビリでもレースの中で何かつかめるものがあればいいなって思ってる。そうすれば自然に速くなると思うし、1回つかんじゃえばこっちのモノだ。負けないぞ！

決勝日は朝から曇、ドライ。ものすごく蒸し暑くて、立ってるだけで汗がダラダラでした。でもFMはカートに比べて、体力的に1000倍くらい楽なので、その点は心配なし。

スタートはいつも失敗している訳ではないのに、今回はめちゃくちゃ遅くて、1台に抜かれて8位になってしまいました。ちゃんと1速で出ているのに、なんだか2速か3速でスタートしてるんじゃないかなってくらい加速が鈍い。みんなこんなものなのかなあ。

そこから前を追うけれど、前半はなかなか差が詰まらない。後半になって、やっと前の2台に追いついてきた。「あんまり焦らずに、本当に抜ける時に抜こう」と私。前の2台はすごく走りづらそうで、シフトミスするし、立ち上がりでもすごくアンダーが出てる。そこに何度もタイミングを合わせて抜こうとしたけど、抜けませんでした。相手がシフトミスしてアウトに行ってしまったのに、立ち上がりの加速で抜けないのはなぜ!?　私はなんのミスもなしに走っているのに……。

結果はそのまま8位と、とっても不満の残るレースでした。次は富士スピードウェイ。みなさん応援お願いします。



グリッドは後ろに2台の8番手。でも今大事なのは順位じゃない



相手がミスしても抜けない／　すっごく不満の残るレースでした

日本人初のエルフ奨学生奮戦記

瀬川将一の

目指せエフワン!

第5回

トップ快走! しかし……



いよいよ本領発揮!? トップグループは見えてきた!!

暑中お見舞い申し上げます。将一です。

6月25日に、南フランスのノガロでレースがありました。ノガロは2回目のサーキットなので「今日こそは!!」と思いレースに入ったのですが、予選ヒートでアクセルペダルが戻らないというトラブルが出てしまい、最初はなんとかごまかしながら走って走りきろうと思っていたんですけど、だんだん走れない状況になってきて、自分でエンジンを止めてレースを中止しました。

決勝ヒートは結局22位くらいからスタートして、スタートで2台抜いて、最後は15位争いをしている所で、ラスト2周目くらいでダートに出てしまって2台に抜かれ17位。ここ3レース、全部メカニカルトラブルが起きているのでメチャ悔しかったです。

フランスGPを観戦して

次の週、7月2日はマニークールでのF1フランスGPをウィンフィールドの上田さんと日本から来た親友と一緒に見に行きました。マニークールではウィンフィールド校長のリチャードさんの家に泊めてもらい、チケットも取っていただいて、ピーカンの天気の中、ヨーロッパの本場のF1を思い切り楽しみました。マニークールのイモーラというコーナーで見ていたんですけど、自分が去年ウィンフィールドのスクールで走ったこともあるだけに、見ていてもすごく面白いコーナーで、特にアレジなんかは他のドライバーに比べると〝バカッ速〟と思うくらいすごい走りをしていました。結局シューマッハーが勝ちましたが、僕としてはウィンフィールドの先輩のヒルに勝って欲しかったな……。

「なんでもええけど、俺この3日間で真っ黒になってもた……」

ポール・リカールからニースに

7月9日に、ポール・リカールでレースがありました。予選の1ヒート目の、スタートしての1コーナーでクラッシュがあり、僕もそれに巻き込まれてクルマを壊してしまったでも、赤旗が出て、スタートやり直しになったので、「ラッキー」と思ったのですがクルマのダメージは大きく、1ヒート目には出走できなくなった。



7月9日に南仏のポール・リカールで行われたレースは、やや荒れたものとなってしまった

2ヒート目もスタートでまたまた多重クラッシュが起きて、今度は僕もうまく抜けることができ、8台くらい1周目で抜いてきたのですが、これまた赤旗でスタートやり直しになってしまいました。「おいおい、せっかくこんなに抜いたのに……」

結局決勝ヒートでも16位争い中にスピンしてしまい、18位とさっぱりダメな結果しか残せずでした。

ポール・リカールのレースの後、上田さんにモナコとニースに連れていってもらいました。モナコに行ってグランプリコースも走ることができました。ニースでは、メッチャきれいな海で日光浴をして、一日のバカンスを楽しんだんです。

「こんなきれいな所で生活してみたいな」

「また日焼けしたかも?」

一瞬だけどついにトップを!

ポール・リカールの次の週の7月16日にディジョンでレースがありました。このレースには7月17~18日にウィンフィールドのキャンパスのオーディションに出る日本人3人と一緒に行きました。予選ヒートで3番スタートだったので、みんなと「1コーナーはトップで入るから」と、約束してレースに出ました。スタートして、1コーナーに飛び込みの時、3人と約束したからいくと決めて、前のクルマのインに飛び込んでトップに立ちました。でも、次のコーナーでインを刺されそうになって、こうなったら「行ってまえ!」と思い、いっきにブレーキングを遅らせて、タイヤをロックさせながらでも、アウトからかぶせてトップを守りきり1周目のストレートに帰って来ました。

「ヤッター、見たか1位やんけ!」と思ったのも一瞬で、ストレートでのスリップの使い合いで次の1コーナーは5台くらいで飛び込んでいきました。僕はアウトから来たマシュー・デイビスと絡んでしまい、9位くらいに落ちてしまったんですけど、レースを続けることができました。そしてそのまま走ろうとしたのですが、次のコーナーで完全にコントロールを失いガードレールに飛んでいってしまったのです。ガードレールに車が張り付いている感じで、クルマの勢いはチョットの間止まらず、止まったと思えば、タイヤが自分の上に落ちてきました。かなり大きなクラッシュだったので、赤旗が出たんですけど、僕はたいしたケガもせず無事でした。

「せっかく1位やったのに……」

でも、けっこうシーズン後半ですけど、やっと乗れてきたような気がします。

来年のFRCを目指す3人

たった1周でディジョンのレースは終わってしまいました。次の日から、来年のキャンパスのドライバーを決めるオーディションが始まりました。このオーディションには、日本から昨年一緒に受けた中沢シンヤ君と久保田スグル君、それに今年スクールを受けた諸方ルカ君の3人が来ました。

カート出身やアメリカに1年いたとかいろいろなんですが、みんな結構速く、面白いオーディションになりそうです。3人が一生懸命に走っているのを見て「僕も去年このオーディションを受けて、選んでもらって今フランスでレースができてんねんなー」と思いました。

「3人ともがんばれよー!!」

でも日本人だけじゃないのでそう簡単じゃないかもしれない。「でも、こいつらなら」。本当に楽しみなオーディションです。次回には、もう結果をお知らせできると思うので楽しみにしていてください。

僕のレースの方も、次はマニークール(7月30日)なのでディジョンの悔しさをバネに頑張りたいと思います。ですから最後まで応援よろしくお願いいたします。



来年のフォーミュラ・ルノー・キャンパスを目指して3人がやって来た

ウィンフィールド レーシング スクール
ドライバーズ オーディション 生徒募集



1976年 ウィンフィールド レーシングスクール卒業生 **A.プロスト選手**



1994年 ウィンフィールド レーシングスクール卒業生 **瀬川 将一 選手**
1995年 エルフ奨学生フォーミュラルノーキャンパストライバーとして現在ヨーロッパで転戦中

F1
△
F3000
△
F3
△
フォーミュラルノー
△
フォーミュラルノー キャンパス
△
WINFIELD
ウィンフィールド レーシング スクール
マニクール校／ポールリカール校

ドライバーズ オーディション 募集案内

●ルノー、エルフ、ウィンフィールドの30年以上の実績と歴史のあるオーディション。プロスト、アレジ、デーモン・ヒル、コマス、パニスらF1ドライバーを輩出した全世界でF1ドライバー輩出率ナンバー1のレーシングスクールです。

●レース未経験者はもちろん、普通免許証を持っている方、または16才以上のカート経験者男女が対象。

20歳未満

●各校（マニクール校、ポールリカール校）上位6名がエルフ奨学生（VOLANT ELF）としてフォーミュラルノーキャンパス選手権に参戦（計12名のドライバー）。

18歳以上

●最終選考優勝者1名がエルフ奨学生（VOLANT ELF）としてフォーミュラルノーフランス選手権に参戦。

■旅行期間 ~~①1995年8月22日㈫～8月29日㈫8日間（マニクール校）満席~~
②1995年9月14日㈭～9月21日㈭8日間（マニクール校）
③1995年10月10日㈫～10月17日㈫8日間（マニクール校）

■行　程 ①成田→パリ→マニクール（マニクール泊）
②～⑥マニクール滞在（マニクール泊）
⑦マニクール→パリ→（機内泊）
⑧→成田

■旅行代金 ~~①8月22日㈫出発コース：940,000円満席~~
②9月14日㈭出発コース：860,000円
③10月10日㈫出発コース：860,000円
＊上記旅行期間、旅行代金は予告なく変更されることがあります。

■食事条件　朝食6回（機内食は含みません。）

■利用予定航空会社　全日空、日本航空、エアーフランスのいずれか

■利用予定ホテル　ホリディ・イン・ヌベール・マニクール（又は同等クラス）
ホテル・イン・ロッセ・パンドー（又は同等クラス）

■募集人員　各コース9名（最小催行人員7名）
※添乗員は同行しませんが、現地係員がお世話いたします。
＊詳しい旅行条件はパンフレットをご請求の上、ご確認ください。

旅行主催　㊐運輸大臣登録一般旅行業第20号　社日本旅行業協会会員
近畿日本ツーリスト株式会社　本社内海外旅行支店　一般旅行業務取扱主任者：佐枝秀司

ビデオ説明会参加希望、お問い合せ、お申し込みは……

近畿日本ツーリスト㈱　本社内海外旅行支店
〒101 東京都千代田区神田松永町19-2
「ウィンフィールド」係 担当：大野・久松・新見（しんみ）
フリーダイヤル ☎**0120-81-4891**　営業時間：月～金曜日 9:30～17:30

ECOLE DE PILOTAGE
RENAULT elf
WINFIELD

WINFIELD JAPON
〒349-01 埼玉県蓮田市蓮田250-4

No.044094072714

FAXでの資料請求は24時間受けつけております。氏名、年令、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、FAX03-3255-5620「ウィンフィールド ®」係までお送りください。

Text/Hideyasu Usui (R-20), Photos/Eiji Takeuchi (STUDIO BIS)



本コース走行の前に、南コースで挙動を覚える

鈴鹿の「SRS-F」って何？

16歳から参加できる本格フォーミュラスクール。

**鈴鹿サーキットでこの春に開校した、本格的なフォーミュラスクール、SRS-F
7人の若人が参加しているこのスクールは、いったいどんなことをやっているのか？**

「シケインには何速で入るんですか？」、「2速。200m看板の手前でブレーキングするように。看板を越えるとブレーキングがきつくなるからね」、「イヤープラグはした方がいいですか？」、「耳が聞こえなくなるから、君たちもしたほうがいいよ」――鈴鹿サーキットのコース上でこんな基本的なやりとりが聞かれた。SRS-F（鈴鹿フォーミュラレーシングスクール）の実技講習の一場面だ。日本初の本格的レーシングスクールとして、今年の3月20日に開校したばかり。「卒業して2～3年でF3000に乗れるドライバーの育成を目指す」というSRS-Fとはどのようなスクールなのだろうか。

9カ月で100時間

これまで鈴鹿サーキットではバイクのSRS-J、3年前にはレーシングカートのSRS-Kを開校。そして本格的なフォーミュラカーによるスクールが、今年からスタートしたSRS-F。マシンはラルト製のシャシー、RT-FH94に、ホンダの直4 1.6ℓ VTECエンジンと5速のオリジナルミッションを搭載。スクールカーのためリミッターが付き、セッティングも容易に変更できるが、パワーは170馬力もあり、FTやF4と同レベルのマシンといってもいいだろう。

SRS-Fの入校対象は16～22歳で、身長160cm以上。つまり18歳未満で4輪ライセンスが取得できない人も対象。これはSRS-Kからのステップアップも狙ってのこと。いきなりの中間フォーミュラでは未経験者にとっては厳しいのではないかと考えがちだが、「基礎という意味ではFJもいいが2～3年でF3000に乗れるドライバーを育成するという目標がある。いきなりこのマシンではどうかと思う人もいるが、それを時間と内容でカバーしたい」（鈴鹿サーキットモータースポーツ課市瀬重敏係長）とのことだ。

時間と内容でカバーするその時間だが、4月3日～12月23日の期間で、100時間を超える走行練習が組まれている。スクールの開講日は合計26日間、生徒の中には学生が多いことから夏休み期間中には合宿しての集中授業もある。約9カ月で100時間以上の走行練習、1カ月で10時間を超える走行を確保するのは通常のスポーツ走行でもかなり難しく、時間でカバーするというのもうなずける。



スクールカーはラルトのシャシーに1.6ℓエンジンを搭載

次に内容だが、専用のスクールカー、きめ細かなカリキュラムもさることながら、これは豪華講師陣につきると言って良いだろう。校長に中嶋悟氏を据え、実際に指導にあたるのは主任講師の服部尚貴、専任講師の田中哲也、ベテランの佐藤浩二、若手の高木虎之介と、国内の現役トップドライバー。他にもホンダの契約ドライバーが随時特別講義を行うという。F3000やツーリングカーでバトルをくり広げるドライバーだけに、基本はもちろんのこと実戦向きのテクニックや練習時、レース時のドライバーの心理状態、心構えなども吸収することができるのだ。

7名の生徒に講師は4名

SRS-Fの定員はわずか10名。初年度の今年は、問い合わせ30件あり20人が説明会に来たが、授業は平日に行うので学校の問題などあり、実際に入校したのは17～19歳の7人。この中には昨年のカート世界選手権で、日本人初の表彰台となる2位に入賞し、今年もヨーロッパに遠征し続けている山西康司（17歳）。SRS-J、SRS-Kとステップアップしてきた、黒沢元治氏の息子で琢弥の弟の治樹（17歳）。富士GCで3回のチャンピオンを獲得、77年のF1日本GPにも出場した高原敬武氏の息子智一（19歳）。自転車トライアルで世界選手権に参戦した五味康隆（19歳）らがいる。さまざまなタイプの生徒たちだが、彼らにはプロのレーシングドライバーになるという共通の目標がある。「まだ4輪に乗れないのでここに入りました。10月で免許が取れるのすぐにでもレースに出場したい」と山西。また黒沢も「絶対速くなって兄貴と親父を抜きたい。今年の終わりまでに免許がとれるので、フォーミュラに乗りたい」とプロへの意欲をみなぎらせていた。



（後列左より）高木虎ノ介、佐藤浩二、服部尚貴、田中哲也と豪華な講師陣

さて実際の授業はどのように行われているのだろうか。既に座学による基礎知識とシビックを使用しての基本的な操作と、車の動きを知るためのジムカーナを終了。2回目のコース走行であるこの日は、午前中にコーナリングの座学を終え、鈴鹿サーキットの第1コーナーイン側パドックに作られた専用ガレージに集合して、南コースへ移動。初フリー走行だ。しかし「周りをよく見てうまく抜かせること」が目的だったが、生徒たちは熱くなりコーナーを攻めるのみ。開始早々クラッシュする生徒も出て、予定より早く切り上げることになってしまった。生徒を集合させ「みんなバックミラーをよく見ろ。あれじゃ何の練習にもならない。レースじゃないんだからな」と服部講師の厳しい言葉が飛ぶ。

次に国際レーシングコースに場所を移してコーナリングの基本を練習。第1コーナー、ヘアピン、シケインと、手前にパイロンを立て生徒たちはそこでいったん停止。それぞれ講師が立ち「何速まで入れ何速に落としてコーナーに入れ」と基本を指示。この要領でコースを回って来た生徒に、今度はひとりずつ細かく具体的な指示を与え何度も走らせる。

生徒も「分からないところをすぐに教えてくれる。すごい先生がそろっているので応えないとだめですね」と真剣だ。また合間には実際にマシンを使ってセッティングの基本も教えこむ。「これで速くならなきゃウソですよ。企業秘密の部分まで出し惜しみしないで教えるつもり。まだ始まったばかりだけどみんな結構速いですよ」と服部講師。

SRS-Fではスクールの最終段階で、他のサーキットを借り切っての模擬レースも実施する予定。そして最終的に1～2名に絞り込みスカラシップ選手とし、来年のレース活動（F3？）をバックアップする。ここまで徹底した授業内容を考えれば「2～3年後のF3000ドライバーを育成する」と言うのもよく理解できる。近い将来講師陣のライバルとなるであろう若い苗木たちが今、すくすくとそして大きく育っている。



マシンを降りるたびにアドバイスを求める生徒たち。講師陣もとにかく熱心に教え込む

個人売買における金銭トラブルは、編集部では責任を負いかねますのでご了承ください

■売りたし

●SRS FJ06
FJ／赤 即走行可 スペアW一セット 価格80万円。

・R&D FV94
EG95仕様 スリックT 程度上 即レース可 価格260万円。テイク ファースト 担当：竹村 〒513 三重県鈴鹿市末広町531-1／☎0593-83-3211

●R&D FV94
FJ／赤 戸田チューン 仕様変更済み スリックT8分山 レース未使用 新車並み 至急売りたし 価格270万円。交告（コウケツ）映児



〒448 愛知県刈谷市井ケ谷町井田10-11-202／☎0566-35-1088 or R&Dスズカ 担当：木村／☎0593-78-7385

●ウエスト92J
FJ／赤 92年3月製作 尾川チューン OH後3時間のみ走行 ピルシュタインダンパー装着 ウエストレーシングカーズ内保管 練習最適 価格90万円 値引き応相談。西田好伸 〒551 大阪市大正区泉尾4-14-27-207／☎06-551-1385（19：00～23：00）



●R&D F4／94
FJ EG・OH済み 新品パッド ピルシュタインダンパー ステアリング脱着式 練習に最適 初心者指導します スリックTセット 価格35万円至急売りたし。木曽周二 〒486 愛知県春日井市熊野町2177-3／☎0568-83-4688（自宅）or 82-0217（工場）

●マナティMK9
FJ／レモンイエロー 尾川チューン CR UXダンパー装着 95年用アーム装着 価格230万円応談。西尾光平 〒560 大阪府豊中市上野東2-13-30／☎06-849-0105 orフナキレーシング 担当：吉尾／☎0593-70-0987

●R&D FV94
FJ／赤&白&銀 戸田チューン スリック仕様 上位入賞車 スペアPあり 価格250万円 詳細は☎にて。田頭浩之 〒752 山口県下関市長府浜浦南町1-18／☎0832-57-1467

●ウエスト92J
FJ／黄色 T94年規定 EG、TM、シャシーOH済み 価格90万円応談。本多功治 〒460 愛知県名古屋市中区栄5-23-11／☎052-241-5975 or 0308-52-1573



●オスカーSK90
RS／黒 最終モデル ボールポジション他上位入賞車 筑波55秒台。富士1分35秒台 スリック・レインT エンケイ2セット ギヤ（筑波、富士）コイル（4.53、5.00、7.30、7.77、8.00） ローウイング他P あり 価格250万円応談 日本中配達OKまずは☎を。恵利将仁 〒108 東京都港区海岸3-19-2 ダイヤモンドパレス3-3／☎03-5232-5572



●ニッサン・ザウルスJr
グリーン&イエロー 関東シリーズ出場車 95年OH後第1戦のみ使用 ブレーキBr 大型ラジエター スペアEG 他Pあり 当方ケガのため至急売りたし!! 価格100万円ロー応可 その他☎にて。オビヨシヒコ 〒193 東京都八王子市川口町2515-1 ルミエールK103／☎0030-08-9432 9 or 0426-54-0898（23：00まで）

●トヨタ・スターレット（EP71）
富士P仕様 94年参戦価格応談 ☎ください。佐藤政志 〒389-05 長野県小県郡東部町鞍掛501-20／0268-63-7128 ※P＝プロダクションカー、T＝タイヤ、W＝ホイール、EG＝エンジン、OH＝オーバーホール、TM＝トランスミッション

チャレクラ・インフォメーション
講習会／走行会／イベント／告知etc.

■ライセンス講習会

●「A級ライセンス講習会」／8月26日／筑波サーキット／受講料：2万円／資格：Bライセンス所持者で公認競技会に1回以上出場。JRSCC／☎03-3584-0035

●「JAF公認審判員講習会」／9月10日／TIサーキット・英田／受験科目：コース・時計・技術、A・1・2級／参加料：各科目1万2000円（他科目の同時受講は4000円増し）／締め切り：8月31日。ツー・アンド・フォー内 JAF公認審判員事務局／☎06-761-0248

■走行会ほかイベント

●「95 TOYOTA ハートフル キャンピングinびわ湖」／8月26～27日／近江白浜琵琶湖一帯／内容：オートキャンプ他サブイベント／参加料：1台1家族7000円／MAX：300台。TOYOTAハートフルキャンピングinびわ湖 大会事務局／☎06-761-8246

●「インターゲット エントランスラリーVol4」／8月26～27日／山梨150km／参加料：2万2000円／締め切り：8月19日必着。プロクルーズ エントランスラリー係 担当：田代／☎0493-62-1485

●「インターゲット サタデーアタックRd6」／9月2日／関越スポーツランド／内容：ジムカーナ／参加料：1万円（練習会は4000円）／締め切り：8月26日必着。プロクルーズ サタデーアタック係 担当：田代／☎0493-62-1485

●「アディダスカップジムカーナチャレンジRd7」／9月3日／関越スポーツランド／格式：準国内&クローズド／参加料：1万2000円／締め切り：8月19日必着。プロクルーズ 担当：田代／☎0493-62-1485

●「JCCAクラシックカー フェスティバル中山ミーティング95」／9月3日／中山サーキット／①100kmレース、②スプリントレース、③スポーツ走行、④ファミリー走行／参加料：①一般6万9950円、②同3万8100円、③同1万5450円、④同1万2360円／参加車両：①&②は'70年（同型式～'74年）、③&④は～'74年に生産の車両、主催者特認車両／締め切り：8月25日。ツー・アンド・フォー内 中山ミーティング事務局／☎06-761-0248

8月の関東地区B級ライセンス講習会

※申し込み・問い合わせは直接主催者へ

日／曜	時間	地域／会場	申し込み・問い合せ先	☎
4／金	19：00	群馬、関越スポーツランド	RRC群馬	0273-27-2079
5／土	13：00	牛久、牛久エスカードホール	ASCCT	0298-89-0814
	18：30	松本、㈱ユーノス信州本社	㈱ユーノス信州	0263-34-0282
	19：00	港、六本木JRSCC事務局	JRSCC	03-3584-0035
	19：00	八千代、八千代市民会館	CLEVER	03-3854-8689
6／日	10：00	調布、調布スポーツセンター	調布レンタカー	0424-88-4111
	10：00	流山、流山市南流山センター	PRAC	0471-50-0330
	13：00	黒磯、丸和オートランド那須	丸和産業㈱	0287-68-0345
9／水	19：00	横浜、東戸塚オセアンビル	AB-MC	03-3701-5493
10／木	18：30	墨田、墨田産業交流センター	TMAC	03-3611-6687
12／土	18：30	豊島、池袋区民センター	CLEVER	03-3854-8689
13／日	10：00	三郷、三郷市文化会館	PRAC	0471-50-0330
	13：00	横浜、横浜市技能文化センター	レーシングアカデミー	03-3611-6687
	13：30	戸田、戸田市文化会館	CLEVER	03-3854-8689
	14：00	朝霞、朝霞市民会館	TMAC	03-3611-6687
	18：30	上尾、上尾市福祉会館	CLEVER	03-3854-8689
	19：00	墨田、錦糸町すみだ産業会館	レーシングアカデミー	03-3611-6687
	19：00	宇都宮、コンセーレ栃木県青年会館	SHAKE DOWN	0287-96-4505
16／水	19：30	北、北とぴあ	TMAC	03-3611-6687
18／金	18：30	川崎、川崎市民プラザ	TOK	045-984-8830
19／土	10：00	越谷、越谷コミュニティセンター	PRAC	0471-50-0330
	13：00	千葉、木更津市民会館	レーシングアカデミー	03-3611-6687
	13：30	横浜、横浜駅西口西公会堂	TOK	045-984-8830
	18：00	世田谷、カーサロン SANDORA	JACS	03-3429-2517
	18：30	横浜、戸塚サンライフ	TOK	045-984-8830
	19：00	柏、柏市民文化会館	レーシングアカデミー	03-3611-6687
20／日	10：00	調布、調布スポーツセンター	調布レンタカー	0424-88-4111
	10：00	羽村、㈱千代田エネルギー羽村営業所	千代田エネルギー	0425-54-3224
	13：00	大宮、大宮ソニックシティ	レーシングアカデミー	043-266-3703
	13：30	所沢、ミューズ所沢市民文化センター	CLEVER	03-3854-8689
	14：30	水戸、水戸市民会館	TMAC	03-3611-6687
	19：00	千葉、千葉市文化センター	レーシングアカデミー	043-266-3703
	19：00	板橋、板橋区立文化会館	CLEVER	03-3854-8689
25／金	19：00	市川、市川市文化会館	㈱日本レース企画	0474-66-5400
26／土	13：00	宇都宮、宇都宮市東コミュニティセンター	レーシングアカデミー	043-266-3703
	13：00	牛久、牛久エスカードホール	ASCCT	0298-89-0814
	13：30	厚木、厚木市文化会館	TOK	045-984-8830
	14：00	新宿、新宿文化センター	CLEVER	03-3854-8689
	17：00	川口、川口ドライビングアカデミー	ティームラロッサ	03-3611-6687
	18：00	横浜、長津田TOK事務局	TOK	045-984-8830
	18：30	横浜、横浜市技能文化会館	TMAC	03-3611-6687
	19：00	江戸川、江戸川区文化センター	CLEVER	03-3854-8689
	19：00	成田、成田国際文化会館	日本レース企画	0474-66-5400
	19：00	茨城、つくば市筑波公民館	レーシングアカデミー	043-266-3703
27／日	10：00	品川、五反田ゆうぽうと	ALC	03-3705-3070
	10：00	八王子、石森石油	石森石油	0426-91-1241
	14：00	川口、川口市総合文化センター	㈱日本レース企画	0474-66-5400
	16：30	町田、東急ハンズ町田店	東急ハンズ町田店	0427-28-2511
	17：30	渋谷、東急ハンズ渋谷店	東急ハンズ渋谷店	03-5489-5200
	18：30	越谷、越谷コミュニティセンター	TMAC	03-3611-6687
28／月	19：00	川越、川越市民会館	ALC	03-3705-3070
29／火	19：00	船橋、船橋市NASCA会議室	㈱日本レース企画	0474-66-5400
31／木	18：00	世田谷、カーサロンSANDORA	JACS	03-3429-2517



やったぜ、小暮！ 根性の走りで6位入賞だ

第4回 シビックインターカップ第4戦 筑波

意外！ 小暮はこれがシビック初挑戦

早速結果を申し上げます。「6位っ！」。いやいや、このコーナー始まって以来の入賞を果たしてくれたのは、ミラージュカップのコーナーでもおなじみの小暮吉則選手。ホームコースとする筑波で、見事本領を発揮してくれました。

えっ、1-2フィニッシュも夢じゃない、って前回の最後に言ったって？　ま、それもそうなんだけど。でも、ちょっと意外だったのは、百戦錬磨の小暮選手、実はシビックでレースするのが今回初めてだったこと。それにもかかわらず、予選は5番手。前にいるのは渡辺明、西垣内正義、山口吉明、福田よしのぶ選手と、全員インターカップで優勝したことのある面々です。それを考えれば本当にすごいことだっていうのが分かるでしょ。

ところで、小暮選手にミラージュとのフィーリングの違いを聞いてみました。

「うわさどおり、すごく乗りやすいクルマ。ちゃんと曲がってくれますしね（笑）。しかも、筑波ではベストっていう、僕なりのラインがあるんですけど、これだとトップの人たちのタイムには届かない。練習中からいろんな人の後ろについて走ったんですが、みんなレコードラインを正確にトレースしてました。いわゆるセオリーどおりの走りが合うクルマなんですね」

もちろん、クルマだけがいいんじゃないですよ。名鉄運輸アクロスS-R号のセッティングがビシッと決まってたっていうのも理由のうち。分かってますよね？

さて、詳しいレース展開は、下のレポートで触れるとしますが、中盤に井入宏之選手にかわされたそしたものの、冒頭で述べたとおり小暮選手は6位に入り、チームアクロスにインターカップで今年初めてのトロフィーを献上してくれました。

「実績もあって、筑波はホームコース。しかも同じファルケンユーザーで、とてもていねいな企画書をいただいたのが小暮選手を選んだ理由なんですけど、ホント期待どおりの結果を残してくれました。これからもウチのシビックに乗ってくれる方には、オーナー斬りをお願いしたいですね！」と、近藤澄男選手。

実は今回、その近藤選手、1週間前の鈴鹿のレースから「スリップストリームに入られなくても、真横からぶち抜かれた」ほどのエンジン不調を抱えてたんです。悔しい結果に終わったにもかかわらず、小暮選手の入賞をまるで自分のことのように喜んでいました。

残るレースもこんな感じで、爽やかにいきたいものですね、近藤選手！



この日はミラージュインターとのダブルエントリー、しかも連チャンとなった小暮選手



当企画初の入賞を獲得。この調子で次回も頑張ろう！

第4回挑戦者 小暮吉則



この選手に関して、もはや詳しい説明は不要だろう。今回の舞台となった筑波でKP61レースにデビュー。以来、数多くのシリーズに参戦し、一昨年はミラージュフレッシュマンのチャンピオンを獲得している。昨年はフォーミュラ・ミラージュにも参戦した。

「僕自身のチョイスだから仕方ないけど、これだけ路面温度が上がっちゃうと、タイヤと路面のマッチングが今イチで……。それでも（井入選手とのバトルは）楽しかったっすよ。なんとか抑えきろうと思ってたんですがダメでした。でも、これだけちゃんとしたクルマを与えてもらってレースができたことを感謝したいです。これぞレーシングカーって感じ。こんなにいいクルマに乗せてもらったのは初めてです。いやぁ、シビックにも興味が沸いてきましたよ。普段僕が乗っているミラージュにはミラージュの魅力があるし、シビックにはシビックの魅力がある。来年は、ふたつともできたら最高なんですけどね！」

RACE REPORT

インターカップの勇者に小暮選手、全く届せず！

昔段の3カー体制から、体制を絞り2カー体制で挑んだ筑波でのシリーズ第4戦（7月2日）。昨年、鈴鹿フレッシュマンシリーズのみならず東日本シリーズのチャンピオンも奪っている近藤選手だけに、やや不本意な展開が続いているインターカップでの流れを変えるべく挑んできた。しかし、前の週から不調のエンジンのため予選では7番手。

その穴を、初のシビックドライブだったにもかかわらず、見事埋めてくれたのが今回のゲストドライバー小暮選手。ポールシッターのベテラン渡辺選手からわずかコンマ7秒遅れで、予選5番手を獲得。

梅雨時にもかかわらず、決勝はドライコンディションで争われたが、不快指数は極めて高く、シビックレースが行われる午後には、路面温度もピークになってしまった。前4台から離されたが、小暮選手はこのところ心境著しい井入宏之選手と、終始熾烈な5番手争いを繰り広げた。

巧みなガードでなんとか逃げきろうとした小暮選手だが、13周目にベースに勝る井入選手にかわされてしまう。続いて牧田克也選手が迫るが、辛くも振り切って6位入賞を果たすことなった。近藤選手は最後までエンジン不調が響き、無念の12位。

求む、元気な挑戦者！ 残るはN耐含めて3戦

チーム・アクロスでは、シビックインターカップとN1耐久ラウンドシリーズに参戦するドライバーを募集中だ。レースの日程は以下のとおり。

9月24日　N1耐久第5戦鈴鹿
10月8日　シビックインター第6戦仙台
11月19日　シビックインター最終戦鈴鹿

問い合わせと応募先は、チーム・アクロス〒448 愛知県刈谷市井ケ谷町久伝原37／☎0566-36-8272、FAX：0566-35-8236へ。

全日本ダートトライアル選手権第4戦
95ダートトライアルin北海道
6月17～18日／オートスポーツランド砂川／天候：晴れ／主催：AG・MSC北海道

Photos & Report/Masao Adachi

好天に恵まれた第4戦北海道
日本有数のハイスピードコースには
ハプニングが待ちかまえていた…

95 DIRT TRIAL in HOKKAIDO

渋谷の連勝、ついにストップ/C2 CLASS

RESULT/C2 CLASS

●出走9台				1回目		2回目
1	㉑	丸山 智義	ベストスポーツサニー	1'38"104	▷	1'35"841
2	㉒	渋谷 真	シムスファルケンインプレッサ	リタイア	▷	1'36"348
3	㉓	田栗 慎二	ファルケンエナペタル小山サニー	1'38"950	▷	1'37"760
4	㉔	寺沢 伸二	トラストBSヌヴォラーリサニー	1'39"998	▷	1'38"243
5	㉕	松崎 宏晃	岩永FKオーリンズインプレッサ	1'39"351	◁	リタイア
6	㉖	滝沢 孝	キャリブーンBSゼクセルサニー	1'40"451	◁	1'41"484
7	㉗	川岸 悟	ホットスタッフサニー	1'40"607	◁	1'42"222
8	㉘	田中 伸彦	ファルケンシムスインプレッサ	1'41"480	▷	1'40"871
9	㉙	中島 孝夫	TBワコーズ日産大完サニー	1'42"690	◁	1'43"907



丸山がついに渋谷を止めた！

栗津原、九州での雪辱を果たす/C1 CLASS

RESULT/C1 CLASS

●出走13台				1回目		2回目
1	㊸	栗津原 豊	アドバンスズキスポーツアルトR	1'39"568	▷	1'37"217
2	㊹	駒 伸雄	ファルケン浜松クリエイトアルト	1'38"439	▷	1'38"257
3	㊺	屋代 博美	STiトラストBSビビオ	1'39"277	▷	1'38"519
4	㊻	石井 淳	ALEXカヤバBSヤマトシティ	1'42"108	▷	1'39"368
5	㊼	内山 真二	ダイハツミラC1ターボ	1'41"253	▷	1'40"150
6	㊽	小池 正巳	アドバンオーリンズトンボアルト	1'41"068	▷	1'40"791
7	㊾	古谷 光典	Agipミューポテンザシティ	1'41"642	▷	1'40"953
8	㊿	小清水 昭一郎	ハートDLキャロッセシティ	1'45"840	▷	1'41"429
9	㊶	森 皆也	バルボリンビビオ	1'45"719	▷	1'41"569
10	㊷	重野 幹夫	BSジールTSSアルトワークス	1'42"629	▷	1'42"016



久々にダートラ出場の栗津原が見事V

綾部、西尾の全日本ラリー勢を北村が制す/A4 CLASS

RESULT/A4 CLASS

●出走25台				1回目		2回目
1	㊱	北村 和浩	CMSCファルケン和光ランサー	1'34"455	▷	1'33"448
2	㊲	綾部美津雄	GABアヤペインプレッサ	1'33"981	▷	1'33"888
3	㊳	西尾雄次郎	ファルケンインプレッサSTi	1'34"150	◁	1'35"770
4	㊴	宝田 芳浩	CMSCオクヤマランサー	1'34"704	◁	1'35"055
5	㊵	楯田 正文	CMSC三菱石油ランサー	1'34"719	◁	1'35"462
6	㊶	松岡 優	札幌スバルDLインプレッサ	1'35"214	▷	1'34"884
7	㊷	国兼 丈嗣	BSKYB長野塾AIMランサー	1'35"323	◁	1'35"399
8	㊸	荒井 信介	キャロッセCMSCランサー	1'35"409	◁	1'35"786
9	㊹	田口盛一郎	GAB岡山三菱ランサー	1'36"647	▷	1'35"581
10	㊺	吉村 修	オートルックインプレッサ	1'35"866	▷	1'35"838



チャンプ北村和浩が意地を見せた

夏明が本領を発揮、逆転V!/A3 CLASS

RESULT/A3 CLASS

●出走19台				1回目		2回目
1	㉟	夏明 成己	ポテンザオーリンズスターレット	1'43"089	▷	1'41"256
2	㊱	中山 義彦	ガレージCBポテンザミラージュ	1'45"760	▷	1'41"822
3	㊲	南出 司	アドバンKYBミラスターレット	1'43"658	▷	1'41"967
4	㊳	大田 清隆	アドバンオーリンズスターレット	1'42"058	◁	1'42"668
5	㊴	角皆 昭久	DLエナペタルリンスターレット	1'44"257	▷	1'42"153
6	㊵	鎌田 幸麻	ファルケンカマタSミラージュ	1'42"836	▷	1'42"635
7	㊶	田村 明彦	オーツウィンスポーツミラージュ	1'44"223	▷	1'42"805
8	㊷	三浦 正博	BSオーリンズBICミラージュ	1'44"007	▷	1'42"901
9	㊸	成島 浩次	アドバンGABスターレット	1'45"552	▷	1'42"923
10	㊹	小玉 英大	KYBレッドゾーンスターレット	1'44"986	▷	1'43"030



逆転劇を演じた夏明成己

波に乗ったか？ 新山が2連勝/A2 CLASS

RESULT/A2 CLASS

●出走17台				1回目		2回目
1	㉛	新山 信夫	BSオペロンオーリンズシティ	1'47"235	▷	1'44"120
2	㉜	渡部 愛	ワタナベOL日動井上BSシティ	1'47"404	▷	1'44"624
3	㉝	寺田 忠昭	FKセンチネルオーリンズシティ	1'47"756	▷	1'44"685
4	㉞	宮本貴美敏	アドバンシティ	1'46"868	▷	1'44"761
5	㉟	加藤 秀明	アジップWinmaxコンシティ	1'45"611	▷	1'44"820
6	㊱	増田 好洋	シェルBSティーズKYBシティ	1'47"942	◁	1'45"001
7	㊲	滝本 久也	ダンロップサンロードシティ	1'47"601	▷	1'45"328
8	㊳	相原 保雄	オーツ神山建設AZURシティ	1'49"379	▷	1'45"330
9	㊴	窪田 将	BSすみやまSUNOCOシティ	1'47"900	▷	1'46"082
10	㊵	金田 知昭	ファルケンKYBゴリガンシティ	1'46"327	◁	1'46"902



一皮剝けた？ 新山が2連勝

負け知らず、アルトと原は最強コンビ/A1 CLASS

RESULT/A1 CLASS

●出走10台				1回目		2回目
1	⑨	原 宣司	スズキスポーツアルトR	1'42"999	▷	1'42"232
2	⑩	岡 政郎	OKA. C. Sビビオ	1'46"781	▷	1'45"206
3	⑪	志賀 彰	ダイハツミラX4	1'47"647	◁	1'45"212
4	⑤	斉藤 春生	アドバンSTi. GABビビオ	1'46"490	▷	1'45"546
5	⑧	今福 和彦	福岡スバルBS. MAOビビオ	1'47"014	▷	1'45"792
6	⑦	福田 伸也	ポテンザSTW-K'Sビビオ	1'46"135	▷	1'45"892
7	⑥	大城 智行	ファルケンクリエイトビビオ	1'47"093	▷	1'46"178
8	④	築崎 剛正	ウィンスポーツシロクマビビオ	1'48"280	▷	1'46"414
9	①	斉藤 邦夫	DVSアルト	1'54"036	▷	1'49"038
10	②	森 耕作	老松園Pガレージアルト	1'53"244	▷	1'50"227



全勝の原宣司、これで4勝目

いつまで勝ち続ける？ 田嶋はこれで4連勝/D CLASS



オーバーヒートに悩まされた田嶋だが、それでも優勝！

九州、丸和、鈴鹿とその舞台を変え転戦してきた全日本ダートトライアル選手権の第4戦は、日本有数の雄大な超ハイスピードコースである北海道のスポーツランド砂川を舞台に開催された。

田嶋伸博、堀内幸一、亀田恒夫らのDクラス勢はこの競技後バイクスピーク・オートヒルクライムに出場する予定だが、堀内は鈴鹿でデビューさせたFTOを既にアメリカに送ってしまったために「去年の鈴鹿オールスター以来そのままにしてあったランサーを持って来たんです。エンジントラブルで出発ギリギリになってようやくマシンが出来上がったので、全然走っていないんですよ」と、予選でも10番手と振るわない結果となってしまった。



今回も2位の大井。ニューマシンに期待

第一ヒートはスタート直後に亀田インプレッサワゴンがエンジントラブルでリタイア。1000万円以上もつぎ込んだという高杉卓志ランサーが4番手につけて頭角を現す。トップ争いは田嶋カルタスと大井義浩GTOの一騎打ちとなるが、田嶋が1分37秒697を出し、大井に0秒88差をつけ辛うじてトップに出る。

第2ヒートは堀内ランサーがアクセルワイヤーを切ってリタイア。トップ2位の戦いは、大井が1分32秒300をマークするが、田嶋も少しも手を抜かず1分30秒31を出して勝負あり。「オーバーヒート気味で少しでも速くゴールしたいと思ったんですが、フロントウイングを壊してしまった。あれって、アルトー台分の値段なんで高くつきましたね」と、田嶋。一方の大井は、キャロッセの新型マシン投入も予定しているが、どうやら今年中のデビューは無理のようだ。

RESULT/D CLASS

●出走13台				1回目		2回目
1	㊶	田嶋 伸博	セキスイスズキスポーツカルタス	1'32"056	▷	1'30"311
2	㊷	大井 義浩	キャロッセ94D	1'32"866	▷	1'32"300
3	㊸	河内 渉	インディBSオペロンランサー	1'34"731	◁	1'35"084
4	㊹	高杉 卓志	テクトムセルバランサー	1'35"776	◁	1'37"526
5	㊺	神戸 誠	Gスポーツ共立商会ランサー	1'36"121	◁	1'36"530
6	㊻	秋間 忠之	関ペファルケンCMSCランサー	1'36"222	◁	1'37"226
7	㊼	金子登志夫	M2レーシングランサー	1'37"031	◁	1'51"004
8	㊽	石堀 正則	ベストスポーツサニーGTi-R	1'37"130	◁	1'40"167
9	㊾	古澤 稔久	リジットアドバン谷田川ランサー	1'38"789	▷	1'37"674
10	㊿	亀田 恒夫	シムスインプレッサワゴン	リタイア	▷	1'38"882

2本目にバーストするも梶岡がV/C3 CLASS



荒れた路面には強い、梶岡悟ファミリア

予選で好調だったのは今井政明と堀江真彦のランサー勢で、ともに1分30秒台、その後に国政久郎インプレッサ、炭山義昭ランサーと続く。

第一ヒートは、ニューエンジンを投入した梶岡悟ファミリアが他を寄せつけない走りで1分32秒603をたたき出し、トップに立つ。

第2ヒートに入ると国政久郎が1分34秒493をマークして4位に浮上。炭山はタイムダウンしていは今井政明と梶岡悟の一騎打ちとなる。しかし今井のランサーは白煙を吐き、梶岡もタイヤバーストで両者リタイア。結局第一ヒートのタイムで梶岡が優勝を果たした。

RESULT/C3 CLASS

●出走14台				1回目		2回目
1	㊶	梶岡 悟	DLオートルック片山ファミリア	1'32"603	◁	リタイア
2	㊷	亀山 晃	ベストスポーツGT-R	1'33"813	◁	1'33"828
3	㊸	炭山 義昭	TSSポテンザジールランサー	1'34"200	◁	1'35"730
4	㊹	国政 久郎	ニッセキ沖自動車インプレッサ	1'40"466	▷	1'34"493
5	㊺	今井 政昭	ファルケンランサー	1'34"500	◁	リタイア
6	㊻	鴻永 武司	トラストYHKYBインプレッサ	1'35"962	▷	1'34"856
7	㊼	登坂 均	キャロッセ95Cランサー	1'34"954	◁	1'35"545
8	㊽	長谷川一寿	テンダーアドバンGABランサー	1'35"164	◁	1'36"143
9	㊾	谷田川敏幸	トラストポテンザKYBランサー	1'35"195	◁	1'35"237
10	㊿	わだよういち	北信RS未来サンテックランサー	1'35"314	◁	1'36"865

'95 全日本ジムカーナ選手権第5戦
PMC・Sトライアル・ド・ニッポン'95

6月17～18日／ラリーキッズ伊那Aパレット／主催:PMC・S
Photos/Sakae Wakaume Report/Shigeru Shimamura

**第5戦の舞台となったラリーキッズ伊那Aパレットは
4年前に最後の、年イチ全日本を行ったコース
ベテランドライバーには感慨深い一戦となったようだ**

PMC・S TRIAL DE NIPPON '95



まもなくドグミッションが装着される予定の大澤が2位



今季初の表彰台を得たザウルスJr.の五十嵐

D CLASS

古瀬不在の一戦ながら、攻守両面の走りで山本が2勝目をマーク



今季2勝目を挙げた山本真宏。この貴重な白星でより上昇ムードを強めたいところ！

RESULT/D CLASS

●出走6台				1回目		2回目
1	㊂	山本　真宏	ADVAN T3	1'03"740	▷	1'02"943
2	㊂	大澤　勉	パワーフィルターSSカプチーノ	1'05"021	▷	1'03"999
3	㊂	五十嵐豊光	FETアドバンGABザウルスJ	1'06"671	▷	1'05"990
4	㊂	馬場和三郎	アースクープOVALNS Jr	1'10"520	◁	リタイア
5	㊂	上條　栄一	上條解体エバ6A	1'11"572	▷	1'10"945
6	㊂	水田　和之	ビックホーンマーチ86BP	リタイア	▷	1'40"500

4年ぶりに全日本ジムカーナ選手権で用いられた、ラリーキッズ伊那のAパレット。全日本カート選手権にも使われているコースだけに、関東のジムカーナとしては久々のハイスピード設定となった。前回開催された時との最大の違いは、コーナーのアウト側に規制パイロンが置かれておらず、なおかつスラロームやタイトターンの設定が全くないことだ。ヘアピンは一カ所のみ存在するが、車種によってはグリップ走行でクリアできるほど。とはいえ、ドライビングにはリズミカルな操作を要求し、スタンド前のS字ではパイロンタッチや脱輪が続出。またもうひとつのS字シケインでは進入での無理が祟って、タイムに大きな影響が出る外周への脱出スピードを鈍らせてしまう選手も、決して少なくなかったほどの難コースでの戦いとなった。

さて、前回の中国ラウンドでエンジンを壊してしまい、参加が危ぶまれていた古瀬光男だが、やはり修復が間に合わず出走を取り止め。そのほかにも3名の選手が不参加のため、今回のDクラスは6名での戦いとなった。

土曜日に行われた練習走行でぶっちぎりのベストタイムをマークしていたのは、もちろん山本真宏だ。しかし、翌日の決勝第一ヒートでの走りはトップタイムこそマークしているが、明らかに抑え目。「天気予報じゃ午後から雨って伝えているから、勝てる試合をみすみす逃がすことはできないしね。だから、抑えていったんだけど、もちろん古瀬が出てれば全開でいったよ。第2ヒートは全開！　大澤（勉）クンがゴールしても、エンジンを吹かしてタイムを聞かずに攻めていくからね」と山本。

その大澤は第2ヒートの中間タイムで山本をコンマ5秒上回るが、外周で4速へのシフトアップでミスしてしまい、自らのタイムは更新したものの、山本には届かず。事実上のウイニングランとなった山本だが、第一ヒート終了時のコメントどおり、まさに異次元ともいうべき走りを見せつけ、タイムアップをも果たし今季2勝目をマーク。

「思いっきり走ったけど、まさか自分でも2秒台に入れられるとは思ってもみなかった。ただ、本音を言えば、古瀬がいてキッチリ勝ちたかったけどね」という山本。それはまさしく偽らざる心境だったに違いない。

2位は大澤が獲得。タイムロスの原因となったノーマルミッションは、次回までには変更してくる予定とのこと。3位にはNAのCG13エンジンを今年から積むザウルスジュニアの五十嵐豊光がつけたが、わずか150馬力のハンディが、このハイスピードレイアウトで大きく響いてしまったようだ。



今季土付かずのまま3度目の王座を決めた山野

RESULT/A2 CLASS

●出走28台				1回目		2回目
1	㊀	山野　哲也	A'PEX CIVIC BS	1'11"282	◁	1'21"417
2	㊀	田口　玲	BSOリンズCMSCミラージュ	1'11"958	▷	1'11"933
3	㊀	藪木　寿一	DYNAXBSエナペタルCRX	1'12"461	▷	1'12"386
4	㊀	片山　和也	BSオーリンズAZURシビック	1'12"390	◁	1'17"794
5	㊀	木村　学二	ラックダンロップハートシビック	1'32"468	▷	1'12"718
6	㊀	樫戸　稔	スピリッツDLエナペタルCRX	1'13"181	▷	1'12"804
7	㊀	川口　健	カーツTYエナペタルミラージュ	1'12"830	◁	1'13"339
8	㊀	甲木　宏祐	シロクマBSナプロJrシビック	1'13"249	▷	1'12"859
9	㊀	目部　利見	ホンダシビックBSロデオBP	1'12"893	◁	1'13"043
10	㊀	吉谷　哲也	DLブーボエナペCSミラージュ	1'22"908	▷	1'13"213

A2 CLASS

山野哲也、早くも満点チャンプ決定！

有効5戦のシステムが採られているため、今回勝てば無条件でチャンピオンが決まる山野哲也。練習走行でこそ定番の（？）ペナルティが取られたが、決勝では第一ヒートからきっちりとタイムを残し、トップに躍り出る。

練習中から常に山野に匹敵するタイムをマークしていた田口玲だが、逆転を狙った第2ヒートはシケインでリズムを崩し、わずかなタイムアップにとどめてしまったため、山野の逃げ切りが決定。自分の勝利を知ってからスタートしただけに、山野はライトを点灯して、まるでウイニングランのようにスタート。2本の脱輪はまあご愛敬。

「早々と満点チャンプを決められてうれしい！　来年はランサーが走っているクラスも考えているけど、NSX-Rは高すぎて手が出せないしなあ」と山野。4度目の全日本タイトルは、別なクラスでの獲得を目指しているようだ。

A1 CLASS

さらばA1、3連覇決めて菱井、次回からA3に！


チャンピオン決定という最高の形で有終の美を飾った菱井

この2年間というもの、敗北を喫したのはキョウセイでの2戦のみという驚異的な快進撃を重ねてきた菱井将文。その菱井にとって、この日はふたつの意味でのメモリアルデイとなった。全日本3連戦を決めたことと、シティで挑む最後の全日本という……。

菱井に唯一土をつけた無世守だが、第3戦の直後に体調を崩して入院。前回は欠場せざるを得ず、今回は何とか復帰できたものの、電動ファンが動かぬトラブルに見舞われ8位にとどまった。

第一ヒートのトップはやはり菱井。しかし、僅差で多田安男、そして斎藤邦夫が続いているだけに、状況は全く予断を許さない。第2ヒートに入ると、本来この手のコースを苦手とするはずの関東勢も、若手の田原憲、小沢紀治、青木貴志を筆頭として好タイムをマーク。しかし、上位の3人には届かない。多田は中間計測でこそ自らのベストを上回れなかったものの、得意の高速区間で稼いでわずかながらもタイムアップ。続く斎藤は逆に中間でタイムを伸ばしたが、外周で稼ぐことができずタイムダウンしてしまう。

結局、誰にも逆転も許さぬまま菱井は4勝目をマーク。そのうれしそうな様子は、スタート直後に誰もが見て取れたはずだ。なにしろ勢い余っていきなり脱輪してしまったのだから！

その菱井、次回の晋生からはランサーでA3クラスに挑む予定。ところが、キャロッセにまだ車両が届いていないため、シェイクダウン即デビューということになりそう。"4WDは初めてだけど、タイヤは同じ4本ですから、問題ないでしょう。A3クラスへは初心に戻ったつもりで頑張ります！"と新たな挑戦にときめかせていた。"勝ち逃げされて悔しいが、いずれまた同じクラスで戦いたい"という多田の言葉は、A1クラス全員の気持ちを代弁しているかのようだった。


V3達成の菱井将文


「勝ち逃げは悔しい！」と語る多田が2位

RESULT/A1 CLASS

●出走34台				1回目		2回目
1	29	菱井 将文	SCelBSキャロッセシティ	1'12"706	◁	1'17"981
2	31	多田 安男	ブリッドDL向陽OリンズシティA	1'13"049	▷	1'12"979
3	33	斎藤 邦夫	ポテンザKYBキャロッセシティ	1'13"180	◁	1'13"494
4	28	田原 憲	ノアDLベトロOリンCSシティ	1'13"728	▷	1'13"651
5	23	小沢 紀治	BSオーリンズ和光S単村シティ	1'14"089	▷	1'13"901
6	26	青木 貴志	マーベルFootworkシティ	1'14"189	▷	1'13"938
7	38	綱部 光二	ラックBSティーズ名峡シティ	1'14"142	◁	1'14"666
8	34	無世 守	CP高橋BSラックFETシティ	1'14"184	◁	1'18"637
9	39	井野 晃宏	DLハートAZURカーツシティ	1'14"209	◁	1'14"221
10	25	堀田 浩司	和光技研オーリンズ☆BSシティ	1'14"330	▷	1'14"259

C2 CLASS

高橋利武も2勝目、川村に続く


山本が勝つ時は、やはり高橋も勝つ!?

いつものように前半ゼッケンで挑む川村徹が早々とトップタイムをマーク。ただし、今回はドリフト走行ではなく、正確なライントレースのグリップ走行で。だが、第2ヒートではタイムを伸ばすことができず、待ちの構え、2連勝の夢を打ち砕くかのように、これを上回ったのが高橋利武だ。

その高橋は、第一ヒートではシケインでのミスが外周への立ち上がりの遅れとしてタイムに出てしまっていた4番手からの大逆転。次回からの投入が予定されていたFTOは、"まだミラージュの戦闘力を超えていない"ため、少し先送りとなりそうだが、今回の会心の勝利はほとんどうれしかったらしく、これ以外のコメントは、すべて満面に笑みを浮かべながら語っていた。なお、川村は2位で、菅野秀昭は4位。第一ヒートの菅野の走行後、エンジン不調を抱えてしまったようだ。

RESULT/C2 CLASS

●出走14台				1回目		2回目
1	②	高橋 利武	GAB・ADVANミラージュ	1'09"035	▷	1'08"247
2	④	川村 徹	DL△BRIDE☆ロードスター	1'08"322	◁	1'08"517
3	⑤	藤井 健二	YH森本ファイテックスシビック	1'08"828	▷	1'08"569
4	⑦	菅野 秀昭	DL△BRIDE☆ロードスター	1'09"177	▷	1'08"610
5	⑤	長瀬 努	キャロッセ95Cシビック	1'08"745	▷	1'08"636
6	⑤	渡辺 明高	DLモチュールティーズカローラ	1'10"674	▷	1'09"393
7	⑤	新堀 通衛	ALエナペDL未来ロードスター	1'11"226	▷	1'09"878
8	⑤	近藤 堅也	DLワタナベ、オーリンズCRX	1'10"694	▷	1'10"281
9	⑤	仕田原實和	ファイテックスモリモトシビック	1'10"746	▷	1'10"298
10	⑤	福原 正行	オーリンズ大東RCR-XV	1'10"837	◁	1'14"916

A3 CLASS

茅野復活！ インプレッサは初勝利


復活Vをインプレッサで飾った茅野

茅野成樹が、第一ヒートでは愛機インプレッサに、まるでABSが付いているかのような鋭い突っ込みを見せ、トップタイムをマーク。だが、続く第2ヒートではタイムを縮めることができず、パルクフェルメで残る9台の走りをじっと見つめていた。

しかし、何人かは自身のタイムを上回りこそすれ、茅野には届かず。最終走者の佐藤浩策が走り終えた直後にガッツポーズ！ 実に昨年の開幕戦以来1年3カ月ぶりの勝利を挙げた。"勝てない車にわざわざ替えてなんて言われていたけれど、これでインプレッサは勝てる車だと証明できてうれしい！"と久々の自らの勝利よりも、その判断と選択が誤りでなかったことを大いに喜んでいるかのようだった。

3連勝を狙った岡野博史は今回3位。その岡野を第2ヒートで逆転、天満清が自己ベストの2位を獲得した。

RESULT/A3 CLASS

●出走33台				1回目		2回目
1	50	茅野 成樹	ラック名スバルDLインプレッサ	1'10"172	◁	1'10"723
2	53	天満 清	LUCKキャロッセBSランサー	1'10"427	▷	1'10"328
3	54	岡野 博史	STPリジットGABランサー	1'10"339	◁	1'10"723
4	55	西原 正樹	NTFDLキャロッセランサー改	1'11"413	▷	1'10"394
5	59	佐藤 浩策	SRSポテンザランサー	1'11"647	▷	1'10"412
6	56	猪爪 俊之	SILHOUETTEランサー	1'10"725	▷	1'10"549
7	58	吉田 豪	SRSカヤバBSドリムランサー	1'16"357	▷	1'10"996
8	79	谷森 雅彦	アドバンモリモトGABランサー	1'11"556	▷	1'11"097
9	69	森田 勝也	ダッカムウインマックスランサー	1'11"197	◁	1'11"735
10	80	小島 康	アスクスポーツポテンザランサー	1'11"772	▷	1'11"241

C1 CLASS

根尾が復活！ ついに2勝目を挙げる


値千金の2勝目を根尾が奪う

ここ3戦の不調の憂さを晴らすかのように、根尾貞宏が第一ヒートからブッチギリ。その勢いは第2ヒートに入ってもとどまることを知らず、さらなるタイムアップを果たすことに。もちろん、開幕戦以来の勝利を挙げ、今季ついにこのクラスで2勝目が記録されることとなった。"第一戦で勝ってからなかなか勝てず苦しい思いをしてきたけど、ようやく2勝目が挙げられてうれしい"と根尾。残る3戦をどう戦うか、そしてこの勝利をきっかけとして、2年越しの悲願を遂げることになるのか注目したいところだ。

根尾に続く2位は、にひらゆきお。第2ヒートでソツなくまとめた走りを見せながら"自分では気付かなかったが、みんなにエンジンがおかしいみたいと言われた"のが敗因。3位は"苦手なカートコースでの表彰台だから満足"という森一永が奪っている。

RESULT/C1 CLASS

●出走11台				1回目		2回目
1	⑤	根尾 貞宏	YH共栄Wmエナペelfシティ	1'09"123	▷	1'08"749
2	⑤	にひら ゆきお	トラストDLシロクマシティ	1'10"935	▷	1'09"818
3	⑤	森 一永	ジーダッシュオーリンズシティ	1'10"683	▷	1'09"901
4	⑤	西村 武典	Mレーシング PHマキサワシティ	1'10"611	◁	1'10"760
5	⑤	二見 信	ケントワコズマイクロンシティ	1'11"115	▷	1'10"655
6	⑤	李羽 江	PROSITエナペタルシティ	1'11"426	▷	1'10"661
7	⑤	町田 和雄	コンペ★シティGA2	1'16"790	▷	1'11"120
8	⑤	谷口 真史	カワサキ・エナペタル小山シティ	1'11"612	▷	1'11"499
9	⑤	中村 琢治	ティーズスーパーシティ	1'14"031	▷	1'11"725
10	⑤	和田 修一	たかの☆安田生命☆大清水マーチ	1'11"914	◁	1'12"454

C3 CLASS

ピレリユーザーの鈴木が優勝！


鈴木、久々の勝利はピレリの初優勝でもある

「エボ1なので、なかなか曲がってくれず、ここまでの4戦は苦労したけど、久々の優勝でうれしい。4WDでは初めてだし、ピレリタイヤでの全日本優勝も初めて！」と大喜びなのが、ベテランの鈴木孝夫。めまぐるしく順位が入れ替わった第一ヒートで驚いたトップの座を、更新することはできなかったものの、そのまま守り抜いて今季4人目のウィナーに輝いた。

ランサー勢がエントリーの大半を占める中、小林キュウテンが今では少数派となってしまったMR2で2位入賞。しかも第一ヒートでは、最終コーナーに設けられたパイロンをクリアできず、ミスコース扱いになりながらのジャンプアップを果たした。3位は小窪久が獲得。今年からタイヤをダンロップに変更、"15インチを選択できるようになってCD9A用のブレーキローターに戻せたのが効いている"と語る。

RESULT/C3 CLASS

●出走13台				1回目		2回目
1	⑤	鈴木 孝夫	ワコーズトキコ☆ピレリランサー	1'09"382	◁	1'09"434
2	⑤	小林 キュウテン	DLオーリンズBRIDEMR2	ミスコース	▷	1'09"672
3	⑤	小窪 久	CMSCナラマサ夢 ランサー	1'10"309	▷	1'10"055
4	⑤	伊藤 文成	ツイントップFETスカイライン	1'10"081	◁	1'10"397
5	⑤	星野 理人	トラストアーキーYHランサー	1'10"677	▷	1'10"261
6	⑤	村上 仁	DL AZURランYSSMR2	1'11"095	▷	1'10"699
7	⑤	真野 陽一	ツイントップFETスカイライン	1'12"009	▷	1'10"719
8	⑤	佐藤 智	GAH秋田トヨペットBSMR	1'25"770	▷	1'10"935
9	⑤	川又 正英	ASEコスモスAZURランサー	1'11"159	◁	1'13"743
10	⑤	倉瀬 康明	アクティブワコーズ+1シルビア	1'23"319	▷	1'11"181




このレースでも鋭という程強さを見せつけた㊸松浦が優勝を飾った

●FJ1600(筑波第7戦)

・15周＝30.675km　予選出走23台・決勝出走23台・完走18台　予選順位／タイム

1	⑩	本部	学	ウインズMFエントレスBP91	15周	15'04"354	1／1'04"444
2	⑪	西村	秀樹	タッカムヌルホーセFRD・ED	15周	15'08"371	6／1'04"970
3	㉑	田中	浩行	オートルックBP・横藤R＆D	15周	15'09"383	2／1'04"461
4	㊽	平野	功	ラム&トヌ石井鉱金104ED	15周	15'10"495	9／1'05"298
5	⑥	福田	洋史	BPED308B	15周	15'19"137	5／1'04"881
6	⑭	堀田	仁	エンドレスBP明星電気TS9	15周	15'21"391	11／1'05"366
7	㊱	大村	篤子	NPRT-F4／92	15周	15'23"613	12／1'05"707
8	㊻	関	浩明	ディープレーシングMK9	15周	15'23"964	17／1'06"162
9	⑬	池田	克久	シムスJ01-BP	15周	15'27"039	7／1'05"123
10	㊹	高山	光司	ディープRハミングMK7	15周	15'28"180	4／1'04"813

・優勝スピード：122.109km／h
・最速ラップ：本部　学　59"356　124.031km／h　11周目

セミウェットの予選で一番時計を獲得した⑩本部学だったが、スタートで2位に後退、先頭は㉑田中浩行に代わった。だが3連勝中の⑩本部の勢いは止まらない。4周目の1コーナーで㉑田中を攻略してトップ返り咲きに成功すると、一気に2位以下を引き離し、独走で4連勝のチェッカーをくぐった。「抜かれても焦っていけばなんとかなると思ってました」という⑩本部は、これでシリーズ争いでもリードを広げた。続いてゴールしたのは「セットアップもできてきたし、落ちついて走れるようになってきた」という⑪西村秀樹。6番グリッドから1周目で4位に浮上すると、㉘武田康司のスピンで3位へ、そして残り4周で㉑田中をかわしての2位だった。




3連勝中の⑩本部が、今回も速さを発揮し連勝を延ばした

●MIRAGE CARPLAZA CUP(第3戦)

・20周＝40.9km　予選出走27台・決勝出走27台・完走27台　予選順位／タイム

1	㉜	長塚	昭博	SQマツナミ 北経三菱μコルト	20周	22'20"136	1／1'05"805
2	㉙	杉野	賢二	RS オガワ ミラージュ	20周	22'24"336	2／1'05"847
3	㉒	笠原	昌二	RS オガワ ミラージュ	20周	22'33"073	4／1'06"236
4	㊷	土屋	信	ミラージュ・マイベック	20周	22'34"026	6／1'06"474
5	㉖	池田	正	クエーカー・ケイワンミラージュ	20周	22'34"329	5／1'06"455
6	⑲	名取	則隆	RSオガワYタイプRコルト	20周	22'34"744	8／1'06"799
7	⑭	松井	猛敏	ADVANアルボーKYBコルト	20周	22'35"953	7／1'06"662
8	⑮	松坂	唯法	アルボーBPコルト	20周	22'36"467	9／1'06"840
9	⑫	鈴木	淳一	モンツカライゾン・ミラージュ	20周	22'43"012	14／1'07"444
10	⑤	水野	善英	リザルト&バックアップコルト	20周	22'48"763	10／1'07"327

・優勝スピード：109.869km／h
・最速ラップ：土屋　信　1'05"960　111.613km／h　3周目

ポイントリーダーの小暮吉則は、同じミラージュでもインターナショナルの方に参加しており、こちらは欠席。レースはスタート直後から㉙杉野賢二と㉜長塚昭博の一騎討ちとなった。㉜長塚は何度も㉙杉野に仕掛け、ノーズを突っ込む。そして6周目、1コーナーに㉙杉野のアウトから並んで進入した㉜長塚は、S字まで併走してついにトップ奪取に成功。そのままジリジリとリードを広げて1位でゴールした。しかしこのバトルの間に何度か接触があったもようで、2位で表彰台に上がった㉙杉野は憤慨の表情。㉜長塚は「杉野さんに申し訳なくて」と恐縮しきりだった。4～6台でのバトルが延々続いた3位争いは、㉒笠原昌二が手中に収めた。




トップ争いは㉜長塚が制したが、㉙杉野との接触もあったようだ

●C／SNC(第4戦)

・20周＝40.9km　予選出走23台・決勝出走23台・完走18台　予選順位／タイム

1	⑱	関	実	MONZAトキスKRレビン	20周	22'43"959	2／1'06"812
2	㉚	秋葉	吉正	ポテンザ シャルム レビン	20周	22'44"170	1／1'06"756
3	㉟	海老沢伸一		GREメトラストDLKRレビン	20周	22'50"333	4／1'06"989
4	⑦	深澤	雅文	ADVAN深澤自動車BPレビン	20周	22'57"830	14／1'08"135
5	④	島田	泉雄	ADVANBP ウエタケレビン	20周	22'58"184	10／1'07"599
6	③	阪本	知洋	FETコミネ土浦クレスコカローラ	20周	22'58"703	8／1'07"354
7	②	高橋	大輔	トラストDLクレスコ レビン	20周	23'00"037	9／1'07"442
8	㉛	榎本	吉彦	AS榎本パッシング・DLレビン	20周	23'00"742	11／1'07"647
9	⑤	菅沼ショージ		BUFFALO トレノ	20周	23'04"157	12／1'07"947
10	⑤	金子	雄一	トラストDLクレスコ レビン	20周	23'04"465	13／1'08"098

・優勝スピード：107.950km／h
・最速ラップ：関　実　1'07"285　109.415km／h　5周目

3番グリッドの⑪柴田優作がスタートでトップを奪取、⑱関実と㉚秋葉吉正を引き連れてラップを重ねる。だが⑪柴田は電気系がイカれて折り返し点でピットへ。リタイアとはなったものの、⑪柴田の力走はその後のトップ争いにまで影響を及ぼした。代わって先頭に出た⑱関が、⑪柴田のハイペースに引っ張られる間にタイヤを消耗させていたのだ。「僕の方が速かったのはダンロップ下だけ」という⑱関を、㉚秋葉が激しく攻め立てる。だがタイトな筑波に、バッシングのチャンスはなかった。PPスタートだった㉚秋葉が「スタート（の出遅れ）が全てでした」と悔やんでも後の祭。⑱関は汗だくになりながらトップを死守、C／SNCの初優勝を手にした。




トップを走る⑱関が、ポールスタートの㉚秋葉を抑えきった

●FORMULA MIRAGE(第3戦)

・25周＝51.125km　予選出走9台・決勝出走9台・完走9台　予選順位／タイム

1	㉝	清水	剛	スリーボンド号	25周	23'32"628	1／55"745
2	②	大木	康至	イエローハット レイナード	25周	23'33"695	2／55"776
3	㉕	山本	健詞	LMsports REYNARD	25周	23'48"067	4／56"116
4	㊵	光野	大郎	豊燃料 フォーミュラM	25周	23'49"873	3／55"903
5	㉜	木村	厚	新潟Fast・F・MIRAGE	25周	24'08"121	8／57"119
6	⑪	TOM HUNTER		DrSCOSMETICSFM	25周	24'15"754	5／56"458
7	㉞	増岡	浩	阪急交通社 Fミラージュ	25周	24'17"868	6／56"499
8	③	成澤	史麻	エモン・新東京サーキットFM	25周	24'18"132	7／57"032
9	⑦	上野	聡士	R＆A・レイナードFM	25周	24'25"913	9／57"574

・優勝スピード：130.289km／h
・最速ラップ：清水　剛　56"067　131.307km／h　7周目

PPに着いたのは、まだ優勝がなく「早く結果を出したい」という㉝清水剛。その出だしは本人も認める失敗スタートだったが、2番グリッドの②大木康至もストール気味だった。先頭キープに成功した㉝清水はそのままトップを快走、2秒後方に食い下がる②大木にそれ以上の接近を許すことなく、カートから4輪に上がって初めての優勝を飾った。表彰台で左右からシャンペンシャワーの手荒い歓迎を受けた㉝清水は、完勝にも「もうコンマ2秒くらい速いペースで走れたはず」と気持ちを引き締めることを忘れなかった。3位は「今回はハマりっぱなしだった」という㉕山本健詞。マシンが決まらず、強いオーバーステアに耐えながらの表彰台獲得だった。




自分も認める失敗スタートだったが、トップを守った㉝清水

●CIVIC INTER(第4戦)

・20周＝40.9km　予選出走18台・決勝出走17台・完走17台　予選順位／タイム

1	③	渡辺	明	BlackRACING CIVIC	20周	21'56"404	1／1'04"216
2	㊺	山口	吉明	MONZA・ADVAN・KRS	20周	21'56"947	3／1'04"796
3	②	西垣内正義		SZIGEN CIVIC	20周	22'00"364	2／1'04"508
4	㉘	福田よしのぶ		プロジェクトμダイキンシビック	20周	22'05"405	4／1'05"013
5	⑦	井入	宏之	CENTRAL・CIVIC	20周	22'21"544	6／1'05"342
6	㉗	小暮	吉則	名鉄運輸アクロスSiR	20周	22'25"198	5／1'05"090
7	⑯	牧野	克敏	BuddyClub CIVIC	20周	22'25"351	10／1'05"491
8	⑨	本郷	健志	BOOZE CIVIC	20周	22'25"898	9／1'05"490
9	⑯	小林	孝一	湯西川温泉平家本陣アドバンSG	20周	22'26"199	11／1'05"598
10	㉑	松村	辰己	WAKO'SトランピオEDSiR	20周	22'26"911	8／1'05"469

・優勝スピード：111.850km／h
・最速ラップ：山口　吉明　1'05"160　112.983km／h　5周目

今年からスリックタイヤがOKとなったため、予選では18台中15台がコースレコードを更新し、鈴鹿と美祢で優勝して現在ポイントリーダーの③渡辺明が従来のタイムを約2.5秒縮めてPPを決める。ランキング2位の②西垣内正義が2位に、2列目には富士で1勝している㊺山口吉明と㉘福田よしのぶが肩を並べる。

③渡辺はスタートを決めると序盤から頭ひとつ抜け出し安定した走りで、これを追う㊺山口につかず離れずの距離を保ちながら周回を重ねてゆく。トップ2台の差は終盤縮まるが、③渡辺が約コンマ5秒逃げきり3勝目を決めた。3位争いは序盤のダンゴ状態のバトルを抜け出し、②西垣内が入賞を決めた。




トップに出ると後続との差をコントロールし、③渡辺が優勝

●MIRAGE INTER(第3戦)

・25周＝51.125km　予選出走29台・決勝出走29台・完走28台　予選順位／タイム

1	⑩	小宮	延雄	DAMEミラージュ	25周	27'36"875	1／1'04"885
2	㊹	玉本	秀幸	タッカムJCMSCミラージュ	25周	27'37"351	2／1'04"989
3	⑨	小幡	栄	イエローハットミラージュ	25周	27'41"154	4／1'05"257
4	㉚	渡辺	明	D-B MIRAGE	25周	27'49"648	3／1'05"168
5	①	横島	久	ロイヤルパーク・ルプミラージュ	25周	27'52"554	6／1'05"505
6	㊷	竹内	浩典	Projectμ BPミラージュ	25周	28'03"704	7／1'05"674
7	⑯	小暮	吉則	川崎多摩三菱ファルケンミラージュ	25周	28'07"581	9／1'05"810
8	㉓	儀塚	和浩	フレンド&ブルーオートコルト	25周	28'07"710	11／1'05"839
9	㉜	福島	稔大	APEX・BMミラージュ	25周	28'07"843	10／1'05"824
10	㉟	久保田	彰	ワイズBPミラージュ	25周	28'09"939	13／1'05"891

・優勝スピード：111.083km／h
・最速ラップ：玉本　秀幸　1'05"475　112.440km／h　5周目

前戦でフライングを喫した⑩小宮延雄は、PPから慎重に発進、問題なくトップをキープした。対してセカンドグリッドの㊹玉本秀幸は出遅れ、シビックから汗をふく間もなくマシンを乗り換えた㊱渡辺明にかわされて3位に後退。㊹玉本は3周目、2位復帰に成功するが、その間に⑩小宮は2秒弱のリードを奪う。懸命に⑩小宮を追う㊹玉本は、終盤には⑩小宮を目前まで捕らえるが、実力伯仲のこのクラス、加えて筑波とあっては逆転のチャンスはなかった。結局「ミラーを意識して、この距離なら絶対刺せないと思ってインは閉めなかった」という⑩小宮が、今季初入賞となる優勝を勝ち取り、㊹玉本に続く3位には4番手スタートの⑨小幡栄が入った。




抜き所の少ない筑波では㊹玉本が⑩小宮を刺すチャンスは無かった

●RS

・15周＝30.675km　予選出走13台・決勝出走10台・完走9台　予選順位／タイム

1	⑪	藤川	元造	ADVANシープドックSK52	15周	14'30"334	1／56"621
2	⑤	長島	正明	WAKOTECH栄都自動車93	15周	14'30"998	ノータイム
3	㊱	平井	勲	RPナカザワ75K9GBP・μ	15周	14'40"171	4／58"223
4	⑦	野上	敏彦	東京科学芸術専門学校SK85改	15周	15'00"136	6／59"718
5	⑭	長嶺	浩	メッカSK90BPμ	15周	15'17"362	5／59"266
6	⑥	池田	広次	WAKO TECH SK82	14周	14'58"349	2／57"328
7	③	大石	敏行	まつもとRS用品自動車SK90	14周	15'04"873	9／69"064
8	⑧	佐藤	明正	ESSO,スパーフロー89S	14周	15'12"928	8／64"572
9	⑩	下野	芳	RPナカザワ8Pμレーシング	14周	15'20"074	7／62"458

・優勝スピード：126.882km／h
・最速ラップ：池田　広次　56"493　130.317km／h　9周目

インジェクションのトラブルで練習も予選も走れなかった⑤長島正明だったが、何とか修理を終えて走り始めたところマシンは絶好調、最後尾から1周でトップ⑪藤川元造のテールに張り付いた。2台は3位の㊱平井勲を置き去りにして、マッチレースを展開する。ストレートが圧倒的に速い⑤長島は、タイトル獲得のためにも何とか逆転したいところ。だがベテランの⑪藤川は、敵のはやる気持ちをもてあそぶように、ラインを変えブレーキタイミングをずらし、⑤長島のペースを乱す。「あまりやりたい展開じゃなかったけど、あと100周走っても同じことが続くよ」という⑪藤川は、最後まで⑤長島を真後ろに従えたまま、2連勝のチェッカーをくぐった。




⑪藤川がうまいレース運びを見せつけ⑤長島を下した

FETカップ 九州クラブマン500kmツーリングカー耐久レース

・6月25日／美祢サーキット／雨／ウエット／主催：FUKI-R
・Photos&Report/Koji Nakayama

●N1 500km

・124周＝401.633km　予選出走28台・決勝出走28台・完走23台 予選順位／タイム

1	C1-1⑤	橋本／あわた	ドリームスリコ あなたGT-R	124周	4'20"34"288	1／1'42"755
2	C1-2⑧	内田／村田	大田工業プレリュード	120周	4'21"57"708	3／1'47"675
3	C2-1⑨	鈴木／山本	三愛オリジナルアールプラン KTW	118周	4'21"31"045	6／1'51"568
4	C2-2②	川崎／中尾	オートバルスニホウ 青松XM型	118周	4'22"13"539	9／1'53"662
5	C2-3⑦	檀田／山下	城野軍コンバットシビック	117周	4'22"29"214	4／1'48"050
6	*C3-1⑯	藤井／水沼	号.MOROKAP_{82}71	116周	4'22"20"899	13／1'55"094
7	C3-2⑰	坂本／岩本	オートバックス 速達組カルタス	116周	4'21"36"817	8／1'52"557
8	C2-4⑪	友枝／恒成	カワサキ+青松木材と鳥ひろ73	114周	4'21"50"576	10／1'53"847
9	C3-3⑲	猿田／森岡	号.MOROKAP_{82}松	114周	4'21"51"988	17／1'57"009
10	*C2-5㉖	野田　和雄	吉留建設レビン	112周	4'21"48"259	14／1'55"142
11	C1-3⑭	志賀　浩之	城野軍コンバット シルビア	112周	4'22"48"007	16／1'56"254
12	C4-1⑥	壹岐／杉	山口日星ランクダイヤランドマーチ	111周	4'22"05"870	21／2'01"278

・優勝スピード：92.48km／h
・最速ラップ：多田／沖友組　1'48"105　107.86km／h　4周目
＊92、36は、国際スポーツ法典、付則H項違反により、1周減算

今年の九州クラブマンレースはツーリングカー耐久4クラス混走の500km耐久として開催された。朝の予選ではクラス1のGTR⑤橋本和信／あわた伸一郎組がダントツのポールポジションを獲得、フロントロウにはクラス2トップの㉘多田公伸／沖友親晴組のシビックが、またクラス3トップは⑰坂本賀二／岩本康成組のカルタス、クラス4は、⑥はらだ　じゅん／丸山賀二組のマーチがそれぞれクラストップのポジションにつきローリングスタートで決勝がスタートした。ホールショットは⑤橋本／あわた組が難なく決め、それに㉘多田／沖友組のシビック、⑧内田成俊／村田清孝組のプレリュード、⑦檀田典明／山下泰伯組のシビックの4台が続く。その後雨が降りだしレースはレインコンディションに一変。しかしこの雨の中でも橋本からバトンタッチしたGTRあわたがトップをキープ、2番手には雨でも安定した走りを見せるカルタスの⑰坂本／岩本組が浮上、3番手には⑧内田／村田組のプレリュードと続き6番手以降には⑥壹岐聡子／杉直樹組を先頭にマーチが勢が食い込みを見せた。中盤でも依然として⑤橋本／あわた組のGTRが2番手に2ラップの差をつけトップを独走。結局GTRの⑤橋本／あわた組が総合優勝、クラス2優勝は総合でも3位に食い込んだ㉙鈴木純二／山本安吉組AE86レビンが、クラス3は㉜藤井利夫／水沼洋司組EP71、クラス4は⑥壹岐／杉組マーチがそれぞれクラス優勝を果たしている。



雨の中もGT-Rの強みを生かし、⑤橋本／あわた組が優勝



AE86でクラス優勝、㉙鈴木／山本組は総合でも3位に入る大活躍



⑰坂本／岩本組のカルタスを下し、㉜藤井／水沼組が優勝



マーチ勢のトップをキープし、⑥壹岐／杉組がC4クラスを制した

95筑波チャレンジカップレース第3戦

・1月1～2日／筑波サーキット／春り(予選雨)／ドライ(予選ウエット)／主催：VICIC
・Photos/Katsumi Aoyama　Report/Kazuo Mizutani,Katsumi Aoyama

●SNC(第3戦)

・15周＝30.675km　予選出走26台・決勝出走26台・完走24台　予選順位／タイム

1	㊽	松浦　俊之	小山マーベル8P・DL82	15周	17'25"059	1／1'12"410
2	㊽	小松原　猛	FETスポーツコミネ土浦82	15周	17'36"752	3／1'13"412
3	㉙	原山まさき	ENDLESSメアーズ原建EP	15周	17'36"956	4／1'13"462
4	㉝	宮川　雅行	松本自動車・8P・KMS・82	15周	17'37"616	5／1'13"536
5	⑦	安部　友行	#AKOSポテンザED富沢82	15周	17'37"997	2／1'12"842
6	㊾	鷹野　寛	小山SPマーベル8P・EP82	15周	17'38"655	6／1'13"848
7	㊹	澤田　圭介	カサマBPトキコスターレット	15周	17'42"531	12／1'14"036
8	㊺	萩原　淳	ポテンザ・フォルムスターレット	15周	17'43"686	8／1'13"992
9	⑥	関根　政彦	AG富沢TOTAL/バルス$_{82}$	15周	17'44"135	7／1'13"977
10	㊼	秋本　浩	北信鉄金塗装LAP・チ82	15周	17'50"063	10／1'14"007

・優勝スピード：105.669km／h
・最速ラップ：松浦　俊之　1'08"782　107.034km／h　2周目

連勝街道を行く㊽松浦俊之は、PPから譲組のスタートもうまく決めて、1周目から後続を引き離していく。そのリードは5周目で早くも5秒に。安泰となったトップの座にも㊽松浦は気を許すことなく、「最大の敵と思っている種田（直基）君が欠席だったから、その分も頑張りたかった」と全力疾走を続け、最後には12秒弱のアドバンテージを築いて優勝を飾った。一方2位争いは混迷、⑧小松原猛、㉝宮川雅行、㉙原山まさき、⑦安部友行の集団に、終盤には㊾鷹野寛も加わって5台でのバトルに膨れ上がった。結末は⑧小松原が後続を押さえ切り2位、㉙原山が残り3周の逆転劇で3位に。「ジジイみたいな走りでひんしゅく買っちゃいました」と⑧小松原。

本格派レーシングスクール 好評につき筑波サーキット開催決定!!

本格的FJスクールで君のテクニックを磨け!



元トヨタファクトリードライバーで、全日本レーシングドライバーズ選手権保持者の北原 豪彦 校長が、長年の選手経験と英国ジムラッセル レーシングドライバーズ スクール創設者の、ジムラッセル氏に師事直伝の選手育成トレーニングノウハウを駆使し、世界チャンピオンを狙える選手を日本から輩出したいと願って開催する、有望な後輩達の為の「JR/北原流F-1塾」です。厳しいですがレーシングテクは基礎からしっかりとやって頂きます。

来年からレース参戦を考えている方は、このチャンスを逃さない事です。

卒業生にはレースカー(FJ)の特別レンタルシステムがあります。未来のチャンピオンは此処からスタートするのです。

レーシングスクール開催日程(2泊3日/予定)

'95年 8月30日(水)～ 9月 1日(金)
'95年10月18日(水)～10月20日(金)
'95年12月 6日(水)～12月 8日(金)
'95年 9月 5日(火)～ 9月 7日(木)
'95年11月 7日(火)～11月 9日(木)

●場所：大分阿蘇レーシングパーク
●最少催行人数：15名
●使用車種：FJ-1600
●参加資格：普通免許所持者
(20才未満の方は親権者の同意が必要)

筑波サーキット開催決定!

●国内B級・A級ライセンス&サーキットライセンスが同時に取得できます。
●スクール入校時、JARACレーシングクラブに無料で入会でき、特典いっぱいのメンバーズカードを発行します。

－特典－

A) 受講料のローンもOK!今、お手持ちのお金がなくてもご都合に合わせてお支払い回数が選べます。
B) クレジットやキャッシングもOK! また当社取扱用品の割引など特典がいっぱいです。

お問い合わせ・資料請求は
JAF加盟団体
JARAC JAPAN RACING ACADEMY
株式会社 ジャパン・レーシング・アカデミー TEL 043-266-3703 (フロム ミナレーサー) FAX043-266-3731
〒260 千葉県千葉市中央区仁戸名町702

"JARACは、新しいモータースポーツ文化を創造します"



レースはトップ3台が後続を離し、単独走行となった54安山が優勝

●CIVIC FRESHMAN(第4戦)

・8周＝46.912km　予選出走39台・決勝出走30台・完走32台　予選順位／タイム

1	⑯	磯田 尚孝	富士火災 RS 正和 CIVIC(EG6)	8周	20'36"278	2／2'33"311
2	⑰	牧田 克哉	ラビットハウス 旭チック DL(EG6)	8周	20'39"879	1／2'32"061
3	㉙	福田よしのぶ	DAIKIN・Ekoh S(EG6)	8周	20'41"557	5／2'34"461
4	⑩	井入 宏之	CENTRAL CIVIC(EG6)	8周	20'42"111	7／2'34"516
5	㉑	堰 弘紀	ホンダ 関西ハセガワ ポテンCI(EG6)	8周	20'42"548	3／2'33"782
6	③	田中 拓治	ギャロップ シビック BP(EG6)	8周	20'46"504	8／2'34"642
7	㉑	近藤 重男	名鉄運輸アクロス SR(EG6)	8周	20'46"645	6／2'34"472
8	⑥	今瀬 昭彦	ネイビーオートエナベクタ(EG6	8周	20'46"906	10／2'34"813
9	⑧	井田 雅彦	RacingSPARCO S(EG6)	8周	20'51"470	9／2'34"746
10	⑦	西川 雅文	JSRACING CIVIC(EG6)	8周	20'51"832	14／2'35"258

・優勝スピード：136.60km／h
・最速ラップ：磯田 尚孝 2'33"298 137.70km／h 2周目

雨こそ降らないものの、ぐんぐん上昇する気温がタイヤに影響。

好スタートからトップを守る⑰牧田克哉も、2番手⑯磯田尚孝のハードプッシュを押さえ込むため、タイヤの消耗が避けきれず。4周目のシケイン突っ込みで前輪が白煙をあげてロックした⑰牧田は辛うじて止まったものの、⑯磯田にトップの座を明け渡すこととなった。トップに立った⑯磯田も、決してタイヤの状況が良かったわけではなかったが、返り咲きのチャンスをうかがう⑦西川雅文牧田を振り切り、今季2勝目をマーク。⑰牧田は善戦むなしく2度目の2位でレースを終えた。終盤、激しさを増した3番手争いは㉙福田よしのぶが⑩井入宏之、㉑堰弘紀二台の攻撃を抑えきり今季初表彰台を得た。



激しくトップ⑰牧田をプッシュした⑯磯田が逆転勝利

●FJ1600(鈴鹿第6戦)

・10周＝58.640km　予選出走50台・決勝出走43台・完走38台　予選順位／タイム

1	㉝	市原 弘之	日石・5次元・MF104・ED	10周	23'21"110	B 7／2'19"526
2	㊱	室田 俊浩	カラージュ 帝・長尾建設FV55	10周	23'21"167	B 1／2'18"268
3	⑧	紀平 信也	日石・GRID・MF103ED	10周	23'21"253	B 6／2'19"512
4	㉗	南辻 昇徳	鈴鹿フォム SK レブリ ED尾川	10周	23'21"598	B 2／2'18"440
5	㉓	山本 純一	フナキ/R MK9 セキグチED	10周	23'21"828	A 4／2'18"986
6	㉛	多々納映司	鈴鹿フォルムED三和レブリ関口	10周	23'22"243	A 1／2'18"909
7	㉟	山本 英治	尾崎農会SKフォルムレブリED	10周	23'28"597	A 5／2'19"342
8	㉜	小沢 浩二	オスカーSK94レブリ ED関口	10周	23'28"967	A 6／2'19"682
9	㉖	千田 富之	日石FRDMF-103ED 尾川	10周	23'29"409	B 4／2'18"925
10	㉚	中野 貴之	信和キッチャーレブリ ED7ヶ	10周	23'37"955	B 12／2'20"267

・優勝スピード：150.66km／h
・最速ラップ：室田 俊浩 2'18"208 152.74km／h 8周目

予選、ファイナルプラクティスで残った40台が決勝出場。2列目スタートの㉝市原弘之が好ダッシュで先頭を奪ったが、PP2南辻昇徳も食い下がり接戦を展開。双方が決め手に欠きペースがいまひとつ乗り切らない間に、後方グリッドから追い上げてきた8紀平信也、㊱室田俊弘を中心にする集団も接近。トップ争いは6台がダンゴ状態のままで最終ラップに突入した。1コーナーでトップを奪い返した2南辻だったが、バックストレッチでガス欠になり突然失速。8紀平、㉝市原、㊱室田の順番でシケインになだれ込み、そのままチェッカーかと思われたが、立ち上がりで8紀平がシフトミス。追い越した㉝市原、㊱室田が一瞬の差で次々とチェッカーを受けた。



最終周の最終コーナーまでもつれたレースは㉝市原が僅差で勝った

●F 4(鈴鹿第3戦)

・10周＝58.640km　予選出走23台・決勝出走22台・完走19台　予選順位／タイム

1	㊱	水野 昇太	WEST956TOME)マツダ	10周	21'51"996	3／2'09"797
2	㉖	水谷 竜也	杉野次郎商店JRO'S F4	10周	21'52"354	1／2'09"693
3	㉝	梁川 和人	パチンコパルコ IN 名古屋	無限10周	21'52"966	2／2'09"795
4	⑪	樋口 統也	マツダスピード ampm936	10周	21'58"561	6／2'10"500
5	㉙	古市 洋	信和 テレランド936マツダ	10周	22'00"427	7／2'10"769
6	㊹	韓 元徳	DUOKHAMSプロティクス	10周	22'12"223	5／2'10"363
7	④	山本 健司	R.F.LEYJUN956	10周	22'19"742	11／2'11"353
8	⑮	清水 一男	SDGEN・FRD	10周	22'20"795	8／2'10"818
9	㊵	中嶋ひろたか	山本ビスコガンFKFP01 券	10周	22'21"244	15／2'12"724
10	⑨	伊達 邦夫	エンドレス 伏水PAT7-936	10周	22'21"583	17／2'12"890

・優勝スピード：160.90km／h
・最速ラップ：梁川 和人 2'10"162 162.09km／h 9周目

好調のマツダ・エンジン勢の一角、㉖水谷竜也がポールポジション。だが㉖水谷はスタートで出遅れてしまい、真後ろの⑲水野昇太が代わってトップに立った。⑲水野、㊹韓元徳、㉖水谷、㉝梁川和人ら6台による縦一列の接近戦は、互いに決め手を欠いて抜きあいにはないものの、序々に一台一台の間隔が縮まっていく展開。8周目、先頭の⑲水野を攻めたてていた㊹韓が、1コーナーにオーバースピードで突っ込みスピン。すぐ後ろにいた㉖水谷は危うく接触を避けて2番手に浮上したが、トップ⑲水野には逃げられる結果に。安定した走りをみせる⑲水野は、㉖水谷の最後の追い上げから逃げきってチェッカー。今季2勝目をマークした。



後続の㊹韓のスピンにより、2番手以降を引き離した⑲水野が優勝

●FRESHMAN GT

・10周＝58.640km　予選出走13台・決勝出走12台・完走9台　予選順位／タイム

1	GT-1	㉑	澤 誠二郎	ピクシGT Ra-cing	10周	24'23"175	1／2'22"752
2	N2-1	㉕	見並 秀文	ティーエスコスタ/フレビン	10周	24'33"204	2／2'25"405
3	N2-2	㊱	柴田 均	KPD スーパーカローラ	10周	25'16"353	5／2'28"997
4	N2-3	㉓	池上 譲治	SK レーシングハウスレビン	10周	25'18"046	6／2'30"041
5	N2-4	⑮	米田 幸史	テイクオフ URS シビック	10周	25'18"631	4／2'28"104
6	GT-2	⑤	八代 恒二	シェロスポルシェ	10周	26'08"709	7／2'33"728
7	N2-5	㉞	湯浅 毅	シグナル・シーサイドレビン	10周	26'22"717	10／2'38"550
8	N2-6	⑦	桃北 謙三	黒ーレーシング CIVIC URS	10周	26'51"313	9／2'37"261
9	N2-7	㉜	宿谷 正造	アクアーレンスカーCIVIC	9周	———	8／2'34"267

・優勝スピード：144.27km／h
・最速ラップ：澤 誠二郎 2'23"594 147.01km／h 2周目

一昨年N1クラスで常勝していた㉑澤誠二郎&スカイラインが、装い新たにGTクラスに登場。「マシンはエアダクトを拡大し、エンジンを少々チューンしただけ」とのことだが、相変わらずの速さを見せつけてブッチぎりのコース・レコードで予選トップとなり、文句なしのポールtoフィニッシュを決めた。(貫点外)

前回優勝の㉕見並秀文がソツない走りでスタートから2番手を独走。予選4番手の㊱柴田均がスタートで出遅れてしまったが、ラップごとに追い上げて、5周目以降は㉕見並に続く3位となった。㉓池上譲治と⑮米田幸史の4番手争いは、最終周の1コーナーで⑮米田が前に出たが、S字で㉓池上が抜き返してそのままゴール。



コースレコードをたたき出し、ポールtoフィニッシュを飾った㉑澤

95北海道クラブマンカップレースシリーズ第1戦

・6月25日／十勝スピードウェイ／晴れ／ドライ／主催：TOSC

●EP71／T-STARET

・10周＝34km　予選出走6台・決勝出走6台・完走5台　予選順位／タイム

1	T-1	⑦	池田 章	日本平中自動車販売スターレット	10周	17'58"434	2／1'45"075
2	T-2	⑱	津田 政実	DTスターレット	10周	19'46"934	6／1'56"418
3	EP-1	㊹	太田 雄介	エンゼルカーEP71	9周	17'51"183	1／1'43"270
4	EP-2	㉛	小林 慎治	本荘工業スターレット	9周	18'18"491	5／1'47"507
5	T-3	㉖	伊藤 秀行	ヤキオンショットワーク	9周	18'22"528	4／1'47"191

・優勝スピード：113.69km／h
・最速ラップ：太田 雄介 1'44"946 116.83km／h 3周目

●N1-1600

・10周＝34km　予選出走7台・決勝出走7台・完走7台　予選順位／タイム

1	㊹	高木 雅宏	バーピーズスワロー EG6	10周	16'24"528	1／1'35"808
2	㉗	広沢 智嘉	TRS 北日本自動車販売EG6	10周	16'33"275	2／1'36"969
3	㉖	千葉 康範	BPJマージナルスパルコ TSG	10周	16'36"021	3／1'37"605
4	㊺	鹿内 邦宣	ベルレイ&ALFAQ大好商産EG	10周	16'52"709	4／1'38"495
5	③	谷岡 勝利	アムウェイ シビック	10周	16'57"600	5／1'39"291
6	㉛	柴田 得光	札幌サッカースクールシビック	10周	16'59"314	6／1'39"691
7	㊼	藤村 照行	スペーヌAE101	10周	17'20"091	7／1'41"733

・優勝スピード：124.53km／h
・最速ラップ：高木 雅宏 1'36"756 126.72km／h 3周目

●AE86

・10周＝34km　予選出走19台・決勝出走18台・完走14台　予選順位／タイム

1	⑰	石井 祐司	アスク・スポーツJレノ	10周	17'06"986	2／1'41"110
2	②	黒川 徹洋	HRZ・HYPER・REVIN	10周	17'07"360	1／1'40"883
3	㉜	新妻 昌浩	ニイズマモーターイナズマレビン	10周	17'20"179	6／1'42"007
4	㉝	茂古沼晋司	佐治整形外科クリニックレビン	10周	17'21"156	4／1'41"750
5	㊻	阿部 一志	RAC アジップサンクリースレビン	10周	17'27"487	5／1'41"876
6	㊽	山田 武幸	バーピーズタイヤサービスレビン	10周	17'28"107	7／1'42"113
7	㊾	古屋 武久	GARAGE夏の森レビン	10周	17'30"343	10／1'42"959
8	⑧	坪田 敏一	DTAFFS・GEARSトレノ	10周	17'39"924	14／1'44"069
9	㊿	星野 浩二	F-gangレビンJ	10周	17'46"166	13／1'43"271
10	㉜	平林 敏仁	オンリーユー・ワコーズJ	10周	17'46"640	11／1'43"211

・優勝スピード：119.38km／h
・最速ラップ：石井 祐司 1'40"736 121.71km／h 8周目

●FJ1600(北海道第3戦)

・12周＝49.8km　予選出走11台・決勝出走11台・完走11台　予選順位／タイム

1	①	高橋 秀行	ハイブリッジインタースポーツ	12周	17'45"974	2／1'26"846
2	㊱	平中 繁延	日本平中自動車販売株オスカー5	12周	17'46"369	1／1'26"651
3	㉚	斉藤 正司	外城建設トーヨーポーリング01	12周	17'47"296	4／1'27"707
4	⑤	上村 健市	生命堂85REV-R301	12周	17'51"847	5／1'27"744
5	⑲	前佐 実	FET ムーンワークス30T	12周	18'10"020	7／1'29"322
6	⑧	林 聡子	TSG-KATOGUMI-MK	12周	18'10"038	8／1'29"420
7	⑥	植松 洋二	クラフトサッポロフォティズ	12周	18'12"980	6／1'28"821
8	㊽	高宮 徹	TSG-KATOGUMI-MK	12周	18'17"161	9／1'30"145
9	③	本庄 勝利	コクピット 白樺RCMK-7	12周	18'23"982	10／1'30"735
10	㊵	下垣 国男	アジップサンクリースマナティ	12周	19'02"387	11／1'31"047

・優勝スピード：138.02km／h
・最速ラップ：高橋 秀行 1'27"027 140.88km／h 2周目

95SCCJヒストリックカーフェスティバル イン ツクバ シリーズI

・6月25日／筑波サーキット／周り／ドライ／主催：SCCJ

●FERRARI 348 CHALLENGE(第4戦)

・15周＝30.675km　予選出走19台・決勝出走19台・完走19台　予選順位／タイム

1	⑦	坂本 正幸	FERRARI 348 GTS	15周	17'04"953	2／1'10"617
2	①	笹本 健次	FERRARI 348 ts	15周	17'08"940	1／1'10"259
3	⑱	吉田日出幸	FERRARI 348 ts	15周	17'09"951	5／1'10"930
4	㉑	八田谷直哉	FERRARI 348 GTS	15周	17'10"131	4／1'10"780
5	㉕	西尾 公秀	FERRARI 348 ts	15周	17'10"580	3／1'10"704
6	⑪	蓮見 俊司	FERRARI 348 ts	15周	17'12"097	6／1'10"948
7	⑯	伊澤喜久男	FERRARI 348 GTB	15周	17'12"525	7／1'10"963
8	㉓	岡本 芳邦	FERRARI 348 GTB	15周	17'13"047	9／1'11"204
9	㉔	権名 泰三	FERRARI 348 ts	15周	17'20"762	8／1'11"022
10	㉓	杉山 正巳	FERRARI 348 ts	15周	17'25"545	15／1'12"322

・優勝スピード：107.742km／h
・最速ラップ：岡本 芳邦 1'06"846 110.134km／h 13周目



スタートでポール①笹本を押さえ込んだ⑦坂本が初優勝を飾った



前回、わずか0.696秒差で2位となった⑦坂本が美酒に酔う

RACE DIARY

DOMESTIC RACE

TI・爆走400km　N1耐久レース

・6月18日／TIサーキット・美田／雨／ウエット／主催：VIOC, TMSC, SCCN, AC
・Photos/Yukio Yoshimi　Report/Naoyuki Hata

●FORMULA TOYOTA(西日本第3戦)

・15周＝55.53km　予選出走5台・決勝出走6台・完走5台　予選順位／タイム

1	㉜	立川 祐路	ダイイチ・広島トヨFT	15周	28'20"554	2／1'33"767
2	㉝	横林 直樹	ダイイチ・広島トヨFT	15周	28'26"471	1／1'33"566
3	⑤	玉中 哲二	B-1 WITH TOM'S FT	15周	29'08"005	
4	㉞	小林 規隆	THE・NEXT・ONE・FT	15周	29'09"256	3／1'35"922
5	⑪	岸野 長英	関西産業&SNBFT	15周	30'04"012	4／1'37"890

・優勝スピード：117.554km／h
・最速ラップ：横林 直樹　1'49"862　121.308km／h

エントリー台数わずか6台とあって、今季初のTI戦はやや寂しい限り。しかも唯一ナウの若手コンビに対抗し得る⑤玉中哲二は練習中のエンジントラブルで予選を走れず、決勝にはなんとか間に合い、噴射書での最後尾からのスタートとなった。ポールポジションを奪ったのは㉝横林直樹だったが、シグナル点灯前にほんの少しだけ動いてしまったのが、フライングスタートの判定となり、ピットストップを命じられてしまう。しかし、その前にトップを奪っていたのは㉜立川祐路。「第1コーナーの立ち上がりで」トップに立って、オープニングラップから後続に差を付けていた。そして、㉝横林の後退後は完全に独走。また、⑤玉中は3位まで上がることに。



同じチームの㉝横林のペナルティーで、楽なレースとなった㉜立川

95全日本GT選手権シリーズ第3戦

・6月24～25日／仙台ハイランドレースウェイ／晴れ～曇り／ドライ／主催：VIOC, 筑波VIOC
・Photos/Shoichi Sudoh　Report/Naoyuki Hata

●TOYOTA1600(第2戦)

・10周＝40.296km　予選出走5台・決勝出走5台・完走5台　予選順位／タイム

1	㊽	佐藤 清治	インターミラノ☆スワロー8P101	10周	22'23"216	2／2'25"481
2	㉗	熊野尾正人	加藤自動車渡辺建業トラストレビン	10周	22'26"117	3／2'26"049
3	㉖	大友このむ	オートテクニカル仙台101	10周	22'26"860	1／2'24"513
4	⑰	大槻 幸夫	FGK・マイロード宮城トヨタ 101	10周	22'33"122	4／2'28"005
5	㊵	熊谷 泰裕	神鉄工業.BARDAHLレノ	10周	23'46"238	5／2'32"871

・優勝スピード：107.998km／h
・最速ラップ：熊野尾正人　2'13"123　108.970km／h

今回もエントリーはわずか5台と、やや低迷ムードが続くトヨタ1600レース。前回、久々の優勝を遂げた柴田優作は不出場。となれば、㊽佐藤清治のワンマンショーになるかと思われたのだが、予選ではほぼ1秒近い差で、㉖大友このむにポールポジションを奪われてしまう。「エンジンはバラつくし、ブレーキとシャフトのバランスが悪いようで変な音がしていた」のが、苦戦の理由ながらいざ決勝が始まってみると、そこは歴戦の勇者。2周目の第1コーナーで㉖大友をかわした後は完全な逃げ切り体制に。「10周のレースをこれほど長く感じたのは初めて」と勝ちこそしたけれど、苦しいレースの印象を㊽佐藤は語っていた。



予選から不調のマシンを㊽佐藤は見事にドライブ、優勝に導いた

●SAURUS Jr(東北第3戦)

・12周＝48.355km　予選出走10台・決勝出走10台・完走8台　予選順位／タイム

1	㉕	小原 健一	らびあんCMR エスワークス佐栄Jr	12周	26'07"438	1／2'21"931
2	⑤	近藤たかみ	ED一番星ステーションBP Jr	12周	26'13"245	2／2'22"834
3	⑧	外山 紀義	シャルムBPザウルスJr	12周	26'27"272	7／2'28"166
4	⑪	澤 秀志	専門自動車整備専門学校ザウルス	12周	26'46"196	6／2'28"159
5	㉖	小田嶋和彦	プリンス秋田Jr by RSオダジマ	12周	27'00"545	5／2'26"862
6	⑯	石山 博司	RTナカノ BP μザウルスJr	12周	27'24"469	8／2'29"977
7	㊶	渡辺 保	無傷でいてよNCA-Jr	12周	27'42"017	10／2'35"100
8	㉙	宇津井俊明	ANNY&ゆかり ピアノ音楽教室	11周	28'01"129	9／2'33"452

・優勝スピード：111.058km／h
・最速ラップ：小原 健一　2'08"890　112.549km／h

ポールシッターの㉕小原健一と、予選3番手から鋭いスタートダッシュを切った㊽小沼宏安、このふたりの一騎打ちが序盤の焦点に。ここまでの2戦で星を分け合う実力者の戦いだけにコンマ差の戦いが繰り広げられたものの、5周目のスプーンからの立ち上がりで㊽小沼がスピンしてしまう。これを避けるために㉕小原もダートに足を落とすが、難なくコースへと復帰。既に後続との差を広げていたため、㉕小原は早々と独走体制を築き上げることとなった。「ウエット用のセッティングのままだったので、ベストのペースよりも下げざるを得なかった。レコードタイムの更新が果たせず残念です」とは、なんとも贅沢な悔しさ。前回に続く2連勝となった。



2台によるマッチレースは、㊽小沼のスピンで㉕小原がモノにした

●STARLET(第3戦)

・10周＝40.296km　予選出走22台・決勝出走22台・完走21台　予選順位／タイム

1	㊷	姉崎 嘉徳	オートランド山形ウェッズBP	10周	22'10"224	2／2'16"265
2	㉑	大橋 正澄	ムラマツ BP μEP82	10周	22'30"681	3／2'17"438
3	⑤	日下 博昭	OSマイロードダッカムS82	10周	22'32"211	12／2'20"043
4	㊸	松浦 俊之	小山SPマーベル BP EP82	10周	22'32"898	1／2'15"591
5	⑥	稲津 秀樹	GSオプション やなちゃんBPμ	10周	22'37"343	13／2'20"210
6	⑰	阿部 俊彦	FREND・Agip・Y-s82	10周	22'42"612	4／2'17"880
7	㊱	女鹿 喜和	石巻オート WAKO'S μ82	10周	22'46"360	9／2'19"370
8	⑯	熊谷 巌	GSバルBFET4バルブ WORK μ	10周	22'48"620	14／2'20"340
9	㊾	山田 義宏	FINEスターレット・ED	10周	22'53"437	17／2'21"040
10	⑬	阿部 智文	RCTAガレージアバンスBPμ	10周	22'54"058	6／2'18"430

・優勝スピード：105.574km／h
・最速ラップ：姉崎 嘉徳　2'11"913　109.971km／h

路面が徐々に乾きつつある予選、その終了間際にベストタイムをマークしたのは前回の覇者㊸松浦俊之だ。しかし、決勝では予選2番手の㊷姉崎嘉徳が絶妙のスタートダッシュを見せ、第1コーナーまでにトップに浮上。1周目で2秒以上のリードを奪った後も、全くアクセルを緩めることなく独走を果たすこととなった。「3年目の初優勝、後ろの競り合いのおかげで序盤のうちに離せた反面、終盤はコース上に出ていた小石を拾ったのかハブから振動が出てしまい、もっともっと差をつけられなかったのが残念。ハイランドでは誰にも勝ちは譲りません／」と㊷姉崎は力強く語った。一方、㊸松浦は5周目のヘアピンでコースアウト。㉑大橋正澄が2位を得た。



予選2位から好スタートを決め、㊷姉崎が初優勝を飾った

●FORMULA TOYOTA(第5戦)

・15周＝60.444km　予選出走19台・決勝出走19台・完走16台　予選順位／タイム

1	①	宮本 新	ESSO FT	15周	27'18"342	1／1'40"033
2	㊷	藤田 孝博	チップス・FT	15周	27'19"064	2／1'49"364
3	⑧	榎本 広行	トランスグローバル トヨタ	15周	27'30"517	3／1'49"494
4	㉝	横林 直樹	MORISAWA RACING FT	15周	27'35"407	8／1'50"557
5	㊵	藤原 清久	BP・駿台・AS・FT	15周	27'38"933	9／1'50"539
6	⑤	阿部 政博	THE.NEXT.ONE FT	15周	27'40"011	13／1'51"697
7	㊾	清水 規行	スキルスピード FT	15周	27'40"293	11／1'50"918
8	㉗	岡 孝志	東京上野クリニック FT	15周	27'52"455	6／1'50"443
9	⑦	大城 永仁	京葉自エリコー FT95	15周	27'53"257	15／1'54"087
10	㊺	出来 利弘	ワイゼンFT	15周	28'00"858	12／1'51"535

・優勝スピード：132.816km／h
・最速ラップ：藤田 孝博　1'48"256　134.002km／h

前回の優勝で復調の兆しを見せ始めた①宮本新が、㊷藤田孝博をコンマ3秒差で従えポールポジションに。決勝でもこのふたりは、終始コンマ差の間隔で続く壮絶なバトルを繰り広げた。だが、ペース的にはやや上回りながら攻めあぐねていた㊷藤田が、ほんの少しとはいえ12周目のシケインでダートに足を落としてしまったことで、この戦いの明暗が分かれることとなった。①宮本はこれが初のポールtoウイン。ランキングでもトップに立つが、「そのことよりも藤田さんにあんな無理をさせるほど、プレッシャーをかけられたことの方がうれしい」と語っていた。3位を奪ったのは⑧榎本広行。「データの少なさがこの差になってしまった」と悔しそう。



フロントロウ2台の激しいレースは①宮本が競り勝った

95フレッシュマントロフィーレース IN SUZUKA第4戦

・6月25日／鈴鹿サーキット／曇り／ドライ／主催：ARC
・Photos/Atsushi Besshi　Report/Sumie Dan

●N1

・8周＝46.912km　予選出走47台・決勝出走40台・完走36台　予選順位／タイム

1	⑧	井田 雅彦	APロッキード SHP シビック(EG6)	8周	20'45"425	A 1／2'34"310
2	㉙	中村 旬	ナカムラレーシングファクトリー(EG6)	8周	20'45"817	B 4／2'35"437
3	⑳	八木 宏之	スピードマスター花田屋 ED(EG6)	8周	20'46"890	B 1／2'34"304
4	㊽	三浦 誠	後藤建設ZETEC-R シビック(EF9)	8周	20'55"734	B 6／2'35"807
5	⑲	松村 俊治	レイブロス BPチャージED(EG6)	8周	20'56"107	B 4／2'35"437
6	㊹	栗田 明	オートシステム BPチャージED(EG6)	8周	20'56"692	A 3／2'36"131
7	⑫	西本 英樹	RSファクター&クール BP(EF9)	8周	20'56"803	A 6／2'36"470
8	㉑	宮本 豊	セレクトレーシング ASシビック(EF9)	8周	21'00"579	B 8／2'36"324
9	㊾	楠本 淳一	JSRACING CIVIC(EG6)	8周	21'00"766	B 11／2'37"127
10	⑰	兼子 謙一	無兼子建材店BP/μ(EG6)	8周	21'03"347	A 12／2'37"460

・優勝スピード：135.60km／h
・最速ラップ：中村 旬　2'33"965　137.11km／h　2周目

好スタートをきったPP⑳八木宏之を、予選2番手の⑧井田雅彦が「狙っていた」というデグナーの進入でかわしてトップを奪取。一瞬、姿勢が乱れた⑳八木は5番手に後退した。代わって2番手に浮上したのは⑳八木の父でGTクラスから移籍した⑦八木たかし。⑧井田を追いかけその間隔をじわじわ詰めるが、⑧井田も巧妙なブロックで⑦八木を前に出させない。終盤、トップ攻防でペースが遅れがちな二台に3番手の㉙中村旬が接近。最終周、1コーナー進入で一瞬⑧井田の前に出た⑦八木だったが、止まりきれずコースアウト。勢いづき攻めてたるルーキー㉙中村だったが、ベテラン⑧井田の強烈なブロックには歯がたたず、三位にはばん回した⑳八木が入った。



八木親子に攻めたてられた⑧井田だが、トップを守り切った

●RS(鈴鹿第4戦)

・8周＝46.912km　予選出走14台・決勝出走14台・完走14台　予選順位／タイム

1	㊿	安山 一秋	FIX-BP-ED SK52	8周	17'36"952	1／2'11"317
2	②	富田 光夫	メンズタイムBPアゼスHMG	8周	17'41"109	2／2'11"647
3	⑯	藤川 元造	ADVAN シープドックSK52	8周	17'51"013	3／2'12"872
4	⑱	水野 峰孝	COSMOSクラスター 関ロ93	8周	18'05"087	5／2'14"731
5	㊾	岡田 憲久	車情倉部SupportBPED	8周	18'14"721	6／2'14"857
6	①	大城 一	MELO テクノ MP8PスパルI	8周	18'15"120	7／2'15"611
7	③	富田 昭雄	トータルA-1 コスモスED90	8周	18'19"835	8／2'16"114
8	㊱	足達 慶信	プリンスMOTUL 足達東93	8周	18'34"963	4／2'14"040
9	⑥	富樹 昭広	新妻オート BPフィシーギャング	8周	18'52"419	9／2'16"834
10	⑨	沼田 陽一	OZUMA SK90 ED	8周	18'59"721	13／2'21"126

・優勝スピード：159.78km／h
・最速ラップ：安山 一秋　2'11"110　161.01km／h　2周目

前回の筑波遠征から復帰した㊿安山一秋と⑯藤川元造。②富田光夫は遠征から復帰。ここまで一勝ずつあげているこの3人が、予選からダントツの速さで他をリード。決勝レースでも、スタートからブッチぎる㊿安山を筆頭に、②富田、⑯藤川が単独走行で1－2－3位の順位を一度も変えることなくフィニッシュした。

その後方では、予選4番手の㊱安達慶信がスタートに失敗し、⑱水野峰孝、㊾岡田憲久が順位をひとつづつ繰り上げ、⑱水野は初ポイントをゲット。③富田昭雄を振り切った①大城一がじりじり㊾岡田に接近し、最終ラップでテールtoノーズに持ち込んだが、㊾岡田は①大城につけいるスキをみせず、最後まで逃げきり5位を得た。

カートワールドの RACING KART CLUB

最新情報満載!!

カートに関する情報ならみ〜んなここでそろってしまう、そんな便利なページがココ
新製品やニュース、イベント紹介、BUY&SALE、Q&A、全日本プレビュー……
何でもかんでもここで受け付けてるよ! キミだけのヒミツ情報も教えてね
〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 レーシングオン編集部「レーシングカートクラブ」まで
みんなからのお便りやレース報告など、楽しみに待ってるから、バンバン送ってね!

SL/YZ/F100全国大会の参加助成対象と金額が決定!

各地でシーズンたけなわのローカルレースだが、シリーズ終了後には、その日本一を決める全国大会がさまざま行われる。でも開催地から遠い人には、コース往復の費用だけでもたいへん。そこでヤマハ製マシンを使う3つのシリーズの全国大会「SL全国チャンピオン大会」「ミッション・カート全国大会」「F100全国大会」では、たくさんの優秀なドライバーに集まってもらおうと、ランキング上位のドライバーにSLKCから参加助成金が支給される。その特典を受けられるシリーズと助成金額が、このたび発表された。対象者はエントリーフィーも免除になるぞ。

●

①SL全国チャンピオン大会
11月11〜12日/つま恋国際カートコース
JKGPに併催される、ご存じSLレース最終決戦。特典の対象は9月30日現在のランキング1位のドライバー。SLKC各地方本部に確認後、保険料とピットクルー登録料を添付して主催事務局(ヤマハリゾート㈱つま恋)にエントリーすると、エントリー確認後にSLKC地方本部から立替支給される。

②ミッション・カート全国大会
10月21〜22日/琵琶湖スポーツランド
ミッション付きのYZストック80/125も、今年から全国大会が始まる。80のチャンピオンには125のマシンを一年間貸与、125のチャンピオンはFJ600へのステップアップの援助が用意されている! 対象は8月31日現在のランキング1位のドライバー。申し込みと助成金支給は、SL全国大会に同じだ(主催事務局はSLKCと琵琶湖スポーツランド)。

③F100全国大会(Pクラス)
11月4日/富士スピードウェイ
フルカウルをまとって4輪コースを戦うレース。特典の対象は94年度ランキング1〜3位のドライバー。大会当日に申請すれば、後日SLKCから銀行に振り込まれる。ダブル入賞の場合、高額な方が対象になる。

SL/ミッション・カート/F100 全国大会特典対象クラス、参加助成金

SL全国チャンピオン大会

地区	シリーズ名	該当クラス SC	SD	SS	FP	A	参加助成金額
北海道	全道		●				116,000円
東北	秋田		●				87,000円
	SUGO	●	●	●		●	70,000円
	福島		●				60,000円
	ミヤノ		●				80,000円
関東	カヌマ		●				30,000円
	フェスティカ	●	●				30,000円
	サシマ		●				30,000円
	サシマゴールデン		●				30,000円
	東京	●	●		●		30,000円
	大井松田	●	●	●	●	●	30,000円
	茂原		●				30,000円
	桶川		●				30,000円
	長岡		●				60,000円
	伊那		●		●		30,000円
	那須		●				30,000円
中部	北陸	●	●				25,000円
	GCA		●				25,000円
	つま恋	●	●	●	●	●	10,000円
	津保川		●		●		20,000円
	津保川サタデー		●				20,000円
	鳴浪ウェンズデー		●				20,000円
	鳴浪サンデー		●				20,000円
	愛知		●				20,000円
	東海		●				20,000円
	中日本		●				20,000円
関西	大阪		●		●		39,000円
	名阪		●		●	●	39,000円
	生駒		●				39,000円
	たからづか	●	●		●		39,000円
	VICIC	●	●			●	39,000円
	VICICウエンズデー		●				39,000円
	サタデー堺		●				39,000円
	琵琶湖		●		●	●	39,000円
	鳴名川		●		●	●	39,000円
	中山		●				50,000円
	淡路		●				39,000円
中国	ビスタ	●	●		●	●	70,000円
	弘楽園	●	●			●	70,000円
四国	愛媛		●				75,000円
九州	福岡	●	●	●		●	82,000円
	北九州	●	●	●		●	78,000円
	中九州	●	●	●		●	90,000円
	南九州		●	●	●		98,000円
	長崎	●	●				90,000円

ミッション・カート(YZストック80/125)全国大会

シリーズ名	該当クラス 80	125	参加助成金額
全道	●		126,000円
ミヤノ	●		90,000円
SUGO	●		80,000円
那須	●		40,000円
北日本		●	70,000円
フェスティカ	●	●	40,000円
ハルナ	●		40,000円
桶川	●		40,000円
東京	●		40,000円
サシマ	●		40,000円
茂原	●		40,000円
大井松田	●		40,000円
伊那	●	●	40,000円
中日本	●		20,000円
中部	●		30,000円
つま恋	●	●	30,000円
鳴浪	●	●	20,000円
津保川	●		20,000円
昇原	●	●	20,000円
琵琶湖	●	●	10,000円
名阪	●	●	20,000円
生駒	●		20,000円
大阪	●		20,000円
サタデー堺	●		20,000円
関西	●		20,000円
たからづか	●		20,000円
鳴名川	●	●	20,000円
VICIC	●		20,000円
中山	●	●	30,000円
中国	●		40,000円
愛媛	●	●	45,000円
九州	●		52,000円
大分	●		60,000円
中九州		●	60,000円
南九州	●		68,000円

F100全国大会

シリーズ名	参加助成金額
SUGO	50,000円
MAZE	40,000円
関東耐久	17,000円
筑波	17,000円
FISCO	10,000円
中山	67,000円
TI	67,000円
MINE	81,000円
九州	90,000円

SUGOでの94SL全国大会にも大勢が集まった



ウィンフォースのスプリント版マシンが今秋に発売予定!!

ミッション付き入門レースのYZストック80は、開始初年度にして人気上々。そのワンメイクマシン「ウィンフォース」が、実はスプリントの全日本選手権でも活躍している。ヤマハ・ワークスの李好彦、樋口信之、小野尾司が、ウィンフォースのシャシーを「スーパーウィンフォース」として使用しているのだ。特にFSAクラスの李と樋口は、昨年までの不振を脱して復調急。シャシーもその立役者になっている。このスーパーウィンフォースが、今年の秋にスプリント用シャシーとしてヤマハから発売される予定だ。価格や仕様はまだ未定だが、全日本で使われているマシンは、フロントナックルからブレーキを外し、他はほぼウィンフォースそのままの状態になっている。どんな形でリリースされるか、正式発表を期待して待とう。



PRESENT
●読者プレゼント

レーシングカート百科を3名にあげちゃう!

カートを始めたい人から現役レーサーまで、カーターみんなに役立つ知識がギュッと詰まったブ厚い一冊「レーシングカート百科95-96」(企画・編集／亜玄㈱、発行／㈱交通タイムス社)を、3名にプレゼント。希望者はレーシングオン編集部「レーシングカートクラブ」までハガキで申し込んでネ。締め切りは8月18日必着。

レースプレビュー

全日本カート競技選手権
西地域第5戦 8/6

猪名川サーキット　兵庫県川辺郡猪名川町清水字前谷72-1／☎0727-69-0133

灼熱の関西ラウンドはハードバトル必至 混迷のFAを抜け出す者は現れるか?

●西地域の終盤は猪名川、堺とめぐる関西ラウンド。昨年から全日本に加わった猪名川は1000m超のロングコースで、時期的にも体に厳しい舞台だ。ハードな戦いになること間違いナシ。FAクラスは前4戦で4人のウイナーが乱立。ポイントで頭ひとつ抜けた保坂光俊を押さえる者は現れるか?
●開催クラス：FA、FR●主催：関西スプリントカーターズ(☎0726-95-3380)●観戦料金：大人1000円、子供500円

ハガキの片隅からみんなの様子が見えるゾ!

このページの中で一番の人気コーナーは、実は「BUY&SALE」。そのハガキの中にもコメントを書いてくれる人がいるんだが、そこからみんなの様子が見えたりして、ちょっとウレシイ。今回、売りたし」にハッセを出してくれた佐藤さん、今年は活動休止中なのだが、実は昨年の全日本でFRクラスのチャンピオン争いをしていたトップカーターなのだ。その全日本で使っていた愛機に「もう一度このフレームで誰かが優勝してくれればと思っています」とのこと、誰が佐藤選手の栄光を受け継ぐのかな? 佐藤選手もあきらめずに、また第一線に帰ってきてください。とはいえレースはお金がかかるもの。みんなが無理せず、楽しく、長く続けてくれたいいナと、レーシングカートクラブは思う次第です。

BUY&SALE

■売りたし

●ヤマハ・RC100 SD
92年式・程度上(問題ナシ)・Fパネル／サイドボックス／ノイズボックス／新品段付シャフト／カートスタンド／ショウエイヘルメット／スパルコグローブ／他多少パーツ付・価格16万円・一見されたし
〒310 茨城県水戸市若宮1-2-11／☎029-226-8206　小林 正樹

●コンプリートカート2機
①アルファ・ミストラル+KT100 SD　程度上・エンジンOH済・93年10月購入・94年5レース使用・即レース可・価格15万円
②ヤマハ・RC100 SD　程度上・エンジンOH済・93年式・価格15万円
〒474 愛知県大府市北崎町神明33／☎0562-47-7556　池田自動車

●ハッセ・ラクサー
94年式・94全日本FR西第3＆5戦優勝フレーム・3レースのみ使用・程度極上・価格15万円・その他KT100 S／Aクラスエンジン／レインタイヤなど多数あり・どのクラスでもレースに出られます
〒603 福岡県福岡市東区松香台2丁目10-34 シャルムハイムB-103／☎092-661-2509　佐藤 浩二

●コンプリートカー、トランスポーター
①アルカート・アバッチ2 BG+ヤマハKT100・94年式・程度極上・1時間ほど使用のみ・フレーム／エンジンとも保証します・カートスタンド／タコメーター／スペアパーツ多数付・価格応談　②ホンダ・アクティストリートL・AT／CS付・検H9.1・8万円値引き可
〒515-25　三重県一志郡一志町虹が丘6-10／☎05929-3-6495(留守電あり)　伊藤 公一

●BUY&SALE投稿のきまり
当コーナーに掲載をご希望の方はハガキに「売りたし」「買いたし」を明記の上、①品目、②年式、③程度、④付属品、⑤価格、⑥備考を記入してください。また郵便番号、住所(県名から)、氏名、電話番号もお忘れなく。電話番号は編集部からの連絡用に必ず記入を。誌面に掲載したくない方は「掲載不可」と書き添えてください。
ハガキの到着から掲載までには1～2カ月程度かかります。また売買に関するトラブルについて、編集部では一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

サマーイベントもりだくさん!

タイムアタックGP参加者大募集!
ベストラップを叩き出すのは、はたして誰か!?
もしかしたら…キミかもしれない!!
豪華商品めざして　いざ、チャレンジだ!
日時　8／5・12・19・26　毎回土曜日PM3:00～4:00
8／26はグランドチャンピオン大会!各大会の強豪が集結!
10分間練習走行(13～15周)＋みんなが見守る中1名ずつドキドキのワンラップアタック!＝1名¥4,000(参加賞＋1ドリンク)
●各回定員を30名様とさせていただきます。お早めにエントリーを!!

★レンタルカート　ナイター営業スタート!
夏休みはPM8:00まで走れるヨ(事前にお問い合わせ下さい)
レンタルカート　10分間＝¥2,000(13～15周)　&¥2,500(平日)　(土・日・祝)＝ラップチャートつき!

★7／14(金)
ビアガーデンオープン!!
レンタルカート&バンジーで汗を流した後は生ビールがうまいッ!ライトアップされたタワーの下で仲間と飲もう!!

スタッフ募集中!!
キミのカートライフをバックアップします!

PESKA
MOTORE PARK
モトーレパークペスカ



★大好評レンタルパック—仲間と気軽にレース体験!
コース貸し切り＋FK-9(7台)＋レンタルヘルメット　＝40分¥70,000から～
(うれしいサービスもいっぱい!!)
1.100分以上まとめての御利用は、料金を10%OFF!
2.シャンパン、表彰台、トロフィーを無料サービス!(60分以上御利用に限る)
3.2回目からの御利用は、毎回御利用料金を10%OFF!

中央高速一宮御坂インターチェンジより0分
東京(高井戸)から96km→70分
名古屋(小牧)から255km→190分
山梨県東八代郡一宮町国分1314-1
TEL.0553-47-4641 FAX.0553-47-0978

全日本カート競技選手権 FSA第4戦／西地域第4戦



バトルの中で相手のスキを探す。自在なライン取りが要求される

レースではPP逃げ切りでもない限り、敵を抜かなければ勝てない
だが勝ちたいのは相手も同じ、簡単に抜かせてくれるはずがない
アマチュアカーターの大きな課題〝パッシング〟のテクニックを
第1ヒートで浮上を果たしたベテラン大竹時幸から学んでみよう

7月15～16日／中山カートウェイ
主催：山陽スポーツランド
Photos／Kazuhisa Sawada, Text／Kazuo Mizutani



常に見事なレースの組み立てを見せる大竹

ベテラン大竹が教える
パッシング・ポイントはこうして見つけろ！



3大竹は第1ヒートで5ポジションアップ

久々の2デイレースとなった今回、その初日に行われたタイムトライアルで、大竹時幸は9番手の位置に甘んじていた。

だが2日目に予選第1ヒートが始まると、大竹はスルスルと順位を上げて、このヒートを4位でゴールする。決勝こそリタイアとなったものの、第1ヒートは大竹の腕の冴えを再確認させる、見事な戦いぶりだった。

では大竹は、いかにして浮上を果たしたのだろうか。そのワザを盗んでみよう。

第1ヒート、会心の浮上劇

TT9番手という結果は、実は大竹にとっては予測していたものだった。

「最新型のロータックスがまだ開発段階で、エンジン面では苦しい立場。TTは真ん中辺り、ひとケタかなと思っていた。まずは予定通り。あとはレースでなんとかして、最後にいいところに行けばいいんだから」

大竹のレース運びは、よくこのパターンを見せる。1日の序盤は中段辺りにいても、決勝になるといつの間にかトップ争いにいる。

この組み立てが大竹の真骨頂なのだ。

第1ヒートは14周だ。そのローリングで前の1台がストップ、そしてスタート直後、混雑する2コーナーで荻原正好をパスする。1周目で早くもふたつ順位が上がった。

次の標的は野田俊だ。2周目まで野田の背後にピタリと続いた大竹は、3周目の3コーナーを立ち上がったバックストレッチでインに入り、次の直角コーナーに入るブレーキング競争で野田をかわす。その次は目前を行く脇阪寿一。勝負は10周目、バックストレッチでスリップストリームに入って勢いを付け、野田と同じパターンで脇阪を抜いた。

最後の獲物は金石年弘だ。そのポイントは2コーナーだった。12周目、ここで立ち上がりが金石よりうまく決まった大竹は、その立ち上がり加速を続く3コーナーまで活かして、バックストレッチの半ばで金石の前に出た。これで4位。金石を抜いた時点で残るトップ3は幾分逃げかかっていたが、大竹は3位の佐藤雅洋を目前にするまで追い上げて、第1ヒートのチェッカーを受けた。

自分が苦しいコーナーが大事

「抜き所になるのは、練習で走って、自分が苦手だったところ。自分が苦手ならそれは相手も同じこと。レースではそこにうまくセッティングを合わせて、ライン取りなどをどううまく持っていくかがポイントです」という大竹は、練習で中山の勝負所を3カ所定めていたという。ひとつはヘアピン状の2コーナー。そして野田と脇阪を抜いたバックストレッチから直角コーナー。最後は奥のスプーン。

「2コーナーは相手のタイヤの磨耗を見て。減ってくれば早めのブレーキングになります。それに立ち上がりでゴムの上を走るんですが、日本人にはそれが難しいみたい。自分は（ゴムが乗りやすい路面の）海外レースの経験も多くて、けっこう得意なんです。

直角コーナーは単純なようで、実はけっこう難しい。ここはあまりゴムが乗らないから滑りやすいんです。相手が滑ったところで自分はうまく滑らせずに抜こうと。そのためには1～2周前からインを突くように見せかけておいて、相手が早めにインを押さえて、コーナーで滑るように仕向けていくんです。

スプーンで抜くなら直角コーナーからの伸びを活かして。並ぶところまでいかなくても、バンパーが入れば抜けますから」

1本のラインでは抜けない！

無理なパッシングを仕掛ければ、結局絡んでしまいかねない。大竹は抜くタイミングを「自分が入れると確信した時」だという。

「そのためには相手のクセをつかむこと、1周で素早く判断することが大切です。練習では速いラインだけじゃなく、前がいる場合、単独の場合、後ろがいる場合など、いろいろなラインを見つけることが大事ですね。アマチュアでは進入で抜いても、立ち上がりで抜き返される人が多い。無理して前に出なくても、相手と並んで回れば抜けますよ」と大竹。

そして、最後にこう語った。

「予選で頑張りすぎてつぶれないこと、決勝を万全に持っていくことが大切なんです」

これこそが大竹の強さの秘密なのだ。

タイトル争いはまだ混沌としているシリーズ中間状況だ

95全日本シリーズはFSAと東西両地域が第4戦を終え、いよいよ佳境に入る。タイトル争いもほのかに様子が見えてきたが、混迷はまだ続きそうだ。

FSAでは第3戦以降、上位陣がポイントを取りこぼす中、今回の優勝で津田が頭ひとつ抜け出した。調子に落ち込みがない津田が、このまま突っ走るか？カギは上昇機運の李、樋口、金石あたりが握っているかも。FAは西の保坂、東の須崎が一歩リード。ただし有効5戦のポイントシステムは、現在1勝の保坂より2勝の須崎に対して、やや有利に働きそうだ。とはいえ東西の2位以下も、得点差はまだ小さい。FRは西の松浦が3勝目を挙げて、東のリーダー上原を引き離しにかかった。上原には同ポイントの強敵・長谷川がいるだけに、西で松浦が独走を始めるとやっかいだろう。

POINT STANDING

FSAクラス

1	津田	浩次	50
2	松谷	隆郎	38
3	松浦	佑亮	33
4	脇阪	寿一	31
5	金石	年弘	25
6	山西	康司	24
7	李	好彦	22
8	佐野	和志	20
9	大竹	時幸	19
10	荻原	正好	16

FAクラス（全6戦中5戦有効）

西地域（4戦終了）			東地域（4戦終了）		
1	保坂	光俊 70	1	須崎	善文 72
2	清井	雅紀 56	2	山口	大陸 65
3	倉本	武 52	3	沖田	淳治 61
4	松永	真二 46	4	小野尾	司 56
5	橋本	剛基 44	5	白熊	淳三 53
6	中尾	秀彰 41	6	佐藤	嘉一 50

FRクラス（全6戦中5戦有効）

西地域（4戦終了）			東地域（4戦終了）		
1	松浦	孝亮 97	1	上原	三義 81
2	小野	和行 80	2	長谷川	憲章 81
3	高須	博英 60	3	寺崎	雅義 51
4	雪下	伸明 40	4	横山	良雄 43
5	深谷	啓二 37	5	渡辺	慶人 40
6	金田	善照 37	6	秋元	一宏 38

RACE REPORT

FSAクラス

食い下がる山西を下して津田が久々の勝利を獲得

90年以来の2デイ開催となった今回のレース、その初日に行われたタイムトライアルで、一番時計はFSA2年目の山西康司、2位は津田浩次だった。2人は予選から激しく競い合い、津田がPP、山西がセカンドでフロントロウに並んだ。そして28周の長い決勝も、この2人のマッチレースとなった。

山西は津田に一人食い下がり、逆襲を試みる。そして5周目に津田の前へ。だが津田は2周後の直角コーナーでトップに返り咲く。山西を再び後ろに従えた津田は、何度も後ろを振り返り、背中に張りつく山西の動向を観察する。予選から闘士むき出しで厳しくラインを押さえた山西にカチンときた津田は、「絶対抜かせてやらん!」と山西を万全の集中力で押さえ込む。ゴムが乗ったテクニカルセクションでは軽やかに走る山西だが、それも津田を抜くまでには至らない。津田は執拗に食い下がる山西をしっかり封じ込め、そのまま93年最終戦以来の優勝を勝ち取った。

これでポイント面でも一歩抜け出した津田は「あと2戦は攻める!」と宣言。対して優勝こそ逃したが、初めてFSAのトップ争いを演じた山西は「やっとレースになりました。やっぱり争わなければ勉強にならない」と、今回のレースの意義を語った。

2人の後ろでは、単独走行を続けた金石が3位でフィニッシュ。昨年のFAでの大活躍で期待されたルーキーの、これが初表彰台だ。4位は残り2周で大竹時幸のエンジンが壊れ、松谷隆郎の手中に転がり込んだ。

松谷もキャブの不調に悩まされ、TT14位をなんとか克服しての苦闘だった。また予選で健闘して3番グリッド獲得の佐藤雅洋は、キャブがグズって13位に終わっている。


久々の勝利にこのガッツポーズ! 4津田が9山西を押さえ切った


期待のルーキー3金石が初表彰台へ。猛反撃の前触れか?

FAクラス

フル参戦初年度の松永が好調・清水を下して初優勝

最終コーナーにたまったゴムにつかまり、ポイントリーダーの清井雅紀も前戦3位の平野健太郎も、ローリングの最中にストップ。予選でこの厳しい状況を難なく乗り切りPPに着いたのは、清水陽一だった。清水は決勝でも、セカンドグリッドから後退していく脇阪薫一を尻目に、延々トップを守り続ける。

だがやがて背後から、強敵が迫ってきた。TTでは31位と低迷していた松永真二だ。不振の原因をガソリンに見つけ、本来の調子を取り戻した松永は、予選から猛烈な逆襲を開始、5番グリッドまで盛り返していた。

中盤で清水を目前に捕らえた松永は、最終コーナーが速い清水に手こずりながらも、冷静にチャンスを待つ。そして22周目の直角コーナー手前、イン寄りのブロックラインからアウトに振った清水を刺してトップに立った。初めてのトップ争いで体力を消耗し切っていた清水には、もう余力はなかった。松永はそのままチェッカーへ。「一番気持ちのいい勝ち方ができた」という、全日本フル参戦初年度の初優勝だった。力尽きた清水は保坂光俊にも抜かれて3位に。だがそのトップ快走は、今後の活躍を期待させるものだった。


終盤までトップ快走の56清水は、力尽き3位


TTのトラブルを克服、63松永がウイニングランを回る

FRクラス

事故でレースは赤旗・短縮 松浦が3勝目をゲット!

ここまで2勝の松浦孝亮は、TT16番手にも「大丈夫ですよ」と余裕の表情。それはハッタリではなかった。予選でグイグイと順位を戻し、決勝5番手まで盛り返したのだ。

決勝のスタートでは、2番グリッドの戸井口卓靖がタイヤかすに乗って大きく後退。一方松浦はガラ空きのアウト側から3位に上がり、牧長路もかわして、1周で2位に上がった。先頭はPP発進の雪下伸明。松浦は雪下に貼り付くと、7周目のスプーンで抜きさり、ついにトップの座を奪った。首位を明け渡した雪下だが、その作戦は後半勝負。一度は1秒前に広がった松浦との差を詰めて、再逆転のチャンスを待つ。だが後続が直角コーナーでクラッシュ、救急車がコースに入り赤旗が出て、レースは17周で終了。3位は熱戦の末に小野和行を下した戸井口。これで松浦は3勝目、西FRの主導権を完全に握った。


雪下の追走をくだし、45松浦は3勝目を獲得

クラス：FSA エントリー：25台

決勝順位	No.	ドライバー(チーム)	エンジン/フレーム/タイヤ	タイムトライアル ベスト	タイムトライアル 順位	1ヒート順位	2ヒート順位	予選結果
1	4	津田 浩次(HAASE RT)	チタン・RV1/ハッセ・スコーピオン/BS	29'408	2	1	1	1
2	9	山西 康司(ジェミニカート)	イタルシステム・MV-1/アルカート・ミラージュ7/DL	29'346	1	2	2	2
3	12	金石 年弘(晴レーシング)	ロータックス・DS-C3/カリ・ストライク/DL	29'611	6	5	5	5
4	1	松谷 隆郎(HAASE RT)	チタン・RV1/ハッセ・スコーピオン/BS	29'977	14	12	10	9
5	15	李 好彦(gpマスプロジェクト)	ロータックス・DS-C3/ヤマハ・スーパーウィンフォース/BS	29'927	13	10	9	7
6	11	脇阪 薫一(アッソMS)	ロータックス・DS-C3/CRG・エポック/BS	29'504	3	7	8	8
7	24	植口 信之(BPヤマハRT)	イタルシステム・MV-2I/ヤマハ・スーパーウィンフォース/DL	30'044	16	9	10	9
8	2	松浦 佑恵(ビエッセプロジェクト)	ロータックス・DS-DR/ビエッセ・ラビット2/BS	29'905	11	24	13	18
9	13	五十嵐勇大(OMRC)	サエッタ・SV11/ビレル・M632/DL	30'323	19	21	14	17
10	16	野田 優(スコールカート)	サエッタ・SV11/メルリン・タイプD/DL	29'608	5	6	6	6

クラス：FA エントリー：67台

決勝順位	No.	ドライバー(チーム)	エンジン/フレーム/タイヤ	タイムトライアル ベスト	タイムトライアル 順位	1ヒート順位	2ヒート順位	予選結果
1	93	松永 真二(初野平・ビーライン)	チタン・RV1/ハットレス・トレンド/DL	30'372	31	A 2	A 1	5
2	31	保坂 光俊(ノバカートR)	ロータックス・DS-C3/ハッセ・ミザー95/BS	30'200	14	B 2	B 1	4
3	56	清水 陽一(ジェミニカート)	ロータックス・DS-C/ハッセ・スコーピオン/DL	29'848	3	C 1	C 2	1
4	78	倉本 武(HAASE RT)	ロータックス・DS-C3/ハッセ・スコーピオン/DL	29'863	6	C 2	C 3	2
5	28	中尾 秀彰(BIG ONE福岡)	ロータックス・DS-C3/ハッセ・ミザー95/BS	30'215	16	A 4	C 6	12
6	44	高本 純(RT San-ei)	ロータックス・DS-C/ジョリーカート・ステップII/DL	30'154	12	C 3	C 5	10
7	77	鈴木 徹哉(チームメルリン)	イタルシステム・MV-2I/メルリン・タイプD/DL	29'771	2	B 1	B 2	3
8	9	脇阪 薫一(アッソMS)	ロータックス・DS-C3/CRG・エポック/BS	29'625	1	B 3	B 3	2
9	99	高橋 和則(チームぶるーと)	ロータックス・DS-C3/ハットレス・トレンド/DL	29'998	8	B 3	B 4	7
10	37	伊藤 貴人(OMRC)	サエッタ・SV11/ビレル・M632/DL	30'253	20	B 5	B 4	11

クラス：FR エントリー：54台

決勝順位	No.	ドライバー(チーム)	エンジン/フレーム/タイヤ	タイムトライアル ベスト	タイムトライアル 順位	1ヒート順位	2ヒート順位	予選結果
1	45	松浦 孝亮(ビエッセプロジェクト)	ロータックス・VM95XP/ビエッセ・ラビット2/BS	30'492	16	B 3	B 2	5
2	56	雪下 伸明(G. LYNX)	サエッタ・SL11/メルリン・タイプD/BS	29'906	2	B 1	B 1	1
3	63	戸井口卓靖(O. D. O)	イアメ・シリオTT85/アルファ・エリート/BS	29'881	1	A 1	A 2	2
4	35	小野 和行(ハラダKC)	イタルシステム・ML-21/CRG・エポック/BS	30'325	10	B 5	B 3	7
5	30	金田 善明(RT San-ei)	ロータックス・VM95XP/トニーカート・エスプリ/DL	30'237	8	B 6	B 5	9
6	34	奥野 安眞(プレストカート)	ヘッシェル・KZH100M/コンビカート・T-Rex/BS	30'979	33	A 10	A 5	11
7	24	中矢 光一(ペアRCウエスト)	イアメ・シリオTT85/ビレル・M632/DL	30'151	6	B 2	B 4	6
8	37	中嶋 隆志(プレストカート)	ヘッシェル・KZH100M/コンビカート・T-Rex/BS	30'852	26	B 8	B 7	10
9	46	奥野 勝(びいたぁばん)	ロータックス・VM95XP/ゴールドカート・ファイヤーフォックス/BS	30'405	13	A 5	A 4	8
10	15	森田 正則(ジェミニカート)	イタルシステム・ML-1/ハッセ・ラクサー/DL	30'354	11	A 6	A 10	12

KART SHOP ぶるーと

"ぶるーと"はあなたのカートライフのトータルプランナーです

ライセンス取得から機種の選定、そして初走行には必ずスタッフが同行しご指導します。また、瀬戸店では『フリーメンテナンスルーム』を無料開放。チーム員なら、いつでも誰でも使うことができます。レースのエントリーも"ぶるーと"で受け付けています。

カートを始めようかな‥‥と思ったら、ぜひ"ぶるーと"へ!200余名のチーム員と親切なスタッフがあなたをお待ちしています。



瀬戸本店
〒489 瀬戸市菱野町190
TEL.0561-82-3510
FAX.0561-82-0816

■ライセンス講習会 開催日程
3/25・4/29・5/20・6/17
7/29・8/26・9/23・10/21
11/25・12/23
※時間 P.M.7:00～
受講料 ¥10,000
写真(3×3.5cm)が必要です。

■体験試乗　受付中
日時、場所等TELにてお気軽にお問い合わせ下さい。

■カート保管OK
カートを始めたいけれど、運搬ができない、保管場所が無い‥‥そんな心配をしている方、"ぶるーと"なら大丈夫です。瑞浪レイクウェイ/津保川カートランド/瀬戸店でカートの保管が可能。運搬も行っています。ご相談ください。

NEW '95 YAMAHA RC-100SD ¥339,000

●瀬戸本店/名古屋店にて、毎月ライセンス講習会を行っています。お申し込みお問い合わせは各店まで。

名古屋
〒465 名古屋市名東区神里1-93
TEL.052-703-5221
FAX.052-703-5292

■ライセンス講習会 開催日程
3/11・4/8・5/6・6/3・7/8
8/5・9/9・10/7・11/4
12/9
※時間 P.M.7:00～
受講料 ¥10,000
写真(3×3.5cm)が必要です。



ASSO MOTOR SPORTS

奈良市宝来町984-1
TEL0742-49-7471
OPEN
平日／11:00～20:00
日祝／ 9:00～18:00
定休日がなくなり
営業時間が変更になりました

8/1～8/31 サマーキャンペーン

初心者歓迎 1000円試乗会

レーシングスーツ＋シューズ
(ARD-1012V1)　(ARD-804)
通常セットで
¥81,000を¥59,800
さらに今なら ARD グローブプレゼント

期間中フレームを買っていただいた方にレーシングスーツプレゼント

くわしくはTELにて

●その他　店頭にて奉仕品有り



ALFA
RACING KART SHOP NAGOYA JAPAN

お気軽にお問い合わせください。
お待ちしています。
TEL.052-803-5602
名古屋市天白区島田2-511
月曜定休　営業時間10:00～21:00

カートで風をきる爽快さ!

初心者歓迎! 中古カート在庫

あなたも体験してみてください。

新車カート/中古カート/カートウェア/ライセンス取得/テクニカルアドバイス } カートに関する全ての事ならアルファーまでお気軽にご相談ください。



■ライセンス講習会毎月実施しています。
アルファーの経験豊かなスタッフが、親切にお世話いたします。

◘ライセンス講習会◘
8月26日(土) / 9月23日(土)

中古カート：ヤマハ / 外車 各種在庫

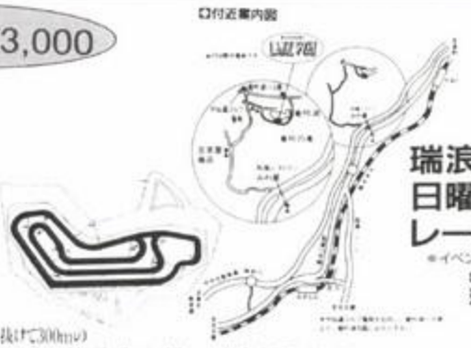
瑞浪レイクウェイ レンタルカート営業中!

15分間 ¥3,000

◘レンタルカート営業時間 ●10:45～11:00 12:00～13:00 14:00～14:15
◘レンタルカート用レーシングスーツ、ヘルメット、グローブ等も用意しています。
◘コース概要 ●全長/1,177m●コース幅/9～11m●最大直線長/145m
◘設備概要 ●ウェイティングルーム●ミーティングルーム●トイレ●更衣室 ●自販機コーナー●医務室

レンタルカート、スポーツ走行、ライセンス講習会
お気軽にお問い合わせください。
詳細はお問い合わせください。 ◘営業時間/9:00～17:00 年中無休

◘付近案内図



最終コーナーを抜けて300mの
フルスロットル、そこにはスリップストリームの異次元世界が待つ。

MIZUNAMI LAKE WAY

瑞浪レイクウェイでは、日曜日と水曜日に開催されるレース、シリーズ戦があります。
※イベント開催の為貸切りとなり、ご利用いただけない場合もあります。

◘お問い合わせ・お申し込みは
瑞浪レイクウェイ・カートコース事務局
☎(0572)63-3178
株式会社広海観光
〒463 名古屋市守山区小六町21-19 TEL.052-795-0260

ITALY製レーシングエンジンによる一般ドライバー向けカートレース

PS-PCRクラス　各地のカート・サーキットで好評開催中!

北海道シリーズ(北海道・南竜サーキット) 鹿沼シリーズ(栃木・鹿沼カートランド) 瑞浪シリーズ・瑞浪ウエンズデーシリーズ・全国チャンピオン大会(岐阜・瑞浪レイクウェイ) GC-Aシリーズ(福井・グランドサーキット芦原)
名阪スポーツランド(奈良・名阪スポーツランド) 生駒シリーズ(大阪・スポーツランド生駒) サタデー堺シリーズ(大阪・堺カートランド) 中山シリーズ・サマーフェスティバル & 西日本大会(岡山・中山カートウェイ)
TAMADAシリーズ(広島・スポーツランドTAMADA) 柳井シリーズ(山口・柳井モータースポーツランド) 瀬戸内海シリーズ(愛媛・瀬戸内海サーキット) 福岡シリーズ(福岡・福岡カートランド)
関西チャンピオンシリーズ(名阪・生駒・堺・中山の各サーキットを転戦) 中・四国チャンピオンシリーズ(中山・TAMADA・柳井・瀬戸内海の各サーキットを転戦)

※鹿沼、TAMADA、福岡シリーズにつきましては、95年からスタートいたしました。
○全国のカートコースの方で、PS-PCRクラスのレースを開催ご希望の方は、ご連絡ください。シリーズ賞典、レース運営協力等、レース・イベント開催を応援します。 PCR JAPAN ☎052-791-2425

1995 R'on
RACING TOURS

全コース入場券つき

F1日本GP観戦ツアー

10月26日㈭発 5日間 ￥75,000(バス利用)
10月26日㈭発 4日間 ￥75,000(バス&新幹線利用)
10月27日㈮発 4日間 ￥63,000～￥76,500(バス利用)
10月27日㈮発 3日間 ￥82,000～￥95,000(新幹線利用)
10月27日㈮発 3日間 ￥65,000(バス&新幹線利用)
10月28日㈯発 2日間 ￥68,000(新幹線利用)
10月28日㈯発 3日間 ￥44,000(バス利用)



●各コースとも観戦券をお持ちの方はお値段割引のうえ、申込みを受けたまわります。
●参加者全員にオリジナルチケットホルダー&ステッカーをプレゼント
●予選・決勝のリザルトサービス
●グループ(4名以上)で申し込めばさらにお得です。
●バス利用コースでは女性専用レディスカーをご用意しました(東京発のみ)
●バス利用コースには大宮発の設定もございます。(一部除く)

①バス利用5日間コース(東京駅・横浜駅・大宮駅発)￥75,000
10月26日㈭～10月30日㈪ ホテル2泊・車中2泊
朝食・夕食各1回

10/26㈭	23:00 東京駅八重洲北口・横浜駅西口発―――	車中泊
10/27㈮	―――6:00頃 鈴鹿サーキット着 最後フリー走行・公式予選第1セッション観戦	ホテル泊
10/28㈯	終日 公式予選第2セッション観戦	ホテル泊
10/29㈰	終日 F-1日本GP観戦 レース終了後 長島温泉へ(入浴と夕食)	車中泊
10/30㈪	―――5:00頃 東京駅八重洲北口・横浜駅西口着	

②バス利用4日間コース(東京駅・横浜駅・大宮駅発)￥63,000
10月27日㈮～10月30日㈪ ホテル1泊・車中2泊 夕食1回
●4日間コースの日程は5日間コースより1日遅れ
土曜日のフリー走行、予選2日目からの観戦となります。

③バス利用4日間グループプラン(東京駅発)￥76,500
10月27日㈮～10月30日㈪ ホテル1泊・車中2泊
朝食・夕食各1回
●日程は②コースと同一ですが、宿泊を湯の山温泉にして28日㈯の夕食と29日㈰の朝食が付いたお得なプラン。最小3名単位でのお申込みでお願いします。

④バス利用3日間コース(東京駅・横浜駅・大宮駅発)￥44,000
10月28日㈯～10月30日㈪ 車中2泊・夕食1回
●時間が無い方におすすめの3日間コース。日程は日曜日のフリー走行、決勝のみの観戦となります。

⑤新幹線利用3日間コースA(東京駅・新横浜駅発)￥82,000
10月27日㈮～10月29日㈰ ホテル2泊・朝食1回
●金曜日午後の予選第1セッションからフルに観戦。夜行バスが苦手の方のためのF-1フルパッケージ。

10/27㈮	7:00頃 東京駅発―新横浜駅―名古屋駅―― 鈴鹿サーキット着 最後公式予選第1セッション観戦	ホテル泊
10/28㈯	終日 フリー走行 公式予選第2セッション観戦	ホテル泊
10/29㈰	終日 F1日本GP観戦 レース終了後 鈴鹿――近鉄白子駅―(各自)― 名古屋駅――新横浜駅――23:30頃 東京駅着	

近鉄白子駅～近鉄名古屋駅間はお客様負担で各自ごとの移動になります。

⑥新幹線利用3日間コースB(東京駅・新横浜駅発)￥95,000
10月27日㈮～10月29日㈰ ホテル2泊 朝食・夕食各2回
●日程は⑤コースと同一ですが、長島温泉に宿泊する、洋室または和室利用2～4名1室利用の温泉宿泊プランです。最小2名単位でのお申込みでお願いします。

⑦新幹線利用2日間コース(東京駅・新横浜駅発)￥68,000
10月28日㈯～10月29日㈰ ホテル1泊
●2日間コースの日程は3日間コースAより1日遅れ
土曜日の予選第2セッションからの観戦となります。

⑧バス&新幹線4日間コース(東京駅発)￥75,000
10月27日㈮～10月29日㈰ ホテル2泊 朝食1回
●予選初日から全日程を観戦。往路は夜行バス、復路は名古屋より新幹線指定回数券を使用。サーキット～ホテルもしくは名古屋駅間は自己負担にて自由に移動していただきます。復路は新横浜駅下車も可能です。

10/26㈭	23:00 東京駅八重洲北口・横浜駅西口発―――	車中泊
10/27㈮	―――6:00頃 鈴鹿サーキット着 最後フリー走行・公式予選第1セッション観戦	ホテル泊
10/28㈯	終日 公式予選第2セッション観戦	ホテル泊
10/29㈰	終日 F1日本GP観戦 レース終了後 鈴鹿――近鉄白子駅―(各自)― 名古屋駅――新横浜駅――23:30頃 東京駅着	

近鉄白子駅～近鉄名古屋駅間はお客様負担で各自ごとの移動になります。

大阪発バスコース
3日間 ￥63,000
2日間 ￥49,000

大阪駅前を朝8時に出発し、予選観戦後にホテルに宿泊。日曜日は決勝観戦後にサーキットを出発。その日のうちに大阪にもどるプランです。関西方面から観戦にいらっしゃる方に大変便利でお得なプランです。

⑨バス&新幹線3日間コース(東京駅発)￥65,000
10月27日㈮～10月29日㈰ ホテル2泊 朝食1回
●3日間コースの日程は4日間コースより1日遅れ
土曜日のフリー走行、予選第2セッションからの観戦となります。

指定席ご用意しました!

S2・A・B2・B3・C・D・E・F・H
枚数に限りがありますので
お申込みは早目に!

旅行条件
旅行代金には下記のものが含まれます。
●日程表明記の交通機関の運賃・料金●日程表明記の宿泊料金●日程表明記の食事料金観戦チケット料金●駐車料金・通行料・心付●団体保険料●添乗員経費●消費税

主催
株式会社ケイエスインターナショナル
運輸大臣登録一般旅行業第942号

後援
F1速報 Racing on

お問い合わせ・お申し込みは
JTBグループ Motor Sport Div.
株式会社 ケイ エス インターナショナル
☎03-5391-4364 ☎06-315-0885(大阪転送電話)
〒107 東京都港区東麻布4-39-11 サニービル麻布5F (旅行業務取扱主任 武田 宏)



チーム国光 十勝24時間密着ドキュメント

笑って、泣いた24時間

レースという戦いの場において独特のアットホームな雰囲気を放つ個性的なレーシングチームがある それは高橋国光率いるチーム国光 ル・マン24時間でクラス優勝という確固たる快挙を成し得たのは記憶に新しいところだ そして、チーム国光は再び日本へとその活動の舞台を移し 初夏の北海道で開催された十勝24時間レースで やはりファンを泣かせる感動的なレースを展開したのだった

文＝御堀直嗣 *Photos: Hiroshige Saito, Shoichi Suzuki*

ゴールまであと20分、場内放送は絶叫した。「ゼッケン100番、スロー走行です！」。1時間前に最後の給油とタイヤ交換、そしてドライバー交替を終えたチーム国光のピットでは、ノバ・エンジニアリングのメカニックたちが後片付けを始めていた。既に用のなくなった給油装置や工具の一部などが片付けられていく。2位を走るNICOS・PIAA・NSXとの間には21周の開きがあり、余程のことが起こらない限り、優勝はほぼ確実なものと思えた。ところが、レースの行方はゴールするまで分からないというのが本当のこととなった。チーム国光のHONDA・NSXの左リヤタイヤ側ハブのナットが割れたのである。チーフエンジニアの森脇基恭は「まず半永久的に壊れるはずのない部品が壊れた」と話す。

飯田章のドライブで優勝へ向けてひた走っていたNSXが、そろそろとピットにたどり着く。メカニックたちが駆け寄り、報道陣とオフィシャルがその周りを囲む。緩んだ左リヤタイヤが外され、メカニックがホイールハウスの中をのぞき込んだ。「ハブとドライブシャフトのフランジを交換しないとだめです

ル・マン24時間レースに引き続き、表彰台の中央に立った3人。笑顔はこのチームの勲章だ



チーム国光
HONDA NSX
24時間の軌跡

AKIRA

7/15 14:00
START
スタート・ドライバーは章。GTクラスの4台がダンゴ状態で周回を重ねる。7秒台のラップタイムをマーク

KEIICHI

15:31
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは章から圭市に交代。左リヤタイヤがやや外れにくい

KUNIMITSU

17:13
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは圭市から国光に交代。ブレーキローターに異常発見

17:22
予定外のピットイン。リヤブレーキローターを交換。合わせて給油を済ます。ドライバーは国光のまま

17:58
1コーナーでコースアウトしたため、ピットイン。タイヤ交換。ブレーキのチェックとエア抜き

AKIRA

19:41
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは国光から章に交代。8～9秒台で激しく追い上げる

21:19
ピットイン。給油、タイヤ交換。リヤのブレーキパッド交換。ドライバーは引き続き、章のまま

KEIICHI

23:02
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは章から圭市に交代。この時点でトップからは7周遅れ

KUNIMITSU

7/16 0:41
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは圭市から国光に交代。圭市の腰痛はかなりひどいようだ

2:08
ピットイン。給油、タイヤ交換。ドライバーは国光から章に交代。国光は9秒台をマークするほどの力走

AKIRA

3:30
ピットイン。給油、タイヤ交換。ブレーキパッドとフロントローターを交換。ドライバーは章のまま

5:25


耐久のプロ、ノバならではの無駄のない動きも優勝に貢献した


夜間走行も何ごともなく切り抜けた



ルーティーンのピットも難なくこなした


スタート直後、GT4台による激しいバトルが展開された


確実な速さを発揮した章の活躍が目立った

ね」とメカニック。

今回のレース規定では、24時間で最も長い距離を走ったマシンが優勝となる。たとえゴールのチェッカーを受けられなくても最長距離を走り切った者が勝ちとなるのである。チーム国光のHONDA・NSXがピットに止まったままとなっている間も2位を走るNICOS・PIAA・NSXは快調に周回を重ねていたが、既に2台の差はあまりにも開いていた。チーム国光の優勝に揺るぎはなかった。だが、このままピットでゴールを迎えたのではあまりにも情けない幕切れである。再びタイヤが取り付けられ、インパクトレンチとトルクレンチでガッチリと止められた後エンジンに火が入り、マシンはそろそろとピットを後にした。

「去年も僕が乗っているときにドライブシャフトが壊れ、ピットインでGT-Rに優勝されてしまった。『また僕か』と、その時の記憶が蘇りました。でも、ピットで（優勝は）大丈夫だと言われてホッとした。最後の1周はなんとかチェッカーのタイミングに合うようにと、気持ちに余裕などありませんでしたよ。だから、ゴールの瞬間、サインガードに人が大勢集まっているのは分かりましたけど、チェッカーが振られるまではという気持ちでフラッグタワーを見ていたので、国さんや土屋さんたちが手を振っていたのは気が付きませんでした」と章はゴールまでの1周をこう語った。

序盤戦——トラブルからの脱却

土曜日午後2時のスタート直後から、トップ4台のGTマシンはまるでスプリントレースのようなバトルを展開した。スタートでトップに躍り出たNICOS・PORSCHE、予選でポールポジションを獲得したNICOS・PIAA・NSX、昨年の勝者ハセミ・モータースポーツのユニシアジェックス・スカイライン、そして、ル・マンでGT2クラス優勝を果たし、その凱旋レースを戦うチーム国光のHONDA・NSXの4台は、それこそダンゴ状態で抜きつ抜かれつの競り合いを始めたのである。「もう、みんなバカだよね。僕だったらすっと引くのにさ」。ル・マンではチーム国光の中心となり活躍した圭市は、ラップタイムを示すモニターを見ながらあきれるような表情で呟いた。「あの時はみんな意地の張り合いでしたね」と言うのは、このレースのスタートドライバーを務めた章だ。ル・マン熱が覚めやらぬ1カ月後、この十勝



ル・マンで24時間を走り切ったマシンそのものだったが、大きなトラブルは出なかった

笑って、泣いた24時間



またしても感動的なドラマをファンに見せてくれた3人の目に光る涙が印象的だった


最後は必ずドラマになるのがチーム国光だ



応急処置が施され、最後の1周をするべくピットアウトしていくNSX

でそれぞれのチームやドライバーがやる気になっている。それほど激しいツバ競り合いに、観客はやんやの喝さいを送った。GTマシンの本物の走りを引き出すプロドライバーのワザが、ふんだんに見せ場を作ったのである。

そのバトルの中から、まずNICOS・PORSCHEがピットインし、ルーティンワークの給油とドライバー交替を行う。ややあって、ユニシアジェックス・スカイラインもピットに入る。そしてNICOS・PIAA・NSXがピット作業を行い、4台のGTマシンのうち最後にチーム国光のHONDA・NSXがピットに入ってきた。章から圭市にドライバー交替し、給油とタイヤ交換を済ませるとすぐに戦列へ復帰していく。

「2速のギヤレシオが合わない」と章。身振り手振りをまじえ、森脇に伝える。コーナーからの立ち上がり加速を良くしようと、予選後に2速のギヤレシオを下げたのだが、それが失敗だったことが判明する。この日の朝行われたフリー走行ではウエット路面だったため、それが発覚しなかったのだ。いずれにしても、もうギヤレシオを替えることは不可能だ。このまま行くしかない。それでも、ピットアウト後3番手だった順位は、2回目のピットインまでに2番手に上がっていた。2時間弱のドライブを終えた圭市がピットに入ってくると、次は国光の番である。マシンを降りた圭市は、汗まみれで「ブレーキが……」と言ったままイスに座り込んだ。マシンを送り出したメカニックたちの間からは「オイルがやけに出ている。ブレーキかもしれない」「ブレーキパッドの粉の出方が多すぎる」と報告がある。それを聞き、リヤタイヤのホイール内側を点検したノバ・エンジニアリングの猪瀬社長が、ブレーキローターの交換を決断した。すぐにそれが国光に伝えられ、わずか3周をしたのみでHONDA・NSXはピットに戻ってきた。

4分のピットストップの間にリヤのブレーキディスクとパッドの交換が行われ、ついでに給油も済ませた。レース序盤の思わぬトラブルに、ライバルチームのメカニックたちが様子を見に来る。トップを走るNICOS・PIAA・NSXと同一周回のユニシアジェックス・スカイラインから、HONDA・NSXは2周遅れとなった。それでもコースに戻った国光は2分8～9秒のラップタイムで、トップグループと同じペースで走った。レースはまだ3時間半が過ぎたばかり。2周の遅れはどこかでばん回できるはずだ。素早く問題に対処したノバ・エンジニアリングのメカニックの活躍で、まだ希望は残されている。

それから20分後、ヘッドセットを付けている森脇の表情が変わり、突然ピット内を駆け出して裏のトランスポーターの中へ消えた。そこに備えられた無線で何やら交信しているようだ。やがて場内放送が流れる。「1コーナーで100番のNSXがコースアウトした模様です！」ピット内のテレビモニターが切り替えられ、タイヤバリアに向かって止まったNSXの姿が映し出された。タイヤバリアへ真っ直ぐに跡を残した2本の轍が鮮やかに画面に映る。チーム国光のピットが騒然となった。やがてマシンはオフィシャルの手で押し戻され、そろそろとコース上を走り出したNSXがピットに戻ってくる。ピットには、フロントノーズが用意され、ブレーキのエア抜きと給油の準備が行われていた。

ブレーキが効かないかもしれないので、ピット前の人垣が掻き分けられた。そこへゆるゆるとNSXは近付いてきた。所定の位置より手前で止まったためメカニックがマシンを押す。定位置に着いたマシンからタイヤが外され、エア抜きが始まった。タイヤも交換される。ボディのフロント部に付着した泥や草が排除される。ノーズは幸いにもつぶれていないようだ。ということは、ラジエーターやフロントサスペンションなどは無事である。国光がコクピットに乗ったまま作業は続けられ、ブレーキペダルに踏力が回復するとマシンはコースへ送り出された。しかし、これでトップには8周の遅れである。順位ばん回への望しさは増した。だが、チームは諦めてはいなかった。森脇はピット内のホワイトボードに自らこう書き込んだ。「1時、2回、3時、3回」と。つまり、5時間半後の午前0時にはゼッケン30のNICOS・PORSCHEを、さらに3時間後の午前3時にはゼッケン3のユニシアジェックス・スカイラインを捕らえるという意志を明らかにしたのだ。

中盤戦――ライバルたちの脱落

ブレーキトラブルというハプニングを乗り越えレースを続行した国光が、ルーティンの作業のためピットに戻ってくると再び章の番だ。国光が走っている間に目設を迎え、レースはナイトセクションに入っていた。章はここから2スティント連続で走る。ル・マン後、疲労が蓄積したままGT選手権やスーパーツーリングを戦いぬき1日前から腰を痛めている圭市は、これによって5時間半の休養が得られることになった。それでも「腰の痛みでフルブレーキングができない。アクセルを踏んでいても、自然に右足が戻ってきてしま

今回は無欲の勝利だと思います。うそみたいにツキまくったレースだった。とにかく章が頑張ったね——高橋国光

う。だから、今回はみんなに迷惑をかけると思い走るのをやめようかと真剣に考えた。たぶん自分はすごく遅かったと思う。国さんや章の足を引っ張らないようにとだけ考えて走ったけれど」と圭市は言うのだ。

一方、2スティントで3時間半、90周近く連続走行した章は「序盤にブレーキトラブルなんかが起きて、土屋さんと今回は3位が精いっぱいだねと話していたんですけど、2回目を走り出してみるとクルマが調子いいんで、急にやる気が出てきちゃったんですよ」と言う。章は2スティントを苦もなく走り、ドライバー交替の際にはさっそうとマシンから降り立った。その顔は自信に満ち、また、国光は安心した表情を見せた。チーム国光のピットを訪れたホンダ栃木研究所の橋本健にも笑みがこぼれる。

一方で、ライバル達はここへ来てトラブルに襲われた。NICOS・PORSCHEがエンジン交換を始め、3時間以上ピットガレージに止まることになった。続いてユニシアジェックス・スカイラインがターボチャージャーの交換作業に入った。これに1時間以上を費やす。相手のトラブルに助けられた格好ではあったが、森脇がホワイトボードに書き込んだ予定より早くチーム国光のHONDA・NSXは順位を上げ、2番手を走行することになった。だが、トップのNICOS・PIAA・NSXは7～8周先行している。

「相手は2スティント同じタイヤで走って2分7秒台が出せている。両チームとも何も起こらなかったとして、このままでは今回は勝てない」と森脇は言った。

序盤のブレーキトラブル以降はノントラブルで走るチーム国光のHONDA・NSXに対し、レースが10時間を過ぎてNICOS・PIAA・NSXを次々にトラブルが襲った。リヤタイヤ交換に手間取り、9分のピットストップを行う。その後、何かを引きずって走っているとポストから報告があり、予定外のピット作業を行う。また、リヤのハブの点検などで予定より長いピットストップも行った。この間に、チーム国光のHONDA・NSXはトップに立った。さらに、朝を迎えてNICOS・PIAA・NSXが左後ろの車高を落としてピットに戻ってきた。ハブが折れて、その交換作業に入る。これで決定的な差が開くことになった。だが森脇は、「うちにも同じトラブルが出る可能性はある」と、警戒を強めた。そして、この周回数の聞きを利用し、ピットインの際に入念なマシンの点検を行ったのであった。

あと1時間、「心配な個所はすべて確認した」と言う森脇。そして猪瀬と森脇の間では

「国さん速すぎるよ」、「気持ち良く走ってるんじゃないの」といった会話が笑顔で交わされた。国光が最後の走りを終えると、ゴールまでは章に任された。あとは優勝のチェッカーフラッグを待つばかり。チーム国光のピットに安どの空気が漂い始めたそのとき、ハブを止めているナットが割れたのだ。

「右コーナーへ入る時、今まで聞いたことのないような変な音がした」と章。そしてぐらぐらと揺んだ左リヤタイヤをなんとか持たせながらピットへ戻ってきたのである。しかし、この時点でレースの残りは20分。NICOS・PIAA・NSXに逆転のチャンスはなかったのである。

レース後——優勝の証言

「優勝はしたけれど、内容的にはあまり良くないよね。テストが十分にできないままレースに臨んでいるから起きてしまうようなトラブルが出た。エンジニアとしてはもっと完璧な形で戦いたかった。でも、いくら入念に準備をしても、優勝するには何らかの微笑みがなければ難しい。それから今回は、章の驚異的な成長と頑張りがあったのが良かった」と、森脇はゴール後にレースを分析した。

ホンダ栃木研究所の橋本は、「レース前には言い出せなかったけれど、今回は自信があったんですよ。チーム国光はル・マンでクラス優勝をしているし、中嶋企画は十勝で事前テストをしたからね。ただ、24時間は何が起こるかわからないから……。NSXはもっと速くなるポテンシャルがあることが分かったので、今後はもっと完璧なマシンにしていきたい」と語った。

国光は、「うれしくて言葉もない。ル・マンと同じメンバーで、うそみたいにツキまくったレースでしたね。今回は無欲の勝利だと思います。それから今回は章がスーパーマンであったと思います。それを僕と圭ちゃんとで見守ったというレースでした」と言う。

また、圭市は「去年ここで膝の骨を折って、1年間はったらかしにしてたらもう手術ができないと先生に言われた。ここはGがきついので痛み止めの注射を打ちながら、とにかく章が作った貯金を無駄にしないようにと走ったんだけども、今回の優勝は、運とツキじゃないかな。それにしても、ル・マンでは優今回は章と、国さんは人を表舞台に出そうとナンバーワンドライバーなのになんて謙虚なのかと。国さんはドラマを作る人だと思いました」とまとめた。

そして、章は「今日どうしてレースができて優勝できたのは、ふたりでなんとかしようと頑張ったからだと思う。それがこういう結果に結び付くなのだと思う。決して悪いことばかりではないということを教えてくれたレースをやって、

INDYCAR

PPGインディカー・ワールドシリーズ 第10戦

●テキサコ／ハボリン200 ●7月9日 ●ウィスコンシン州エルクハート・レイク

RACE REPORT
ロードアメリカ
全長：6.437km



第10戦の舞台は、全面新舗装となったロードアメリカのコース
この新舗装のおかげで、予選はレコードラッシュとなった
ポールポジションはジャック・ビルヌーブ
ストレートスピードを優先させ思い切りレスダウンフォースに振ったマシンで
ビルヌーブがポールtoフィニッシュを決めた

Photos & Report /Masahiko Amano

前戦に続きポールのジャック・ビルヌーブが今季3勝目でシリーズもリード

ビルヌーブ2戦連続でポール獲得

前戦ポートランドで初のポールを獲得したばかりのジャック・ビルヌーブが、ロードアメリカで最速タイムをたたき出した。前戦同様ぎりぎりまでレスダウンフォースにセットアップされたレイナード・フォードで、ビルヌーブは超高速コーナーを絶妙のコントロールでクリア。新舗装にも助けられ、レコードを4秒も縮めて2戦連続ポールシッターとなった。全長4マイルと長いコースのロードアメリカは全面新舗装となり、全車ともラップタイムが飛躍的に上がった。去年のポールタイムでは25番グリッドにしかつけないのだ。

ビルヌーブの強さは決勝でも明白だった。自己最高の予選2位からスタートしたジル・ド・フェラン以下を引き離し、快適なリードを保ったままゴールまでトップを守り切った。彼がリードラップを手放したのは、2度目のピットインによる4周だけだった。今回のレースでは6度ものフルコースコーションがあったため、ビルヌーブの築き上げたリードはその度に帳消しとなった。が、ビルヌーブのマシンは、最終コーナーからメインストレートへの急な上りで後続を軽々と突き放すほど飛び抜けたストレートスピードを誇っていた。

「今日のマシンは物凄く強力だった。簡単に得られる勝利などないが、今回は去年より楽だったことは確かだ」と、キャリア4勝目で優勝インタビューにも慣れてきたビルヌーブ。「ダウンフォースを少なくしてストレートスピードが高かった上に、コーナーでも安定して走れるセッティングにすることができた。2位に2秒のリードを築いて、それを保つよう走ることができた。燃料もセーブしながら走れたし、タイヤもブレーキもいたわることができた。そして何より、レース終盤、いざという状況に速く走れるだけの全力を残しておけた」彼のこのコメントには驚かざるを得ない。それほどの余裕を彼は持っていたのだ。

ド・フェランは2周目にクラッチが切れなくなったが、そのトラブルをだましながら2位をキープ。ピットストップでは押しがけが必要で、いったん7位に落ちたが、再び2位までばん回する光る走りを見せた。ビルヌーブが先に2度目のピットインを行ったために初めてのリードラップを記録した彼だが、ピットストップで15位へとダウン。最後は、トップに返り咲いたビルヌーブに対し、ファステストラップを記録するなどの追い上げを見せたが、及ばず2位でフィニッシュ。



確実に実力をつけてきたビルヌーブ。これで今季3勝目

低ドラッグのストレート優先のセッティングがピタリと決まり、他のマシンを全く寄せ付けない速さを見せて、今季3勝一番乗りのジャック・ビルヌーブ





ロードアメリカの表彰台。左から優勝のビルヌーブ、2位トレーシー、3位パッサー


好スタートを決めると、1周2秒以上速いペースで他を引き離したビルヌーブのレイナード・フォード


ホンダエンジンを駆るリベイロは4位でフィニッシュ

ランスミッショントラブルでコースアウト、リタイアとなった。

2位は骨折中のトレーシー

ゴール前、最後までビルヌーブの背後に食らいついたのは、去年まで3年連続ポールシッターのトレーシー。しかし、彼をもビルヌーブは脅威として感じていなかったという。

「トレーシーが最後の再スタートで近くに迫っているのは知っていたけれど、彼の方がボクよりリヤウイングを立てているのは分かったから、抜かれる心配はしていなかった」

実はトレーシー、今回は体に問題を抱えていた。前の週にカートで事故を起こし、足を骨折、ギプスを装着して走っていたのだ。

「足が痛かった。それでも今日はいいレースができたと思う。11位の後方グリッドから2位まで上がれたんだから」と松葉づえと無精髭で普段とイメージの違うトレーシー。「ピットストップは最悪だった。エンジンをストールさせたのは、クラッチペダルを踏んだ時、まるでナイフを刺されたみたいに痛かったので足を放してしまったんだ。それでも、ポイントも稼げたし、今日のところは2位でも何の文句もないよ」と彼は語った。

このレースにロビー・ゴードンと同点のポイントリーダーとして乗り込んだビルヌーブだが、今回の優勝で、ついに今シーズン初めて3勝目を挙げたドライバーとなり、ポールポジション、最多リードラップのボーナス各1点も追加。ノーポイントに終わったゴードンに22ポイントの差を持つに至った。

3位はジミー・パッサー。これで3戦連続の表彰台と、彼は完全にトップグループで戦う実力を身につけたことを証明した。

「金曜はトラブルで、ブライアン・ハータのTカーで急きょ走ることになって、土曜にはエンジンがブロー。グリッドは14番手。まったく今回は苦労した。シーズンが始まるころには、表彰台に上れるレースがもっともっとあると期待していたけれど、シーズン前半はトラブルが多くて、それを果たせなかった。しかし今、我々はレースをチェッカーまで走れるようになり、表彰台にも続けて上れるようになった。このまま、どのレースもフィニッシュまで走って、ポイントをどんどん稼いでいきたい」とパッサーは満足した表情だった。



ジル・ド・フェランは自己最高の2番手からスタート



もう1台のホンダ、コンプテックも今期初ポイントを獲得



足を骨折しているトレーシーは松葉づえで表彰台に登った


トレーシー、レイホール、パッサーと続くセカンドグループ

ホンダのリベイロ4位でゴール

パッサーのすぐ後ろでフィニッシュしたのが、ホンダユーザーのアンドレ・リベイロだった。彼は序盤、ポピー・レイホールにプレッシャーをかけている時にコースアウト。しかし、3つポジションを落としただけでレースに復帰し、そこからハードに追い上げ、レイホールを抜いて4位に入った。

「この4位という結果は、自分にとってもチーム全体にとっても、非常に重要な意味を持っている。プラクティス中にはトランスミッションなどにトラブルが発生し、予定していただけの走り込みができなかった。それでも、こうしていい成績を収められたのだ。ロードアメリカでレースをするのは、私にとって今回が初めて。だからこそ、本当ならもっと走り込みがしたかったんだ」とリベイロ。

「マシンは、朝のウォームアップで非常にいい感じで、レースではもっと良かった。レースの間中激しいバトルをした。特にレイホール、そしてプルエットとのバトルはハードだった。結果、ついにトップグループでチェッカーフラッグを受けることができた。これでチームも私も、今後のシーズンを大きな自信を持って戦うことができる」

パーカー・ジョンストンも今年2度目のレースを走り、12位でゴール。ジョンストンとコンプテックレーシングにとって、これが初めてのシリーズポイントである。

RESULT/Round 10

●6.4km×50周＝320km　予選出走28台・決勝出走28台

順位	No.	ドライバー	マシン	周回数	予選順位／タイム
1	⑰	ジャック・ビルヌーブ	レイナード95 I・フォード	50周	1／1'41"261
2	③	ポール・トレーシー	ローラT95・フォード	50周	11／1'42"512
3	⑤	ジミー・パッサー	レイナード95 I・フォード	50周	14／1'43"281
4	⑪	アンドレ・リベイロ	レイナード95 I・ホンダ	50周	12／1'42"594
5	⑨	ポピー・レイホール	ローラT95・メルセデス	50周	6／1'42"090
6	⑩	エイドリアン・フェルナンデス	ローラT95・メルセデス	50周	15／1'43"378
7	㉘	スコット・プルエット	ローラT95・フォード	50周	7／1'42"276
8	⑮	クリスチャン・フィッティパルディ	レイナード95 I・フォード	50周	9／1'42"343
9	㉑	テオ・ファビ	レイナード95 I・フォード	50周	8／1'42"340
10	⑯	ステファン・ヨハンソン	ペンスキー94・メルセデス	50周	17／1'43"570
11	⑲	エリック・バシェラール	ローラT94・フォード	50周	25／1'45"705
12	㉚	パーカー・ジョンストン	レイナード95 I・ホンダ	50周	13／1'43"223
13	㉙	ヒロ松下	レイナード95 I・フォード	50周	26／1'45"770
14	④	ブライアン・ハータ	レイナード95 I・フォード	49周	10／1'42"394
15	②	エマーソン・フィッティパルディ	ペンスキー95・メルセデス	49周	21／1'43"854
16	㊽	ハーバート・ストロンベルガー	レイナード94 I・フォード	49周	27／1'48"752
17	⑭	エディー・チーバー	ローラT95・フォード	48周	22／1'44"454
18	⑦	エリセオ・サラザール	ローラT95・フォード	48周	20／1'43"800
19	㉝	カルロス・グェレーロ	ローラT95・フォード	48周	28／1'53"091
20	㊻	アレッサンドロ・ザンペドリ	ローラT94・フォード	47周	23／1'44"562
21	⑧	ジル・ド・フェラン	レイナード95 I・メルセデス	45周	2／1'41"294
22	⑪	ラウル・ボエセル	ローラT95・メルセデス	41周	4／1'41"901
23	㊾	マルコ・グレコ	ローラT95・フォード	38周	24／1'45"281
24	㊽	マウリシオ・グージェルミン	レイナード95 I・フォード	29周	18／1'43"585
25	㊼	ダニー・サリバン	レイナード95 I・フォード	29周	19／1'43"713
26	⑤	ロビー・ゴードン	レイナード95 I・フォード	17周	16／1'43"461
27	⑥	マイケル・アンドレッティ	ローラT95・フォード	2周	3／1'41"573
28	①	アル・アンサーJr	ペンスキー95・メルセデス	2周	5／1'41"924

・優勝スピード：166.241km/h
・ラップリーダー：1〜29＝J.ビルヌーブ、30〜33＝G.ド・フェラン、34〜50＝J.ビルヌーブ
※NEXT ROUND：7月16日　トロント

POINT STANDINGS

1	ジャック・ビルヌーブ	103
2	ロビー・ゴードン	81
3	ポピー・レイホール	78
4	ポール・トレーシー	73
5	スコット・プルエット	73
6	マイケル・アンドレッティ	69
7	アル・アンサーJr	61
8	ジミー・パッサー	59
9	マウリシオ・グージェルミン	55
10	テオ・ファビ	54
11	クリスチャン・フィッティパルディ	42
12	エマーソン・フィッティパルディ	38
13	ラウル・ボエセル	38
14	ステファン・ヨハンソン	37
15	エイドリアン・フェルナンデス	31
16	エディー・チーバー	28
17	ダニー・サリバン	22
18	エリセオ・サラザール	16
19	アンドレ・リベイロ	15
20	ジル・ド・フェラン	11
21	エリック・バシェラール	8
22	アレッサンドロ・ザンペドリ	7
23	クリスチャン・ダナー	6
24	アーリー・ルイエンダイク	6
25	ヒロ松下	5
26	ブライアン・ハータ	4
27	マルコ・グレコ	3
28	カルロス・グェレーロ	2
29	ディーン・ホール	2
30	パーカー・ジョンストン	1
31	ロベルト・グェレーロ	1
32	スコット・ブレイトン	1

BTCC

イギリス・ツーリングカー選手権 第15戦

●7月15～16日●イギリス・シルバーストン
●天候：雨●路面：ウエット

もはやシリーズの焦点は、ボクスホールのクレランドをいったい誰が止めるのかということに絞られたイギリスGPとの併催となった第15戦シルバーストンはヘビーウエットというコンディションでのレースとなり波乱含みの展開が期待されたのだが……

Photos&Report／Hiroaki Matsumoto



予選日に43歳の誕生日を迎えたクレランド

RACE REPORT

シルバーストン
1周 5.057km

❶コブスコーナー
❷マゴッツカーブ
❸ベケット
❹チャペルカーブ
❺ハンガーストレート
❻ストウコーナー
❼ベイル
❽クラブコーナー
❾アビーカーブ
❿ブリッジベンド
⓫ルフィールド
⓬ウッドコートコーナー

常勝クレランドにもはや敵なし！ついに雨さえも味方となった



F1の決勝レースが終わるまでは何とか持っていた天候がスタート直前になって大きく崩れ、ヘビーウエットでのレースになってしまった

前戦、第13／14戦ドニントンでボクスホールのジョン・クレランドが連勝を決めた時、BTCCの後半戦のテーマが改めて浮き彫りになった。それは〝ストップ・ザ・クレランド〟である。

残りはあと11戦。最終戦までにルノー、ボルボ、フォードらライバルたちはクレランドを捕らえなくてはならない。よしんばクレランドにチャンピオンをさらわれたとしても、せめてあと一太刀を、クレランドに浴びせなくてはならないはずだ。

第14戦が終了してからBTCCの主要チームはスコットランドへ遠征、ノックヒルで事前テストを行い、すぐさまイギリスGPの開催されるシルバーストンに向かった。その忙しさたるやグランプリチームにも引けをとらない。ノックヒル、そしてその前のシルバーストンの事前テストでも、ボクスホール、ルノー、ボルボが3強となって上位を占めた。

なぜ、ボクスホールが速くなったかと聞かれても、それらしい答えはすぐには見つからない。彼らが今年した仕事といえば、他車と同様に前後にウイングを付け、タイヤがダンロップからミシュランに変わったことぐらいだ。だが、これだけがアドバンテージに成りえるとは到底思えない。強いて言うなら、昨年が悪すぎたのか……。

心当たりと言えば、そう、新人ジェイムズ・トンプソンがクレランドを大いに刺激していることだろうか。大ベテランのクレランドが、ポッと出てきた新人ごときにやられるわけにもいくまい。ともかく、ボクスホールはチーム内でやることがすべて好循環して、歯車がうまく回っている。

他のマニュファクチャラーはどうか？ ランキング2位のルノーはアラン・ムニュが第5戦で優勝してから表彰台に上がる確率は高くなってきた。さすがはウイリアムズがオーガナイズしているだけある。悔やまれるのは95年型のラグナの完成が遅れたことだ。

ボルボは開幕2戦こそ、そのパフォーマンスを見せつけてくれたが、リカルド・リデルがポイントを落とすレースが多いのが気になる。取れなかったポイントが、後半戦に響か

FREE TALK from アンクル

96

十勝24時間耐久レースは作戦完璧、内容は波乱万丈

今年は予算の関係でとても出場出来そうもなかった十勝24時間耐久レースであったが、古橋君の車で、段取りも殆ど古橋君任せ（つまり私はドライブするだけという条件）で、なんとか出場出来る目度を半ば強引に立ててしまった。

その上、シリーズポイントの関係もあったので、ゼッケンも我々の54に変更してしまった。

まあ、『人でなし！』と言われても仕方ない状態であった。

そんなこともあって、絶対優勝が真面目な目標であった。

結果は、予選4位そして決勝5位と数字だけ見ればかなり悪いものとなってしまった。

昨年のベースでは遅すぎることが分かっていたが、果たして「どこまでベースを上げていいものか？」が、今年の24時間レースの焦点となった。

我々の作戦はこうだった。スタート直後の明るいうち、そして路面状況の良いうちに、なるたけアドバンテージを築いておき、その後は成り行きに任せベースを調整するというものだった。

タイヤ、ブレーキパッドの交換時期は、他車と同レベルであろうし、決定的に遅れる要素とはなり得ない。他に考えられるトラブルとしてはドライブシャフトの焼き付きであるが、これとて途中で1回交換すれば問題ないし、うまく行けば無交換でフィニッシュ出来るだろうとの予想を立てていた。シャフト交換に要するロスは約2周であり、常に気を使いながら走るのなら、速く走って2周以上稼ぐ方が私の性分に合っており、当然それに添った作戦であった。ほぼ完璧な序中盤であり、14時間終了。私が走行時までトップを維持していた。

ところが、ここで予想外のオーバーヒートが発生してしまい、そのため緊急ピットイン。



その後もう一度ピットインが必要となる。また、心配していたドライブシャフトのトラブルも発生。

緊急ピットインの回数が増える。

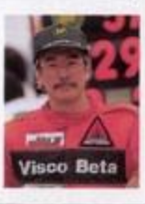
これでトップは望めなくなったが、まだ2位までは挽回出来そうであり、4度私がステアリングを握り猛追を開始する。

しかし、ACGベルトが飛んでしまい万事休す。最後は古橋君にステアリングを委ね、波乱万丈だった24時間を締め括ってもらった。



アンクル＝山内伸弥（やまうち・しんや）

1961年11月14日生まれ。過去に6度の全日本ラリーチャンピオンに輝き、91年、7年振りに7度目の全日本ラリーのタイトルを手中にした日本を代表するラリースト。海外ラリーにも積極的に参戦、同年マレーシア・ラッキーストライクラリーで2位入賞、91年WRC・RACラリーで日本人最上位の総合9位完走を果たす。また89年以降グループAレース、N1耐久レースにも参戦、レース活動も本格的となり幅々景気盛んなアンクルである。



BP関連油日本総代理店
ペトロルフ インターナショナル株式会社
本社 〒102 東京都千代田区飯町4-5-21 ☎03-3265-1711
大阪支社 〒550 大阪市西区西本町1-3-10 ☎06-535-1701
※このコーナーへのお便りを、ペトロルフインターナショナル「アンクル係」までお寄せください。お送りいただいた方には景品をプレゼントします



スタート直後、トップに立った④クレランドを追う③ラディシク



スタート直後はクレランドに追いすがったラディシク



予選2番手、フロントロウを得たルノーのムニュ



FR車に対する重量ハンデ軽減はシーズンオフまで見送られた



ファステストラップをマークしたのはベイリーだった

RESULT／ROUND 15

●5.057km×15周＝75.855km　予選出走23台・決勝出走22台・完走18台

					ベストラップ	／周	予選順位／タイム
1	④	ジョン・クレランド	ボクスホール・カバリエ16V	15周	33'47"70	2'13"68／11	1／1'59"647
2	⑫	ウィル・ホイ	ルノー・ラグナ	15周	33'55"27	2'13"98／9	6／2'00"178
3	⑭	ジェイムズ・トンプソン	ボクスホール・カバリエ16V	15周	33'56"96	2'13"53／10	4／1'59"923
4	⑪	ジュリアン・ベイリー	トヨタ・カリーナE	15周	33'57"48	2'13"39／12	10／2'00"514
5	⑲	ケルビン・バート	フォード・モンデオ・ギア	15周	34'01"64	2'13"76／13	9／2'00"469
6	③	ポール・ラディシク	フォード・モンデオ・ギア	15周	34'15"51	2'15"20／3	3／1'59"910
7	⑰	デイビッド・プラハム	BMW318	15周	34'23"28	2'16"19／9	14／2'01"059
8	⑬	ティム・サージェン	トヨタ・カリーナE	15周	34'24"99	2'15"22／8	18／2'01"363
9	㊾	デレック・ワーウィック	アルファロメオ155	15周	34'31"63	2'16"60／6	16／2'01"206
10	⑧	パトリック・ワッツ	プジョー405	15周	34'33"72	2'16"16／9	15／2'01"168
11	㉖	ジャンピエロ・シモーニ	アルファロメオ155	15周	34'34"01	2'16"45／13	11／2'00"656
12	㉖	デイビッド・レスリー	ホンダ・アコード	15周	34'41"74	2'16"39／7	7／2'00"273
13	㉑	ロブ・グラベット	フォード・モンデオ・ギア	15周	34'46"10	2'16"67／8	21／2'02"986
14	⑰	マット・ニール	フォード・モンデオ・ギア	15周	34'48"72	2'17"53／9	17／2'01"362
15	⑯	サイモン・パリソン	プジョー405	15周	34'50"83	2'17"35／9	19／2'01"439
16	②	アラン・ムニュ	ルノー・ラグナ	15周	34'52"21	2'14"97／6	2／1'59"605
17	②	リカルド・リデル	ポルボ850 20V	15周	35'24"44	2'14"54／3	5／2'00"045
18	㉖	ハーミッシュ・アーバイン	プジョー405	11周	35'59"77	2'20"74／4	23／2'06"052
	⑨	ティム・ハーベイ	ポルボ850 20V	8周	25'02"17	2'14"24／4	8／2'00"403
	㉖	ジェイムズ・ケイ	ホンダ・アコード	7周	18'41"02	2'17"59／8	13／2'00"906
	㉖	ナイジェル・スミス	ボクスホール・カバリエ	6周	16'42"92	2'18"91／4	20／2'02"535
	㉓	リチャード・ケイ	フォード・モンデオ・ギア	15周	14'13"07	2'18"60／4	22／2'03"535

・優勝スピード：134.66km/h
・最速ラップ：ジュリアン・ベイリー（トヨタ・カリーナE）　2'13"39　136.46km/h　12周目
※NEXT ROUND：7月30日　ノックヒル

POINT STANDING DRIVERS

1	J.クレランド	232
2	A.ムニュ	180
3	R.リデル	170
4	P.ラディシク	126
5	J.トンプソン	124
6	T.ハーベイ	107

POINT STANDING MANUFACTURERS

1	ボクスホール	268
2	ポルボ	231
3	ルノー	230
4	フォード	166
5	トヨタ	108
6	BMW	87

なければいいが。

フォードのポール・ラディシクにしてもしかり。スラクストンで優勝したが、リタイア、無得点のレースが多すぎた。

ともあれ、各マニュファクチャラーともにそれぞれの思惑を抱きながら、第15戦シルバーストンに集まった。このレースに勝つことは通常の1勝とはまた違った意味がある。サポートレースであれ"グランプリ"なのだ。

予選では1回目にトンプソンがトップタイムをマークするが、予選後に車輌が4ミリはみ出ており、タイムが抹消されてしまう。しかし、2回目の予選では4番手のタイムをマークして2列目を確保した。

1回目、2回目の総合でポールポジションを獲得したのは、やはりクレランドだった。1分59秒647はもちろんコースレコードだ。2番手にはムニュが着け、クレランドから遅れることコンマ2秒5である。3位にはラディシク、4位にトンプソン、5位にリカルド・リデル、6位にルノーのホイの順だ。

ジョニー・ハーバート初優勝の歓喜の表彰台が終わると、空から大粒の雨が落ちてきた。しばらく降り続いた雨は路面を濡らし、スリックを準備していた各チームは大急ぎでレインタイヤの準備に取りかかる。

スタートで水しぶきを上げながら1コーナーに飛び込んできたのは、クレランドとラディシクの2台。それにトンプソン、ムニュ、リデルらが続いた。1周目から早くもクレランドとラディシクが、コーナーというコーナーで抜きつ抜かれつの展開。この2台に後ろから上がってきたルノーの2台が絡んできた。

だが、5周も過ぎるとラディシクがペースを落としてきた。各マシンとも水しぶきが高く上がり、路面に残っている水の多さを物語っている。ラディシクはまったくペースが上がらず、今度はルノーのホイがクレランドを追うが、その差は開いていくばかり。先頭を走るクレランドの視界は良好で、遮る水しぶきもない。ひとりだけペースが速いのもうなずけようというものだ。

結局、15周のレースをこのままクレランドが逃げきってしまった。これで彼は3連勝を飾る。2位には今季初表彰台のホイ、3位にはトンプソンが上がっている。

一方の他のライバルたちは、ムニュもリデルも雨に足元をすくわれてポイント獲得すらできず、ラディシクは6位にとどまっている。レース後クレランドは「今年はまだ10戦も残っているから、チャンピオンについてはなんとも言えないけど、でも今回はアランとリデルが無得点に終わったから、それも僕を助けてくれた。今年はボクスホールとルノーとポルボのチャンピオン争いになるだろう」と語った。確かに突然の雨にどのチームも混乱していたようだが、一番冷静に状況を読んでいたのはやはりクレランドだった。（松本浩明）

全日本ラリー選手権第1部門 第5戦

●'95ノースアタックラリー
●7月9日● 主催：AG・MSC北海道

全日本ラリー第5戦は北海道がその舞台となった
ここまで4戦して2勝、Cクラスポイントリーダー桜井幸彦は
今回優勝すれば早くもチャンピオンを決定する可能性もある
そんな周囲の期待をよそに、桜井は淡々と走り続け
2年連続、4度目の王座を手に入れたのであった

Photos & Report/Shoji Mita



桜井はベストタイムこそ1本にとどまったが、常に2、3番手のタイムを出すなど安定した走りを展開。また大溝ナビとのコンビネーションもよく今季3勝目を獲得、4度目のチャンピオンを実現した

2年連続4回目 桜井幸彦、2戦を残しチャンピオン決定！



ふたりのコンビネーションの勝利だ

ビッグスケールなコース設定

富良野の南にあるアルファリゾート・トマムと夕張のマウント・レースイという2つのスキー場を結んだ第5戦ノースアタックラリーは、基本的に3本の林道と1本のスキー場の取り付け道路を効果的に組み合せたものだが、そのバックグラウンドのスケールの大きさもあって久し振りにラリーのだいご味を見た感じがした。それは、典型的な群馬県の林道を舞台とした、ラリー区間のみの第4戦の後だっただけに一層強調されたのかもしれない。2日間にわたるラリーは、1日目に第1、第2ステージをトマムを起点に行い、2日目に第3ステージを行い夕張にゴールするというもの。SSは1日目に5本、2日目に5本の計10本が設定されていた。

ラリーはスタート直後の舗装＋ダートのSS1から開始。まずここでインプレッサの西尾雄次郎がベストタイムをマーク。しかし次のラリー区間で大量減点を食らいSS1のタイムをふいにしてしまう。

次のSS2、3は地元のドライバーも知らないという新コース。とは言うものの、この2SSを制したのは地元の奴田原文雄ランサー。すべての選手にイーブンのコース設定ながら、北海道の林道のクセをつかんでいる地元選手のほうがやはり有利。現に、地元の田中伸幸ランサーもSS2で3番手、そしてSS3では2番手という結果だ。

第2ステージに入り、SS4で西尾、SS5で片岡良宏ランサーがそれぞれベストタイムをマーク。しかし、1日目をリードしたのは、ベストタイムは一度もマークせず、本調子ではないエンジンを労りながらスムーズな走りを心掛けた桜井幸彦インプレッサである。

桜井は、もし今回優勝して、さらにシリーズ2番手の綾部美津雄インプレッサが3位以下ならここでチャンピオンが決定する。そのため、どのSSでも1～2秒差でトップを追い、チャンスをうかがう。

2日目、序盤トマムのSS6で綾部がベストタイムをマーク。しかし、6番手からトップの桜井を追い上げるには減点がかさみ、少し荷が重すぎる。続くSS7ではインプレッサの新井敏弘、桜井、そして奴田原の3人が同タイムのベストをマーク。このSSではこの日4番手からスタートした片岡がリタイアするなど、戦いの行方はこの3人に少しずつ絞られていく。



「いつまでも負けてられません」鎌田は今季2勝目



鎌田に土壇場でうっちゃられた田口は無念の2位



4つのSSでベストタイムをマークするなど今回の新井は優れていた。ラリー区間の減点が無ければ…



じっくりと戦った石田正史は、ベストタイムを記録することは1度もなかったが結局3位でゴール



そしてSS8では桜井を激しく追い上げてきた奴田原が転倒リタイア。さらに田中も戦列を去り、新井が2番手に急浮上。これで桜井の追撃態勢が整ったわけだが、ラリー区間の思わぬ減点が彼の足を引っ張ることになる。新井はSS8、9、10と驚異の3連続ベストタイムをマークしたものの、結局桜井には届かなかった。

桜井は今回ラッキーだった。奴田原、田中、片岡らのライバルが次々にリタイアし、ナビの大溝がハイアベ、申告チェックのラリー区間をうまくまとめ、本調子でないマシンのハンディを補うことができた。桜井は、今季3勝目を獲得し、綾部が4位に入ったため彼自身4度目のチャンピオンを実現したのだった。

2位には健闘むなしく新井。3位には石田が入るなど群馬スペシャリストが他を圧倒。北海道勢を吹き飛ばしてしまった。

Bクラスは第1ステージを鎌田豊ミラージュ、第2ステージを田口幸宏ミラージュが制してその差は1点と、両者は一歩も引かぬ構え。しかし第2ステージ終盤の鎌田の追い上げを田口がかわすことができず、3点という僅差ながら鎌田が今季2勝目をマークした。

Aクラスは、序盤から栗津原豊アルトの躍進が始まり、一日目は5SS中3SSでベスト、2日目は5SS中4SSでベストタイムをマークするなど独走態勢。結果は前嶋光男ヴィヴィオを2位に下し、今季3勝目を獲得。リタイアした第4戦の雪辱を果たした。



今回は新たなコースを使うなど雄大な設定だった。そんな中を走る栗津原は今季3勝目を獲得した

RESULT/C class

順位	車番	ドライバー	ナビゲーター	チーム名	マシン	CP減点	SS減点	合計
1	55	桜井 幸彦	大溝 敏夫	キャロッセスポーツ桜井	インプレッサ	8	1645	1653
2	53	新井 敏弘	加勢 直毅	チームバックアール	インプレッサ	36	1624	1660
3	56	石田 正史	小野 田樹	マルシェラリーチーム	ランサー	12	1655	1667
4	58	綾部美津雄	福田 智弘	チーム Ayabe	インプレッサ	17	1653	1670
5	60	松本 誠	岡本 徹	オートハウスラリーチーム	ランサー	10	1679	1689
6	54	石塚 秀美	黒澤 裕之	タイヤハウス	ランサー	17	1684	1701
7	48	加勢 裕二	美細津 正	キャロッセスポーツ 加瀬	インプレッサ	14	1688	1702
8	46	岡崎 恵一	桝本 一憲	チーム Ayabe	インプレッサ	18	1691	1709
9	59	西尾雄次郎	山口 顕子	ファルケンインプレッサ西尾	インプレッサ	61	1653	1714
10	50	山口 修	吉田島 誠	スクーデリアスポーツ	ランサー	33	1682	1715
11	43	三上 弘光	工藤 真一	TRリバティー M スポーツ	ランサー	26	1697	1723
12	44	茅根 秀紀	鎌田 理之	RALLY TEAMシロクマ	ランサー	13	1714	1727
13	39	勝田 範彦	井戸田政喜	ラック勝田	インプレッサ	25	1713	1738
14	49	吉村 恭一	味村 寛	BSインターゲット AZUL	ランサー	15	1726	1741
15	42	高橋 一志	高杉 哲也	TEAM C-ONE SPORT	セリカ	31	1719	1750
16	52	石田 雅之	澤田 茂	TEAM C-ONE SPORT	セリカ	13	1750	1763
17	40	水野 泰治	宮城 孝仁	東京メカニカルラリーチーム	ランサー	16	1808	1824
	45	田中 伸幸	近添 幸司	チームヴィッセ	ランサー		16回先	ハブベアリング破損
	41	高崎 正博	洪田 博章	Team NRS	パルサー		3回先	ホイール破損
	51	片岡 良宏	遠藤 彰	ADVAN.KYB.片岡	ランサー		SS7	コースアウト
	57	大島 治夫	小井土晏三	キャロッセスポーツ 大島	インプレッサ		11回先	ミッショントラブル
	47	紋田原文雄	小田切順之	ADVAN-PIAA紋田原	ランサー		17回先	転倒
	61	村越 浩一	瀧ヶ平宣昭	チームヴィッセ	ランサー			未出走

RESULT/B class

順位	車番	ドライバー	ナビゲーター	チーム名	マシン	CP減点	SS減点	合計
1	37	鎌田 豊	脇坂 豊	カマタスポーツ	ミラージュ	26	1778	1804
2	35	田口 幸宏	藤田 浩一	ALEX田口	ミラージュ	22	1785	1807
3	38	原口 真	石田 勝弥	バックアール	ミラージュ	37	1791	1828
4	29	栗澤 傑	長谷川好洋	パルビジョ加藤ラーメンCMSC	ミラージュ	49	1780	1829
5	28	鶴山 太郎	松本 浩一	RALLY TEAMヒロクマ	ミラージュ	38	1797	1835
6	31	横山 武浩	福村 幸剛	グループ4ラリーチーム	ミラージュ	39	1840	1879
7	33	鈴木 政昭	中岡 真哉	東京メカニカルラリーチーム	ミラージュ	34	1846	1880
8	32	森 博喜	藤綱 和敏	TEAM-TASC	レビン	44	1843	1887
9	34	小林 康弘	金子 雄二	CMSCかまた スポーツ	ミラージュ	60	1845	1905
10	27	松井 孝夫	重田 満彦	チーム SRS	アスティ	44	1867	1911
11	30	池田 昌隆	島崎 一郎	チームコンペ池口、島田	ミラージュ	52	1860	1912
12	36	永渕 浩一	福本 芳之	東京メカニカルラリーチーム	ミラージュ	47	1909	1956
	26	星野 博	東田 徳人	カーマジック02	ミラージュ		17回先	コースアウト
	25	村元 秀実	坂口利恵子	チームバックR ビットビームス	ミラージュ			コースアウト
	24	山田 浩史	鄭福 親幸	チームキャロッセ	レビン		24回先	コースアウト
	62	増村 淳	吉田 和広	ALEX増村	ミラージュ		SS1	タイロッド破損
	63	秋間 忠之	小野崎晃史	アレスコ、ファルケン、クミビシック	ミラージュ			未出走

RESULT/A class

順位	車番	ドライバー	ナビゲーター	チーム名	マシン	CP減点	SS減点	合計
1	15	栗津原 豊	高橋 昭彦	スズキスポーツカークラブ	アルト	21	1805	1826
2	4	前嶋 光男	星野 元	キャロッセスポーツ 前嶋	ヴィヴィオ	28	1834	1862
3	10	守屋 敏昭	藤原 敏樹	東京スバルビックベア	ヴィヴィオ	36	1827	1863
4	8	平塚 忠博	黒田 正彦	DCCSひらつか	ミラ	38	1847	1885
5	9	堀田 憲幸	秋田 憲吾	DCCSほった	ミラ	54	1839	1893
6	7	島田 雅道	池神 潤	BOO BOW	ミラ	35	1858	1893
7	6	綱 雅広	秋竹 誠之	J&S モータースポーツ	ヴィヴィオ	31	1885	1916
8	3	景山 陽彦	佐藤 文昭	アヤベ	ヴィヴィオ	111	1852	1963
9	2	蒲池 光久	坂本 裕之	バックアールCRRT蒲池、坂木	ヴィヴィオ	116	1936	2052
	1	高木 弘	永田 豊治	LUCKタイムズ24MASC	ヴィヴィオ		18回先	コースアウト
	5	小田切 真	小久保昌己	WINIX メカニカルラリーチーム	ヴィヴィオ		38回	左前輪破損

F1速報

F1 SOKUHO

ハンガリーGP

1995 FIA FORMULA 1 WORLD CHAMPIONSHIP ROUND 10

HUNGARIAN GRAND PRIX
HUNGARORING

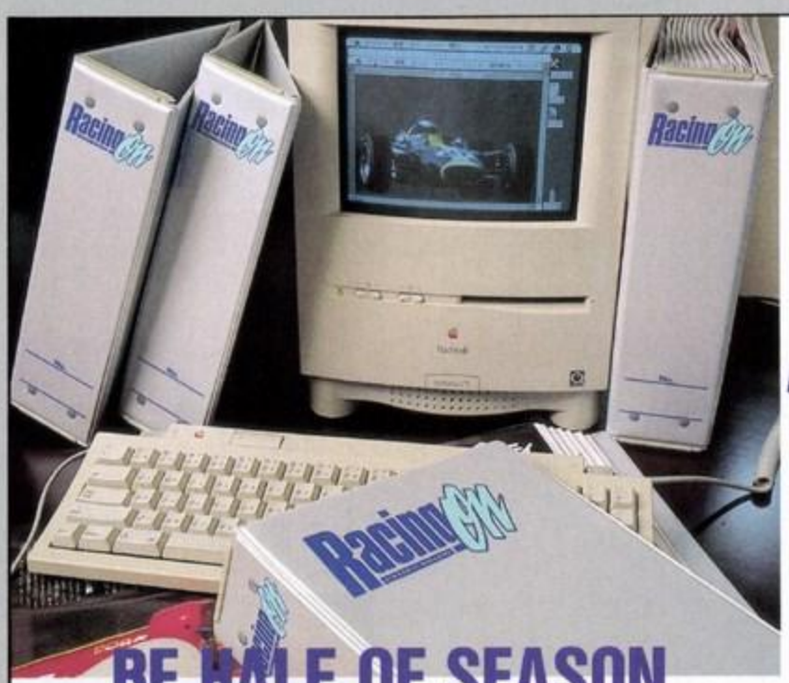
定価500円
（税込み）



容赦ない真夏の陽射しの下
テクニカルコース、ハンガロリンクを舞台にした
サバイバルレースがはじまる
シーズンは後半戦に突入

8月19日(土)発売

NEWs PUBLISHING CO.,INC.
株式会社 **ニューズ出版**
〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 TEL.03-5430-4440/FAX.03-5430-4455



BE HALF OF SEASON

レーシングオン オリジナルファイル

レーシングオン12冊分を1部に収めるオリジナルファイル

RacingON

レーシングオンを
オリジナルファイルで
スッキリ収納。
見やすく機能的です。

価格1,200円
（消費税込み）
好評発売中!

〔購入方法〕申し込み券（コピーまたは同じ書式のメモでも可）を必ず同封のうえ、ファイル代に送料を加えた金額を現金書留、または定額小為替でニューズ出版ファイル係までお申し込み下さい。
送料は北海道・九州・沖縄地方＝1,020円、青森・秋田・岩手・京都大阪・奈良・和歌山・兵庫・鳥取岡山・島根・広島・山口・四国地方＝820円、それ以外の地域は610円（東京都多摩市内は510円）となります。なおオリジナルファイルの送料は3部まで、または3部ごとに上記の料金がかかります。
　また、10部以上お買い上げ希望の方は送料着払いも出来ますので電話にてご相談下さい。
※お届けまでに3週間ほどかかります。

R'onファイル申し込み	品名	数量	金額
フリガナ	R'on速報ファイル		
住所 〒	送料		
フリガナ	合計		
氏名			

※申し込み券はコピー、または同じ書式のメモでもOKです。なお、R'on'94 7-15号（No169）以前の本は、とじることが出来ません。

株式会社 **ニューズ出版** 〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 TEL.03-5430-4440

ピットインプレス

PIT-IN PRESS
FROM READERS
あなたが作る、もうひとつの
Racing on

デイモン、ヒル
折角ポール取ったのに
勝てたレースを
落とすくやしさ

（モナコGPを見て一句）

本田和臣 拝

むわぁったく、デイモンのバカモノが!! このハガキ、モナコGPのものなんだけど、あまりにイギリスGPの状況にピッタリくるので使っちゃった

北海道札幌市「本田和臣」





……寂しい。完走してポイント取って、いい形で日本に戻ってきて〜

初優勝のジョニーへ心からオメデトウ!!

私の愛してやまないジョニーがついに初優勝!! それも母国イギリスGPで、という出来過ぎなくらいのシチュエーション。

口の悪い人は、シューマとヒルが絡んだから、と言うかもしれないけど、それもレース。着実にふたりの後ろにいたからこそ、懸命に走っていたからこそ、つかんだ優勝なんだと思います。レースにタナボタなんてありはしない。すべてが「レース」なのだから。

ジョニーが喜ぶ姿を見るのもうれしいけれど、ベッキーやフラビオ以下、チームクルーの人たち、観客の人々、そして解説の津川さんが、本当に心から祝福してくれている姿を見、声を聞いて、涙が止まらないほどうれしかった。何度もこんな感動を味わいたいものです。2勝、3勝と勝利を重ね、ポールポジション、ファステストラップも獲得してほしい。ジョニーだったら絶対やってくれる!! 本当にジョニー、おめでとう。最高にかっこいいヨ!

京都府京都市「F1主婦」

■ジョニーが勝ってうれしくない人なんていないんじゃないかな。フィニッシュから表彰台、優勝記者会見まで、「あー、よかったなぁ、よかったよぉ」ってず〜っと思って見てた。いいヤツが幸せになるのって、気持ちいいよね〜。

デイモンくん、デイモンくんまったくキミってヤツは!!

なんてこったい!! みんな夜中に叫んだんじゃないかな。あのヒル&シューマッハーの接触には。今年初めて（といっていいんだろうな）ドキドキする展開になったっていうのに。ピットイン作戦によるトップ争いじゃなくて、直接対決が見られるところだったのに。ああ。それがなんであんな形で……。

ヒルに焦りやプレッシャーが出ちゃったんだろうね。でも、もうちょっとガマンしてじっくり攻めてくれれば、いいバトルが見られただろうに。

頼むよ、ヒル。頑張ってシューマッハーに食らいついてシーズンを盛り上げてくれよ!

東京都江戸川区 高橋 守之

■もう〜、デイモンったら、皆の期待を裏切らないでくれよ〜。あの瞬間、私はバッタリ倒れ込んで、3分くらい死んだぜ。



カナダでは表彰台に登ったし、これからが勝負だな

神奈川県横浜市「きる」



東京都杉並区「あかはた淋」

サーキットがある県だってのに皆レースを知らないんです……

山口県民として、山口県のモータースポーツ事情についてひと言。

①県民9割以上が美祢サーキットがどこにあるか知らない。

②F1ショップがない。

③周りにモータースポーツが好きな人が極端に少ない。F1と言うとバカにされる。

④F1中継は金曜日にある。レーシングオンは月曜日に出る。F1速報も3日遅れる。

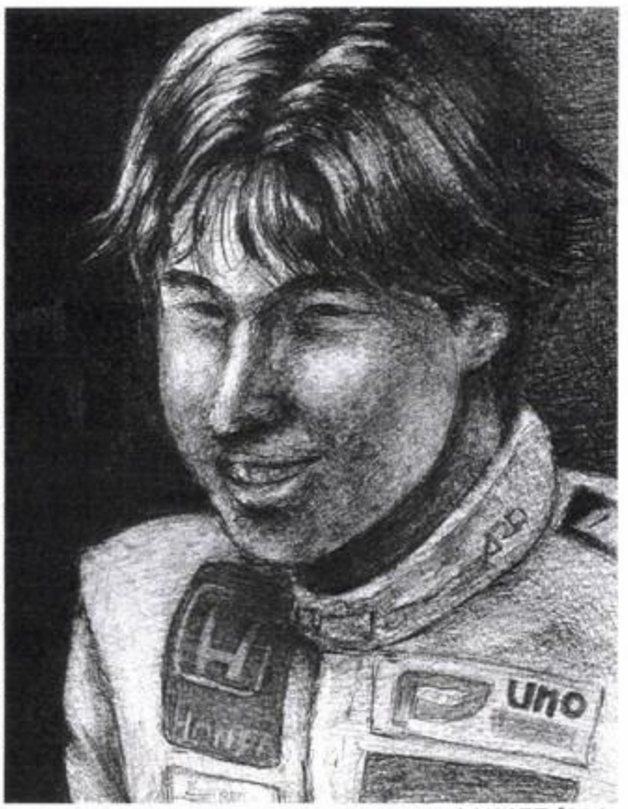
サーキットがある県なのに、モータースポーツ発展途上県の山口県。何とかならんものか……。こんな県はかにあるなら教えてくれ。

山口県山口市「MのM」

■モータースポーツってまだまだメジャーじゃないのよね。女の子の友達と話してると、ほとんどのコが「セナは知ってるけど……」ってカンジ。そのセナもいなくなっちゃったし、新たなスターが必要だって気がするけど、レースを知らない人の頭にまでガンガン入り込んでくるような人、いないねぇ……。

深読みして、ひねって……結局ハズしてしまうボク

R'onの88年12月1日号に、「オリンピックの年にチャンピオンになるのはセナ、それともプロスト?」という題の私の投書が掲載されました。84年のロサンゼルス五輪の年には、マクラーレンのラウダ、プロストがタイトル争いをし、ベテランのラウダが勝ちました。88年のソウル五輪の年も、マクラーレンのプロストとセナによってタイトルが争われていたので、私は投書の中で、歴史は繰り返され、ベテランのプロストがチャンピオンを獲得するのでは、と予想したのです。しかし、実際に勝ったのは若手のセナの方でした。



ウッ……リアルなトラちゃん。バックの塗り込め具合に気合が感じられる。でも、ゴメン……ちょっと怖い

東京都練馬区「みかん」

TAKE A SHOT!

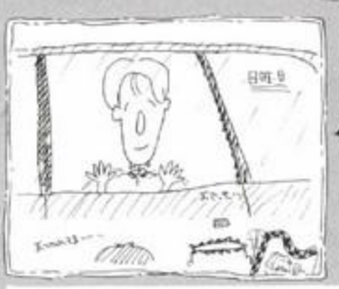
埼玉県戸田市「猿河童」













JTCC第7／8戦の鈴鹿に行ってきました。一緒に行ってくれた友達のミポラはレース観戦初体験でしたが、「こんなに楽しいとは思わなかった」と言ってくれて、素晴らしい3日間で終わるはずでした。私がマヌケな"事"を起こすまでは……。

レースは私たちにとってはちょっと残念な結果となりましたが、心配していた雨もひどくはならず、最後にはJACCSのチームの方にTシャツをいただき、帰る服部くんを旗を振ってお見送りすることができ、とても幸せでした。あとはバスに乗って自子に向かうだけのその時、"事"は起きたのです。

首から下げていたはずのバスケースがない!! パドックでポンチョを脱いだ時に落としたようです。これは去年筑波でJACCSのチームの方にいただいた思い出の品で、表にはR'on、裏には服部くんのメットのステッカーが貼ってあります。そして中には雨で中止になった富士でのF3000のパスが……。9月に使えるこのパスは双人のない主婦の私にとって貴重なものです。JTCCファンクラブの会員証とクルムのサイン入りの写真（ミポラにあげる約束でした）も入ってました。まさに天国から地獄に転げ落ちた気分で、半泣きで探しに行きましたが見つかりませんでした。夫には「9月のチケット、なくしたんなら行ってあげないよ～」と言われ、落ち込み倍増です。ミポラも疲れさせちゃってゴメンね。

このパスケースを拾った方、もしくは拾った人を知っている方、もしこれを読んでくれたなら、ぜひ連絡ください。お願いです。

■という切実なお願いがきたので、住所を載せて告知しようとしたところ、後日「JTCCファンクラブから送られてきました」というおたよりが。よかったね!! 拾ってくれた人に直接お礼が言いたいということなので、心あたりの人、編集部まで連絡ください。ところで、私が気になってるのは国さんのこと。なぜあなたはパンを投げるんですかぁ？ 鳩に餌やってんじゃないんだから。

"ハンマー"高橋が伝授する

ル・マンの楽しみ方

"ハンマー"高橋といえば分かるよね。ハンマーブライスで「右京のマシンに名前を入れる権」を80万円で落札したかと思えばル・マンに出掛けちゃったり、土屋さんと一緒に写真を撮ってもらったかと思えば「ホントはインディカーが好き」なんて言っちゃうお調子者ぶりでPAPAをキィキィ言わせてるアイツ。その高橋クンが経験から得たル・マン観戦のノウハウをまとめてくれたので、写真と共に紹介します。ところで高橋クン、ずいぶんと楽しかったみたいだけど、借金の方は大丈夫かい？



★サーキットまでの交通機関

パリから鉄道があり、クルマでも2～3時間。仮眠を取ることを考えるとクルマの方がいいかもしれません。ル・マン市内のホテルに泊まれれば、サーキットまでクルマで10分ほどなので、タクシーでも大丈夫でしょう。

★観客席

グランドスタンドはきちんとしていますが、コース周りの通路は舗装していないので、晴れていれば埃がすごく、雨が降ると泥だらけになります。ただスタンドが設置されているのはグランドスタンドとそこからボルシェカーブの方にやや寄ったところくらいで、あとはコンクリートウォール越しに間近に観戦できます。特にグランドスタンドからテルトルルージュにかけては金網もなくセーフティゾーンもほとんどないので、写真を撮るならここがお勧め。グランドスタンド前もウォールとスタンドの間は立ち見のできるスペースが広いので、コース越しにピットの様子がよく見えます。観客の数は多いですが、人が多すぎて思うように歩けないということはないので、いろいろな場所に移動しながら観戦することができます。

★お土産

Tシャツ、ピンズ、帽子などの売店はたくさんあります。メインゲートを入ってすぐのトンネルをくぐってパドック方面へ向かうと、ホンダ、ジャガーなどメーカー別のショップもあります。グランドスタンド裏のACOの建物の中では"Le Mans 24Hours"のロゴ入りのACOオフィシャルグッズがたくさん販売されており、クレジットカードも使えます。店員の女性も非常に親切でした。私たちはフランス後も英語もだめなので、カタコト英語＋身振り手振りで意思を伝えたのですが、そんな私たちにもとても親切に付き合ってくれました。

★食事

サンドイッチからシシカバブまでいろいろありますが、お勧めはグランドスタンドからメインゲート方面に少し進んだところにある大きなテントのシーフードのお店。ここのムール貝の料理は安くて（35フラン）おいしくてボリューム満点なのでお試しください。

★夜中からゴールまで

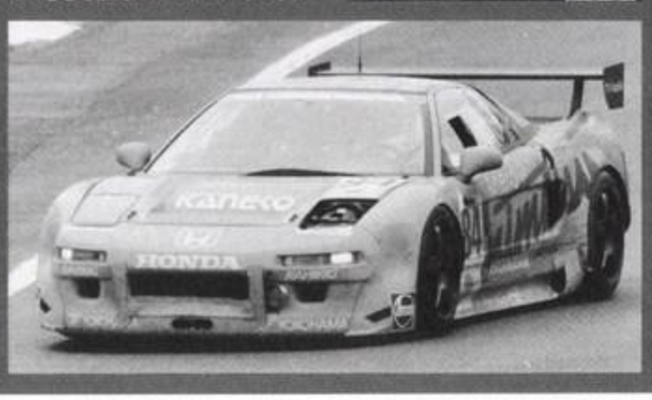
夜中でもボルシェコーナーからテルトルルージュあたりは結構明るく、人も多く、男性ならひとりでも大丈夫。遊園地では家族連れが3時ごろでも遊んでいたし売店も開いており、昼間と変わらない感じでした。

ゴール30～40分前になると、グランドスタンドに観客が戻ってきて、通路までびっしりと人で埋まります。そして午後4時、観客は、国もチームも関係なくゴールしてきたクルマすべてに惜しみなく拍手を送ります。そしてクルマがすべてチェッカーを受けると、皆コースに向かって一斉にダッシュ！それはもうすごい迫力です。どんどんフェンスを乗り越えてなだれ込んできます（フェンスは表彰台の近くのところからコースに出入りできるようになっていましたので、女性でもそこからなら大丈夫です）。表彰式もコースの中から見ることができます。

★最後に

まさか日本人の優勝を目の前で見られるなんて!!　帰り道、売店のおばさんが僕らを"Good!"と笑顔で送ってくれました。思わず僕も笑い返しました。この時僕は、多くの人がル・マンに引かれるわけが何となく分かったような気がしました。これからもこんな出会いや体験ができればいいな、と思える旅でした。





92年のF1速報雑誌GPSのカナダ号にも、私の投書が掲載されました。「アレジがフランスで初優勝！　データがそう教えてくれた」という題でした。その年はジル・ビルヌーブの没後10周年。ジルは地元カナダで28歳のときにF1初制覇を達成しています。だからその年に28歳だったアレジも、彼の地元フランスで……と予想したのです。

僕の予想は両方とも外れてしまいました。深読みし過ぎたからです。

今思えば、オリンピックの年にはプロストは負ける、とか、アレジはビルヌーブと同じカナダGPで初優勝する、と単純に予想すればよかったのです。

愛知県名古屋市　田中　武道

■シーズンの流れから「アイツが勝つかな～」と考えることはあるけど、こういう観点から予想したことはないなぁ。データ野郎だねぇ、キミは。でも、結果が出てから「こうなると思ってた」と主張するんじゃなく、前もって予想を発表しちゃうところは男らしい。これからもメゲズに頑張ってくれい。

私がF1を好きになったのは右京さんがいたからなのだ

昔はモータースポーツには興味がなかったのに、94年のヨーロッパGPを見てからF1も好きになった。今ドライバーの中で一番好きなのは片山右京さん！　実はヨーロッパGPでの右京さんの"ゴボウ抜き"を見てからF1が好きになったと言っても過言ではないのだ。一番応援しがいのあるレーサーです。別に同じ日本人だからではないですよ。でも好きになったばっかりなので、右京さんのことはあまり知らないんです。32歳っていうのはちょっとピック!!

右京さんにファンレターを送ることはできるのでしょうか？　送れるならどこに送ればいいの？　教えてくれ～!!

右京さん、今年こそは表彰台に上がってほしい。頑張ってください！

PS　右京さんってケッコンしてるの？

沖縄県「ULTIMATE　GUY」

■結婚してふたりの子持ちだよ～ん。ガッカリしないでね。ファンレターは、〒228　神奈川県相模原市鵜野森3-36-13　片山企画まで。つらいシーズンを送ってる右京ちゃんに、応援のお便りを送ろう！



第3戦の優勝も惜しかったッス。後半戦の活躍に期待だ！　それにしてもなぜホッペがデカってるのだ？

愛知県名古屋市「なもす」

ヒトコト

ちょっとだけ、聞いてほしいことがある……
そんな控えめなアナタのためのヒトコトコーナー

●最近北海道にふたりのあるF1関係者が訪れているらしい。ひとりはクミーコのロケについてきたアレジ。そして、地元の新聞に載っていたのですが、亡きアイルトンの弟レオナルド。まだまだ北海道も捨てたもんじゃないっすねー。

北海道旭川市「Good Luck!」

☆カッコいいのにお下品な福山雅治がラジオで言ってた。「オレ、ゴクミとヤってる夢見ちゃってさ。それも1回の夢で2回。で、2回目の時に「もう1回いい？」って聞いたら、アイツ「いいよ」って言ってたよ。ちゃんと日本語で」……なかなかヤツは事情通だと思わないか？　ところで、レオナルドはなぜ北海道に？

♪

●R'onのステッカーを貼った自転車に乗ってて事故ったので、ホイール交換して放っといたら盗まれた。近くの人、見かけたら連絡ください。銀のMTBです。PS　R'onステッカーをカートに貼ったらスピンしてブレーキディスクを割った。

愛知県高浜市「いちぢくの皮むき」

☆あ～、またR'onステッカーの祟りが～!!　スマンねぇ。ゴメンよぉ。

♪

●前ヒトコトでクルム君に紹介した「ドイツの森」というのは長崎のオランダ村みたいなもの、ただしマッチ箱みたいに小さなテーマパークだと思う。期待して行っても大ハズレかもね。あ、そういえばミハエル君と同郷のバイドラー君は今どうしているのやら。元気なら日本に遊びに来てほしいなー。ミハエル君、フォルカー君のことを知らないかい？

大和　銀次

☆ミハエル君、これを読んでいたら、連絡を。……って、読めないか。

プリーズ! PLEASE!

欲しいな! 貸してよ! あげるぜ! 友だちになろうよ〜!
そんなあなたの希望が必ずかなう、お願いプリーズのコーナー

★譲ってください

●①鈴鹿②観戦券＋S2席指定券2セット（できれば連番）
〒176 東京都中野区江原町2-3-4 双葉ハウス206 ☎03-3950-1975（夜） 藤原ともひろ

●①鈴鹿②FかG席券2枚
〒664 兵庫県伊丹市大野3-3 山中 純一

●①鈴鹿②観戦券＋FかE席指定券2枚③できれば近県で手渡し可能な方。☎明記の上往復ハガキで連絡を。イギリスGPのピットでのセナなどの生写真、ティレルのファクトリーの生写真差し上げます。
〒444 愛知県岡崎市朝日町3-23 伊東 仁史

●①鈴鹿②観戦券＋A、D席指定券③お礼にドライバーのサインを差し上げます。
〒523 滋賀県近江八幡市緑4-772-35 久保 達也

●①鈴鹿②F席指定券1枚
〒485 愛知県小牧市小木3-337 船橋 誉士

●①鈴鹿②観戦券＋D・E・F席指定券4枚連番で。
〒692 島根県安来市沢町618 細田 浩

●93年モーターランド2のグループA全戦を録画した方、ダビングさせてください。1戦だけでも可。送料負担。お礼もします。また飯田章ファンの方、友達になりましょう。
〒321-34 栃木県芳賀郡市貝町上根737 関戸久美子

★譲ります

●①鈴鹿②観戦券＋C指定券2枚
〒510 三重県四日市市東日野町736-1 三谷 広人

●①鈴鹿②観戦券＋E席指定券2セット（連番ではない）③手渡しで。連絡はハガキで。
〒617 京都府向日市上植野町北小路28-4 川勝 正之

●①鈴鹿②観戦券＋H指定券Kブロック5列12、13番2枚③☎明記の上往復ハガキで。
〒063 北海道札幌市西区西野3条8丁目1-1-320 阿部 理香

●①TIとSI席指定券（フェラーリ、マクラーレンピット前のはず）2枚（差額は足して、LかK席との交換でも可）
①鈴鹿②観戦券＋B3席指定券2枚
〒709-39 岡山県吉田郡加茂町宇野1241-1 前原 豊子

●①鈴鹿②観戦券＋B2指定券2セット③手渡し希望（実家の愛知県豊田市方面の方も可）
〒431-04 静岡県湖西市鷲津336-11 B-103号室
☎053-575-1926（20時〜22時まで） 加藤英高

●①鈴鹿②観戦券＋H指定券1組
〒191 東京都日野市大坂上4-15-1大坂上レジデンス219号室 成田 守

●①鈴鹿②観戦券＋H指定券1組③往復ハガキで連絡を。
〒616 京都府京都市西京区嵐山茶尻町27-4 鈴木 康史

●①鈴鹿②観戦券＋H指定券2組③☎明記の上往復ハガキで連絡を。
〒040 北海道函館市元町20-11 松谷 則久

●①鈴鹿②観戦券＋SI指定券3組③手渡し希望。連絡はハガキで。
〒227 神奈川県横浜市青葉区たちばな台2-11-7第11たちばな台ハウス202 加藤 俊男

●①鈴鹿②観戦券＋D指定券2組③往復ハガキで連絡を。
〒321-42 栃木県芳賀郡益子町小泉787-3 飯島 恵子

●①鈴鹿②H席セット4組、F席セット1組③往復ハガキに住所・氏名・年齢・☎明記の上連絡を。
〒700 岡山県岡山市大安寺南町1-9-21 藤田 哲也

●①鈴鹿②観戦券＋D指定券第1コーナーYブロック7列39番③ハガキか☎で連絡を。
〒250-02 神奈川県小田原市千代62-1
☎0465-42-3204 山本文雄

●①鈴鹿②観戦券4枚③4枚まとめてがベストですが、希望枚数にも応じます。近県手渡しが希望ですが、送料を負担してもらえるなら全国OK。往復ハガキで連絡を。
〒939-18 富山県東礪波郡城端町立野原683 境 泰志

●①鈴鹿②観戦券＋B1指定券2組（Aブロック3列01番＆4列01番）③手渡し希望。
〒573 大阪府枚方市藤田町14-25 八百 昭徳

●①鈴鹿②D指定席券4枚（第2コーナーも見える席）③2枚か4枚で。自宅近くまで取りに来てくれる方。☎記入しハガキで連絡を。
〒500 岐阜県岐阜市六条片田1-25-3 宇佐美友佳子

●①鈴鹿②自由席2枚③往復ハガキで連絡を。
〒569 大阪府高槻市真上町6-40-34 河野隆司

●①鈴鹿②観戦券＋L券1組③☎で連絡を。
〒309-16 茨城県笠間市笠間2846-6
☎0296-72-5934 篠崎 俊之

●①鈴鹿②観戦券＋F指定券4組続き④近県なら手渡しで。FAXで連絡を。
〒410-13 静岡県駿東郡小山町大御神862
FAX 0550-78-1761 中澤 信之

●いろいろなF1雑誌を格安で。80円切手同封してくれればリスト送ります。
〒406 山梨県東八代郡御坂町上黒駒3294 渡辺 和仁

●GPX 89〜91年全戦、「マクラーレンの全て」「勝利へのプログラム」「激走! 歴史に残る30名レース」「たった一度のポールポジション」にセナ、シューマッハーのポスターをつけて送料込み1万円。往復ハガキで連絡を。
〒235 神奈川県横浜市磯子区栗木2-5-35 清水 勝（24歳）

●94年フジテレビ「さようなら音速の貴公子」、ドイツGP、「さらば至上の愛とともに……アイルトン・セナ」、94F1総集編。80円切手同封の上連絡を。
〒655 兵庫県神戸市垂水区五色山7-4-14 浜中 浩（29歳）

●GPS 92年21冊（3000円程度）、GPX 93〜94年42冊（5000円程度）、F1速報 93〜94年26冊（3500円程度）、F1グランプリ特集 93〜94年18冊（2000円程度）。ドリフトの本、ビデオとの交換も可。往復ハガキで連絡を。
〒959-22 新潟県北蒲原郡安田町大字保田4587-2 遠藤 直人

★お友達になりましょう

●レースの歴史に興味があり筆マメな人、文通しましょう。
〒261 千葉県千葉市美浜区真砂2-15-8-218 萩原 彰子

●F1、F3000などレースの好きな人、手紙を待ってます。
〒710 岡山県倉敷市西阿知町989 山本 浩

■実際にやりとりする場合、会うなどして確認をとるようにしてください。郵便だけのやりとりはトラブルの原因になることがあります。トラブルが発生した場合、編集部では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

We support motorsport comic books!

がんばれっ!! 同人誌



大勢の人の声を紹介するためこんな企画を考えてみました

プレゼントコーナーと連動した企画なの。毎号テーマを決め、プレゼントに応募する人には応募ハガキにそれについてひと言書いてもらい、それをピットインプレスで紹介します。ちなみに書かなきゃ当選させないってことはないから、気が進まないテーマのときは書かなくてもOK。今号のテーマは「右京について」。匿名希望と書いてあれば実名は出しません。プレゼントに応募しないけどこのテーマについて語りたいという人は、ピットインプレス「右京」係まで送ってね。イラストも大募集。ご協力お願い〜!!

あて先は

〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7
レーシングオン編集部
「PIT-IN PRESS○○係」

待ってるよん!

趣味のF1'94→'95 極者 KIWAMONO

●小野村亮典

おなじみ小野村さんが8名のゲストを迎えて作ったF1コピー本。アレジ、右京、マンセル、M8コンビなどが登場します。表紙・裏表紙はアレジ&右京のカットで、"速くて勝てない"というコンセプトだったらしいんだけど、作った後にアレジが勝っちゃったという……。アレジ優勝ネタは次回の本に期待するとしましょーね。

いや〜、それにしても暑い
誰が何といってもア・ツ・イ！
でもなあ、夏ってやっぱり
このくらい暑くないとなあ
暑くてもウラネタはあるしね

URA-NETA-RING

Illustration/Kiyoshi Kobayashi

最新F1マシンからマグカップまで売っぱらうシムテック涙、涙のオークション!?

✕「この間、朝出社したら、すごくオモシロイものが机の上に乗ってたですよ」

♥「ホイホイ、それは何？」

✕「FAXで送られてきた1枚の紙なんすけど、いきなり「SALE」って大きく書いてある。で、そのあとに続いていたのは……」

♥「何!?」

✕「なんとシムテックからのオークションの案内状。ま、正確には処分会社からのものだったんだけど、これには大笑い。久しぶりに腹抱えて笑っちゃった」

♥「そんなにおかしいの？　どれどれ」

✕「ほら、これ見て。リストになってるでしょ。ここにオークションにかけられるものがズラッと並んでるわけなんだけど、読んでいくとこれが笑う笑う。だって、95モデルのシャシーに始まって、工具やらジャッキやら無線やらトランスポーターやら工作機械やらコンピュータやら、揚げ句の果てには風洞施設やファクトリーまで売りに出すっていうんだから、その勢いにゃ負ける」

♥「何から何まで売っぱらっちゃおうっていうコトだね」

✕「そう。で、そのオークションの当日、シムテックのファクトリーに取材に行ってもらったんすけど、これがまた大爆笑。ホントに何から何まで売りに出てたそうな。リストに載ってたものはもちろん、ファックス用紙やマグカップなんていうコマゴマしたものまで売ってたらしいですからね」

♥「もう、そこまでいくと涙ものだね」

✕「なんでも会場には200人以上も集まったそうで、大盛り上がりだったみたいっす。オタクっぽい人が多かったらしいけど、チーム関係者も私服で大勢来てたという話」

♥「で、売れ行きの方はどうだったの？」

✕「それが、驚くべきことに給油装置以外は完売だって」

♥「すごいね。でも、なんでそれだけが？」

✕「来年は給油がなくなるかもしれないってことで、みんな買い控えたんでしょうね」

♥「はは〜ん、そういうワケ」

✕「なんだか会場の周辺まで盛り上がっちゃったみたいで、人が大勢集まっただけじゃなく、アイスクリーム屋が何軒も出たりして、まるでお祭り騒きだったとのことですよ」

♥「ろうそくの火は、ってやつですか」

✕「です。ちなみにこのオークションの詳細は次号でお伝えしますので、お楽しみに」

イギリスGP秘話 フランク・ウイリアムズはやっぱり正真正銘のジェントルマンだった!?

♥「って、最後は宣伝か!?」

✕「そうそう、F1ネタっていえば、もうひとつある、あるあるある……」

♥「わかった、わかった。クイズ100人に聞きましたじゃないんだから。で、何？」

✕「イギリスGPでの例のクラッシュの話。なんでも、あの後フランク・ウイリアムズがベネトンのピットに行って、フラビオ・ブリアトーレに謝ったらしいんですよ」

♥「ほっほー、それじゃ非を認めたってワケじゃん。それでそれで？」

✕「フランク氏は「まったくもう、うちのヒルってえのはホントにおまぬけで、例えて言うなら尻の穴のような奴でして、お宅様の優秀な優秀なドライバー様に当たってしまったようで、誠にあいすみません」などと、言ったらしいです。もちろん、意訳ですけど」

♥「そんなこと、言わなくてもわかるよ！」

✕「で、ここからが面白い。この話がイギリスの新聞にバーンと出ちゃった。こんな面白い話を放っておくハズないですからね」

♥「そりゃ、そうだ」

✕「すると、フランク氏ってば、チームの正式リリースをすかさず発行した。いわく「私は『尻の穴（PRAT）』などという言葉は使っていない」ですと」

♥「ドライバーの非は認めたままなんだ」

✕「そう。キタナイ言葉使いが許せなくて、わざわざ公式のリリースまで出したみたい」

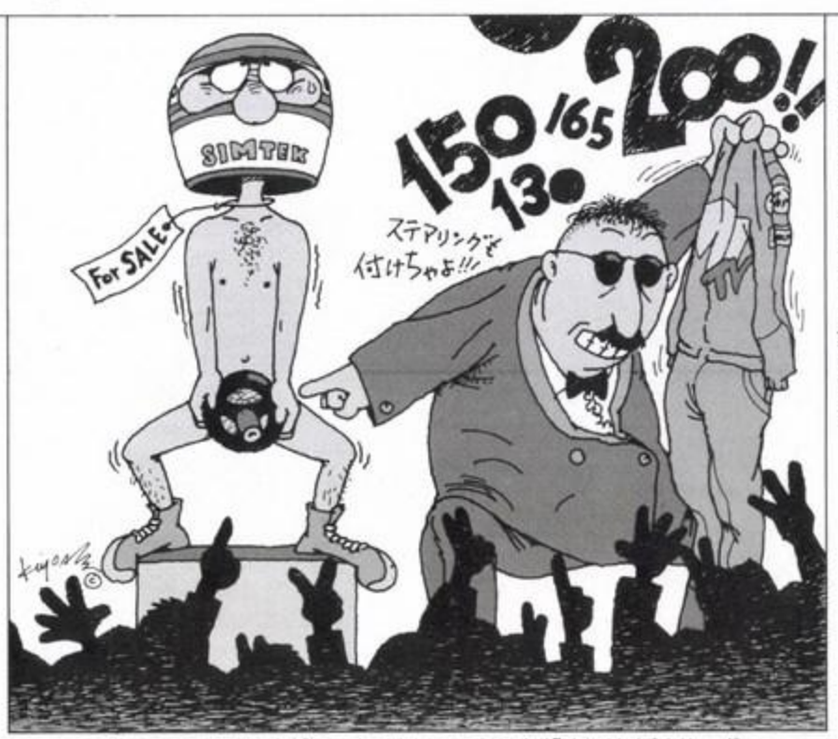
♥「ふ〜ん。さすがイギリス紳士だね」

♪「ねえねえねえ、オモシローイ話があるんだけどさ」

♥「えっ？　でも、もうスペースが……」

♪「何だよ。せっかく、ドリキン土屋選手が十勝24時間に勝って、ル・マン優勝の時に続いて、2回目の六本木の高級クラブ貸し切りのパーティーを開くはめになってヒイヒイ言ってるって話をしようと思ってたのに」

♥「もう、言ってるじゃん」



ああ、シムテックの悲しき末路。ハイエナたちにここまでむしり取られてしまうとは……!?

Asking on

VOLUME 148

難問、珍問、あらゆる疑問にスッキリ答えるレーシングオン随一の良心的質問解答コーナー

チーム失格、ドライバー優勝なんてアリ？

二転三転したブラジルGP、公式記録はどーなる！

Q 今年のF1ブラジルGPで、ウイリアムズとベネトンのコンストラクターズポイントは与えられないということですが、チームの記録はどうなるのでしょうか？ ポールポジション、ファステストラップ、優勝回数もノーカウントなんでしょうか？ PAPAさんを指名します。

大阪市 高 哲弘 30歳

A ハイハイハイ、今年の開幕戦での話ね、覚えてない人のために、もう一度復習すると、ブラジルGPの予選中に抜き打ち検査を受けたミハエル・シューマッハーとデイビッド・クルサードの燃料が、"レギュレーション違反"の疑いをかけられたままスタート。レースではこのふたりが1位、2位でゴールし、シャンパンファイトまでしたのに、後から失格になっちゃったヤツね。その後、4月になってから今度はシューマッハーとクルサードのリザルト復活が発表されてよかったね。ってな話だったよね。

4月にリザルトの復活が決まったとき、「エルフは違反したけどわざとじゃなかった」っていうヘンな理屈で「コンストラクターズポイントだけなしにする」っていう玉虫色の解決になったワケだけど。結論から言っちゃえば質問にあるような記録はすべて、ちゃんとカウントされるとになると思います。

まぁ、優勝ドライバーがキチンといる以上、こうした個人の記録に基づく、ポールポジションとかファステストラップとか、もちろん優勝回数も「レースがきちんと機能した」と考えて公認に記録に入れるほうが自然。F1で一番ポピュラーなデータ本であるマールボロの資料でも、4月の裁定発表後はブラジルGPのリザルトを入れた形で記録が変更されているようです。

それにしても、こうやってFIAの裁定が二転三転すると、かわいそうなのはドライバー。結論が出るまでサーキットに残ってて、フェラーリのスタッフと"ひとりシャンパンファイト"したベルガーや、開幕戦からいきなり6位入賞！ 好調の亜久里さん……てはずだった鈴木亜久里も、そしてもちろん、せっかく勝ったのに、みんなから文句ばっかり言われたシューマッハーもみんなが被害者。こーゆーのはもうゴメンですわ。（PAPA）



さて、このトロフィーの行方やいかに？



果報は寝て待て。ひょうたんから駒。棚からぼた餅。と、思いきや……

カラオケ旋風
外人ドライバーはオン○？


ジェフ・クロスノフ選手


トム・クリステンセン選手


アンソニー・レイド選手

ボクタチカラオケ上手ダヨ！
ホントかよ!?

Q 最近、新たな日本文化として定着してしまったカラオケ（KARAOKE）ですが、外国人ドライバーもこれを楽んでると小耳にしました。彼らも日本でカラオケをするのですか？ そこのところをドライバーに聞いてみてください。 愛知県 山田まゆみ 20歳

A 〝外人〟じゃなくて、ちゃんと〝外国人〟と書いているところなんて、山田さんは国際感覚のスルドイ人みたいですね。で、外人ドライバーのカラオケ事情ですけど、けっこう好きなドライバーも多いみたいッス。まずトム・クリですが、これが割と好きみたい。得意のナンバーはビートルズ。ただし、一説によると、「あんまり上手じゃないみたい」との声もあり（あくまでもうわさです）。ミハエル・クルムは、いつもはAC／DC聞いてるようなヘビメタ系。だけとカラオケは「超ヘタ」との情報あり（これも未確認、念のため）。うーん、外人さんはあんまりカラオケ慣れしてないのかなぁ。

と思いきやカラオケ上手なのが、全日本外人ドライバー広報委員長のジェフ・クロスノフ。バンド組んでるだけあって、なかなかうまいらしい。それと、アンソニー・レイドの得意曲はヴァン・ヘイレンの「ジャンプ」ってのがけっこう意外。アンソニーがル・マンで3位に入った時、ピットでかかってた思い出の曲だとか。

この、レーシングドライバーのカラオケ事情は結構笑えそうなので、さらに徹底調査して後日ご報告する予定。詳しい話はもうちょっと待っててね。 （ナカジ）

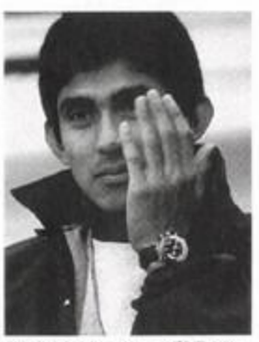
マネージャーとはナニする人ぞ
ともかく胃が痛くなるようなお仕事と見ました！

Q ナカジさんに質問です。F1ドライバーで中嶋さんや亜久里さんには、マネージャーがいましたが、右京さんや井上さん、また、その他のドライバーにはマネージャーがいるのですか？ あと、マネージャーとは実際にどんなことをするのでしょうか？

大阪府 乙ヶ迫隆行

A ベルガーなど一部の例外を除けば、基本的にはどのドライバーにもマネージャーがいると思ったほうがいいでしょう。もちろん、右京や隆智穂にもいます。右京は義理のお兄さんでもある桑原マネージャー。そして隆智穂はイギリス人のデイビッド・シアーズ。現代のF1ドライバーをとりまく環境は複雑そのもの。ドライバーのスケジュール管理から、契約に関する交渉、プロモーションの管理、我々プレスとの窓口、そしてドライバーにとっての精神的な支えなど、マネージャーの役割は山盛り。大変なお仕事なのです。 （PAPA）


ワタシのマネージャーは桑原さん


ワタシのマネージャーは秋田さん


ワタシはいまでは監督さん。ドライバー時代より胃が痛い？

一発即答のコーナー

モータースポーツ的情報欠乏症難民の方々を救済すべく開設されたのが当コーナーである。したがって、質問者はありがたがって読むよ〜に。

Q 2年ぶりにSUGOへF3000を見に行きますが、今回は1歳になる娘も連れていく予定です。独身の時のように炎天下のなか、始めから終わりまで見るわけにもいきませんよネ。そこで質問なのですが、ドライバーからサインをもらったり写真を撮るのはいつごろがいいのでしょうか？ 2年前はタイミングが分からなくてダメでした。服部さんと黒澤さんに聞けたら最高ですネェ。

PS 主水さん、ご苦労さまでした。

岩手県 金野登美子 21歳・主婦

A 確かに一般の人がドライバーをつかまえるのはけっこう大変。なにしろ、ドライバーのみなさんったら、みんな恥ずかしがり屋さんで、ほとんどパドックに姿を現さないときてる。予選日の午前中あたりが比較的良さそうだけど、せっかくつかまえても予選タイムアタックや決勝レースの前なんかだと、やっぱりちょっとまずいしね。じゃあ、どのタイミングがいいか。それはズバリ、ピットウォークです。たくさんのファンが押し寄せるから、サインをもらったりするのはちょっと大変かもしれないけど、ドライバーのことを考えるとピットウォークの時がいちばんいいでしょうね、やっぱり。 （梅）

Q 94年JTCCレース・ド・ニッポンを見て思ったのですが、かなりのクルマがクラッシュしていましたよね。そこで質問なのですが、全損になってしまったマシンはどこに行ってしまうのでしょうか。まさか民間の解体屋さんには行かないと思うんで、詳しいことを教えてください。よろしくお願いします。

神奈川県 大坂正志 17歳

A 最新テクノロジーの粋を集めたスーパーツーリングマシンだから、チーム外に機密が漏れるのを防ぐために、各チームとも全損したマシンはシュレッダー処理してから鉄クズとして廃棄処分にする……、なんてことはなくて、フツーに自動車解体屋さんに出しているようです。じゃあ幸運にして、そのマシンが出された解体屋が発見できれば、「解体屋から安く買って、（例えばね）カルソニック・プリメーラはオレのもの」と考えるのは甘い。解体屋に出すのはグチャグチャになったボディ本体のみで、エンジンその他のパーツは外されてるってのが、乗用車を廃車にする場合との大きな違いなんだな。 （あ）

●お詫びと訂正●前号8／8号のアスキングオン107ページで、チーム国光の所在地が間違ってました。正しくは〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-6-16です。各方面にご迷惑をおかけしましたことをお詫びして訂正いたします。

●おまけ●ファンレターあて先教えて編のおまけだよ〜ん。今回は飯田章センシュです。ファンレターのあて先は、上記と同じ、〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-6-16 チーム国光内です。

ASKING ON 95解答陣からのごあいさつ

PAPA	F1 セミレトロもの	とりあえずF1ものは私の所へどうぞ。それから70年代あたりのレトロものにもお答えしましょう。どんなオマヌケな質問でも、若くてかわいい女の子だったら親切丁寧に答えちゃう。チンパン君あての質問も担当します。
あ	ツーリングカー メカもの ドラテク関係	ニューツーリングは95年からスーパーツーリングという名前になったんで私の担当もスーパーツーリングってことに。それから日産検定合格のこの私が、メカニズム関係とかレース入門方法なんて質問にお答えします。
ナカジ	ドライバーもの その他よろず相談	担当は特になし。というわけで逆に何でも受け付けます。「こんなバカバカしいこと聞いてもいいのかなぁ……」と不安になったら、迷わずワタシまでどうぞ。でも、専門的な質問は、それぞれの各担当者にお願いします。
ミナ	GT、N1 いろいろ	人気のGT、プレシーズンから見続けているN1耐久ラウンドシリーズ、そしてミドル&入門フォーミュラ、プロダクションカーレースなど、多岐にわたってお答えします。あと、分かる範囲でのレトロ物についてもOK。
けいすけ	ラリー全般 アメリカもの	ラリーラリーラリー！ ラリーのことならWRC、全日本、ラリーレイド、さらに貴のことまで何でもラリー貴の「カワイチャン」を自認する僕のところへ。さらに、アメリカものまで面倒みましょう。
おさる	F3 カート	ちょいとそこ行くキミ、カート乗ったことある？ えっ、ないの!? それじゃ、ワタクシおさるが親切丁寧、カートについてなんでもかんでもお答えしましょう。さらにはF3に関する質問だっておまかせだよ〜〜ん！
梅	F3000 BTCC DTM	6月からレーシングオン編集部に配属された梅でございます。F3000とBTCCとDTMに関しては何でも聞いてチョーダイ！ って言いたいところだけれど、ええい、言ってしまえ。何でも聞いてチョーダイ！

応募するにもしきたりあり



レーシングオンを読んでいて気がついてしまった疑問、テレビをみていてアレッと思ったこと、そんなことが気になって気になって眠れなくなる前に、ハガキに質問を書いてすぐに送ってください。あて先は、〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 レーシングオン編集部「アスキングオン係」まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号、質問に加えて、左に書いてある解答者を必ずひとり指名してください。特別に優秀な質問には左の特別懸賞か、レーシングオン特製オリジナルステッカーを贈呈します。

今回の特別懸賞は、JTCC鈴鹿スーパーツーリングカーのTシャツです。特別なのに2枚あっちゃったりするから2名にあげちゃうもんねー。この回の人って、なあんてラッキー♡ か？

表2見開き……住友ゴム工業㈱(日本ダンロップ)
P4……モービル石油㈱
P29……㈱エスエスリミテッド
P40……PIAA㈱
P53……㈱日本モーターレーシングセンター
P73……ウィンフィールドジャポン
P81……㈱ジャパンレーシングアカデミー
P85……モトーレパークペスカ
P88……アッソモータースポーツ／ALFA／ぶるーと／琉浪レイクウェイ
P89……㈱ケイエスインターナショナル
P97……ペトロルブインターナショナル㈱
P100、125……㈱ニューズ出版
P114……GP COLLECTION
P115……ラ・アンスポーツ
P126……㈱メルダック
表3……㈱エフイーティー
表4……三菱自動車工業㈱

●広告に関するお問い合わせは☎03-5430-4441広告部まで

NEXT ISSUE

レーシングオン No.199は 8月19日(土)発売です

次号予告……F1第10戦ハンガリーGP速報、富士GTカップ
F3000特集&Nゼロ特集、夏のTシャツプレゼント第3弾
ITCエストリル、スパ24時間完全レポートほか

AD CONTENTS

STAFF

CHIEF EDITOR——中島 敦
SENIOR EDITOR——梅原 康之
EDITORIAL STAFF——皆越 和也
原 一代
川喜田 研
有富誠一郎
田口 朋典
古賀 敬介
石原久仁子
CONTRIBUTING EDITORS——西山 平夫
栗村 浩明
水谷 一夫
STAFF PHOTOGRAPHERS——嘱田 浩重
佐藤 宏治
須藤 章一
SPECIAL CONTRACT PHOTOGRAPHERS——二村 保
金子 博
澤田 賢志
ART DIRECTOR——西山 剛由
DESIGN STAFF——後藤 恵二
佐藤 直樹
吉岡 広樹
木村 祐一
津田 晶乎
吉田 周布
編集委員——三好 正己

"レーシングオン" 8-18号 No.198
発行所：株式会社ニューズ出版
〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7
広告部 TEL:03-5430-4441 FACSIMILE:03-5486-7402
販売企画部 TEL:03-5430-4440 FACSIMILE:03-5430-4455
編集部 TEL:03-5430-4462 FACSIMILE:03-5430-4460
発行人：西ヶ谷治男 編集人：中島 敦
印刷：大日本印刷株式会社

"RACING ON"
8-18 1995 ISSUE No.198 PUBLISHED 18 AUGUST
PUBLISHED by "NEWs PUBLISHING Co.,INC."
2-4-7 MISHUKU, SETAGAYA-KU,
TOKYO 154 JAPAN
ADVERTISING TEL:03-5430-4441 FACSIMILE:03-5486-7402
SALES TEL:03-5430-4440 FACSIMILE:03-5430-4455
EDITORIAL TEL:03-5430-4462 FACSIMILE:03-5430-4460
PUBLISHER:HARUO NISHIGAYA
EDITOR:ATSUSHI NAKAJIMA
PRINTED by DAINIPPON PRINTING Co., Ltd.

●本誌中の記事、写真、イラスト等の無断転載、使用を禁じます

FROM EDITORS

●このあいだ、早朝に入稿作業のために出社した。無事(?)に作業も終わり、始発時間までにはまだ時間があった。そんな時は迷わず寝るに限る。オイラの場合、愛車のラルゴのシートを倒して即席ベッドを作り、仮眠を取ることが多い。しかし、ここんとこラルゴん中では寝ていなかったけど、当然ながら季節は夏。窓を開けてたって効果ナシ。しかし、眠さには極端に弱いオイラは、玉のような汗を吹き出しつつ、ウンウンうなりながら寝ていた。久しぶりに悪夢がみられた。(おさる)

●今「慢性咽頭炎」で耳鼻咽喉科に通っているのだが、どうにも不思議な事がある。患者(っていうのかな?)を見てると、0歳から3歳くらいの子供を連れた若妻が圧倒的に多いのだ(患者は子供の方)。いつ行っても!!子供って耳か鼻か喉が悪くなりやすいんだろうか? 若妻って大体が(全員とは言わん)ホンワカした色気があって、待合室はなかなかいい雰囲気だ。ジジババばっかの眼科よりは、先生もきっと幸せだろうな。(なんか、私ってオヤジみたい。ステファニー山田)

●多摩テックのカートイベントに参加してくれた皆さん、どうもありがとうございました。当日お手伝いしてくれたドライバーやキャンギャルの皆さん、そしてスタッフの人も、ほんとにお疲れさまでした。なにぶん初めてのイベント開催だったので反省すべき点も多々ありますが、さらにパワーアップしてぜひ第2戦を開催したいと思います。その時はまたよろしくお願いします!(ナカジ)

●引っ越しした。暑かった。捨てるものが多かった。荷物も多かった。ゴミ捨てた。でもまだ片づかない。ダンボールが残っている。ガムテープはテーブルの上。落ち着かない。そして、ひとり暮らしじゃなくなった。でも、同居3日目にして相手が仕事で徹夜になり、帰ってこなかった。うぐぅん、これからが思いやられる。(って言いながらひとりの気楽さを味わっていた私って……。原語)

●"夏休み"なるものが取れることになった。ただしそれがお盆以前の時期なので、周囲の出版関係の仲間は「お盆進行」のため、休みを付き合ってくれそうにない。猛暑のアパートにいてもしょうがないので、昨年2時間で11万円を荒稼ぎさせてもらった自由が丘のパチンコ屋に行こうかとも思う。でもきっと惨敗するに違いない。こんな時は、春先に買っておいた「風の谷のナウシカ」全7巻を一気に読んでしまいましょうかしらん?(しかし急きょ実家へ帰ることになったミナ)

●前号でもお伝えしたとおり、毎年恒例のプレス対抗ユーノス・ロードスター4時間耐久レースに参加することになった。レーシングオンとしては久しぶりの参戦で、姉妹誌レブスピードと2カー体制でエントリーすることになったというわけ。しかし、ドライバー選定でちょっぴり問題が。某ドライバーを指名すべく水面下で動いていたのが、暗礁に乗り上げ、結局ボツになってしまったのだ。さて、そのドライバーとは一体誰でしょう?(といっても、中谷&田中&あという必勝体制は組めたよ。さあ、結果は? 以下次号の(略))

●フジテレビにヒトコト言いたい。といってもF1のことじゃないぞ、ポンキッキの隣落についてだ。20年以上に渡ってポンキッキを愛し続けているオレにとって、ここ数年のポンキッキの隣落ぶりは耐えがたいものがある。何がP-keesだ! 何がアムロだランランだ! ガチャピンはすっかり空際に追いやられ、新曲もほとんど無いし、構成はブツ切りだし、誰のために作ってる番組だか分からん。面白いのが"ゴニーちゃんのジャカジャカジャンケン"だけでいいのか!? 再放送で昔のヤツを流してくれてる方がよっぽどいいぞ!(それでも子供たちは喜んで観てるから、いっそう腹立つのよ。PAPA)

●先の話を。7月28日時点でWRCニュージーランドラリーは第一レグを終えトップはマキネン。8秒遅れでシュワルツ、その3秒後にオリオールとエリクソン。さらに2秒後方にカンクネンとマクレーが……。40分もSSを走ってこれしか差がつかないのはナゼ? 始まってそうそう結果が見えてしまう世界最高峰の「レース」と比べて何とコンペティティブなんでしょう。毎回だれが勝つか分からないし、WRCはやっぱりオモシロイ! ニュージーの結果は後追速報で。(けいすけ)

●俺も書いたとおりプレス対抗ユーノス・ロードスター4時間耐久レースのドライバーは中谷明彦、田中哲也という超強力助っ人の起用に成功した。走りたい盛り(?)のナカジは必勝体制を敷くためにボア。マシンは富士フレッシュマンではちょっと名の知れたRSアイザワが、気合い入りまくりで手掛けバリバリ。となると、優勝に向けてネックとなりそうなのは、第3ドライバーのオレじゃんか。レースを明日に控え、ちょっとプレッシャーを感じているのであった。(あ)

暑中お見舞い申し上げます。暑さ厳しき折柄、みなさまいかがお過ごしですか
8月はこれからが本番、まだまだ熱い日が続くことと存じますが
夏バテ、夏カゼなど召しませぬよう、どうぞご自愛くださいませ

Racing ON PRESENT

【応募方法】必ず官製はがきに右下の応募券を貼り、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、希望する賞品の名と記番、今号の中で面白かった記事3つとその理由、そして片山右京選手に対して思うひと言を書いて下記まで。締め切りは8月18日の当日消印有効。当選者の発表は9月28日号（9月14日発売）で行う予定です。たくさんのご応募、お待ちしています！

〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7
レーシングオン編集部
「8/18」号プレゼント」係



A BPRポスター 3枚1組1名

今年、BPRが主催しているヨーロッパGT選手権は大盛り上がり。しかも鈴鹿に30台も引き連れて参加するという頑張りぶり。そのBPRから直送されてきたポスターだ。





B グッドイヤーうちわ 3名

夏、といえばウチワだあね。とゆーわけでグッドイヤーからF1スケジュールが入った涼しげなウチワを3名に。涼んでもよし、うなぎを焼いてもよし。　提供／グッドイヤー



ヘルメットケース 1名

レーシングオンのロゴが入ったヘルメットケース。このヘルメットケース、お金を払ってもほしいという人は49ページを見てね。
提供／スタジオ　コメ

C



D

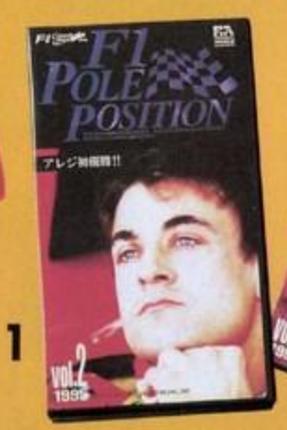


アルファロメオ3点セット 6名

アルファロメオのハンドタオル、アルファロメオのステッカー、ユニコルセのステッカーを3点セットにして6名にプレゼントしよう。バチバチバチ。　提供／アルファロメオ

E F1ビデオ 各1名

ポニーキャニオンから出ているF1ポールポジションのビデオ。第1弾は第1～3戦までを、第2弾は第4～6戦までを収録している。各1名に。　提供／ポニーキャニオン



1



2

GT-Rポスター 5名

N1耐久ラウンドシリーズに参戦、参戦中のFALKENモータースポーツ。ALTIA、プリンス東京、プリンス千葉、マッシモの4台がポスターに。　提供／オーツタイヤ

F



G



フォトスタンド 5名

チーム国光のル・マン24時間クラス優勝を記念して作られた、写真入りフォトスタンドを5名に。写真はちょうどドリキンの帽子が宙を舞っている。　提供／金子製作所

【7／7号プレゼント当選者】A：ストップウォッチ　東京都・近藤浩樹　B：那須モーターランドステッカー　奈良県・木本直行、福島県・河野美香、群馬県・山口　浩、熊本県・斉藤啓介、岡山県・笹山智雄、他5名　C：チャンピオンスポーツタオル　山口県・塚成朋子、静岡県・池谷晃敏、滋賀県・奥村秀一、愛知県・近藤　充、大阪府・岡崎安弘　D：「なんで!?」CD　埼玉県・北島　昭、長野県・阿部伸吾、三重県・中川清輝、広島県・長沢裕美、鈴鹿県・永田恵子、他15名　E：①ギャップスキャップ　鹿児島県・小薬淳一、静岡県・加藤友秀、三重県・中　寿和、東京都・笹森博子、愛媛県・森　重樹　②Tシャツ　兵庫県・小東美香、岩手県・安田孝博、静岡県・金子由紀、神奈川県・天野一弘、埼玉県・大井　崇　F：クイックタイト　和歌山県・森　浩之、福岡県・伊藤和樹、宮城県・有田克夫、山梨県・宮本紀幸、東京都・平野良夫　G：カストロール広報紙　愛媛県・真境有子、滋賀県・屋野伸政、大阪府・並木真一、千葉県・大屋健一、茨城県・北野宏明、他5名（敬称略）

R'on8／18号
プレゼント応募券

モータースポーツ観戦には絶対欠かせない！

夏のTシャツプレゼント

第2弾

ギラギラと太陽が照りつける
真夏のモータースポーツ観戦に
絶対欠かせないのが、帽子と缶ジュース
それにTシャツだよね！
観客席でバッチリ映えるTシャツを
ドーンとプレゼントしちゃおう!!



Photos/Kenji Sawada, Graffiti

株ワイドル・トレーディングカンパニー



Agip Tシャツ 2名

F1のフェラーリをはじめ、モータースポーツシーンでは、すっかりおなじみとなっているAgipのTシャツを2名にプレゼントだ！

株ラ・アンスポーツ



トヨタチームヨーロッパ(TTE) Tシャツ 各1名

WRCでは毎年激しいトップ争いを展開している、トヨタチームヨーロッパのTシャツ、ロゴタイプとイラストタイプを各1名にプレゼント



"右京"Tシャツ 各1名

今年は日本でのF1は、最初で最後(?)の2連続開催。この「右京」ブランドのTシャツを着て、右京を応援しに行こう。ロゴとイラストの2タイプだ！



マルティーニ・レプソールTシャツ 各1名

ヨーロッパやアメリカのレースシーンで昔から見慣れたロゴがうれしい、マルティーニレーシングとレプソールオイルのTシャツをそれぞれ1名にプレゼント

訂正：前号のTシャツプレゼント企画において、㈱ケージーエム提供のTシャツ名に誤まりがありました。
正しいTシャツ名は「サーキットTシャツ」および「DR21Tシャツ」でした。ここに訂正させて頂きます。

日本グッドイヤー㈱



グッドイヤーTシャツ 5名

92年から、F1では独占供給を続けているグッドイヤータイヤ。すっかり、F1といえばグッドイヤーってカンジ。そのロゴの入ったTシャツを5名に／

㈱ケンウッド



KENWOOD Tシャツ 各5名

F1ではマクラーレンをサポート、国内ではチーム国光をサポートしているケンウッドからは、マクラーレンのイラストの入ったTシャツを白・黒5名ずつに／

富士重工㈱



SAFARIラリーTシャツ 5名

スバル・インプレッサを駆り、見事に初出場ながら、総合4位、グループNでは優勝に輝いた三好秀昌。そのサファリのTシャツを5名にプレゼント

㈱ジャックス



JACCS Tシャツ 10名

美祢のJTCCでは服部選手が見事に2位表彰台ゲット／　後半戦に向けて意気あがるJACCS・シビック。これを着て応援に行こう。なんと10名に／

㈱ケンウッドエージェンシー



チーム国光Tシャツ 各1名

チーム国光といえば、クニサン、ケイチャンと相場は決まってらい／　ってそんなチークニファンのキミに、4種類のTシャツを各1名にプレゼントだ／

ミツワ自動車㈱



ポルシェTシャツ 3名

さまざまなレースカテゴリーで活躍しつづけるポルシェ。今年もJGTCをはじめ、大暴れしているよね。そのポルシェのロゴがカッコイイTシャツを3名に

フィアットアンドアルファロメオモータースジャパン㈱



アルファロメオ155 Tシャツ 3名

DTMにBTCCと、すっかりツーリングカーレースの盛となった、アルファロメオ155のイラストがデザインされたTシャツを3名にプレゼント／

㈱テイン



TEIN Tシャツ 各2名

ダートラ、ラリーからサーキットレースまで、幅広く活躍しフィールドを選ばないサスペンションを造るTEINのロゴがプリントされたTシャツを各2名に

住友ゴム工業㈱



FORMULA Tシャツ 10名

レーシングカートからF3000まで、さまざまなレースシーンで活躍するダンロップタイヤ。"FORMULA"のロゴがバックプリントされたTシャツを10名に

ニッサン・モータースポーツインターナショナル㈱



GT-R Tシャツ 5名

今もモータースポーツフリークの語り草となり、もはや伝説ともいえるスカGのカッコイイイラストが入ったニスモのTシャツを5名にプレゼント

ミシュランオカモトタイヤ㈱



キャラクターTシャツ 3名

環境にやさしいグリーンタイヤを発売したミシュラン。おなじみビバンダムが小鳥やリスとたわむれるイラストがカワイイTシャツを3名に／

マツダ㈱



ロードスターTシャツ 2名

ツーシーターのオープンカーながらも、FRということで走り屋クンにも人気のユーノスロードスター。このイラストの入ったTシャツを2名にプレゼント／

㈱エフイーティー



FET Tシャツ 5名

JGTCではスープラ、JTCCでは鈴鹿の第7戦からは新型カローラをスポンサード。FETのロゴもすっかりおなじみ。このロゴ入りTシャツを5名に／

横浜ゴム㈱



ADVAN Tシャツ 10名

チーム国光NSXを見事ル・マン24時間レースでクラス優勝に導いたアドバン。胸にアドバンのロゴが入った真っ赤なTシャツを10名に／

R'on 8／18
Tシャツプレゼント
応募券

応募方法

必ず官製ハガキに左の応募券を貼り、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望するTシャツ名（カラーやタイプのアルファベットも忘れずにね）を書いて下記のあて先まで送ってくれい／　締め切りは8月の18日の当日消印有効だ／／／

〒154　東京都世田谷区三宿2-4-7 レーシングオン編集部「8／18号Tシャツプレゼント」係



チーム国光 体験レポート

JTCC
第7戦/第8戦
●7月2日
●鈴鹿サーキット

この体験レポートへの応募は熱狂的なチーム国光ファンの方からという場合が多いのですが、今回はサーキットに来るのは初めてという西川さん。それだけに新たな体験がいっぱいあったようです

Photos/Hiroshige Satta, Racing on

みんなとっても親切でした

西川智子さん



メカニックは優しい方ばかりでしたが、一方でレースにかける熱意は怖いくらい



差し入れのスイカを切るの図。今回の体験レポートはとても刺激があるものでした



国さんにはいろいろなお話をうかがうことができて、温厚さを感じました

今までサーキットに行ったこともなく雑誌を軽く読む程度で、レースに関する知識もほとんどありませんでしたが、そんな私にも今回の体験レポートはとても刺激があるものでした。

鈴鹿サーキットへ行くことが決まってからチーム国光さんについての記事を読みましたが、その人気に驚き、少し遠い存在に感じました。ファンの集いでの国光さん、圭市さん、飯田さんがライトを浴びる姿も堂々たるもので雑誌で見たとおりでした。ですから、なんとなく近づきにくそうな気がしてしまいましたが、実際はユーモアセンスのあふれたジョークの好きな方たちです。

圭市さんと飯田さんとは残念ながら話す機会がありませんでしたが、幸運にも国光さんとはいろいろお話ができました。近くにいて感じたことはとても紳士的で、レースに対しても人に対しても温厚な方だということです。

また、マネージメントをされている方も同じように親切で明るい方です。メカニックさんも本当に親切で、レースにかける熱意は恐ろしいくらいでした。スケジュールを聞くとほとんど休みがなく、レースが終われば次のレースの現場へ直行という調子です。しかし充実感に満ちあふれて働いている様子からは疲れなど感じられず、彼らの肉体的疲労はチーム国光の一員として働いているという自信によって解消されているようにさえ感じました。

国光さんとはレースの話の他に、日常に関する話、フランスでの笑い話を聞かせてもらいました。話をしているうちに、この人が監督だからこそ、チーム国光のスタッフの方も親切なんだなと思いました。レースをするには運転技術、メカニズムも大切ですが、それを支えている最も重要なポイントはチーム内の信頼関係にあり、こんなところからチーム国光に人気が集まるのではないかと私は思いました。

ドリキンの独り言 オレはすごいとこにサインしたことがある

ル・マンでクラス優勝した反響もあって、鈴鹿では行く先々でサインを求めるファンに遭遇してしまった。ドライバーとしてはうれしい限りだけど、最近はファンの人たちもあの手、この手を使っていろんな物にサインをさせるんだよね。関心させられてしまうよ。

実際、現物を目の前に差し出され、「えっ！　本当にこんな所にサインしていいの？」といった感じ。サインする身としては少々ギョッとさせられることもしばしばあるね。こうなると色紙やレースプログラムへのサインなんてのは初対面でのほんのごあいさつ程度に過ぎないのかも。自分の書いた単行本とか、出演しているビデオ、以前、どこかでいっしょに撮った写真を持ってきて、そこにという例も今では決して珍しくない。

マニアックなファンの中にはレース中に使ったバイザーや、クラッシュして使えなくなったフェンダーをわざわざ持ってきたり、クルマから給油カバーとかリトラクタブルヘッドライト（カバー）を取り外して持参するケースもここ最近増えている感じ。自分のサインなのではなはだ恐縮ではあるけれど、再利用を考えると、かなり効果的な手法だよね。

でもやっぱり極めつけは生身の人間に直接サインしてしまったことかな。あれは北海道の女性ファンだったと思うけど、頬を突き出して「ここにお願いね！」だって。本当にサインしてしまっていいのか悩んだよ。

そう、女性の場合、けっこう大胆な人もいて、年に何回かは胸にサインすることがある。悪のりついでに暴露してしまうと名古屋のクラブでは女性のパンツに書いたこともあったなぁ。もちろん本人が実際に履いているやつだよ。あの芸当は酒の席でもなければちょっとできないね。という感じで、今回はレースの話は一切なし。結果についてはR'on196号に載っているので参考に！

結果はリタイアと12位。こんなとこ走ってると全然疲れない!?



今度は鈴鹿1000kmの 女性ヘルパー募集!

あなたもヘルパーとしてチーム国光に参加してみませんか？応募は希望レース名と氏名、年齢、職業、住所、電話番号（自宅とできれば勤務先など昼間の連絡先）を明記の上、応募動機を400字以内で書いて、編集部「チーム国光スタッフ募集」係に写真同封で郵送してください。締め切りは8月14日です。サーキットに自分で来ることができる女性に限ります。

SPONSOR

Clarion®

GT-Rとともに広げたいカーマルチメディアの世界

レース・で・プロモーション

5年ぶりにニッサンがル・マン24時間レースに帰ってきた。ニスモとしてはGTカーでの初挑戦となったこのレースは、今年からGTカーがメインとなり、新しいル・マンの幕開けともいえた。

6月17～18日に行われたこのル・マン24時間レースに、ニスモは星野一義、鈴木利男、影山正彦という、日本を代表するトップドライバーたちと共に、1月に発表されたばかりのスカイラインR33GT-R LMを持ち込んだ。

壮行会の席上、ニスモチーム監督の水野和敏氏は「今回で結果を出すのではなく、2年後に勝つために3年計画のつもりで行ってきます」と語っていた。

午後4時、ル・マン24時間レースがスタートした。順調に周回を続けるGT-R。一度ミッション交換をした後、長い夜が明けたころには、星野たちのドライブする23号車は、総合5位にまで浮上。このまま行けば……と思わせたが、158周目、星野は静かにGT-Rをコース脇に止めた。

このニスモGT-R LMの23号車をサポートしていたのが、カーオーディオはもちろん、最近はナビシステムなどのカーマルチメディアでもおなじみのクラリオンだ。

「CAR AUDIO&BEYOND」を世界統一コンセプトに、車内のマルチメディア化にいち早く対応して来たクラリオンは、今回のGT-Rのサポートについて、

「これまで、国内ではモータースポーツのスポンサードはほとんどしていませんでしたが、今年初めて市販カーオーディオの世界統一モデルを発表し、広告キャンペーンの一環として、ご協力させていただきました。社内の盛り上がりもすごくて、カラーリングデザインも社員たちが考えたりして、みんなで応援させていただきました」と説明している。

「国内での盛り上がりにとどまらず、ヨーロッパでの取引先とのコミュニケーションの向上にもつながりました。さすがにル・マン、国際レースの一大イベントという雰囲気を味わせていただきました」というが、今後はモータースポーツにどうかかわっていくのだろう。

「残念ながら今回のル・マンではリタイアとなりましたが、次につながる走りを見せていただきました。やるからには、水野さんのおっしゃる3年計画にずっとおつきあいしたいと考えています」

「GT-RとともにカーマルチメディアのGT-Rの勇姿が、今から待ち遠しくなってきた。

●

商号：クラリオン株式会社
所在地：東京都渋谷区渋谷2-22-3
設立年：1940年
従業員数：2236名
主要製品：カーマルチメディア（ラジオ、スピーカー、テレビ、DAT、CD、TV、ナビゲーション、テレホン）、カラオケ機器、バス用AV機器、無線機器

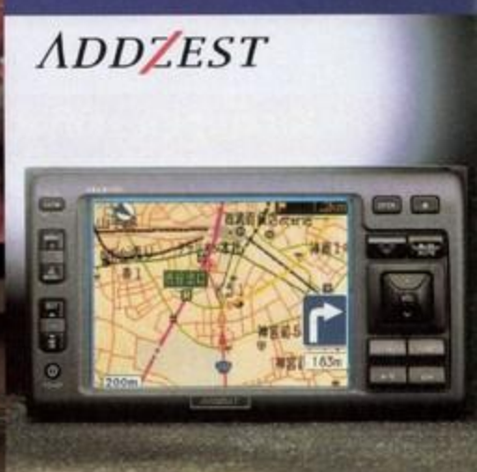
タッチパネルでAVC集中コントロール可能なAVセンター「VAX9150」。CD、MD、ナビシステムなどのコントロール、およびTV／AM／FMチューナー付きのLCDデッキだ（価格21万円）











PHONE ORDER
☎0471-25-5536 ラ・アンスポーツ
☎0593-79-1155 GPコレクション



○BIB マグカップII ¥1.650

○BIBキャラクター ライター ¥1.300

○チャンピオンCAP ¥3.900





○BIB ヴインテージキーホルダー ¥3.900

○マスコットBIB トラックミラー用 ¥2.500
全長20cm。こちらはミラーに取り付ける専用BIB。台座ステー付

BIBアッシュトレイII ¥2.400○





○レースツアーTシャツ ¥1.900

○マスコットBIBカミオン ¥6.600
全長45cm。世界で人気のバニング・トラッククングなどのマスコットアイテム。バンパー等に取り付けるための台座ステー付。

○BIBペンダントヘッド ¥9.800
○BIBブレスレット ¥7.000
○BIB イアリング ¥5.900



○スポーツタオル ¥2.200



○BIBエンブレム ¥1.200





デコレーションBIBII ○ ¥2.500

○OZアプリケーションステッカー ¥800



○再生鉛筆 ¥250

○タイヤ再生消しゴム ¥200



ミシュランBOOK○ ¥5.800

○フェイスタオル ¥1.200

○BIBステッカー ¥400

○BIBキーホルダー ¥650



○Tシャツ ¥4.200
○ナップサック ¥1.980



○クリスタルBIB ¥4.500



○ステーショナリーセット ¥2.400

○BP缶アッシュトレイ ¥500
○カストロール アッシュトレイ ¥380
○elfアッシュトレイ& BANK BOX ¥1.800

○BPサングラス ¥3.800



○BPドロップ飴 ¥500

○BPライター ¥300

○BP ZIPPOライター ¥5.800
○BP 4色ボールペン ¥500
○BP キーホルダー ¥500





○elf キーホルダー ¥1.500
○Agipキーホルダー ¥1.000
○カストロール・キーホルダー ¥400

○BPステッカー ¥200



○BP CAP ¥3.000
○バルボリン CAP ¥3.000
○elf CAP ¥3.200
○カストロール CAP ¥3.000



○DTM Tシャツ
マルティニ アルファロメオ ¥3.800
アルファコルセ ¥3.800
メルセデス CクラスD2 ¥3.800
オペルカリブラ ¥3.800





○O.Z CAP ¥2.500
○O.Z Tシャツ ¥2.900





○SONAX CAP
Black ¥3.500/ White ¥3.500
○P.M.A TABAC AMG
1/18 scale ¥8.000



○O.Z キルティングベスト ¥11.800

○VIDEO ¥1.980~



○BTCC Tシャツ
プロドライブ アルファロメオ ¥3.500
BMWシュニッツアー ¥3.500
ボルボB50 ¥3.500
オペルベクトラ ¥3.500
フォードモンデオ ¥3.500



○Gulf Tシャツ ¥3.800



○PIN'S ¥1.200~¥1.500



○Gulf CAP ¥3.000
○Gulf Tシャツ ¥3.800

MAILORDER SERVICE TEL0593-79-1155 下記の中からお支払い方法をお選びください。



GP COLLECTION

〒513 三重県鈴鹿市住吉町6770-31
鈴鹿サーキット前
通販ダイヤル 0593-79-1155
FAX0593-79-1667 火曜日定休日

●各種クレジットカードも取り扱っております。但し1回のご注文が10,000円以上の場合に限ります。

◆代引き着払いキャッシュオンデリバリー**の場合**

一回のご注文が3,000円未満にはご利用できません。配達日をお客様に確認の上お届け致します。その際に、商品代金+消費税3%+送料と代引き手数料(3万円未満で1500)(3万円以上10万円未満で¥800)(10万円以上30万円未満で¥1,500)を配達人にお支払いください。

◆現金書留の場合

電話で商品在庫と商品代金+消費税3%+送料をスタッフに確認してください。商品名を書いたメモ用紙と代金を現金書留封筒でお送りください。

先着200様 A.SENNA POSTER PRESENT

◆プレゼント引換券
8月12,13日は富士スピードウェイにて出店しています。このプレゼント引換券をお持ちの方、先着200名にセナ・ポスタープレゼントいたします。

GP COLLECTION

PHONE ORDER
☎0593-79-1155 GPコレクション
☎0471-25-5536 ラ・アンスポーツ

REPSOL



レプソールCAP ¥3,000
レプソールTシャツ ¥3,000
サイズ：フリー



各種OIL日本初上陸！

PRO DRIVE by 555 SUBARU



'95ワークスコート
サイズ：S・M・L（チーム用）
（起毛編） ¥48,000



'95ワークスブルゾン
サイズ：M・L（チーム用）
（起毛編） ¥39,000

MARTINI



マルティニレーシングブルゾン
カラー：ホワイト
サイズ：フリー ¥13,800

PIRELLI
チャンピオン！



ピレリーCAP ¥3,000
ピレリーイラストTシャツ
サイズ：フリー
カラー：インプレッサ ¥3,000







STI ポロシャツ
STI T-シャツ

'95ワークスCAP
サイズ：フリー
（チーム用） ¥3,800



'95ワークスニットCAP
サイズ：フリー（チーム用）
¥4,500



マルティニポロシャツ
カラー：ロイヤルブルー
サイズ：フリー ¥6,800



マルティニレーシング反射（胸部） ¥1,800



マルティニTシャツ
サイズ：フリー ¥3,000

マルティニCAP ¥3,000

BILSTEIN



ビルシュタインCAP ¥3,800
ビルシュタインTシャツ
サイズ：フリー ¥2,900





ÖHLINS スウェーデン ラリーサンシェード（日よけ） ¥1,500
ロゴTシャツ、CAP、メカニカルTシャツ、入荷！

TOYOTA TEAM EUROPE

TTEワンポイントポロシャツ
サイズ：M・L ¥5,900



TTE切替ポロシャツ
サイズ：M・L ¥6,200



輸入限定品！

メモリアルCAP & スポンサードCAP 各¥3,800
メモリアルTシャツ & スポンサードTシャツ 各¥4,800

sparco ITALY



デニムパンツ
サイズ：28・30・32・34・36インチ ¥8,800
T-シャツ、CAP有ります。



マルティニレーシングパッド
カラー：ホワイト
スパルコパッド ¥3,800
カラー：ブルー・ブラック・レッド



モモコルセシート
カーボン ¥98,000
FRP ¥78,000

ロールバーパッド
1m x 2本セット ¥9,800
その他、レーシングシューズ、ヘルメット、ステアリング、シートベルト有ります。



OZレーシングメカニックスーツ
サイズ：M・L ¥13,800
シンプソングランドFXシューズ
サイズ：25.0~27.5cm
カラー：ブラック ¥15,000
アディダスシューズ
サイズ：25.0~27.5cm
カラー：レッド・ブルー ¥16,000
アドバンシューズ
サイズ：22.0~27.0cm
カラー：ブラック ¥12,000



TTEロゴTシャツ
サイズ：フリー ¥2,900

TTEセリカ205Tシャツ
サイズ：フリー ¥3,200



ステッカー各種 ¥600~
OZバンパー用ワークスステッカー入荷



ワークスワッペン各種 ¥1,000~



キーホルダー ¥500~
ピンズ ¥1,000~



●カディングシート製作致しますあなたもラリーバージョンしてみませんか？
オーダーメイド製作致します。



ピレリーインプレッサチャンピオンポスター ¥1,800
ピレリーセリカ ツールドコルスチャンピオンポスター その他有ります。
（発送、梱包料 ¥500）

MAIL ORDER SERVICE ☎0471(25)5536 下記の中からお支払い方法を選びお申し込み下さい。

◆代引き着払い（キャッシュオンデリバリー）の場合

一回のご注文が3,000円未満にはご利用出来ません。
配達日をお客様に確認の上お届け致します。
その際に、商品代金＋合計消費税＋送料と代引き手数料（3万円未満で¥500）（3万円以上10万円未満で¥800）（10万円以上30万円未満で¥1,500）を配達人にお支払い下さい。

◆現金書留の場合

電話で、商品在庫と商品代金＋消費税(3%)＋送料をスタッフに確認して下さい。
商品名を書いたメモ用紙と代金を現金書留封筒でお送り下さい。

◆クレジットカード御利用の場合

一回のご注文が1万円以上の場合に御利用出来ます
DC・VISA・JCB・UCカードの一括払いのみです。
FAX又は葉書にて住所、氏名、TEL、カードの種類と番号、有効期限をご記入の上、お送り下さい。

DC VISA JCB UC KC こちらのカードが御利用になれます。

INFORMATION
8月12・13日は
富士スピードウェイに
出店しています！
手にとって見てネ！



●ストリートライフの商品も全て取り扱っております。
取付けも致します。
ストリートライフ'95 NEWカタログ入荷！
お問い合わせ下さい。



●ラリーカー用品何でもお電話下さい。
☎0471-24-9199
色々安いですヨ！



スナップオン製工スペアーキーホルダー各色 ¥3,500
ZIPPOポリッシュ ¥4,800 Tシャツ ¥2,800~
エッジング ¥4,500 CAP ¥2,500~

CAR SHOP&GOODS SHOP
l'aun sport
ラ・アンスポーツ店
〒278 千葉県野田市中野台鹿島町 11-13
TEL/FAX. 0471-25-5536
水曜日定休



大駐車場完備！安心して車でご来店ください。

WHAT'S UP?

TOPICS FROM AROUND THE WORLD

世界中からニュース、トピックス、よもやま話をどうぞ！



レーシングオンカートGPでのナカジと正美センシュの行動とは？

7月15日に開催されたレーシングオンカートGP。大盛況のうちに終わったんだけど、参加者の目に触れないところでは無法状態。影山正美センシュは幼稚園児をナンパしてるし、編集長ナカジはあいさつ中に立ったまま寝るしで、既に次回の開催が危ぶまれている（？）というもっぱらのウワサだ。



こんな会話を交わしたかどうか知らないが、遠足に来ていた幼稚園児をら致！



いつでも愛想がいいのがトム・クリのいいとこ。暑い中お疲れさんでした

これがＺＡＰＴセリカ。派手めな外観にＮ１なみの走りだ

セルモが仕上げた新ブランド、ZAPT登場！

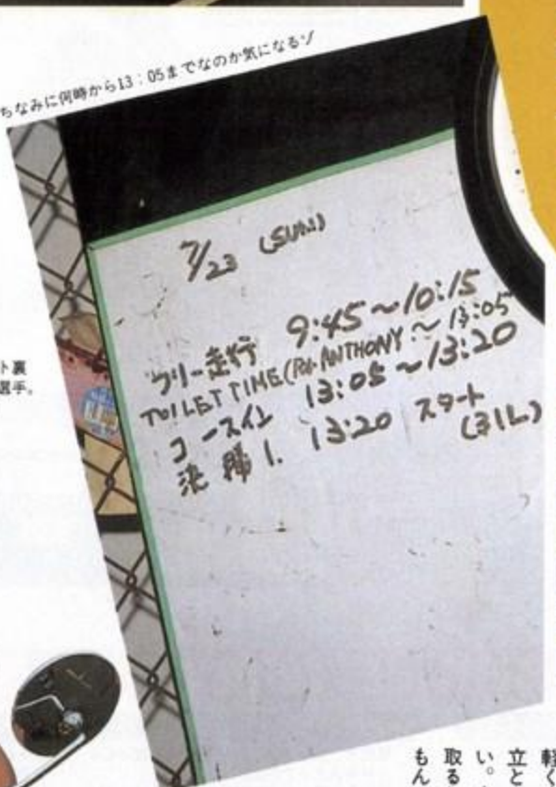
セルモのＧＴスープラやＪＴＣＣエクシヴについてるＺＡＰＴのロゴマークに気づいてた？　実はこれ、チューニングカーの新ブランド。セルモのノウハウが生かされてるってのが大きなウリだ。ＮＡマシンで「ノーマルのセリカＧＴ-ＦＯＵＲをぶち抜いたる！」って気合い入れて作って筑波で１分８秒台ですと。これ、真剣に速いクルマです。





トム・クリの同乗走行で筑波を攻める

誰がなんといおうとトイレは13:05まで！



ちなみに何時から13：05までなのか気になる！

HKSの恐怖の戒律がＭＩＮＥのＪＴＣＣでの本誌強制取材で発覚。なんと、ＨＫＳではドライバーのトイレタイムまでキビシク管理していた！　なんでも13：05のコースイン直前にＡ・レイド選手に強制的にトイレに行かせ、体を軽くすることで、重量的に優位に立とうというのが狙い（？）らしい。当のレイド選手は「ポールを取ると緊張してトイレが近くなるもんで……」と釈明している。

ジャックススクーターは由良印で800馬力!?



このスクーターでピット裏を走っていたハットリ選手。ところで製作者は誰？

おなじく、ＭＩＮＥのＪＴＣＣでは、ハットリセンシュがジャックスカラーのスクーターでピット裏を走りまわっていた。そのライトにはファンキーな写真が。おおっ、なんと由良拓也監督じゃありませんか！　行く先々で「へんなもん乗るんじゃない」とどつき倒されていたハットリセンシュ。ぜひレースカーにも貼ってほしいゾ。

Photos/Hiroaki Matsumoto, Kenji Sawada, Yuki Sawada, Racing On

WHAT'S UP?

TOPICS FROM AROUND THE WORLD

右京、お遊び大会で大口に惨敗

イギリスGPの予選前、ヤマハが主催するお遊びバーベキュー大会が行われた。クレー射撃にラジコン、PK合戦にトライアルバイクとなんでもアリのお遊び付きだったが、射撃とラジコンレースではサロの勝ち。PK合戦は引き分けに終わった。残るトライアルバイクの勝敗は不明だ。しかし、右京は足が地面に届かなかった、という未確認情報もあるため、詳しい裏付けを急いでいる。





ケンおじさんも一緒にクレー射撃。う〜ん、息がピッタリと合った、いいチームだよね



ホントはちゃんと足がついて楽しめた右京

秘スクープ!? 関谷正徳、来年は純国産マシンでル・マン？

このところ、レース関係者のあいだで、ひそかな話題となっている一枚のリリースがある。この「トヨタモータースポーツニュース」がそれ。まずは、じっくり読んどくれ。ね？　なんかヘンでしょ？それもそのはず、このニュースは関谷正徳センシュのル・マン祝勝パーティーで配られたもので、いわばジョーク。当然「文責：一切なし」。しかし、これを作ったヒトがなかなかのセンスの持ち主と見たナカジは、真剣に編集部員おさるとけいすけとの2対1でのトレードを考えているらしい。

ご参考

トヨタモータースポーツニュース　㈱スクープ！　平成7年7月18日　トヨタ自動車㈱広報部

王者　関谷正徳　鈴々2連覇へ

96年ル・マン24時間レースに純国産マシンで出場

今年のル・マン24時間レースで、日本人初優勝という栄冠を勝ち取ったトヨタチームトムスのエースドライバー関谷正徳の来年度の出場態勢が決定された。

昨年のトヨタ94CVでの2位、そして、今年の“Mc Laren F1-GTR”での優勝と、文字通り王道をいく関谷正徳だが、たっての願いでもある純国産マシンでの世界制覇への執念が、今年、“栄光のチェッカー”を受けた瞬間に頂点へ・・・。

トヨタ自動車（株）は、その熱望に応えるべく、総力を結集して、96年ル・マン24時間レース用に新たにマシンを開発、関谷正徳とともに純国産マシンでの世界制覇を目指すことを決定した。

そのマシン名は、“MAKE RA－RENTOYOTA96”。

深いベールに包まれたトヨタ東富士研究所内の不夜城、常に世界制覇を目指すモータースポーツ部が英知を集結してエンジンを開発。苦戦をものともせずにWRC3連覇へ賭ける情熱が、驚異のル・マン用エンジンを作り上げた。

GTカテゴリーで戦われるル・マン24時間レースに対応するボディは、何と、あのフェラーリも、“まっ青”の超空力ボディ。真紅のフェラーリ・レッドならぬトヨタ・レッドでの登場となる。

もちろんトヨタチームトムスからのエントリーとなるが、世界制覇への采配を振るうのは、言わずと知れたトムスの鈴信秀監督。「例年通り、金も出さんが、口も出さん」と、今年のル・マン勝利後の記者会見で　関谷正徳が「マクラーレンの凄いところは、すべてドライバー任せ。ピットからのタイムサインも出ない…」とコメントしたのを受けて自信をのぞかせる。

なお、日本を代表するジャーナリスト集団「日本モータースポーツ記者会」では、ル・マンでの栄誉をたたえて、関谷正徳の“モータースポーツの殿堂”入りを決定した。

しかし、関谷正徳は、「オレは、まだ45才。まだまだ現役。今年はJTCCで2年連続優勝、JGTCもチャンピオンを獲得して3冠王だ・・・」と意気盛んでこれを拒否。

どうやら　関谷正徳の快進撃は、とどまることを知らない模様。

文責：一切なし

お問い合わせ：トヨタ自動車（株）広報部　有志一同

さすらいの子供好き 正美センシご乱心か

レーシングオンカートGPの3日後に行われた、関谷センシュの祝勝パーティーで、またもや性懲りもなく、年端もいかぬ女の子に声を掛けている影山正美センシュを発見。しかし今度のお相手はなんと関谷さんちのモモコちゃん。当然関谷さんがこれを見逃すハズもなく、その後はモモコちゃんの手を離さなかったようだ。ああ、影山正美センシュに愛の手を！



「絶対に娘はやらん！」と力強く宣言する（？）関谷センシュ



ここでも女の子に声を掛ける正美センシュ

プロとバトれっ!

レーシングオンのカート大会は大盛り上がりだ!!

もう説明の必要がないほど身近になった感のあるカート全国各地に常設の初心者向けのカートコースが増えているが、いざ「乗ろう」と思っても、やっぱり尻込みしてしまうものそんなカート未体験の人たちにぜひ参加してほしいのが、このレーシングオンカートGPこのイベントの第1戦のもようをここで紹介しちゃおう!きっと君も参加したくなることウケアイだぞっ!!

というワケで、7月15日に行われたレーシングオンカートグランプリ・ラウンド1。当日集まったのは120人の参加者たちとその応援団。ゲストの4人のプロドライバーを迎え、戦いの火ぶたは切って落とされた。

そうはいってもほとんどの参加者がカート初体験。主催者も参加者もおっかなびっくりというのが、正直な始まりだった。しかし、レースが始まればみんな真剣そのもので、コースのあちこちでバトルが見られた。やっぱりカートは参加するモータースポーツだね!

Racing on
KART GRAND PRIX
Round 1





カート初心者だってプロドライバーとバトル!

舞台となった多摩テックのカートランドは全長約320m、大小8つのコーナーが設定されていて、1周だいたい30秒くらいのテクニカルコース。

使用されるカートは無限のプレイングカート。本格的なフレームにスクーターのエンジンを搭載、遠心クラッチ付きだからスピンをしてもエンストの心配もないし、当然面倒な押しがけもいらないから女の子も楽勝だ。

競技方法は、参加者を5、6人のチームに分け、そこにゲストのプロドライバーも加わっての40分の耐久レースを行う。その上位入賞チームが決勝耐久レースに駒を進めるというもの。

最初は緊張ぎみだった参加者も、いざレースがスタートすると、みんな我を忘れて自分のチームの応援に大忙し。自分の番が回ってきて、ステアリングを握った途端、皆一様に目つきはギラギラ。本物のキャンギャルまで来てくれたもんだから、気分はF1ドライバーって感じだ。あまりにも熱くなり過ぎてクラッシュもあったけど、大したケガ人もなく、みんなが十分カートを堪能したようだった。

参加者に一番おもしろかったところを聞いてみたら、みんなが口をそろえて「プロとバトルできる!」だって。



レースを盛り上げてくれたキャンギャルはこのふたり。左が黒柳晶子チャン(20)。右が木村美紀子チャン(20)だ!晶子チャンは、F3の穴吹レーシングチームの本物のレースクイーン。美紀子チャンも今後レースクイーンをやっていきたいそうだから、みんな応援してあげてくれい!



インを突かれる中野選手。けっこうプロもタジタジ!?



チェッカーを受けてガッツポーズだ!

いったいどんなイベントなの?

レースの舞台は多摩テックだ



多摩テックは鈴鹿サーキット系列の遊園地。通常はこのコース4周で1200円だけど、会員は800円で走行できる。7月22日にはワイルドリバーアドベンチャーもオープン(東京都日野市程久保5-22-1☎0425-91-0820)

当日のレースの前に、ラマーレ・レーシングガレージ(神奈川県横浜市青葉区美しが丘西1-9-20☎045-901-0789)の協力で、カートレースで使用されるストッククラスのマシンによるデモランも行われた



ストックのデモランもあるゾ!

Photos/Yuki Sawada 協力/㈱多摩テック、ラマーレ・レーシングガレージ、㈱アクセルインターナショナルエージェンシー、賞品提供/ワールド通商㈱、㈱無限、企画運営/㈱クラッチワーク



ロドライバーとバトルしたこと！」と答えてくれた。やはり、プロドライバーとまったく同じマシンに乗ってのバトルは、普通は体験できないことだけに、参加者のほとんどが感激していたようだ。

空き時間には、チャリティーサイン会もあって、ファンとドライバーがカートで半日一緒に遊ぶ、といった感じのイベントはそうめったにあるもんじゃないし、おまけに4000円（多摩テック入場料、保険料込み）という参加費の安さもウレシイ、レーシングオンカートGP。日程は未定だけど、今後も開催していく予定だから、次は君もぜひ参加してほしい。もちろん仲間もさそって、ね！

参加者の声を聞いてみよう







「もっと練習しておけば良かった。くやしい！」という上岡礼子さん（26）：左と、「けっこう力がいるので肩がガクガクになっちゃった」という町野美代子さん（22）：右はふたりとも「おもしろ〜い！」を連発していた

「昔、F100でレースをやってたんですが、情けないことに疲れて腕があがっちゃいました」という平田浩一さん（34）は一家で応援。奥さんも「今日はちょっと惚れ直しました」。「次もぜひ参加したいですね」と気合の入る平田さんでした

彼女連れで参加の住友芳行さん（22）は「ここは会員なんでよく走るんですが、やっぱりプロは速いですね〜。さすが、ってかんじで感動しました」という。彼女の保坂智子さんも「何度見てもスゴイですね」と話してくれた

優勝チームには豪華賞品が！



見事優勝したのは高橋毅、吉野、国府田、五十嵐、今村チームだ！

読者プレゼント

なんと優勝賞品を高橋毅選手から読者にプレゼント!!

今回優勝した高橋毅選手から、「参加できなかった読者にあげてください」と、優勝賞品の無限のキャップとTAGホイヤーの腕時計をプレゼントだ！　欲しい人は下記までハガキで応募してね。

〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7
レーシングオン編集部
「毅クンのプレゼント」係



ゲストは超豪華！ 一流ドライバーだぜ!!



特別ゲストとして、参加者と一緒にレースに参加してくれたのは左から影山正美、中野信治、古谷直広、高橋毅の4選手。デモラン、サイン会と大忙しだったけど、本当にごくろうさまでした。また遊びましょうね！

敗者復活はジャンケンで！



7、8台による予選レースで残念ながら予選落ちしてしまったチームの中から、中野選手とのジャンケンで勝ち残った1チームが敗者復活で決勝レースに進むことができた。みんな必死で（!）ジャンケンしていた

速報 EXPRESS

●全日本F3選手権第7戦●SUGO INTER FORMULA●7月30日(予選29日)／スポーツランドSUGO
●主催:VICIC、奥州VICIC、SSC●天候:晴れ●観客:4万800人

デ・ラ・ローサ圧勝 3戦残しタイトル奪取

本山、道上ともに届かず デ・ラ・ローサが王座に

これまでの5戦で4勝を挙げ、デ・ラ・ローサがチャンピオンに王手をかけていた第7戦
ここ菅生でも完璧なレース運びと勝利への執念でデ・ラ・ローサが優勝
追う立場の日本勢は道上3位、本山5位となり
全日本F3選手権タイトルは91年から5年連続で外国勢に奪われた

Text/Naotsugu Mihori, Photos/Akira Kuroda, Hiroshige Satta

シリーズ第7戦を終了し、ペドロ・デ・ラ・ローサがチャンピオンを決めた。来日初戦の鈴鹿で優勝したデ・ラ・ローサは、続く筑波では本山哲の優勝によって2位となり、今シーズンのタイトル争いは面白い展開になるかと思われた。だが、そこからの4戦はすべてデ・ラ・ローサが優勝。結局、他のドライバーにつけ入るスキを与えなかったのであった。

「日本に来るということを決めた時、それまでヨーロッパでやってきたことをすべて捨ててくる気持ちでいたので、今日は思い出深い日になった」と、デ・ラ・ローサは言う。

そして、その優勝への執念が、例えば筑波での本山との激しい戦いに現われたのだろう。その時点では、まだチャンピオンシップの行方は予測がつかない状況だった。デ・ラ・ローサにしてみれば、そう簡単に他のドライバーに敗れるわけにはいかない。そのプレイに対して私は厳しい意見を記事にしたが、一方でその背水の陣の姿勢は、日本人ドライバーにはなかなか感じにくいものであったことも確かだ。そして最終的に、デ・ラ・ローサのチャンピオンへの執念に打ち勝てるドライバーは現われなかったのである。

また、デ・ラ・ローサのドライビングをしっかりバックアップしたトムスの力も忘れることはできない。かつてパウロ・カルカスチ、そしてトム・クリステンセン、ミハエル・クルムなど、トムスが選んだドライバーたちは、ことごとく成果を残した。ジャック・ビルヌーブもアメリカでは堂々たるインディカードライバーへと成長している。ドライバーの素質に加え、その才能を育て、バックアップするトムスの実力がここで再度注目されることになるだろう。

シリーズはわずか5分で決まった

この週末の戦いは、予選1回目のわずか5分で決したといえる。朝の段階から既に気温は31℃と高く、また路面温度も上がった状況で、予選開始から走行を始めるマシンは少なかった。そして、Jクラスのマシンが先にタ

まさに独壇場ともいえるポールtoフィニッシュで今季5勝目を挙げ、95年全日本F3チャンピオンとなったデ・ラ・ローサ。終盤にはマシンをいたわる余裕の勝利だった





「大丈夫、勝ちますよ」と語った本山だったが、木曜の練習中からの不振を最後まで解消しきれず、5位に沈んだ



圧倒的な強さでシリーズを制したデ・ラ・ローサ

イムアタックを行い、全日本選手権クラスのドライバーたちは最後の10分に勝負を賭けた。さらに、デ・ラ・ローサはラスト5分となってようやくコースに姿を現す。そして実にスムーズな走りで最初に1分22秒台を出すと、さらに最終ラップに1分22秒808までタイムを縮めた。

デ・ラ・ローサに唯一迫るタイムを出したのは道上龍だった。デ・ラ・ローサが22秒台へ入れたすぐ後、これを上回る22秒964を出したのである。結局デ・ラ・ローサが最終ラップの走りでこれを逆転するのだが、レースの緊張感を道上の予選の走りが保ったのである。その道上だが、実は金曜日に最終コーナーでクラッシュしており、マシンはカーボンモノコックを破損して使い物にならなくなっていた。そのため急きょ横林直樹のモノコックに道上のマシンのパーツを移植し、予選に臨むことになったのである。だが、それが道上にとっては好結果をもたらした。

これまで今シーズン、道上は3位が3回と4位が1回で、優勝戦線に今一歩絡めずにいた。その状況をいろいろ私に話してくれていたのだが、どうも納得のいかない話し振りであった。その原因が今回解明できたのである。横林のモノコックにパーツを移植したマシンに乗ってみると、いきなり2秒近くラップタイムが向上したと言うのだ。いままでオーバーステアだったセッティングが弱アンダーステアとなり、コーナーの立ち上がりでアクセルを踏めるようになったという。要は、ここまで道上が使ってきたモノコックは何らかの欠陥があったのだろう。しかし、まさかレーシングカーの根幹を成すモノコックが問題を抱えているとは誰も思わなかった。

いずれにしても、これで道上龍は本来の力を発揮できるようになったのである。2回目の予選では「自分が仕掛けなければデ・ラ・ローサを動かすことはできないだろう」と、予選時間終盤にタイムアタックを行った。結果的にタイムアップはできなかったが、そういう気持ちのゆとりが道上の中に生まれたのだ。

決勝はデ・ラ・ローサの独壇場に

チャンピオン争いでデ・ラ・ローサを追う立場にある本山は、今回全く精彩を欠いてしまった。木曜日から思うようにマシンが走らない。それが結局決勝日まで続いてしまったのである。「ちょっとアンダーだとかオーバーだというようなレベルではない」と、本山の表情は沈みっぱなし。決勝レースのスタートで予選9位からジャンプアップし5番手を得たが、そのポジションを守るだけで精いっぱいだった。

決勝レースのスタート。フロントロウの道上は、スタートを失敗した。そして予選3位の加藤寛規が2番手に着ける。トップは、ポールポジションからスタートしたデ・ラ・ローサだ。デ・ラ・ローサは、1周しないうちに大量リードを築いた。「最初の数周は本当に真剣に走ったよ」とデ・ラ・ローサ。しかし、その後もとくにペースを落とすでもなく、ただひたすらゴールを目指し、何の問題もなくぶっちぎりのレースを走ったのである。デ・ラ・ローサは、チャンピオン獲得を自らのポールtoウインで飾ったのであった。

スタートで出遅れた道上は、なんとか前の加藤を抜こうとした。しかし、追い越しのポイントとなるストレート区間手前のコーナー、最終コーナーとレインボーコーナーでアンダーステアが出て、立ち上がり加速にうまく乗れなかったと言う。加藤は、2〜3速のシフトチェンジが硬く、最初は道上が後ろにいることさえ気が付かないほど慎重なシフトチェンジに気持ちを奪われていた。それぞれに問題を抱えたふたりが、順位を入れ替えることなくゴールを迎えた。

デ・ラ・ローサは、F3000を目指し、この後も自らをアピールすべく勝ちを狙い続けると言う。彼にそうさせてしまうことのないレースを戦いたいと、他のすべてのドライバーは今日、心に誓ったはずだ。（御堀直嗣）



スタートで道上をかわし、第4戦美祢以来の表彰台に立った加藤

POINT STANDING

1	ペドロ・デ・ラ・ローサ	51点
2	本山　哲	33点
3	道上　龍	21点
4	加藤　寛規	17点
5	フィリップ・ベーター	14点
6	早田　岳史	6点
7	脇坂　寿一	3点
7	横林　直樹	3点
9	立川　祐路	2点
9	川本　篤	2点

POINT STANDING／J CLASS

1	西宮　圭一	36点
2	浅見　武	23点
3	土屋　武士	20点
4	鎌宮　正	7点
4	井出　有治	7点
6	歌川　拓	6点
7	田中　勝喜	4点
8	重富　英和	3点
8	谷川　達也	3点
8	小泉　和寛	3点
8	ディランタ・マラガムワ	3点
8	浅井　亮博	3点



RESULT／Round 7

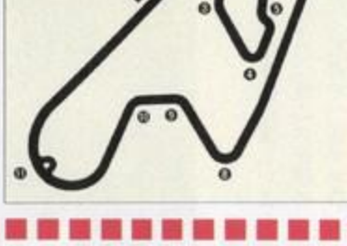
●3.704256km×25周＝92.6064km　予選出走18台・決勝出走17台・完走14台

						ベストラップ	予選順位／1回目・2回目
1		⑦P. デ・ラ・ローサ	TOM'S ダラーラF395	ダッラーラF395・トヨタ	25周	35'16"318	1'23"337	1／1'22"808 ◁——
2		㉓加藤　寛規	THE・NEXT・ONE	ダッラーラF395・無限	25周	35'17"162	1'23"844	3／1'23"362 ▷ 1'23"023
3		㊱道上　龍	ダイイチF395 TOM'S	ダッラーラF395・トヨタ	25周	35'17"618	1'23"642	2／1'22"964 ◁ 1'23"203
4		③P. ベーター	TOMEI SPORT OPEL	ダッラーラF395・オペル	25周	35'18"638	1'23"800	4／1'23"616 ▷ 1'23"192
5		⑥本山　哲	ダラーラ395 無限	ダッラーラF395・無限	25周	35'23"375	1'23"741	9／1'24"034 ▷ 1'23"978
6		㉕早田　岳史	TOM'S ダラーラF395	ダッラーラF395・トヨタ	25周	35'23"558	1'23"668	5／1'23"378 ▷ 1'23"212
7	J-1	④西宮　圭一	TOMEI SPORT OPEL	ダッラーラF393・オペル	25周	35'30"152	1'24"295	7／1'23"756 ◁ 1'23"769
8		㉙立川　祐路	MORISAWAレーシング 395	ダッラーラF395・トヨタ	25周	35'30"702	1'24"171	8／1'23"770 ◁ 1'23"809
9		㊲川本　篤	ASAHI KIKO F395	ダッラーラF395・トヨタ	25周	35'54"424	1'24"489	12／1'24"438 ◁ 1'24"656
10	J-2	㉜浅見　武	イエローハットダラーラ393	ダッラーラF393・無限	25周	35'58"360	1'25"039	14／1'24"897 ▷ 1'24"875
11	J-3	㉞歌川　拓	三菱鉛筆石油ダラーラF393	ダッラーラF393・トヨタ	25周	36'35"186	1'25"018	13／1'24"777 ◁ 1'25"071
12		㉛大西太一郎	TOKYO NEWS ダラーラ	ダッラーラF395・HKS	25周	26'35"360	1'24"906	11／1'24"558 ▷ 1'24"427
13		②脇坂　寿一	ASSO DALLARA 無限	ダッラーラF395・無限	24周	36'17"097	1'23"468	6／1'23"995 ▷ 1'23"696
14	J-4	⑭D. マラガムワ	チーム スリランカ F393	ダッラーラF393・無限	24周	36'21"430	1'29"375	18／1'28"504 ◁ 1'29"447
	J	⑤浅井　亮博	TOMEI SPORT OPEL	ダッラーラF394・オペル	14周	コースアウト	1'27"104	16／1'25"995 ▷ 1'25"027
	J	㉚伊藤　勝一	エアロピート394エンドレス	ダッラーラF394・フィアット	6周	コースアウト	1'26"748	15／1'24"876 ◁ 1'25"309
	J	㉛谷川　達也	ALEXEL・F394	ダッラーラF394・トヨタ	5周	コースアウト	1'25"811	10／1'30"949 ▷ 1'24"379
	J	㉞鎌宮　正	アイチ 製菌アルファBSS394	ダッラーラF394・無限		出走せず		17／1'26"605 ◁ 1'28"010
	J	㉝井出　有治	boutiqueZ2 F393	ダッラーラF393・無限		出走せず		
		㉜宮本　新	ダイイチF395 TOM'S	ダッラーラF395・トヨタ		出走せず		

・優勝スピード：157.530km／h
・最速ラップ：P・デ・ラ・ローサ（TOM'S・トヨタ）1'23"377　160.017km/h　11周目
・ラップリーダー：1〜25＝P・デ・ラ・ローサ
※NEXT ROUND：9月3日　FUJI INTER

スポーツランドSUGO
全長 3.704256km

❶1コーナー
❷2コーナー
❸3コーナー
❹ヘアピン
❺S字コーナー
❻ハイポイントコーナー
❼レインボーコーナー
❽馬の背コーナー
❾SPインコーナー
❿SPアウトコーナー
⓫最終コーナー



速報 EXPRESS

●全日本F3000第5戦●SUGO INTER FORMULA●7月29～30日●スポーツランド菅生
●主催：VICIC、奥州VICIC、SUGOスポーツクラブ●天候：晴れ●観客：4万800人

高木虎之介、初優勝！若手3人が表彰台独占

若手台頭で俄然面白くなってきたF3000


とても新鮮な3人の組み合わせ。スタンドからはこの3人に温かい拍手が送られた

まさにエキサイティングなレースだった
参戦2年目の21歳、高木虎之介がポールtoフィニッシュを決め
さらに山本、中野もそれに続き、表彰台には若い3人が昇った
95年夏、ニッポンの3000は急激に、そして確実に変化しつつある

Text/Makoto Ohgushi Photos/Kunio Motoike,Akira Kuroda,Hiroshige Saita,Graffiti

日曜朝の予選でポールポジションをもぎとった高木虎之介は、決勝のスタートでホイールスピンを犯し加速に失敗した。しかし、隣の鈴木利男もそれに乗ずることはできず、予選3位の星野一義に至っては、3速までシフトアップしたところでミッショントラブルを起こして後退してしまった。その中で絶妙なクラッチミートを見せたのが予選6位の黒澤琢弥だった。黒澤はするすると加速して周囲をゴボウ抜きし、先頭の高木に続いて第1コーナーへ進入しようとした鈴木に追いついた。しかし、一瞬早く鈴木が第1コーナーへ進入したため、黒澤は鈴木を抜き損ねて追突、フロントウイングを曲げて、せっかくのスタートダッシュをふいにしてしまった。

一方、その直後でも混乱が起きていた。黒澤と入れ替わりに後退した星野を避けようとしたトム・クリステンセンが1コーナー手前で進路を失い、影山正彦と接触してしまったのだ。クリステンセンはサスペンションを曲げて走行不能に陥り、影山はコース中央でスピンしてしまった。この騒動の煽りを受けて、金石勝智もノーズを壊して後退してしまった。

大混乱のオープニングラップを高木はうまくくぐり抜け、まんまと先頭で終えることができた。しかし、その背後には最も恐るべきベテラン、鈴木が食らいついていた。

鈴木の後方、予選4位だったマルコ・アピチェッラは混乱のおかげで大きく遅れており、高木にとって当面の敵は鈴木だけだった。しかし、鈴木は必死に逃げる高木にぴったりと張り付いてプレッシャーをかける。そして、6周目を終える最終コーナーでスリップに入ると、第1コーナーで高木を押し退け、順位を入れ替えた。

だが、抵抗もできずに首位を明け渡したように見えた高木は冷静だった。「僕の方が硬めのタイヤを選んだはずだったので、後半勝負かな、と思っていた」という。

首位に立った鈴木はベテランの強さを発揮し、じりじりと高木との差を開いていく。少なくともレース序盤のうちは鈴木の強さは圧倒的で、その時点では若者はベテランにねじ





一時は利男にトップを譲ったものの、その後は冷静な走りで1位の座を守り抜いた虎之介

NTER FORMULA
3000&F3



表彰台を独占した3人。シーズン終盤に向け、これまでにも増してチャンピオン争いはますます熾烈なものになっていくだろう



フロントロウの利男は虎之介をかわしてトップに立ったが、痛恨のスピンを喫しリタイア

伏せられてしまうかに思われた。しかし、思いがけない展開が待っていた。

鈴木は17周目には2位の高木との間隔を3秒以上に広げて、首位を快調に突進していた。その鈴木の前方に、周回遅れの金石が見えてきた。金石は1周目に受けたダメージを修復するためにピットインしてそこまで遅れをとっていた。鈴木にとってはここで金石にめぐりあったのが不運だった。というのも、金石は周回遅れ目前ながら、鈴木に遜色ないタイムで走っていたからだ。

鈴木は金石に徐々に近づきながら前に出ようとした。あまりもたついていれば、高木が追いついてくる。鈴木にとっては金石が邪魔だったが、金石も追い上げにかかっており、簡単に進路を譲ってくれなかった。そして、鈴木は痛恨のミステークを犯す。

金石の直後についてレインボーコーナーへ進入した鈴木は突然コントロールを失ってスピン、グリーンへ飛び出してしまったのだ。思いもよらぬ展開にコクピットの中の鈴木は茫然とする。そして、その前を高木がすり抜けていった。



たくさんの声援を受けながら、見事2位をゲットした⑤山本。派手なオーバーテイクでスタンドを沸かせた

明らかに日本のレースは変わる この若い3人がそれをあっけらかんと証明してくれた

戦わずして首位を取り返した高木にとって状況は願ってもないものだった。後ろには9秒遅れてアピチェッラ、そして予選10位からジャンプアップした中野信治、予選9位のジェフ・クロスノフ、予選7位の山本勝己が続いていたが、既にアピチェッラはタイヤを消耗させて苦況に立っており、高木を追い上げる余力はなかったからだ。

このころから中野と山本の勢いが目立ってきた。まず、中野が21周目の第1コーナーで勢いのなくなったアピチェッラに襲いかかり2位に進出。山本はアピチェッラに続いてタイヤを消耗させたクロスノフに迫り、28周目の馬の背コーナーでアウト側から強引に攻めかかって並び、SPコーナーのインで3位へ躍り出た。

こうして、実にレースの上位3位を日本人の若手3人が占めることになった。これまでシリーズの上位を争っていたマウロ・マルティーニ、服部尚貴、アンドリュー・ギルバートスコットらはその後方で格闘しており、若者を脅かす存在ではなかった。レース終盤の焦点は、果たしてこのまま若手がレースの主導権を握ったまま逃げきってしまうのかどうかに移っていった。

アピチェッラ、クロスノフと同じタイヤを用いている中野にとって、心配はタイヤ消耗にあった。「少しでもタイヤを持たそうと心掛けて走っていたが、後半に入ったころから苦しくなってきた」と中野は言う。予選での苦戦を覚悟で硬めのタイヤを選んだことが決勝ではよりどころとなった。しかし、その後方からはじりじりと山本が追い上げてきていた。

もっとも山本にも心配はあった。コーナリングフォースを受けた首の筋肉がへたり、頭を支えることができなくなりつつあったのだ。山本は外側へ首を倒しながらもペースを落とさず中野を追走する。タイヤ消耗が進んでいた中野は「山本君を抑えるのは無理かなと思っていた。でも、どこまでやれるかと思って頭張ってみた」と言う。

ふたりの決着はレース終盤、46周目についた。「追いついたら中野さんがミスしたので勝負はここしかないと思って、飛び込んだんです」と山本。コーナーで加速に失敗し、一瞬失速した中野をかわしたのだった。

そしてレース終盤、最後の見どころは中野とマルティーニの戦いだった。勢いの衰えた中野にマルティーニが襲いかかったのだ。「絶対に3位を守ろうと思った」という中野は再三にわたってマルティーニに並ばれながら、強引な力技でマルティーニを抑え込んだ。「馬の背からSPだけが問題で、あそこ以外では抜かれる心配がなかったから頭張った。インの側はタイヤカスがたまっていてグリップしなかったみたいで、最後には引いてくれましたよ」と中野は冷静に分析する。

結局、高木は鈴木が脱落したあとのレースを難なく走り切り、うれしい初優勝を遂げた。2位には山本が入賞、これもまた、表彰台を初めて体験することになった。そして3位にはマルティーニを抑えた中野が滑り込んだ。

服部や黒澤らが星野を代表とするベテランを乗り越えるべき第二世代と呼ばれて久しい。彼らは遅ればせながら、ようやく日本のレースの中心的なポジションを手に入れたかに見える。ところが彼らがもたついているうちに、実は第三世代というべき若手が育っていた。

今回の結果は、懸念されていた日本のレース界の世代交代が本来のペースを取り戻しつつあるということを物語るものだ。明らかに日本のレース界は変わる。最近いくつかの兆候はあったが、高木と山本と中野がそれをあっけらかんと証明してくれた。（大串 信）



レース中盤、テールtoノーズの激しいバトルを展開した⑧中野とアピチェッラ

RESULT/ROUND5

●3.704256km×54周＝200.02982km　予選出走19台・決勝出走19台・完走10台

							ベストラップ	予選順位／1回目・2回目
1	64	高木虎之介	PIAA REYNARD	レイナード95D・無限	BS	54周	1:05'50.379	1'12.326	1/1'11.675 ▷ 1'08.539
2	29	山本 勝己	X-JAPAN REYNARD	レイナード95D・無限	BS	54周	- 31.920	1'12.324	7/1'11.044 ▷ 1'09.022
3	8	中野 信治	avex童夢F104無限	童夢F104・無限	YH	54周	- 42.925	1'12.854	10/1'11.701 ▷ 1'09.530
4	9	M.マルティーニ	SHIONOGI LOLA	ローラT95/50・無限	BS	54周	- 43.020	1'12.546	11/1'11.765 ▷ 1'09.620
5	54	服部 尚貴	LeMan's REYNARD 95D	レイナード95D・無限	BS	54周	- 48.054	1'12.744	12/1'11.452 ▷ 1'09.749
6	39	A.G.スコット	神奈川クリニック LOLAMCS	ローラT93/50・無限	BS	54周	- 54.201	1'12.712	14/1'11.823 ▷ 1'09.884
7	3	金石 勝智	LOLA JUDD	ローラT94/50・JUDD	BS	54周	-1'14.026	1'12.306	16/1'11.080 ▷ 1'10.936
8	10	飯田 章	SHIONOGI LOLA	ローラT95/50・無限	BS	54周	-1'14.934	1'12.616	18/1'13.392 ▷ 1'11.716
9	5	J.クロスノフ	SZIGEN LOLA	ローラT94/50・JUDD	YH	53周	- 1Lap	1'12.023	9/1'11.513 ▷ 1'09.449
10	28	近藤 真彦	ALEXEL "童" レイナード	レイナード94D・無限	YH	53周	- 1Lap	1'14.202	19/1'15.944 ▷ 1'12.055
	7	影山 正美	ADVAN ローラ MF308	ローラT95/50・無限	YH	40周		1'13.439	15/1'13.482 ▷ 1'10.668
	65	黒澤 琢弥	PIAA REYNARD	レイナード95D・無限	BS	37周		1'12.485	6/1'10.992 ▷ 1'08.987
	30	岡田 秀樹	GULLWING LOLA	ローラT93/50・DFV	YH	34周		1'14.021	17/1'15.877 ▷ 1'11.364
	22	M.クルム	STELLAR LOLAMCS	ローラT93/50・無限	BS	25周		1'12.690	13/1'13.432 ▷ 1'09.832
	1	M.アピチェッラ	SZIGEN LOLA	レイナード95D・JUDD	YH	22周		1'12.600	4/1'11.188 ▷ 1'08.906
	15	鈴木 利男	パーソンズ レーシング ローラ	ローラT94/50・無限	BS	17周		1'12.117	2/1'11.582 ▷ 1'08.852
	19	星野 一義	NISSEKI LOLA	ローラT95/50・無限	BS	1周		2'36.610	3/1'11.979 ▷ 1'08.893
	11	T.クリステンセン	コスモオイル ローラムゲン	ローラT94/50・無限	BS	0周			5/1'10.743 ▷ 1'08.926
	27	影山 正彦	ALEXEL "館" レイナード	レイナード95D・無限	YH	0周			8/1'11.446 ▷ 1'09.035

・優勝スピード:182.288km/h
・ラップリーダー:1～6＝高木虎之介、7～17＝鈴木利男、18～54＝高木虎之介
・ファステストラップ:J.クロスノフ　1'12.023（185.154km/h）34周目
NEXT ROUND：第6戦　FUJI INTER　9月2～3日

HYPER REV [ハイパーレブ]

車種別チューニング&ドレスアップ徹底ガイドシリーズ vol.8

日産180SX/S13シルビア

180SX /S13 SILVIA



大好評の車種別ガイドシリーズに 待望の180SX特集号、登場!

その車ならではの楽しみ方、チューニング方法を
車種別に詳しく解説して大好評のハイパーレブシリーズに
いまが旬の180SX特集号が登場!
最先端のチューニング情報はもちろん
ゼロヨン、峠、ドリフト……仕様別の車の作り方や
織戸が教えるドリテク講座、アフターパーツカタログなど
全ページ180SX情報テンコ盛りでお届けします。!

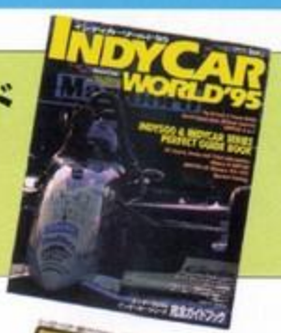
好評発売中!! A4変形判/全212ページ **定価2,000円**(税込み)

NEWs PUBLISHING INFORMATION 好評発売中

株式会社ニューズ出版 出版ガイド

from MOTOR SPORT

レーシングオン5/25号臨時増刊
インディカーワールド95
定価1,200円(税込み)
95年インディ500&
インディカーシリーズの
完全ガイドブック



レーシングオン7/20号臨時増刊
THE GT
定価780円(税込み)
1995ル・マンを戦った
GTマシンの全貌
国産GTマシン徹底解析&データ



from MOTOR SPORT

for DRIVERS

ユーノス・ロードスター・クラブマガジン
ロード&スター No.3
定価1,200円(税込み)
エアロでキメる
最新ドレスアップカー
の世界



毎月26日発売
レブスピード 9月号
定価500円(税込み)
Q&Aマフラー特集
SRエンジン
売れ線スポーツタイヤのイッキ乗り



for DRIVERS

for RIDERS

毎月24日発売
ライディングスポーツ9月号
定価580円(税込み)
8耐直前インタビュー
WGP第7戦 オランダ、第8戦 フランス
レーサーカタログ



ライディングスポーツ別冊
ホンダ・Vツインマグナ スタイルブック
定価1,500円(税込み)
ホンダ・Vツインマグナを
キメて乗るための
スタイル・ブック



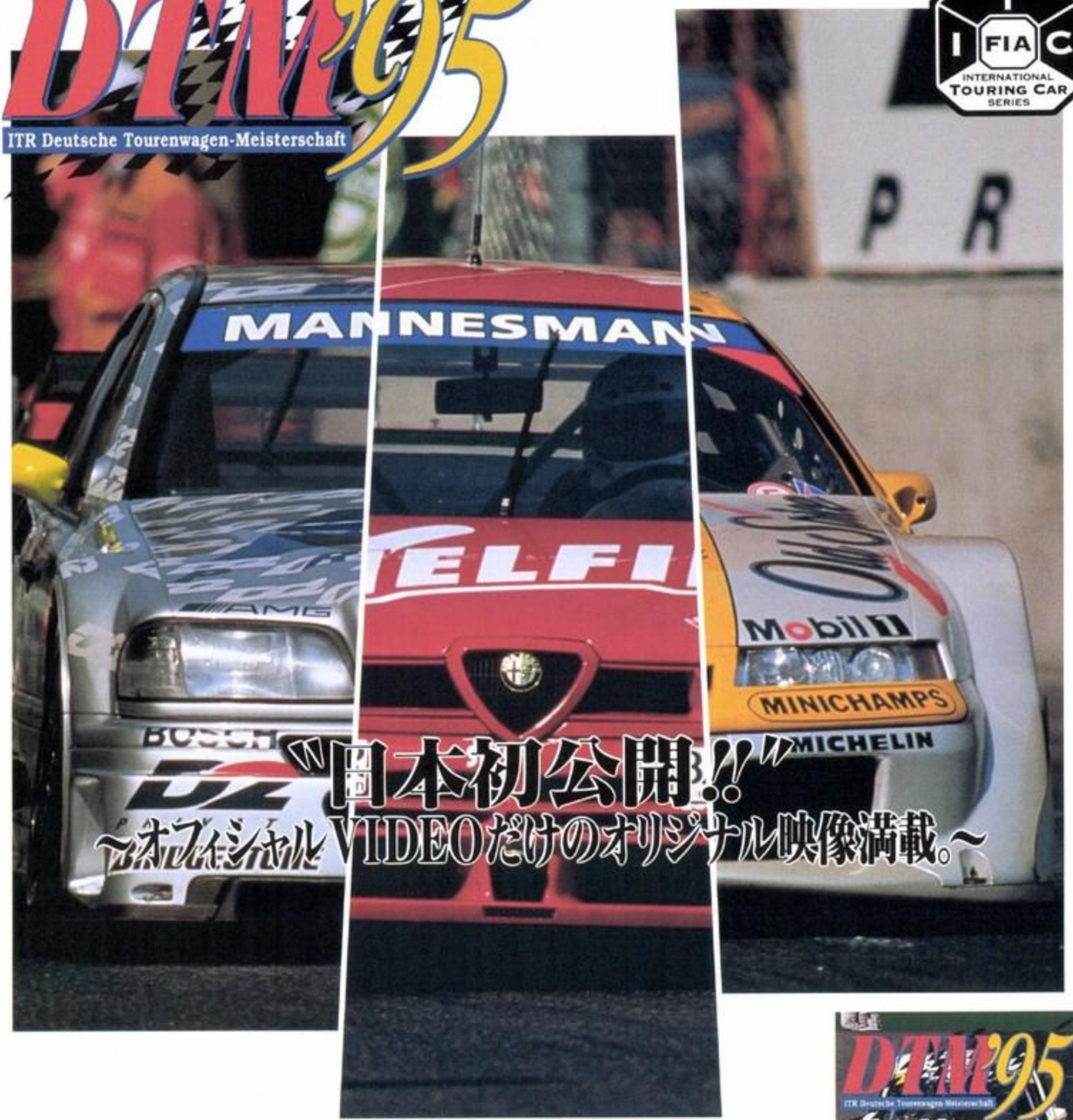
for RIDERS

NEWs PUBLISHING CO.,INC.
株式会社 ニューズ出版
〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 TEL.03-5430-4440/FAX.03-5430-4455

DTM'95

ITR Deutsche Tourenwagen-Meisterschaft

ITC INTERNATIONAL TOURING CAR SERIES



"日本初公開!!"
～オフィシャルVIDEOだけのオリジナル映像満載。～

7/28 ON SALE

'95ドイツ・ツーリングカー・チャンピオンシップPart2
全国のセブンイレブンにて絶賛発売中!!

VHS	STEREO Hi-Fi	45min	税込価格 1,980円

※発売日・収録内容等、若干異なる場合がございます。



MEVY-2023



MEVY-2025

※ジャケットは、実際の物と異なる場合があります。

通販受付中!!

DTM'95-Part1を通信販売致します。下記の通りお申込み下さい。

[お申込み方法]
①お近くの郵便局より「郵便振替」にて、下記口座宛にお申込み下さい。(勝手ながら、郵便振替以外のお申込みは、お断り致します。)
②振替用紙の通信欄に、ご希望の商品名を必ず明記して下さい。
③送料は着払いとさせて頂きます。④商品到着まで多少日数がかかる場合があります。あらかじめご了承下さい。

口座番号:00140-6-570418　加入者名:メルダック通信販売係

株式会社メルダック
企画開発部　通信販売係　meldac
〒107 東京都港区北青山 2-7-9 日昭ビル 6F
TEL.03-3423-7925

※ご希望の方にはビデオリストをお送り致します。

FET

PROFESSIONAL MOTOR SPORTS OIL

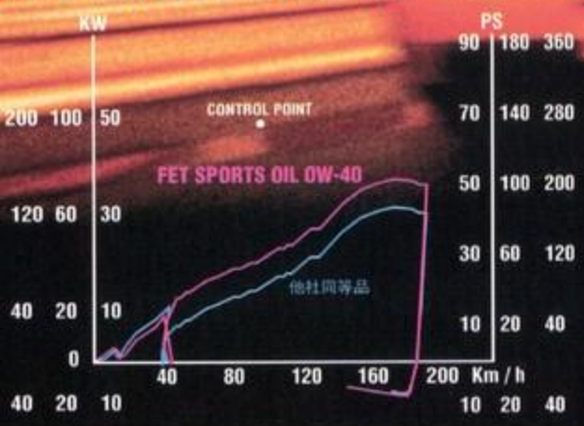
OW-40/NA

NORMAL ASPIRAITED ENGINE

SH

100% SYNTHETIC OIL

FET SPORTS OIL OW-40 POWER TEST





未体験レスポンスゾーンへ。

ライバルに立ち上がりから差をつける。

エンジンレスポンスを徹底追求したNA車専用最強オイル、100%化学合成OW-40。フリクションロスを極限まで低減し高回転までイッキに吹け上がります。眠っていたエンジン性能が目覚め、あなたをまだ体験したことのない"未体験レスポンスゾーン"へと導きます。



SPORTS OIL
RACING DEVELOPMENT

FET SPORTS OIL OW-40 (SH)
¥9,000(4ℓ) ¥44,000(20ℓ)

'95 SUMMER GRAND PRIX プレゼントキャンペーン

READY GO!!

7/1 SAT — 8/31 THU

1st.ステージ エントリー数200名様

「オリジナルCLOCKコース」

店頭でFETスポーツオイルを買って、応募はがきに必要事項を記入してご応募いただくと、抽選で「オリジナルCLOCK」が200名様に当たります。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。詳しくは店頭でポスターや応募はがきをご覧下さい。

●応募締切：平成7年8月31日



※プレミアムのデザイン・仕様については、一部変更することがあります。

2nd.ステージ エントリー数100名様

「モニター大募集コース」

FETスポーツオイルでは[OW-40]オイルモニターを大募集しています。官製ハガキに、下の応募券を貼り、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・お乗りの車種・お使いのオイル名をご記入の上ご応募下さい。●応募先：〒133-91 東京都江戸川区小岩郵便局私書箱28号(KS)㈱エフイーティー「FETスポーツオイル モニター大募集」係 ●モニターご当選の方には、OW-40(4ℓ缶)1缶をお届けします。なお、モニターに当選された方には、アンケートにお答えいただきます。●応募締切：平成7年8月31日

モニター応募券 R.O. OW-40

FETスポーツオイル発売元 株式会社 エフ イーティー モータースポーツ課
〒157 東京都世田谷区粕谷1-9-24 TEL.03-3484-4140

●掲載商品の価格には消費税は含まれていません。

Racing on
1995. 8. 18
198

あなたと創る Creating Together 三菱自動車
シートベルトをしめて、スピードをひかえめに。安全運転は三菱の願いです。

GTO、FTO、そして、こんどはアメリカから
Newエクリプス誕生

いつもユニークな発想と先進のテクノロジーで、走りの楽しさをひろげてきた三菱が、
また新たなスポーツを提案します。テーマは、「だれもが高性能を心ゆくまで楽しめること」。今まで出会えなかった走り。
他ではきっと味わえない楽しさ。三菱のスポーツ。その挑戦は、これからも続きます。
スポーツを変えていく。



GTO
Photo：GTO.ツインターボMR

FTO
Photo：FTO.GR
（スポーツパッケージ装着車）



Photo：ECLIPSE

JUST IMPORTED from U.S.A.

ECLIPSE
スタイルとパワーを磨いた洗練のスポーツ

●驚異のエアロダイナミックフォルム：CD値0.28を実現●卓越の走行性能：DOHC インタークーラーターボ 230馬力(5M/T)／4輪マルチリンク・サスペンション●高次元の安全性能：運転席＆助手席エアバッグ及びABS標準装備。北米衝突規制適合。全米で称賛されたスポーツクオリティが、今上陸。

●全長：4395mm 全幅：1745mm 全高：1295mm ●エンジン：2000DOHC 16VALVEインタークーラーターボ
●最高出力：230PS/6000rpm(M/T)220PS/6000rpm(A/T)●最大トルク：29.5kg-m(M/T)30.5kg-m(A/T)/2500rpm

MITSUBISHI SPORTS

（NEWエクリプス$100レンタル実施中
札幌、東京、名古屋、大阪のみ実施、'95年9月末日迄）
誕生を記念して、NEWエクリプスを1日8,500円（※6月2日対ドルレート仲値にて換算）でレンタル致します。
お申し込み、お問合せは、三菱レンタカー予約センター 0120-111-300まで ※免責補償料(1,000円)と消費税は別途

雑誌29613-8/18 NEWs PUBLISHING CO.,INC.
1995 PRINTED IN JAPAN 大日本印刷株式会社
T1029613080420
定価420円
（本体価格408円）